文化史講義録

［文化史(テーマ編)］神道史 …… 2
［文化史①］飛鳥文化 …… 22
［文化史②］白鳳文化 …… 29
［文化史③］天平文化 …… 34
［文化史④］弘仁・貞観文化 …… 44
［文化史⑤］国風(藤原)文化 …… 53
［文化史⑥］院政期文化 …… 59
［文化史⑦］鎌倉文化 …… 63
［文化史⑧］室町文化 …… 77
［文化史⑨］桃山文化 …… 87
［文化史⑩］江戸文化(建築・文学・芸能・学問・教育) …… 95
［文化史⑪］江戸文化(絵画・工芸・その他) ……111
［文化史⑫］近現代の文化①(思想) …… 121
［文化史⑬］近現代の文化②(文学) …… 134
［文化史⑭］近現代の文化③(教育) …… 148
［文化史⑮］近現代の文化④(出版・生活) …… 158
［文化史⑯］近現代の文化⑤(美術・音楽) …… 165
［文化史⑰］近現代の文化⑥(学問) …… 173
［文化史⑱］近現代の文化⑦(お雇い外国人) …… 181
［文化史⑲］近現代の文化⑧(演劇) …… 187

～はじめに～

「日本史は好きだけど，文化史はただ丸暗記するだけでつまらないし嫌い。」そんな生徒の悩みをよく耳にする。私自身，現役・浪人時を通じて文化史はつまらなく感じたし，嫌いだった。

じゃあ，なぜ文化史がつまらなく感じるのか？それは興味が湧かない，ただ単なる語句の暗記に終わっているからだ。そして，予備校・塾の日本史授業でも，彫刻作品などを教える場合「これは写真で出るから図説で見ておけ」と指示されることが多々ある。しかし，私から言わせてもらえば，それは生徒の自主性・学習意欲に委ねられた“放置プレイ”ではないかと感じざるをえない。正直，ただでさえ，かさばるテキストを毎日持って歩いているのに，図説まで持ち歩き，その際にいちいち開いたり閉じたりして参照するのは非効率的なものだと思う。

そこで，著したのがこの「文化史講義録」だ。これは，何度も訂正を加えた上で君たちが読みやすいように“語り口調”で記してある。そして，この講義録は，よく参考書として出版されている従来の「実況中継」などと比べるべくもない自信を持って推薦できる構成になっている。

まず，授業で配布したテキストの方は，要点を整理したうえで，なおかつ重要なものの写真は必ず同ページ内に載せた。これによって，いちいち図説を開いたり閉じたりするのはおろか，図説を持ってくる必要もなくなる。そして，テキストを参照しながら，講義録の方を読み進めていってほしい。内容は読んでもらえばわかるが，流れを重視した説明になっていて，美術作品についても写真をそれぞれ解説途中に掲載してある。また，私の持論として，語句を何が何なのかわからずに暗記しても，覚えきれないと考えている。そのため，多少，長くはなっても，その背景や理由といったものも多く取り入れている。ただし，中には流れが見えにくいものもある。そうした部分に関しては完全オリジナルの“ゴロ”が載せてあるので，対処することができるだろう。このテキストが君たちの「合格」のためのバイブルになることを心より祈っている。

編者

© 不許複製禁転載

［A］神祇信仰(原始～古墳文化)－テキストP6対応－

日本にはもともと**神祇信仰**という日本古来の神々を信仰する習慣があり，これがのちに平安時代に伝来した密教と区別するため神道として体系づけられていった。神道というのは，日本のみで信仰されている民族宗教で，天皇家の祖先だと言われている**天照大神**や，**大国主神**といった日本古来の神々を信仰する宗教だ。そして，その神々を祀るために建てられたものが神社で．代表的なものに**天照大神**を祀る**伊勢神宮**や**大国主神**を祀る**出雲大社**などがあるね。

それに対して，6世紀に百済の聖明王から伝えられた仏教は，本場であるインドや中国・朝鮮半島，さらは欧州で信仰している人もいる世界三大宗教(キリスト教・仏教・イスラム教)の一つ。そして，仏教の開祖であるお釈迦様や，密教における中心仏の大日如来，浄土教における中心仏の阿弥陀如来などを信仰し，その仏様を祀るために建立されたのが寺院なので，まとめると以下のようになるね。

＜神道と仏教の違い＞

神道(日本独自の民族宗教)…古来の神々(天照大神・大国主神など)を信仰して神社にまつる
仏教(外国伝来の世界宗教)…仏(釈迦・大日如来・阿弥陀如来など)を信仰して寺院にまつる

さて，ではその神道とはどのような形で生まれていったのかというと，話は縄文時代に遡る。そもそも縄文時代の生活は狩猟・採集・漁労経済で成り立っていた。山ではイノシシ・ニホンシカなどを狩ったり(狩猟)，ドングリ・木の実などを採取したり(採集)，海では魚貝類をとったり(漁労)，自然環境に頼って生活をしていたよね。また太陽は朝になると光を宿してくれるけど，これらは全て自然の恵みによるもの。こうした自然そのものを崇拝したり，「山が噴火したら山の神が怒っている」・「海が荒れていたら海の神が怒っている」といったように自然現象を畏怖したりする習俗を**アニミズム**とか**精霊崇拝**といったね(アニミズムをアミニズムとか順番は間違えないように)。

そして，古墳時代になるとアニミズムの影響から，太陽・山・海・島などの自然には神が宿っているとして，自然そのものを神様と考えたり(ご神体と呼ばれる)，自分の祖先にあたる神様を**氏神**と呼んだり，自分の生まれた土地を守護してくれる神様を**産土神**と呼んで信仰するようになり，それらを祀るために**社**という施設を造ったんだ。まぁ，現在における神社につながっていく建物のことだけどね。

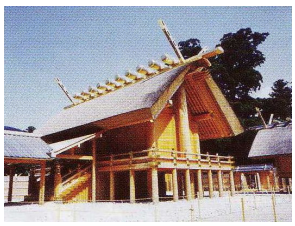
＜祖先神・産土神を祀る社＞

伊勢神宮(三重県)＝**天照大神**を祀る(**神明造**の建築様式)
※内宮には天照大神，外宮には**豊受大神**を祀る
出雲大社(島根県)＝**大国主神**を祀る(大社造の建築様式)
住吉大社(大阪府)＝**海神**を祀る ……(住吉造の建築様式)

＜社の覚え方①＞

「甘い世界に住む出雲の阿国」
→甘(天照大神)い世(伊勢神宮)
界(海神)に住む(住吉大社)
出雲(出雲大社)の阿国(大国主神)

上記のものは祖先神や産土神を祀った**社**の代表格。例えば，大王家(のちの天皇家)の祖先とされる女神の**天照大神**を祀るために建てられたのが三重県の**伊勢神宮**。なお，伊勢神宮は他の神社とは異なり，内宮・外宮という2つのお宮に分かれていて，内宮には天照大神が，外宮には神々に奉る食べ物をつかさどる神様の**豊受大神**が祀られている。また神話の『因幡の白兎』にも出てくる優しい神様の**大国主神**を祀っているのが島根県の**出雲大社**。それから「住吉さん」で親しまれる大阪府の**住吉大社**には**海神**が祀られているので，大阪湾の漁師が漁に出る前に航海の安全を祈ったりすることで有名だね。

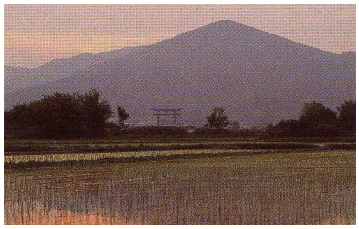

〔伊勢神宮〕


〔出雲大社〕

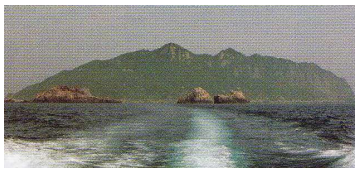

〔住吉大社〕

© 不許複製禁転載

一方で，この時代の人々は円錐形の整った形の山や高い樹木，巨大な岩，絶海の孤島，川の淵などを神の宿るところと考えて，祭祀の対象とした。こうした自然そのものを「神体(神が宿るとされる物体)」として礼拝し，それらを祀った社の中で現在の神社につながっているのが**三輪山**を神体とする奈良県の**大神神社**や，**沖ノ島**を神体とする**福岡県**の**宗像神社**だ。前者の**三輪山**は円錐形の整った山の代表格なので，神聖な「神体」とされていて，もともとは入山も厳しく制限されていた。明治時代以降は特別に許可されるようになったけど，お祓いをしてからでないと入山できないからね。


〔三輪山〕

後者の**福岡県**の**宗像神社**と**沖ノ島**は「神宿る島」として2017年に世界文化遺産に登録されたことでも有名だけど，沖ノ島は宗像神社のある福岡県北部から約60km離れた玄界灘に浮かぶ周囲4kmの島。そして昭和時代に行われた学術調査では8万点の神宝が発掘され，その全てが国宝に指定されていることから「海の正倉院」とも呼ばれているんだ。


〔沖ノ島〕

つまり，漫画『ONE PIECE』における神が宿る島アッパーヤードと考えてくれればわかりやすいね(わからない奴は全巻読めば？)。なお，2017年までは申し込み者の中から抽選で選ばれた200人程の男性のみ(女人禁制)が沖ノ島への上陸を許可されていんだけど，2018年以降は基本的には上陸することは許可されていない。

＜自然神を神体として祀る社＞
大神神社(奈良県)＝**三輪山**を神体とする
宗像神社(**福岡県**)＝**沖ノ島**を神体とする
※玄界灘に浮かぶ**沖ノ島**は「海の正倉院」と呼ばれる

＜社の覚え方②＞
「おみーは(オマエは)胸が大きいの」
→おみ(大神神社)(みー)は(三輪山)
胸が(宗像神社)大きいの(沖ノ島)

さて，神道で祀られる天皇家の祖先にあたる天照大神などの神々については『古事記』・『日本書紀』に記されているので，少しその神話の話をしていこう(入試には出ないので読み飛ばしても大丈夫だけど，日本人として日本神話ぐらいは知っておいてほしいかな)。

＜記紀における日本神話＞
記紀(『古事記』・『日本書紀』の総称)神話においては，神々が暮らす天上世界にあたる「高天原」，地上世界の「葦原中国」，地下の死者の世界である「黄泉国」から構成されていた。日本における万物の創造神である男神の伊邪那岐命(以後はイザナギと表記する)とその妹で女神の伊邪那美命(以後はイザナミと表記する)は，天上世界の「高天原」で暮しており最初に結婚した神とされている。

その両者が愛し合った結果，初めに淡路島が生まれ，その後四国や九州や本州，その他の島々が生まれて日本列島が出来上がったそうだ。そして，さらには石の神・土の神・家の神・風の神・川の神・海の神・山の神とたくさんの神々を生んでいったが，火の神である軻遇突智(カグヅチ)を生む際に，陰部に大やけどを負い，その後これがもとでイザナミは亡くなってしまったそうだ。

イザナギは愛する妻を死に追いやった火の神(カグヅチ)をどうしても許すことができず，斬り殺してしまったが，ずっと悲しみに暮れていた。でも，どうしてもイザナミに会いたい気持ちが我慢できなかったイザナギは，天上世界の「高天原」から深い地の底にある死者の国である「黄泉国」へ向かった。

イザナギは長い暗い道を降りてやっとの思いで「黄泉国」に着き，扉の前で「どうか私と一緒に帰ってきてくれ」とイザナミに伝えると，イザナミは「あなたのため地上に戻りたいのですが，それには黄泉国の神に尋ねなければいけません。それまでは，決して私の姿を覗かないでください」と言った。しかし，待てども待てども返事がなかったため，待ちくたびれたイザナギはとうとう黄泉国へと入っていった。そして，そこにいたのは体にたくさんのウジ虫がたかって横たわって，もはや人の形を失ったイザナミだった(漫画『鋼の錬金術師』のエドワード兄弟が錬成に失敗したお母さんのような感じ)。「あれほど覗かないでと言ったのに，あなたは私の醜い姿をみてしまったのですね…」。

© 不許複製禁転載

そして，怒り狂ったイザナミは「イザナギを捕まえて殺しなさい。」と命じて，悪霊どもがイザナギを追いかけてきた。必死にイザナギは逃げたが，イザナミはそれでも追いかけてくる。そして，逃げとおしたイザナギは大岩を引っ張ってきて黄泉国と地上世界の間をふさいでしまった。すると，岩の奥からイザナミが「これからは，あなたの国の人々を一日に 1000 人ずつ殺します。」と大声で叫ぶと，イザナギは「それなら，私は一日に 1500 人ずる子供が生まれるようにしよう。」と答えた。

こうしてイザナギは，やっとの思いで黄泉国から地上へ戻ってくることができた(死者の復活を意味する「蘇る」はこの黄泉国から返る「黄泉返る」からきている)。ただ，イザナギは「私はとても汚く穢れた黄泉国へ行ってしまった…。この汚れや穢れを水で身体を清める**禊**をしなければならない。」こうして，イザナギが海の中で身体を洗うと，海底で身体を洗った時に底筒男命，海中で身体を洗った時に中筒男命・海面で身体を洗った時に表筒男命の住吉三神と総称される神が生まれ，現在は海神として大阪府の**住吉大社**に祀られている。

そして，最後に顔を洗う際に，左目を洗った時に生まれたのが女神の太陽神である天照大御神(アマテラスオオミカミ)，右目を洗った時に生まれたのが男神とされる夜を治める月の神である月読命(ツクヨミノミコト)，鼻を洗った時に生まれたのが男神の海原の神である須佐之男命(スサノオノミコト)であった。このイザナギが生んだ神々の中で最も尊いとされる三貴神と呼ばれる神々に対して，イザナギはアマテラスには「天を治めさい」と命じ(天照大御神は**三重県伊勢神宮**の内宮に祀られている)，ツクヨミには「夜の国を治めなさい」と命じ(月読命は三重県伊勢神宮の別宮の月讀宮などに祀られている)，スサノオには「海原を治めなさい」と命じた(須佐之男命は京都府祇園社(現在の八坂神社)などに祀られている)。

なお，感情の起伏が激しいスサノオは紆余曲折を経て，アマテラスや他の神々が暮らす「高天原」に住むことを許されたんだけど，その後は持ち前の DQN っぷりを存分に発揮する。田んぼの畔を破壊して溝を埋めたり，神殿に糞尿をばらまいたり，機織りをしていた巫女たちがいる神殿に皮を剥いだ馬を投げ入れて巫女を死なせてしまったり…。太陽神であるアマテラスはこれにブチ切れて，天岩戸に引きこもってしまったため「高天原」・「葦原中国」も真っ暗な闇の世界となってしまった(岩戸隠れの神話といわれる)。まあ，八百万の神々が機転を利かせて，最終的に天照大神を天岩戸から引っ張り出したおかげで世の中に光が戻り明るくなったんだけど，今回の事件の責任を取らされて「高天原」から「葦原中国」へ追放されることになるんだ。

「高天原」から追い出されたスサノオが下りてきたのが「葦原中国」の出雲国だった。ところがその地を荒らしていたのが八岐大蛇(ヤマタノオロチ)という 8 つの頭と尾をもつ巨大な大蛇で，近くの民家に立ち寄ると老夫婦と生贄にされる櫛名田比売(クシナダヒメ)という若い美女が泣いていた。そこで，「俺がそのヤマタノオロチを退治していやる。その代わり退治したら，その娘を俺の嫁によこせや。」と約束させる。夜にヤマタノオロチが現れると，大量の酒を飲ませてベロンベロンにさせ眠ったところを切り倒すことに成功するんだけど，その時に尾から出てきたのが後に三種の神器として有名になる草薙剣になるんだ。こうして，ヤマタノオロチを退治したスサノオはクシナダヒメと結婚して，出雲に宮殿を建てて幸せに暮らしましたとさ。

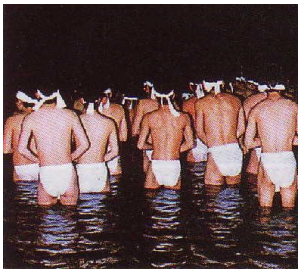
そのスサノオから 6 世の孫にあたるのが大国主神(オオクニヌシノミコト)で，彼は日本神話で有名な『因幡の白兎』に出てくる白兎に体の傷の治し方を教えてあげた心優しい神様。そして超長生きしていたスサノオの家を訪れ，その娘である須勢理毘売命(スセリビメノミコト)と出会い，どちらも一目惚れして，オオクニヌシはスサノオの後継者として「葦原中国」の国造りを進めていく。

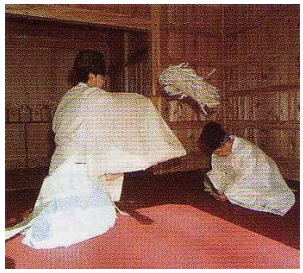
ところが，その後に天照大御神が「葦原中国をよこせ」と要求してきて，「高天原」の神々の軍勢の武力によって「葦原中国」は平定されることになる。こうして，天照大御神の孫である瓊瓊杵尊(ニニギノミコト)が天降ってきて，オオクニヌシは「葦原中国」の支配を譲ることになるんだ(これを天孫降臨という)。その大国主神を祀っている代表的な神社が島根県の**出雲大社**だ(本当の呼び方は「いづもおおやしろ」だけど，出雲大社自身が「いずもたいしゃ」でも構わないとしている)。

© 不許複製禁転載

さて，既述した日本神話におけるイザナギが黄泉国から帰ってきた時に，体についた罪や穢れを取り除くためにが行った儀式が「禊」だったね。

日本テレビの「有吉反省会」で「禊の時間です」とか言うてるけど，「禊」っていうのは右の写真のように「水」を使って体を清めるものなので，個人的な意見としては軽々しく「禊」という言葉は使わず，やるなら徹底的に水を使ってやれよって思う。

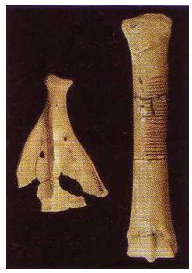

〔禊(みそぎ)〕


〔祓(はらえ)〕

それに対して水を使わずに穢れなどを払い除けるものが「祓」だ。つまり，後者の祓は，よく神社で神主さんとかにしてもらう「お祓い」のことだね。なお，「禊」・「祓」のどちらも漢字で記述させる問題は滅多に出題されないけど，一応右のように書く。

禊　祓

一方で，古墳時代には呪術的な支配者層の豪族がいたように呪術的な習俗もまだ行われている。例えば，吉凶を占いたい場合には，鹿の肩甲骨を焼いて，その割れ具合で吉凶を占う**太占**(**太占の法**)というものがある(読み方を書かせることもある)。


〔太占の法〕

他にも，ある人物が嘘をついていて，それが正しいのか嘘なのかを確かめるために行われる「めいじんたんゆ」と書いて**盟神探湯**(**くかたち**)と読む原始的な裁判方法もある(読み方も書かせることがある)。これは熱湯の中に石を入れておき，容疑者に熱湯に手を入れさせて石を取らせるんだ。そして，火傷しなかったら無罪，火傷していたら有罪となるわけだ(ほぼ拷問やんけ)。

また，古墳時代にも水稲耕作が行われているため，先ほどと似たように「今年もたくさんお米が実りますように」と神に豊作を祈ったり，「今年もたくさんお米がとれました。どうもありがとうございます」と神に感謝したりすることもある。そのために行われる農耕儀礼が，毎年春に豊作を神様にお祈りする**祈年祭**と(祈年祭は「としごいのまつり」と読んでもいいんだけど漢字を間違える可能性があるので「きねんさい」で覚えておいた方がよい)，毎年秋に収穫を感謝する**新嘗祭**だ(新嘗祭は「にいなめのまつり」・「しんじょうさい」と読んでもよい)。なお，新嘗祭の中で天皇が即位した年に行われるものを特に**大嘗祭**といい，近年では平成天皇から今上天皇(徳仁天皇)の即位に伴って 2019 年(令和元年)11 月 14 日・15 日に執り行われたんだよ。

嘗

［B］神仏習合(天平～平安文化)－テキスト P6 対応－

ここまでは神々に対する信仰として神祇信仰と呼ばれる段階だったんだけど，平安時代になると仏教の密教が伝えられた。密教とは「仏教における経典は釈迦が記したものではなく，所詮釈迦の弟子の記したものにすぎない。それならば，霊山で山岳修行などをして特別な霊力(法力)を会得した僧侶が加持祈禱(お祈りのこと)を行って，釈迦に仏の道を教えた大日如来の真実の言葉を聞き出そう(仏の真実の言葉を聞くのが真言宗)」という神秘的な教え。つまり，山・海・島などの自然崇拝から始まった神祇信仰と今回伝来してきた密教は非常に似通った部分があるわけだ(この密教の伝来に伴って仏教に対する概念として，今までの神祇信仰を体系化した宗教としての神道が形成されていくことになる)。そのため，弘仁・貞観文化(平安時代初期の文化)の頃になると，本来は別の宗教である神道と仏教を同じものだと考える**神仏習合**(**神仏混淆**)が広がっていくんだ(正確には奈良時代から神仏習合が始まる)。

＜神仏習合が始まった背景(国公立論述向け)＞

最初に記したように，古墳時代における仏教伝来(538or552)の際には崇仏派の蘇我稲目は「外国でも信仰されている仏教を，なんで我が国(日本)だけ背くことができましょうか」と仏教受容を唱え，一方で排仏派の物部尾輿は「大王(天皇)は昔から我が国の神々を祀ってきました。それなのに，それを改めて外国の仏様なんてものを信仰したら我が国の神々がお怒りを受けるでしょう」と仏教受容に反対し対立していた(この物語の出典は『日本書紀』なので，のちに創作された話の可能性もあるんだけど)。

© 不許複製禁転載

でも，仏教に帰依していた用明天皇（厩戸王の父）も自分の病気平癒を願って寺院を造ってほしいと願うようになり（結局 587 年に亡くなってしまったため，のちに息子の厩戸王によって 607 年に斑鳩寺（法隆寺）が創建されることになる），その用明天皇の没後に次の皇位継承者をめぐって 587 年に蘇我馬子（蘇我稲目の子）が物部守屋（物部尾輿の子）と争い，馬子が勝利したことによって仏教が日本でも信仰されるようになっていったのは通史でも文化史でも学習したよね。

そもそも神道に創始者はいないし，自然物や自然現象を神格化した自然崇拝に由来している宗教なので，信仰対象である神様の数が多すぎて八百万の神（数が多い例えで本当に 800 万の神がいるわけではない）といわれる。さらに，キリスト教の『聖書』・仏教の『経典』・イスラム教の『コーラン』のような正典（信者が従うべき基準を記した本）や具体的な教義（その宗教の具体的な教え）もない。つまり，具体的なルールがなく解釈も自由にできるので，もともと神祇信仰（神道）は非常に柔軟な宗教なわけだ。

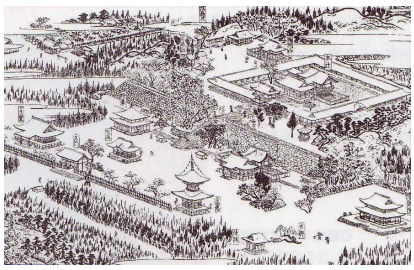
そして，古墳時代の豪族の権威の象徴と言えば古墳の築造だったけど，仏教伝来により豪族は古墳に代わる権威の象徴として氏寺を建立するようになっていった。例えば，蘇我馬子が建立した飛鳥寺（法興寺）は日本最古の寺院として知られているけど，その塔（釈迦の遺骨と伝えられる仏舎利を安置する物）の下には，古墳の副葬品として埋葬されていた勾玉・武具などが埋納されていた。

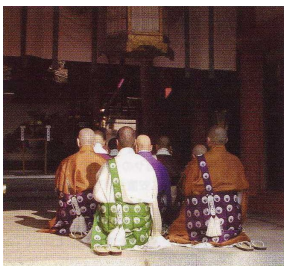
古墳は豪族の権威を示すものであるけど，その豪族の子孫にとっては自分たちの祖先神（氏神）が祀られている建物で，その古墳には祖先神（氏神）の遺品である副葬品が納められていた。でも，仏教伝来により寺院が建立されるようになると，釈迦の遺品である仏舎利（釈迦の遺骨）を祀る建物として寺院内に塔が建てられた。その塔の下に豪族にとっての祖先神（氏神）の遺品である副葬品が埋められていた。ということは，これって既に神祇信仰（のちの神道）と仏教が混同されている状態といえるよね。つまり，豪族の権威の象徴であり祖先神（氏神）が祀られていた古墳に代わって，豪族の権威の象徴として建立された仏教寺院の仏舎利がその祖先神（氏神）を祀る役割も担うことができたことで，神祇信仰（神道）と仏教がいっしょくたにされる神仏習合が始まる背景が出来上がっていたわけだ。

そして，いつの時代でもよく起きる疫病・災害・凶作などは神々の祟りに起因していると人々に考えられていたことが大きい。そうした神々のお怒りを鎮めてもらうために，仏様に宥めてもらおうとして仏教も信仰されるようになっていったんだ。特に，『古事記』（712）・『日本書紀』（720）が成立して，天皇は天照大神（神）の子孫であるという意識が定着していく中で，神々の子孫にあたる聖武天皇なんかは天然痘などの疫病・飢饉の流行を仏教の御加護で鎮めようとした鎮護国家思想に基づいて，国分寺建立の詔（741）や大仏造立の詔（743）を発布していったよね。

こうしたこともあって，疫病や災害は神の祟りと考えられて，それを乗り切るためには神社側も仏教を取り入れることに抵抗はなく，仏教側も神祇信仰（神道）における在来の祖先信仰と結びついて，祖先の霊を弔うために仏像の造立や書写などが行われるようになった。こうして，奈良時代になると神仏習合が始まっていき，後述する**神宮寺**が創建されて神前読経が行われるようになっていったんだ。

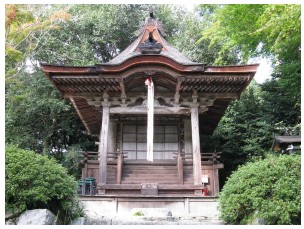
この神道と仏教を混淆（混同）する神仏習合の影響から，この奈良時代以降には様々な建物が建てられるようになる。例えば，神社（神道の建物）の境内に**神宮寺**という寺院（仏教の建物）を建てられて，そこでは神前読経という神様を祀る神棚の前で仏教の経典を読むが行われたんだけど，完全に仏教と神道がごちゃ混ぜになってよね（笑）。


〔神宮寺〕


〔神前読経〕

© 不許複製禁転載

一方で，神社の境内に神宮寺という寺院を建てちゃう逆パターンとして，寺院(仏教の建物)の境内に**鎮守**神(その土地や場所を守護する神)を祀る**鎮守**(鎮守堂)と呼ばれる建物が建立されるようにもなる。まあ，神社の境内に建てられた神宮寺にしろ，寺院の境内に建てられた鎮守にしろ，これらは神仏習合の象徴的な事例として，奈良時代から各地で建立されていくことになる(写真は観心寺に建てられた訶梨帝母天堂(鎮守堂)という鎮守神を祀る建物)。


〔観心寺鎮守堂〕

さらに平安時代前期なると，古くから信仰されてきた日本の神々が仏教による救済を求めているという考えや，また神々は仏法を守る護法善神であると考える神仏習合の思想から，八幡神という神道の神様がお坊さんの格好をして仏様に救済を求めている姿として**僧形八幡神像**も制作されるようになる。僧の形をした八幡神の像ってそのまますぎるけどね。

その中でも有名なものが，弘仁・貞観文化の頃に制作された**薬師寺僧形八幡神像**だ。なお，薬師寺は白鳳文化に建てられた寺院だけど，薬師寺僧形八幡神像の制作時期は弘仁・貞観文化になるので気をつけてね。


〔**薬師寺僧形八幡神像**〕


〔東大寺僧形八幡神像〕by 快慶

また，鎌倉時代には康慶・運慶父子や，康慶(運慶の父)の弟子である快慶など慶派と呼ばれる仏師(仏像を造る職人)の一派が活躍していた。彼ら慶派によってわずか 69 日間で制作されたと言われている東大寺南大門金剛力士像が有名だけど，東大寺には**快慶**が制作した**東大寺僧形八幡神像**もある。これも神仏習合の影響から制作されたものだね。

なお，神道史のテキストには収録していないけど，既に仏教史でも登場している神仏習合を表す例を紹介しておこう。奈良時代に藤原氏は平城京遷都にともなって藤原氏の氏寺として**興福寺**を建立するとともに，藤原氏の氏神である春日神(春日権現)を祀る**春日大社**(**神社**)を建立したように，仏教寺院と氏神を祀る神社が共存していくようになる。また，平安時代に天台宗を開いた最澄は比叡山に**延暦寺**を建立したが，比叡山にはそれ以前から山王権現(日吉権現)と呼ばれた神を祀る**日吉大社**(**神社**)が建てられていた(元々は「比叡山(ひえいざん)」から「日吉(ひえ)神社と呼んでいたが，第二次世界大戦後は「日吉(ひよし)」神社と呼ぶようになった)。このように興福寺と春日神社や，延暦寺と日吉神社という寺院・神社が共存していることを踏まえると，院政期の「南都(興福寺)の僧兵(奈良法師)が春日神社の神木を奉じて強訴し，北嶺(延暦寺)の僧兵(山法師)が日吉神社の神輿を奉じて強訴した」という南都北嶺の強訴における疑問点も解決するよね。最初は「何で寺院の僧兵が神社の神木・神輿を担いでんねん！」と思っただろうけど，この頃には神仏習合によって寺院も神社も一心同体になっていたわけだ。

［C］民間信仰(平安文化)－テキスト P6 対応－

ここでは神道とはあまり関係ないけど，民間で信仰されたものを解説していこう。古来より自然そのものを信仰の対象とする神道では，山そのものをご神体として神格化して，山を崇拝・信仰の対象とする山岳信仰があった。一方で，平安時代に天台宗・真言宗が成立すると，特に密教で呪力の獲得を目的とする山林修行が重視されたため，山岳仏教と呼ばれる山岳地帯を場とする仏教活動が行われるようになった。そして，高野山金剛峰寺のように山岳地帯に寺院が多く建立され，いっそう盛んになったんだ。やがて在来の山岳信仰と密教の山林修行の習慣が結びついて成立した宗教が**修験道**だ。その修験道とは，山岳に登り修行をつみ，その呪力にもとづき加持祈祷をするもので，奈良時代の**役小角**を始祖として修験道における修行者を山伏というんだ。


〔山伏〕

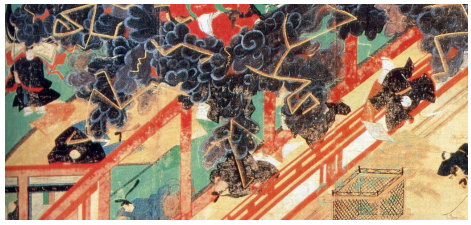
© 不許複製禁転載

その修験道の中心道場となったのが紀伊半島の**熊野山**や大和国吉野の**金峰山**・**大峰山**，加賀国・飛騨国にまたがる白山，出羽三山(月山・羽黒山・湯殿山の総称)，四国の石鎚山，九州の彦山などで，こうした標高 1000m～2000m級の山岳で修行を積むわけだね。

一方，通史で学習した桓武天皇の弟である**早良親王**は，長岡京の造営長官であった**藤原種継**が暗殺された事件(785)に連座し，無実を訴えたものの皇太弟を廃され，淡路に配流される途中に抗議のために断食を続けた結果亡くなってしまった(早良親王は死後に崇道天皇の名が贈られた)。そして，桓武天皇の身のまわりでは母親の**高野新笠**(百済系渡来人の子孫)や 3 人の妃が病死し，疫病の流行，洪水などが相次ぎ，人々は天変地異や疫病の流行を個人の怨霊や疫神の祟りと考え(都に流行する疫病は，疫神がもたらすと考えられていた)，これらは早良親王の「怨霊」として畏れた。そのため，こうした恨みを残して亡くなった人物の「怨霊」を，神として祀って怒りを鎮めてもらえば，平穏をもたらしてくれる「御霊」とすることで，災いから逃れようと考えた(つまり，「怨霊」を「御霊」とする)。そこで，都で疫病が流行った 863 年に，疫病消除のため**御霊会**と呼ばれる早良親王らを祀った儀礼・祭礼が平安京大内裏の南にある**神泉苑**という場所において初めて行われたんだ。

一方，869 年(貞観 11 年)5 月には陸奥国東方沖の海底を震源域として**貞観の地震**という大地震が発生した。この地震によって川は逆流し，津波が長く連なって押し寄せてたちまち城下に達して，内陸部まで果ても知れないほど浸水しとなり野原も道も大海原となったと記されている。つまり 2011 年に発生した東日本大震災と同じ規模の大地震だったわけだ…。さらに，同年 869 年 6 月から**新羅**の海賊が博多に上陸・襲撃し，物資を略奪した**貞観の入寇**が起きたり，肥後国でも地震風水の災いなどが起きたりしている。また京都をはじめ日本各地に疫病が流行した際には，京都の**祇園社**(現在の八坂神社)に祀られる疫神(疫病や災厄をもたらす神で，いわゆる疫病神のこと)の牛頭天王の祟りとされた。そこで，疫病や死者の怨霊を鎮めるため，祇園社から平安京の神泉苑に神輿を担ぎ入れて牛頭天王を祀る盛大な御霊会が行われた。これが祇園御霊会の最初とされ，この後には旧暦の 6 月 7 日・14 日に行われる祇園社の祭礼である**祇園祭**として定着するんだ(のちに応仁の乱で中絶したが，京都の富裕な商工業者である**町衆**が中心となって室町幕府の援助もあり，1500 年に**祇園祭**が再興され，これ以降**山鉾**(山車の一種)も華美になっていった)。

あとは**菅原道真**を祀るために建立された京都**北野神社**(**北野天満宮**)で行われる北野御霊会も有名だね。**菅原道真**は**901 年**の**昌泰の変**で**大宰府**に左遷され，その 2 年後に亡くなったけど，その後の京都では天災が相次ぎ，『**北野天神縁起絵巻**』(**菅原道真**の生涯と北野神社が創建された由来を描いた鎌倉文化の絵巻物)にも描かれている清涼殿落雷事件(930)では，平安京内裏の清涼殿で起きた落雷により当時の大納言が即死するなどして，この惨状を目の当たりにした醍醐天皇も 3 ヶ月後に亡くなっている。これを当時の人々は菅原道真の怨霊が「火雷神」という雷神となって落雷事件を起こしたとして畏れて，**菅原道真**を祀るために京都**北野神社**(**北野天満宮**)が建立された，というのは通史の授業でも学習しているよね。そして，この北野神社(北野天満宮)で 987 年から行われるようになったのが北野御霊会だ。


〔『**北野天神縁起絵巻**』〕

また，この時代は科学が未発達なこともあって怨霊とかが畏れられていた。そのため災害・異変などについても不安になって，古代中国から伝来した**陰陽五行説**に基づいた**陰陽道**という易占いなどで吉凶を判定する祭祀が流行っていたんだ(この陰陽道を学べるのが朝廷の中務省に属する**陰陽寮**で，その職員である**陰陽師**を教育するトップの陰陽博士には**安倍氏**と**賀茂氏**の両氏が家職として独占し，この安倍氏から陰陽師で有名な安倍晴明が登場する)。

こうした陰陽道の影響で，今日は縁起が良くないから一定期間，特定の建物の中で謹慎する**物忌**(**ものいみ**)や，鬼門と呼ばれた鬼が出入りする北東の方角などを避けて，外出の時忌避すべ縁起の悪い方向を避ける**方違**(**かたたがえ**)という迷信も生まれたんだ(古文でも必須の読み方に注意)。

© 不許複製禁転載

［D］神道学説(平安文化～室町文化)－テキストP6 対応－

神祇信仰(のちの神道)と仏教を一緒くたにする神仏習合が浸透していく中で，平安中期になると末法思想(1052年から末法の世となり，世の中では疫病・飢饉・戦乱などが頻発すると恐れられていた)の影響から，仏教界を中心に「まあ，仏様も神様も一緒でええで。でも，なんだかんだで仏様の方がマジ者やからなあ。せや！それだったら，末法思想で人々が不安になっているこの世の中に，本体である仏様が人々を救済するため，神様という仮の姿に形を変えてこの世に現れるってことにしたろ！」ってことで唱えられたのが，平安時代の**本地垂迹説**というものだ。これは「仏が本物(本地という)で，神は人の前に姿を現す時の仮の姿(垂迹という)である)」という考え方。

その中で，天台宗では**山王神道**(**日吉神道**)，真言宗では**両部神道**という神道学説が唱えられるんだけど，簡単に言えば「まあ，仏様も神様も一緒でええよ。でも仏教の**大日如来**こそが本物の姿(本地)なんよ。んで，大日如来が人々の前に姿を現す時に姿を変えた仮の権現(垂迹)が神道の**天照大神**なんよ。」ってこと(権現・権化など「**権**」という字は「仮の」という意味を指すので，大宰権帥は大宰府の仮の長官，権大納言は仮の大納言，権中納言は仮の中納言ということになる)。なので，右のように，それぞれの仏様が姿を変えて，この世に現れた姿の神様を具体的に当てはめていったんだ。

本地仏	権現
大日如来	→ **天照大神**
阿弥陀如来	→ 八幡神
聖観音菩薩	→ 大山祇神
大黒天	→ 大国主神

でも，神道側からしてみれば「何でやねん！何で，仏が本物で神様の方が仮の姿って扱いやねん！神様の方が本物で，仏が仮の姿ってことにすべきやろ！」って感じだよね。そのため，鎌倉時代から神道勢力からの反発もあって，**元寇**で神風が吹いたという神国思想を背景に，鎌倉時代中期以降「神が本物(本地)で，仏は人の前に姿を現す時の仮の姿(垂迹)である」とする**反本地垂迹説**(**神本仏迹説**)が唱えられるようになったんだ(神本仏迹説は「神が本地」で「仏が「垂迹」である」ということ)。

これを主張したのが伊勢神宮外宮の神主だった**度会家行**という人なので，彼の神道の一派のことを**伊勢神道**とか**度会神道**という(度会家行・度会神道の「度会」を「渡会」にしないように気をつけてね)。そして，その度会家行が度会神道(伊勢神道)の根本経典として著したのが『**類聚神祇本源**』で，「仏教伝来(6世紀)よりも前に，天地開闢で日本の神々が日本をお創りになって，天照大神を祀る伊勢神宮も出来上がっていたんだから，神様の方が本地で仏は仮の姿(垂迹)に決まっとるやろ」って主張して，鎌倉時代からは反本地垂迹説(神本仏迹説)が一般的になっていくんだ。

＜本地垂迹説と反本地垂迹説(神本仏迹説)のまとめ＞

平安時代中期～**本地垂迹説**(仏が本物(本地)で，神は仮の姿(垂迹)という思想)

↓(神風が吹いた**元寇**後の神国思想が背景)

鎌倉時代中期～**反本地垂迹説**(神が本物(本地)で，仏は仮の姿(垂迹)という思想)

室町時代になると，反本地垂迹説(神本仏迹説)が発展して，神道に儒教・仏教の思想を取り入れた**唯一神道**(**吉田神道**)を京都の吉田神社の神職であった**吉田兼倶**が創始するんだけど，この人は一言でいうと稀代の詐欺師なんだけど，正直この後の話は入試では出てこない詐欺師について語るだけなので［E］のところにまで読み飛ばしても構わない。



京都の吉田神社はもともと平安時代に建立された神社だったんだけど，室町時代における最大の地獄イベントである応仁の乱(1467)の戦火に巻き込まれて1468年に焼け落ちてしまった。でも，ピンチはチャンスとばかりに，その間に吉田兼倶はどうにかして神道業界を統べる方法はないか考え，まずは自分の邸宅内に斎場所大元宮という社を建てて

「日本には八百万の神々とかいって800万もの神様がおるらしいけど，それやったら宇宙の根源の神，虚無太元尊神っていう唯一最強トップの神様を設定しちまえばええやないか(・∀・)！！！そして，この斎場所大元宮で，この最強トップの虚無太元尊神を祀っているってことにすればええな！」

© 不許複製禁転載

として，**吉田神道**の理論を創り出した(この唯一トップの神様を祀るので**唯一神道**と呼ばれる)。さらに，今度は吉田家(卜部家)の家系図の作り変え(捏造)だ(この家系図の捏造の際に『徒然草』で有名な吉田(卜部)兼好も，勝手にこの吉田兼俱と同じ吉田家(卜部家)に加えられてしまっている…)。

「よし！まずは俺の吉田家(卜部家)の先祖の神様は，中臣氏(のちの藤原氏)の祖先神である天児屋命ってことにするさかい！これで祭祀をつかさどる神祇官も支配できるやろな！それと有名人が一族にいた方がかっこええし，吉田(卜部)兼好も系図に入れといたろ！」

もともと吉田家(卜部家)は吉凶を占う家系だったんだけど，これで吉田兼俱は自分の先祖が祭祀を担当する神祇伯(神祇官の長官)の中臣氏であるとして，神祇管領長上ってめちゃめちゃすごそうな称号を自ら勝手に名乗る。そして，

「よし！次は権威付けやな！そのためには朝廷・幕府とも結びついて，権威付けもしちまえば完璧な保険になるやろ！！！そのためにはまずは……，と。」

ということで，後土御門天皇や公家，さらには比叡山の僧侶にも神道について講義することになり

「我が吉田神道(唯一神道)っていうのはですねえ，かくかくしかじかでして…」

と，まんまと朝廷を丸め込んで結びつくことに成功…。さらに幕府とも結びついて，1484 年には日野富子(8 代将軍足利義政の妻)の援助を受けて吉田神社のある吉田山(山というか標高 100m程の丘)の山頂に斎場所大元宮を新たに創建して，

「みなはん，ええですか～？この大元宮に祀られているのは宇宙の根源の神，虚無太元尊神って唯一最強トップの神様でっしゃろ？せやから，虚無太元尊神のお力で引き寄せた八百万の神々も含めて全国全ての神々も祀ってはるんや。せやから，この大元宮を拝むことは日本中のすべての神社を拝んだことになるんですわ。」


〔吉田神社(斎場所大元宮)〕

つまり，これって吉田神社は伊勢神宮よりも格上であるって言っているのよね…。そして，伊勢神宮を含む全国の神社を吉田神社の統制下におこうと考え始めたんだ(なお，もちろん明治時代になると天皇家の祖先神である天照大神を祀る伊勢神宮は，神社における格付けランキングのレベルを超越した位置づけとなるから，明治政府から「ワレ，何さらしとんのじゃボケェ」と言われた吉田神社は衰退するけどね)。

これで終わりだと思ったでしょ？でも，まだ続くの。ていうか，この詐欺師はいろいろすごいから，あげればたくさんの余罪があるんだな(笑)。その中でダメ押しとなったのが 1489 年の永徳の密奏事件。この頃，伊勢神宮の門前町同士の対立により伊勢外宮正殿が炎上し，伊勢神宮の御神体が行方不明となってしまった。そして，その後に京都で落雷が起こると

「いや～，昨日の雷はビックリしましたわなあ。でも，それだけではおまへん。雷鳴と一緒に天からうちの大元宮に伊勢神宮の御神体である神器が落ちてきたんですわ。天皇も『せやな，伊勢神宮の御神体やと思うで』って言うてはりますし。多分，これは伊勢神宮の内宮・外宮の神様が戦とか対立しているのが嫌や言うて，この吉田神社の地に移ってこられたんちゃいますかの。」

…兼俱さん，これはやりすぎですよ…。これじゃあ，伊勢神宮の神様が吉田神社に逃げてきたという意味になるんだから。これによって吉田神社の大元宮は日本一のパワースポットとなっていったんだけど，もちろん伊勢神宮は再三にわたって朝廷に猛抗議。でも結果は実らない。

「あ～，お伊勢はん(伊勢神宮)はうちの吉田神社が泥棒でもしたと思って，信じてくれへんのですかい？おそらくですがね，伊勢神宮の神々は伊勢国(三重県)の海岸の潮に乗って，うちの吉田神社の大元宮に移ってこられたんやと思います。せやから，おそらくその時に通った京都の加茂川の水も塩気を帯びてきてはると思いますで？」

© 不許複製禁転載

…と報告してきたので，それなら加茂川を実際に調査してみましょう。そしたら，確かに水に塩気があるんだ！…ところが，その後すぐに加茂川上流も調べてみたら，塩俵(塩を入れる俵)を埋めさせていたことが発覚…(つまり加茂川上流から大量の塩を流していた証拠が出ちゃった…)。これで，ようやく詐欺師の手口を見破った！

「…(あ，あ，あかん！バレてしもうたか！でも，そういう時のための保険として朝廷・幕府とつながっておるし，根回ししておいて良かったわあ)」

さすが詐欺師ってのは世渡り上手…。糾弾さえされなければ詐欺は成立しない。結果，朝廷のバックもあって不問どころか朝廷のお墨付きをもらい，しまいには神道の家元の地位も承認してもらうことになる。そして，これ以降，朝廷・幕府にも取り入って勢力を拡大した吉田家は全国の神社を統括・支配し，神職などを任命する権限まで獲得していくんだ(吉田兼倶以降も吉田家は織田信長ともいち早く接近し，豊臣秀吉の死後には豊臣秀吉を豊国大明神として祀る豊国神社が創建され，吉田家が取り仕切った)。

© 不許複製禁転載

［E］神道説(江戸文化)－テキスト P6 対応－

江戸時代になると，江戸幕府は寺社統制のために寺社奉行を設置して(寺社奉行とは寺院・神社を統制する役職)，寺院・僧侶といった仏教勢力に対して 1665 年に全ての宗派一括で共通して守らなければならない法令として，諸宗寺院法度を発布したよね。一方，神社・神主に対しては，まったく同じ 1665 年に**諸社禰宜神主法度**が出されている。これによって，これ以降は神職の補任は主に**吉田家**(室町時代に吉田兼倶が興した吉田神道の宗家)・**白川家**(花山天皇流の源氏で，神祇伯(神祇官長官)を世襲した一族)が取り扱うようになったんだ(のち，吉田家が神道の本所として統制するようになり，白川家は振るわなくなる)。

その神道の本所となった吉田家の吉田神道(唯一神道)は，神道に儒教・仏教，さらには道教・陰陽五行説などの思想を取り込んだごちゃ混ぜなものだった。そのため，江戸時代初期の神道家であった**吉川惟足**は吉田神道から仏教色を除いた神道と儒教を中心とした**吉川神道**という神道説を提唱し，さらにその吉川惟足に師事(弟子入り)して神道を学んだ**山崎闇斎**(会津藩主の保科正之に仕えた南学派(海南学派)の朱子学者)が創始したのが，吉川神道に朱子学を取り入れた道徳性の強い**垂加神道**という神道説だ。

ここまでの吉田神道(唯一神道)・吉川神道・垂加神道といった神道説については，内容まで押さえておく必要はないんだけど一応それぞれの違いを右にまとめておく。なぜ，これらをまとめたかというと，これらの神道説は本来の神道に仏教とか儒教とかの要素が取り入れられてしまっていて，本来元々の神道の要素に別の考え方が入り混じっている状況だったわけだ。

＜神道説のまとめ＞
唯一神道＝神道＋儒教＋仏教
吉川神道＝神道＋儒教
垂加神道＝神道＋儒教(朱子学)
復古神道＝神道 only

そこで，国学者の荷田春満・賀茂真淵・**本居宣長**が唱えた「儒教・仏教を排した日本民族固有の精神に戻るべき」という古道に基づいて，「本居宣長死後の門人」と自称した江戸時代後期の国学者**平田篤胤**が提唱したのが**復古神道**だったんだ。これは，国学の影響を受けた 6 世紀に日本に伝来した儒教・仏教に影響されていない頃の，本来の神祇思想に基づいた「古」に「復」す「神道」ということ。ゆえに，天照大神・須佐之男命・大国主神などの日本古来の神々を信仰することになるので，特に天照大神の子孫である天皇家を崇拝することにつながっていく。その天皇を崇拝する思想が**尊王論**であり，復古神道はその思想的基盤となって幕末の**尊王攘夷運動**に大きな影響を与えていくことになるんだ。

なお，幕末には神道系新興宗教として，**教派神道**と呼ばれる後の明治政府によって公認された民間の神道団体 13 派が起こっている。ほら，君たちも受験という不安定な状況下だと，駅前で「神を信じますか？」と声をかけられたりする人もいるでしょ？(笑)。それと同じようなもので，幕末という不安定な情勢の中で一挙に信者を増やしていった幕末三大新宗教が，大和国(現在の奈良県)出身の農婦**中山みき**が 1838 年に創始した**天理教**や，備前国(現在の岡山県東部)出身の神道家**黒住宗忠**が 1840 年に創始した**黒住教**，備中国(現在の岡山県西部)出身の**川手文治郎**(**赤沢文治**)が 1859 年に創始した**金光教**だ。この中でも有名なのが今でも信者数は 120 万人程といわれる天理教で，全国高校ラグビー大会や全国高校野球選手権大会(夏の甲子園)出場校の常連として有名な奈良県の天理高校や天理大学では天理教の教義に基づいて教育が行われているね。

© 不許複製禁転載

［F］民間信仰(江戸文化)－テキストP6対応－

最初に断っておくと，江戸時代の民間信仰に関しては今でも続いているものもあったりして頻度も高くないので，サラッと読み進める形でも構わない。例えば，江戸初期から行われた賞金目当ての興行の**富突**(**富籤**)ってのは，今でも行われている宝くじと同じだし，寺院や神社がその寺社に伝わる秘仏を境内や他所に出張して公開する**開帳**も，御開帳と言われたりして今でも行われている。まあ，セクハラとかが問題視される前には，宴会の席上で部下の女性に対して，上司が浴衣をガバっと開いて自分の秘仏を「御開帳！」って言って見せつけるなんてネタがあったしね…(今やったらアウトだよ？)。

それから，五節句として江戸幕府が定めた公式行事・祝日は現在でも残っているものが多い。現在でも七草粥(7種類の野草・野菜が入った粥)を食べることから七草の節句とも言われる1月7日は**人日**，現在でも雛祭りが行われ桃の節句とも言われる3月3日は**上巳**，現在でも祝日のこどもの日でもあり，鯉のぼりを立てる端午の節句とも言われる5月5日は**端午**，夫婦である織姫(こと座のベガ)と彦星(わし座のアルタイル)が1年に1度だけ会える7月7日は**七夕**(これは現在も変わらないんだな…)，菊が咲く季節で菊の節句とも言われる9月9日は**長陽**(この存在は完全に忘れられとるな…)，こういった行事は江戸時代から行われていたんだよ。

他にも現在も残っているのが特定日の日の出を待つ**日待**と，特定日の月の出を拝む**月待**の風習。「そんな奴今時いねえよ～」って奴に限って，初日の出を待つ日待や十五夜だからって飲み会開いていたりしやがるからなあ(笑)。まあ，本来は1月・5月・9月の15日に徹夜して日の出を待つのが日待で，十五夜・十九夜・二十三夜などの月齢の夜に飲み会をしながら月の出を待つのが月待なんだけどね。

でも，元旦に初の日の出を見に行く人は少し考えてみてほしい。そんなに初日の出ってありがたいものなのだろうか？12月31日でも1月2日でも1月3日でも日の出の瞬間って綺麗だと思うので，僕は人混みの多い元旦に初日の出を見に行ったことがない(ただの天邪鬼でもある)。そして，実は元旦に初日の出を見に行くって行動は，信仰と同じものであって**講**と呼ばれる信仰の一つなんだよね。

そもそも**講**というのは同じ信仰をもつ者によって結ばれた組織(集団)のことなんだけど，この言葉はもともと仏教史で出てきたよね。室町時代に浄土真宗本願寺派が広がる中で，各地の惣村に**講**と呼ばれる組織が出来上がっていったよね。これは浄土真宗を信仰する信者(門徒)によって結ばれた集団だったけど，そもそも浄土真宗だとかに関係なく，同じ信仰をもつ者が集まって出来上がった集団は「講」と呼ばれるんだ。例えば，先ほどの日待を信仰する集団なら日待講，月待を信仰する集団なら月待講，富士山を信仰し旅費を出し合って参拝する集団の**富士講**，伊勢神宮を信仰し旅費を出し合って参詣する集団の**伊勢講**があって，他にも大黒天(福徳開運の神様として信仰される七福神)を信仰する集団の大黒講，恵比寿天(商売繁盛の神様として信仰される七福神)を信仰して商売繁盛を願う恵比寿講とか，遊びのための集まりである将棋講，宴会における無礼講も「講」の一つなわけだ(本来の無礼講の意味は地位や身分の上下を取り払って楽しむ集団のこと)。

その中で道教(中国の民族宗教)の影響をうけた庚申信仰というものがあって，十干と十二支の組み合わせである干支の法は60通りあるので，60日に1度「庚申の日」が訪れるとされていた。その道教の教えでは，人間の体内には三尸と呼ばれる虫がいて，庚申の日の夜に人が眠っている間に抜けだして天に上り，天帝にその人の過失を告げて早死させるらしい。そこで長生きするためには，庚申の日の夜は眠らないで身を慎み，当番の家に集まり徹夜し，飲食を共にして夜を明かす**庚申講**と呼ばれる集団が出来たんだ(この行事を庚申待といい，供養のため**庚申塔**を建てるようになった)。まあ，要は「60日に1回呪われる日がやってきて寝たら死んじまうから，皆で徹夜して過ごすべ。」っていうことで，徹夜して日の出を待つのだからこれも日待の一つに当てはまる。実は，僕も大学生の頃はよく月に1度か2度は日待をしていた。徹夜カラオケで朝5時まで歌い続け，始発の山手線に乗って何周かして目が覚める…，これも日待の一種だ。


〔庚申塔〕

© 不許複製禁転載

また，今現在でもアニメや映画で登場した現地を訪れる聖地巡礼をしたことがある人もいるだろう。かく言う僕も『青春ブタ野郎はバニーガール先輩の夢を見ない』というアニメと(変な題名なので誤解されやすいけど各キャラの心理状況を考えるとマジ感動する)，その完結編にあたる劇場版の『青春ブタ野郎は夢見る少女の夢を見ない』が大好きなので(DVD 買って 5 回見て 5 回泣いた)，聖地にあたる鎌倉七里ヶ浜，江ノ電鎌倉高校前駅，江ノ電藤沢駅，江ノ島などを巡礼したことがある(現地では写真撮りまくったり大はしゃぎしていました)。

さて，その巡礼にまつわる本題だ。阿弥陀如来の左右に安置される脇侍として有名なのが観音菩薩(観世音菩薩)と勢至菩薩で(脇侍とは中央に位置する中尊の左右両脇に仕えるで，この場合は阿弥陀如来を支える役割)，一般的に観音様と言われる観音菩薩(観世音菩薩)は今でも観音信仰と呼ばれて多くの人々から信仰されている。そして，観音霊場と呼ばれるその観音様が祀られている寺院は全国にたくさんあって，それらのお寺を巡礼(寺院などを巡って参拝すること)してお願い事をしたりするのを観音巡礼というんだ。その中でも特に有名なのが，近畿地方などに点在する 33 カ所の観音霊場の**西国三十三カ所**，関東地方に点在する 33 カ所の観音霊場の**坂東三十三カ所**，埼玉県秩父地方にある 34 カ所の観音霊場の**秩父三十四カ所**で，これらの 100 カ所の観音霊場を合わせて日本百観音といって，これらの観音霊場を巡礼するわけだ(受験が終わったら『青春ブタ野郎』を見てみるのもいいよね)。

また真言宗の開祖である空海(弘法大師)を信仰することを弘法大師信仰と呼び，その空海(弘法大師)ゆかりの四国にある 88 カ所の寺院を霊場とする**四国八十八ヵ所**に巡礼することを四国遍路といって，その巡礼者のことを「お遍路さん」と呼ぶのは有名すぎるんじゃないかな。歩きだと 40〜50 日ぐらい，車でも 10 日はかかるけどね(受験が終わったら『青春ブタ野郎』の聖地巡礼してみるのもいいよね)。


〔金毘羅宮(本宮拝殿)〕

弘法大師信仰と同じで四国で信仰されているのが「讃岐の金毘羅さん」で親しまれ，神仏習合の神である金毘羅大権現を信仰することを金毘羅信仰というんだけど，その金毘羅大権現を祀る讃岐国の**金毘羅宮**(**金刀比羅宮**)へ参拝するのが金毘羅参り。「一生に一度はお参りしたい場所」として今でも観光スポットとして人気だけど，江戸時代には航海の守護神として全国から爆発的な信仰を集めて，参道入口から御本宮までの石段は 785 段，さらに奥社までは 1368 段あるので往復で 3 時間はかかると言われている…(名探偵コナン 452 話「こんぴら座の怪人」でも登場したけど，毛利のおっちゃんは途中でギブしていたな…)。

そして，同じく「一生に一度はお参りしたい場所」といえば誰もが口を揃えて言うのが「お伊勢さん」と親しまれ，豊受大神を祀る外宮と天皇家の祖先神である天照大神を内宮に祀る**伊勢神宮**。江戸時代から「一生に一度はお伊勢参り」と言われ，その中で 1705 年・1771 年・1830 年の 3 度，約 60 年周期で発生した庶民による集団的な伊勢神宮への参詣を**御蔭参り**という(律令制度における蔭位の制は「蔭」と同じ感じだけど，陰陽道の漢字は「陰」なので気をつけて)。


〔御蔭参り〕

なお，ここからは難関国立大学受験者向けの論述的な内容になるけど，参宮者の中には，子供は親に，妻は夫に，奉公人は主人に，借家人は家主に，それぞれ無断で家を出て参詣しに行く「抜け参り」が多く存在した(幕府や領主は「抜け参り」を禁止したが，人々の熱狂を鎮めることはできなかった)。そして，伊勢神宮の御札が降ったとか，多くの人たちの御蔭参りが始まったとかの噂が広まると，「ヒャッハー！」って感じで集団的な陶酔状態で熱狂した人々は，白衣に菅笠で一本の杓を持ったりして出かけるんだけど，伊勢神宮に対する信心の旅ということで途中の町々の富豪から食べ物や宿泊場所などの施しを受けることができたので，「神のおつげサイコー」って感じでほぼ無一文で伊勢神宮まで行くことができたんだ(神のおつげに対する参拝を妨げると天罰が下るとされていた)。

© 不許複製禁転載

つまり，これは江戸時代の上下の身分秩序が重視される封建的な支配体制の中で，従属的な立場に位置付けられて不満を抱えていた人々が，御蔭参りという宗教的な形をとって束縛からの自己解放を求めたものだったわけだ。まあ，御蔭参りが起こると従属的な立場の人からすれば，自由を求めて常日頃の階層秩序や支配関係から抜け出すことができるってことだ。そして，道中では「おかげでさ(御蔭参りのこと)，するりとな，ぬけでたさ」と歌い踊り歩き，衣装にも趣向を凝らし日常の規範をこえて自由に振る舞いながら伊勢神宮に参詣したんだ。

そして，この御蔭参りが変形したものとされ，**1867 年** 7 月から 1868 年 4 月までの「世直し」を期待した民衆運動が「**ええじゃないか**」だ。これは，1867 年 7 月中旬に三河国吉田宿近郊の農村(現在の愛知県豊橋市)に伊勢神宮の御札が天から降り，続いて名古屋地方にも伊勢神宮などの御札が天から降ったことを契機に，「天から御札が降ってきたってことは，これはめでたい事が起きる前触れだ」として東海地方から広がり，近畿地方・中国地方・四国地方まで波及して，「ええじゃないか」と連呼して踊り歩いた民衆乱舞だ。


〔**ええじゃないか**〕

でも，よくよく考えてみよう。まず飛行機もない時代に天から御札が降ってくるなんてことはありえない。さらに，この時期は幕府倒壊を目前にした時期なので，薩摩藩・長州藩を中心とした討幕派が仕組んだことじゃないかと言われてもいるんだ。なので，薩摩藩・長州藩の連中が夜中に伊勢神宮の御札をバラまいておいて，朝になってそれを見た農民・庶民が「これは伊勢神宮の御札だべ？ちゅうことは，明け方に天から降ってきたとしか考えられんだに！めでてえことが起きる新しい世の中の到来だに！」と狂喜乱舞するように仕向けた印象操作と考えると辻褄が合う。つまり，これから幕府を倒そうとしている討幕派の政治的活動などを隠蔽するために行った陽動作戦じゃないかと思われるんだ。

© 不許複製禁転載

［A］神道国教化の推進(授業解説[明治維新]とほぼ重複)

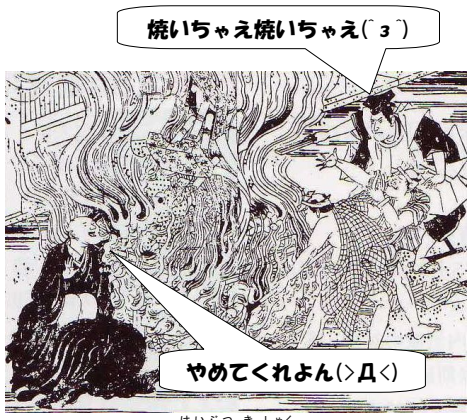
1867 年，**王政復古の大号令**によって天皇を中心とした新政府が樹立された。王政復古の大号令とは，平安時代のように天皇自らが政治を行っていた「王政」の時代に「復古(古に復す)」するというもの。だから，これからは政治の中心となる天皇の権威を高めていかなければならない。そのためには，政治機構などを整えていく必要があるんだけど，他にも何か活用できるものがあるんじゃないか？

それは宗教だ。ヨーロッパではキリスト教を国教(国の宗教)として採用している国が多いけれど，日本でも同じように，神道を国教として重視していけばいい。そもそも，神道とは，天皇家の祖先とされる天照大神など日本固有の神々を信仰するもの。この神道を国教としてしまえば，「天照大神などの神々を信仰＝子孫である天皇家を信仰」するわけだから，天皇家の神格化につながるはずだ。そこで，明治政府は，祭政一致の立場から(祭祀(宗教)と政治を一体化させる方針のこと)，神道国教化政策を推進していったんだ。

ただし，神道を国教としていくためには，まずやらなければいけないことがある。それは**神仏習合**(**神仏混淆**)を否定すること。奈良・平安時代の頃から人々は神道と仏教を同一視していて，どちらも同じようなものだと解釈していたよね。そこで，明治政府は**1868 年**に**神仏分離令**(**神仏判然令**)を発布して，**神仏習合**(**神仏混淆**)を禁止したんだ。まあ，簡単にいえば「神道と仏教は違うもんだからな，お前ら」と国民にお触れを出したわけだ。

でも，これは国民にとっては衝撃的。「マジかよ，仏教と神道って違うものだったのか！しかも，明治政府は神道を国教にしようとしているわけだし，仏教はまがい物だったっちゅうわけだな」って感じで，寺院や仏像などが破壊される仏教排斥運動が巻き起こったんだ。これを**廃仏毀釈**という。

毀



〔**廃仏毀釈**〕

右手の神官の指示で経文・仏具が燃やされ，左手の僧が嘆き悲しむ様子が描かれている

［仏教革新運動］

廃仏毀釈によって寺院や仏像などが破壊されてしまった仏教勢力は一時的に衰退してしまうんだけど，その後，浄土真宗本願寺派の僧侶である**島地黙雷**による仏教復興への尽力，**哲学館**(現在の東洋大学)を創立したことでも知られる哲学者の**井上円了**らの仏教革新運動(神仏分離・廃仏毀釈を核とした明治政府の宗教政策に対抗して，政教分離と信教の自由を求めた文明主義的な運動)によって仏教は復興されていくことになる。



〔島地黙雷〕

そして，この神道国教化政策は，明治初期の官制改革にも大きな影響を与えている。通史で学習する内容でもあるんだけど，1869 年の版籍奉還に伴って行われた官制改革では**二官六省制**がとられて，祭祀関係を担当する**神祇官**という官庁が新しく設置されて，行政を担当する太政官より上位に置かれている。

律令制度で定められた中央官制では，二官にあたる太政官(行政)と神祇官(祭祀)は対等の立場であったし(実質的には行政を担当する太政官の方が上位だった)，普通に考えたら「祭祀(宗教)＜行政(政治)」のハズ。それなのに，「祭祀(宗教)＞行政(政治)」としたのには，それだけ明治政府が神道国教化政策を推進しようとしていたって証だよね。

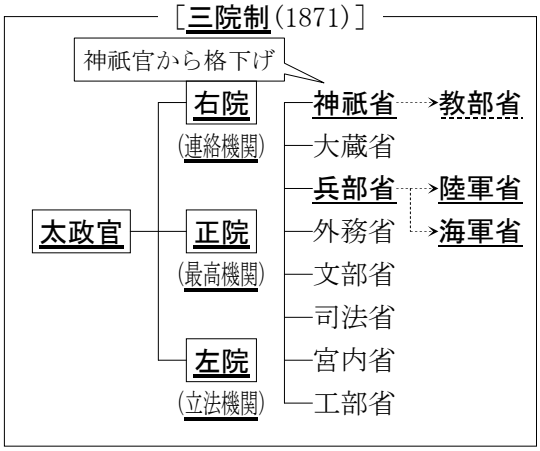
［**二官六省制**(1869)］

- **神祇官**(太政官の上位)
  (祭祀)
- **太政官**
  (行政)
  - 大蔵省
  - 兵部省
  - 外務省
  - 文部省
  - 司法省
  - 宮内省

© 不許複製禁転載

こうして，神仏分離令によって神道と仏教が違うものであることを明らかにしておいた上で，**1870 年**に発布されたのが**大教宣布の詔**だ。これは，明治天皇自らが「これからは神道を日本の宗教としていく」って表明したもの。そして，宣教使という役職が神道国教化を推進していったんだけど，仏教勢力による抵抗などで結局うまくはいかなかったんだ。まあ，日本では葬儀の際に寺院のお世話になったりするように，仏教は国民生活に深く根付いていたし，それを取り除くってのは不可能に近いよね。

上記のように，神道国教化政策は失敗に終わってしまった。ゆえに，神祇官もその必要性が低下したため，1871 年の廃藩置県に伴う官制改革では神祇官を廃止して元々の太政官一つに戻して，**太政官**の下に行政・司法を担当する最高機関の**正院**，立法機関の**左院**，各省の連絡機関の**右院**に分ける**三院制**がとられるんだ。そして，神祇官も太政官の下位機関にあたる**神祇省**に格下げされちゃったんだ(これも通史で学習する内容)。ちなみに，その後は神道を中心とする神祇省に代わって，1872 年に神道・仏教をつかさどる**教部省**へと変更されたけど，1877 年に廃止されて最終的には内務省に併合されている。



［B］国家神道

神道を日本の宗教とする神道国教化政策は結局失敗しちゃったけど，それでも明治政府は神道を重視していきたい方針は変わらない。そこで，神社神道(人々の神社に対する信仰)を政府が特別に保護する国家神道の推進へと方向転換をはかったんだ(神社神道とは神社を信仰対象とする全ての神道をさすが明治時代以降は国家神道のことをさすので，「神社神道」＝「国家神道」と考えてくれればよい)。

国家神道とは「神社は宗教にあらず，国家の祭祀である」として，神社に対する信仰は宗教ではないと設定して，神道を宗教として扱わず，全ての宗教に超越したものとするもの。…え〜，「？？？」が飛び交うだろうし，「いやいや，神道も宗教でしょうが！」というツッツミも返ってくるだろう。はい，おっしゃる通りでございますな。もちろん神道は宗教の一つなんだけど，明治政府曰く「神道を仏教とかキリスト教とかの宗教と一緒にするな！神道はそれらの宗教を超越した別次元のものやねん！同じように神社を信仰することも宗教じゃないねん！」ってことなのだそうです(笑)。…おお，そうきたかって感じだね(笑)。

現在の日本国憲法では「政教分離」という原則があり，「政府(国家)」と「宗教」は切り離して，政府(国家)が特定の宗教団体に特権を与えたり，特別に保護したり，宗教的活動をしたりすることは禁じられている。でも，戦前の大日本帝国憲法では「政教分離」は掲げられていないし，明治政府は「だから，言うとるやんけ！そもそも神道は宗教ちゃうねん。神社も宗教ちゃうねん。神道も神社もそういった宗教レベルのものを超えたもんやさかい。せやから，政府(国家)が神社を特別に保護したって何も問題あらへん。」と仰られているわけです(笑)。

上記の強引な理論によって政府(国家)が神社を特別に保護するわけだけど，そのトップにあたる神社はもちろん天皇の祖神である天照大神を祀っている**伊勢神宮**だ。そうすれば，その天照大神の子孫である天皇は「この世で人間の姿をしていらっしゃる神」の**現人神**(**あらひとがみ**)として，人々に崇拝させることができるよね。こうした全ての宗教を超越したものである神道や神社は宗教として扱わず，特別に神道・神社を政府が保護していく政策を国家神道というわけだ(なお，**中山みき**が創始した**天理教**，**黒住宗忠**が創始した**黒住教**，**川手文治郎**が創始した**金光教**など，幕末の不安定な情勢の中で流行した神道系民間宗教団体 13 派は，1876 年に政府から公認されたが国家神道とは別の**教派神道**と位置付けられた)。

© 不許複製禁転載

そして，この国家神道を推進するために，まずは神社の格付けランキングでもしておこう。それが 1871 年に整えられた神社制度(社格制度)だ。これは**伊勢神宮**を頂点として(全ての神社の上にあり，格付けランキングに当てはめることもできない特別な神社)，神祇官(のち宮内省)が管轄する**官幣社**(国幣社より格上)，地方官が管轄する**国幣社**(官幣社より格下)という国家が管轄する官社と，それ以外の府県が管轄する諸社に神社を格付けしたもの。なお，1869 年に戊辰戦争の戦没者を祀るため東京都九段に設けられた**招魂社**は，1879 年に別格官幣社と位置付けられて**靖国神社**と改称し，国家のために身を犠牲にした人を英霊として祀っている。なお，以下で説明する内容のうち，祝祭日の制定は[文化史講義録(近現代)－文明開化(テキスト P39)－]，教育勅語・内村鑑三不敬事件は[文化史講義録(近現代)－教育史(テキスト P38)－]，久米邦武筆禍事件は[文化史講義録(近現代)－学問史(テキスト P42)－]と重複する。

国家神道を推進して天皇崇拝を定着させるためには祝祭日も利用しておこう。そこで 1873 年には，神話上の初代天皇とされる神武天皇が即位した**2 月 11 日**を**紀元節**(現在の建国記念の日で，大日本帝国憲法は**1889 年 2 月 11 日**に発布された)，また明治天皇の誕生日である**11 月 3 日**を**天長節**(現在の文化の日で，日本国憲法は**1946 年 11 月 3 日**に発布された)という祝祭日に定めたんだ。

さらに，天皇崇拝を強固にするには教育も利用することができるハズだ。その教育において天皇崇拝を定着させる上で重要になるのは，バイブル(聖書)的な存在だ。そこで，**第一次山県有朋内閣**時の**1890 年**，第 1 回帝国議会の開会直前に，天皇からの教育に関するお言葉として発布されたのが**教育勅語**(**教育に関する勅語**)なんだ。これは**井上毅**と**元田永孚**が起草し，儒教的精神に基づく「**忠君愛国**」などの国民道徳を説いた内容。つまり，「君主である天皇に忠義を尽くし，わが国日本を愛しなさい」という国家主義を根付かせることで，マインドコントロールを進めるためのものだったわけだ。

◎ **教育に関する勅語(教育勅語)(1890)－第一次山県有朋内閣－**『法令全書』

朕惟フニ我カ皇祖皇宗国ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ。我カ**臣民**克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ済セルハ此レ我カ**国体**ノ精華ニシテ，**教育**ノ淵源亦実ニ此ニ存ス。爾**臣民**，父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭倹己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ，学ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓発シ徳器ヲ成就シ進テ公益ヲ広メ世務ヲ開キ，常ニ国憲ヲ重シ国法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壌無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ。是ノ如キハ独リ朕カ忠良ノ**臣民**タルノミナラス，又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顕彰スルニ足ラン。斯ノ道ハ実ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫**臣民**ノ倶ニ遵守スヘキ所，之ヲ古今ニ通シテ謬ラス，之ヲ中外ニ施シテ悖ラス，朕爾**臣民**ト倶ニ拳々服膺シテ咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ。

明治二十三年十月三十日

御名　御璽

(私が思うには，我が皇室の先祖が国を始められたのは，はるかに遠い昔のことで，代々築かれてきた徳は厚く深いものでした。我が**臣民**(国民)は忠義と孝行を尽くし，全国民が心を一つにして，世々にわたって立派な行いをしてきたことは，我が**国体**(ここでは国柄の意味)の優れたところであり(国柄の優れて美しいこと)，**教育**の根源もまたこの国体の美に根ざしています。あなたたち**臣民**(国民)は，父母に孝行し，兄弟は仲良くし，夫婦は仲睦まじく，友人とは互いに信じあい，自分自身の言動は慎み深く，全ての人々に博愛の手を差し伸べ，学問に努め，職業に専念し，知識を養い，徳と才能を磨き上げ，進んで社会公共の利益や世の中の努めに貢献し，いつも憲法を重んじ，法律に従いなさい。そして，国家の危急の事態が生じたら，正義心から勇気を持って公のために奉仕し，それによって永遠に続く皇室の運命を助けるようにしなさい。これらのことは，単にあなた方が忠義心を厚く善良な**臣民**(国民)であるということだけでなく，あなた方の祖先が残した伝統的美風を褒め称えることでもあります。このような国民の歩むべき道は，実に我が皇室の祖先が残された教訓であり，その子孫と**臣民**(国民)が共に守っていかなければならぬことであると共に，昔も今も変わらず，国の内外を問わず，間違いのない道理です。私はあなた方**臣民**(国民)と共に，この押し手を胸に抱いて，皆一致して立派な行いをしていくことを切に願っております。)

明治二十三年(1890 年)十月十三日

© 不許複製禁転載

この教育勅語は修身(現在における道徳)の授業などでも朗読することが必須とされ，全文暗記しておかなければならないし，読む前にも一礼してから読まなければならない。教育勅語を読み間違えた校長先生が，責任をとって割腹自殺するなんていう事件も起きているしね。

さらに，教育勅語と共に配られたものが**御真影**という天皇の写真(右の写真は明治天皇の御真影で，イタリアの銅版画家**キヨソネ**に描かせた肖像画)。この教育勅語と御真影は厳重に管理されていて，戦前の学校に必ず置かれていた**奉安殿**という建物の中に安置されていたんだ。なお，これまた，火事で奉安殿にあった御真影が焼けてしまった責任をとって久米由太郎という校長先生が自殺している(久米由太郎の子が，『学生時代』・『受験生の』・『破船』などで知られる新思潮派の久米正雄で，そのことを『父の死』という小説にしている)。


〔御真影(明治天皇)〕

でも，あの**クラーク**が教頭を務めていたことでも有名な**札幌農学校**の卒業生で，第一高等中学校(多くが東京帝国大学へ進学するエリート校)の教師をしていたキリスト教徒の**内村鑑三**は，1891 年に第一高等中学校で行われた奉読式の際に，キリスト教の信念に従って教育勅語への礼拝を拒否しちゃったんだ(これを**内村鑑三不敬事件**という)。そうしたら，もうバッシングの嵐だわな。結果，内村鑑三は第一高等中学校の職を追われることになり，さらには，「だ～か～ら，キリスト教などの宗教はタチが悪いんだ」って，「教育と宗教の衝突」を書いた国家主義者の**井上哲次郎**から，キリスト教自体も攻撃されることになったんだ。

一方で，1871 年に派遣された岩倉遣外使節団に随行して『**米欧回覧実記**』を編纂したことでも有名な歴史学者の**久米邦武**は(通年授業の明治時代「初期外交」で学習する)，帝国大学(現在の東京大学)の教授となり，その在職中の 1892 年に「神道は祭天の古俗」という論文で「神道なんて自然を祭っている古い習わしにすぎねえじゃねえか」と批判した。でも，もちろん戦前は天皇制とか神道を批判することはタブーだったので，帝国大学の教授を辞職する羽目になって，その後東京専門学校(現在の早稲田大学)の教授に転任することになるんだ。

ここまでは他のテーマでも学習する内容だけど，最後の**大本教**に関しては神道史特有の内容なので，ここで押さえておいてほしい。この**大本教**というのは天理教・黒住教・金光教などの教派神道より遅れて，1892 年に京都府の未亡人**出口なお**が神懸かり状態になったことを契機に創始し，娘婿の出口王仁三郎が組織した民間の神道系新興宗教団体。「神道系なら問題ないんじゃないの？」って思うだろうけど，問題はその大本教の教義にある。この大本教の教えでは，『日本書紀』に出てくる日本をつくった最初の神様である国之常立神を崇拝するというもの…，いやいやこれはアウトでしょ。大日本帝国では天照大神の子孫である天皇が現人神としてトップにいるわけだから，天皇の権威をないがしろにしかねない。そのため，政府からは現代でいうところのオウム真理教的な存在として危険視されて，大正時代の 1921 年には不敬罪で，昭和時代の 1935 年には不敬罪＋治安維持法違反ということで弾圧されるんだ。

なお，通年授業の[昭和時代(昭和時代の思想弾圧事件)]や[文化史講義録(近現代)－学問史(テキスト P42)－]でも出てくる早稲田大学教授で歴史学者の**津田左右吉**も国家神道によって弾圧された人物に挙げられる。彼は『古事記』・『日本書紀』に記されている天照大神などの日本神話を合理的・科学的に研究して，「古事記とか日本書紀に書いてある内容っておかしいやん。神代(神話)の内容って明らかに作り話やん。ウソばっかやん。」って『神代史の研究』(1924)で発表しちゃった。…これはヤヴァイよ？今現在では，神話の内容は作り話だって皆わかっているけど，天皇を神と崇めている時代に，そんなこと言ったらフラグが立ちまくりだ。そして，案の定，1940 年には国粋主義者から天皇の権威をおかす不敬罪にあたるって非難されて，『神代史の研究』・『古事記及び日本書紀の研究』・『日本上代史研究』・『上代日本の社会及思想』といった 4 つの著書が発禁処分にされ，さらに早稲田大学教授も辞職させられちゃったんだ(これを津田左右吉筆禍事件という)。

© 不許複製禁転載

［C］昭和時代の神道

ここから説明する内容も通年授業で解説する箇所なので通年授業を受講している場合は，最後に出てくる 1940 年に行われた皇紀**二千六百年**記念式典以外の内容は読み飛ばしてもらって構わない。

1937 年 7 月 7 日の盧溝橋事件によって，日中戦争(支那事変)が勃発した。この戦争が始まった 2 カ月後の 1937 年 9 月から始まった運動が，「**挙国一致**(一つの目的のために国全体が一体となること)」・「**尽忠報国**(忠節を尽くし，国から受けた恩に報いること)」・「**堅忍持久**(辛さや苦しさに耐え，我慢強く持ちこたえること)」という言葉をスローガンとした**国民精神総動員運動**というもの。まぁ，簡単にいえば，国民を日中戦争に協力させるために，政府が進めたマインドコントロール運動ってことだね。



〔ぜいたくは敵だ〕

そして，この運動の一環として，1939 年から実施されたのが，毎月 1 日は「戦場の兵隊さん達の苦労を偲んで，質素に生活しましょう」という**興亜奉公日**。つまり，10 月 1 日，11 月 1 日，12 月 1 日になると，食事は一汁一菜，生徒のお弁当は日の丸弁当だとか，兵隊さん達の苦労を考えて今日は自粛しましょうねっていう日が設けられたわけだ。さらに，1940 年には「**ぜいたくは敵だ**！」という看板が立てられたり，他にも「欲しがりません勝つまでは」・「足らぬ足らぬは工夫が足らぬ」・「ガソリンの一滴，血の一滴」・「進め一億火の玉だ」などの標語が掲げられていったんだ。

また，この 2 年前の **1935 年**には，**天皇機関説問題**をきっかけに軍部・右翼が天皇機関説を一斉に攻撃し(この軍部・右翼による政治運動を**国体明徴運動**という)，最終的に岡田啓介内閣は **1935 年**に**国体明徴声明**を出すに至っていた(天皇機関説については授業解説[大正デモクラシー]を参照)。そこで，こうした国体明徴運動を受けて，日本の「国体(天皇制)」というものがどういうものかを学校教育でも徹底させようと考えたんだ。まあ，つまりは学校教育の中でも天皇崇拝のマインドコントールを進めておきましょうってこと。

それが，1937 年に**文部省**思想局が発行した『**国体の本義**』という，国体の尊厳・君臣の大儀・天皇への絶対随順などを説いた教科書だ。これは，日本の「国家体制」である「天皇制」の「本義(本来の意味)」を説いたもの。先ほどの国体明徴声明も「国体(天皇制)」を明徴(明らか)にするという意味だしね。つまり，『古事記』・『日本書紀』に基づいて，天孫降臨の御神勅によって，神様の子孫である天皇家が永遠に日本を統治しているのだから，「天皇には絶対に従いなさい」ということ。

さらに，その天皇制のもとで，国民は「天皇の臣民(天皇の臣下である国民)」と位置づけられていたよね。そこで，文部省思想局を格上げして設置した**文部省**教学局が，1941 年に発行したのが『**臣民の道**』という，臣民としての心得や日常生活などあるべき道を説いた教科書。そして，この『国体の本義』・『臣民の道』は，全国の学校に配布されて，修身・歴史の教科書として使用されたんだ。

［皇民化政策］

日本に併合・割譲された朝鮮・台湾なども，枢軸国として日本と一緒に戦うことになる。そこで，朝鮮人や台湾人を日本人と同じように変えていく**皇民化政策**が行われるんだ。例えば，「朴」・「李」といった名前を日本名の「田中」・「鈴木」とかに変えさせていく**創氏改名**，天皇崇拝のための神社参拝の強要，日本語の強制といったところだね。そして，日本の戦況が悪化してくると，兵隊数が不足するようになり，内地でも労働力が不足するようになる。そこで，兵隊不足を補うため，朝鮮では **1943 年**から，台湾では **1944 年**から徴兵制が実施され(あくまでも志願制)，また内地での労働力不足を補うため，朝鮮人などを強制連行して，炭鉱などで強制労働を行わせたりしたんだ。なお，その例として「強制的」に軍人への性的奉仕をさせたという**従軍慰安婦**に関しては，朝日新聞による捏造であったので，教科書から「従軍」という言葉が削除されることを願っている。

© 不許複製禁転載


〔皇紀 2600 年記念式典〕

さて，その日中戦争(支那事変)の真っ只中にあたる 1940 年は，神話上で出てくる神武天皇が日本の初代天皇として即位してから 2600 年目にあたるとされていた(神武天皇は即位から 100 年以上在位していた方だそうなので実在しないと思われるが，世の中には神武天皇が存在したと信じている三原じゅん子という参議院議員もいるようです笑)。そこで，国威高揚をはかるため皇居前で**皇紀二千六百年**記念式典という式典が行われたんだけど，この皇紀 2600 年にあたる 1940 年に流行して，太平洋戦争期には政治スローガンとして使われた言葉に「**八紘一宇**」という言葉がある。これは全世界を天皇の下に統合して一つの家にするという意味。でも，これは天皇を崇拝させて大日本帝国を頂点とする世界征服というふうに解釈できるため，現在では使用禁止されている言葉なんだ(2015 年に三原じゅん子参議院議員が国会で「八紘一宇とは世界が家族のように助け合うこと」だと発言していましたが…苦笑)。

［D］戦後の神道(国家神道の消滅)

戦争が終結するまでの大日本帝国では，神道を仏教・キリスト教などの宗教として扱わず，宗教という枠組みを超越した存在であるとして，政府が神社・神道を特別に保護する国家神道が推進されていた。でも，戦後の日本統治にあたった GHQ も，「いやいや，完全にアウトでしょ。神道はどう考えても宗教だし，そもそも政教分離の原則があって，政府が特定の宗教を支持・保護することは世界では禁止されているのよ？」ってちゃんとツッコミを入れてあげないとアカン。そこで，GHQ は 1945 年に**神道指令**(国家と神道の分離指令)を出して，神社・神道に対する政府の援助・監督などの廃止を命じたんだ。

また，大日本帝国政府が国家神道に基づいて天皇崇拝を徹底させていたため天皇は神格化され，天照大神の子孫で大日本帝国の統治者である天皇は，この世で人の姿をした神様である**現御神**(**現人神**)と考えられていたよね。だから GHQ からしたら，「そうそうそう，天皇は神様だもんな～。昭和天皇の身長は 165cm だし，183cm のマッカーサーから見たら妖精さんみたいな存在だしな～。…って，どう見ても人間やんけ！」っノリツッコミを入れなきゃいけないレベルだ。そこで，マッカーサーが天皇に命じて，天皇自ら**1946 年**の 1 月 1 日にラジオ放送で(1 月 1 日(元旦)に発表したものなので，1945 年ではなく 1946 年の出来事になる)，「あ…あの，ぼく…，実は神様じゃなくて人間なんです」って**現御神**(**現人神**)としての天皇神格化を否定したんだ。それが**天皇の人間宣言**。これには日本国民も「に，に，人間だったんすか！」って衝撃を受けたらしい。それだけ，天皇の神格化というのが浸透していたわけだね。

㋓ 天皇の人間宣言『官報』

……朕は爾等国民と共に在り，常に利害を同じうし休戚を分たんと欲す。朕と爾等国民との間の紐帯は終始相互の信頼と敬愛とに依りて結ばれ，単なる神話と伝説とに依りて生ぜるものに非ず。天皇を以て現御神とし，且日本国民を以て他の民族に優越せる民族にして，延て世界を支配すべき運命を有すとの架空なる観念に基くものに非ず。

(……私(昭和天皇)は汝ら国民と共にあり，常に国民と利害を同じくして，喜びも悲しみも一緒に分かち合っている。私(昭和天皇)と汝ら国民との間のつながりは，終始相互の信頼と敬愛によって結ばれており，それは単なる神話と伝説によって生じているものではない。そして，そのことは，天皇をもって現御神(**現人神**)とし，日本国民をもって他の民族よりも優越する民族とし，ひいて世界を支配すべき運命にあるという架空の観念に基づくものではない。)

また，1945 年に GHQ が神道指令(国家と神道の分離指令)を出したことで，神道だけでなくを仏教・キリスト教なども含む宗教団体をどう扱うかという問題も出てくる。なおかつ，1947 年 5 月 3 日に施行された日本国憲法の第 20 条には「信教の自由」・「政教分離の原則」が規定されている。そこで「信教の自由」を尊重するため，サンフランシスコ平和条約が発効される前の **1951 年**に**宗教法人法**が制定されて，宗教団体に法人格を与えることで宗教団体を特殊な会社として位置付けて扱うことを定めたんだ。

© 不許複製禁転載

［文化史①－飛鳥文化(推古天皇前後期の文化)－］

［A］飛鳥文化の特徴

日本において建築・彫刻などの本格的な文化が初めて栄えたのは，**推古天皇**の前後にあたる**飛鳥文化**だ。ところが，いきなり建築や彫刻の話をしたってわかるわけないよね。そもそも，こうした建築や彫刻といった美術作品が出来た背景には，この時代に広まっていった仏教がめちゃめちゃ関係している。そこで，まずはこの飛鳥文化における仏教の歴史を軽くおさらいしていこう。

そもそも仏教は，**6 世紀**(**538 年** or **552 年**)に，日本と友好関係にあった**百済**の**聖明王**が日本の**欽明天皇**に伝えたことによって伝来した。これによって，当時の朝廷(ヤマト政権)があった飛鳥地方を中心に，日本最初の仏教文化が栄えていくことになり，これを**飛鳥文化**というんだ。

＜飛鳥文化の特徴＞
①飛鳥地方を中心とした日本最初の仏教文化
②中国の**南北朝文化**を高句麗・百済・新羅などの朝鮮半島を経由して影響を受ける
③ギリシアやインドなどと共通性を持つ国際性豊かな文化

なお，①の特徴は今説明したけど，これ以外の②と③に関する特徴は，この後の建築や彫刻，工芸などで順に説明していく過程で触れていくので安心してくれ。

［B］建築

こうして，日本でも仏教が信仰されるようになったんだけど，実はこの当時，仏教を本当に理解していた人は，厩戸王(聖徳太子)や朝鮮から来た渡来人など一握りの人たちだけだったんだ。「じゃあ，それ以外の豪族たちは仏教をあんまり理解していなかったの？」って思うよね。実はその通り。例えば，彼ら豪族たちは「仏教を信仰すると何かいいことがあるらしいぞ。」ぐらいにしか仏教を考えていなかったんだ。だから，豪族たちが仏教を信仰する理由は，戦いの際に自分たちの勝利を祈るためとか，自分の病気の回復を祈るため，祖先の冥福を祈るためなどで，あくまでも自分たちの利益のために仏教を受容していたに過ぎなかったわけだ。

まぁ，本当に仏教を理解していたわけではないけど，何かしら仏教を信仰しておけば良いことが起きると考えているわけだから，当然豪族たちは仏教を保護するようになる。そこで，仏教を保護するために，豪族たちは自分たちの寺院を建てていったんだ。こうした豪族による仏教の受容を**氏族仏教**といい，豪族によって建立・管理された寺院のことを**氏寺**と言う。この氏寺として，入試で問われる代表的なものは，**厩戸王**(**聖徳太子**)の発願により建立された現存最古の木造建築物である**法隆寺**(**斑鳩寺**)と，大阪難波の**四天王寺**。**蘇我馬子**の発願により建立された日本最古の寺院になる**飛鳥寺**(**法興寺**)。そして，**秦河勝**の発願により建立された**広隆寺**の 4 つだ。

＜**氏寺**＞
四天王寺……**厩戸王**(**聖徳太子**)の発願により 593 年に大阪難波に建立
法隆寺(**斑鳩寺**)…**厩戸王**(**聖徳太子**)の発願により **607 年**に建立された現存最古の木造建築物
飛鳥寺(**法興寺**)…**蘇我馬子**の発願により 588 年に建立された日本最古の寺院
広隆寺……**秦河勝**の発願により 603 年に京都の太秦に建立

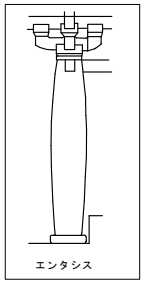
ただし，先ほども述べたように，豪族は仏教のことはあまりよくわかっていない。それなのに，なぜ寺院を建てるのだろう？そういえば，今まで豪族は自分の権威を示すために古墳を造営していたよね。でも，今は仏教が伝来して仏教がブームになっている…。そこで，豪族は古墳に代わる新しい権威の象徴として氏寺を建立したんだ。つまり，豪族の権威の象徴が古墳から寺院に代わっただけのことだね。

© 不許複製禁転載

仏教が受容されるようになると，建築の技法も大きく変化することになる。今までは，竪穴住居などのように，地面に穴を掘って，そこに柱を立てる**掘立柱**建築の技法が用いられていたんだけど，仏教の伝来によって，仏教建築に用いられる**礎石**建築という技法が導入されるようになるんだ。これは，**礎石**という建物の土台となる石の上に柱を立てて，屋根の部分に**瓦**を葺くという技法のことで，飛鳥時代以降，寺院や宮殿の主要な建物で用いられるようになるんだ(いくつかある礎石の中で最も大きく，建物の中心となる柱を支える礎石のことを**心礎**という)。


礎石〔礎石建築〕

ところで，法隆寺だけは例外的に 2 点ほど詳しく突っ込まれる場合があるので注意しないといけない。その一つが，法隆寺金堂などの柱に用いられた様式の**エンタシス**。これは，右の図のように，円柱の中央部がふくらんでいる様式のことを言うんだけど，実はギリシアの有名なパルテノン神殿の柱でもこのエンタシスの様式が用いられているんだ。だから，おそらく法隆寺金堂の柱は，ギリシアの影響を受けたんじゃないかって言われている。これが，最初の［(A)飛鳥文化の特徴］で述べた③の「国際性豊かな文化」の一つだね。


エンタシス

そして，法隆寺に関してもう一つ突っ込まれる内容が，明治時代以降，歴史学者の間で繰り広げられた法隆寺再建論争と呼ばれる論争だ。これに関しては，法隆寺の歴史というものを知っておかなければいけないので，法隆寺の歴史をお話しよう。そもそも，法隆寺が建立されることになったのは，厩戸王(聖徳太子)の父の**用明天皇**が病におちいった際に，寺院を造ることで自分の病気を治したいと願ったことがきっかけだったんだ。ところが，結局用明天皇は寺院を造ることが出来ずに亡くなってしまった。そこで，用明天皇の願いを叶えるために，その後の推古天皇の **607 年**に**厩戸王**(**聖徳太子**)らによって，現存する最古の木造建築物**法隆寺**(**斑鳩寺**)が建てられたんだ。まぁ，死んでから造っても遅くねえか？とは思うけどね。ちなみに，この内容は史料にも載っている。

☑ 法隆寺の創建『法隆寺薬師如来像光背銘』

池辺の大宮に天下治しめしし天皇大御身労づき賜ひし時，歳は丙午に次る年，大王天皇太子とを召して誓願し賜ひ，「我が大御病太平ならんと欲坐すが故に，将に寺を造りて薬師の像を作り仕へ奉らんとす」と詔したまふ。然るに当時崩じ賜ひて造り堪へずありしかば，小治田の大宮に天下治しめしし大王天皇及び東宮聖王，大命を受け賜はりて歳は丁卯に次れる年に仕へ奉る。

(池辺宮で天下を治めていた天皇(**用明天皇**)は，自らが病気になられた 586 年，後の推古天皇と厩戸王(聖徳太子)に「私の病気が治ることを願って，寺を建立し薬師如来像を造りなさい」とお命じになりました。しかし，用明天皇は間もなく崩御(死去)なされて寺院建立は延期されていましたが，小治田宮で天下を治めていた天皇(**推古天皇**)と東宮聖王(**厩戸王**(**聖徳太子**))は，用明天皇の命令を受けて 607 年に寺を建立しました)

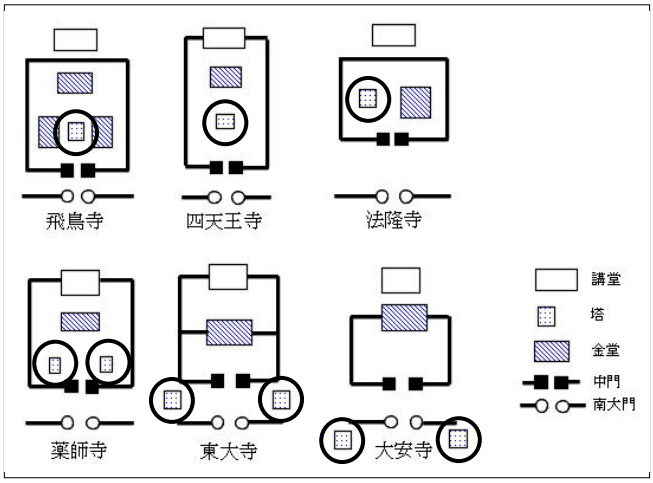
このように，法隆寺は 607 年に建立された。ところが，『**日本書紀**』の中に「**670 年**に法隆寺が全焼した」という記事が，明治時代になって見つかったんだ。ということは，法隆寺は 670 年にいったん全焼してしまって，今現在ある法隆寺は建て直されたもので決まりじゃないか，って思うよね？ところが，どっこい。この記事の後には肝心の「その後，法隆寺が再建された」という記事がなかったんだ。しかも，何度か授業で説明もしたと思うけど，この『日本書紀』という歴史書は少々疑わしい内容が書かれていることがあって，完全に信頼がおける史料ではない。そのため，法隆寺は 670 年に一度全焼し，その後に建て直されたとする再建説と，670 年に全焼したという『日本書紀』の記述は誤りで，再建はされていないとする非再建説という 2 つの説が主張され，歴史学界では法隆寺の再建・非再建をめぐる論争が続いていたんだ。これが法隆寺再建論争というもの。

そんな中，1939 年に石田茂作らが現在の法隆寺のすぐ近くから，**若草伽藍**と呼ばれる**四天王寺**式の伽藍跡を発見したんだ。…と，いきなり「**伽藍**」なんて言葉を言われてもよくわかんないよね〜。だから，ちょっと「伽藍」について説明した後で，再び若草伽藍の説明に戻ろう。

© 不許複製禁転載

まず，「伽藍」というのは，その寺の中に建っている塔や講堂，金堂などの配置のことなんだけど，これは時代や寺によってそれぞれ異なる。たとえば，飛鳥寺内の建物の配置や，四天王寺内の建物の配置，法隆寺内の建物の配置はそれぞれ以下のように異なり，それぞれの寺によって，「○○寺式」と呼ばれる様々な伽藍配置があるわけだ。

この配置を覚える際には，仏舎利(釈迦の骨)が納められている塔に注目してほしいんだ。そもそも塔という建物は釈迦の骨が納められている重要な建物だ。ところが，時代が経つにつれて，実用的な問題から，仏像などの彫刻が祀ってある金堂や，坊主が説法を行う講堂などが重要視されるようになっていった。そのため，塔の重要性は徐々に薄れていって，寺の中心から徐々に外へと追い出されていったんだ。特に，最も古いタイプの飛鳥寺では，塔は寺の中心であったのに，徐々に外に追いやられて，奈良時代に建立された東大寺では，門の外に出されちゃっているもんね。

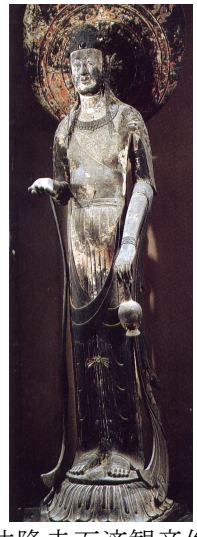


①講堂(坊主が講義をする)②塔(仏舎利を納める)③金堂(仏像が祀ってある)

さて，「伽藍」のことを理解した上で，若草伽藍の説明に入っていこう。今現在の法隆寺の伽藍は，図の左から 3 番目にある法隆寺式と呼ばれる伽藍配置になっている。ところが，1939 年にその法隆寺のすぐ近く南東から見つかった若草伽藍跡は，左から 2 番目の四天王寺式の伽藍配置をしていたんだ。つまり，この若草伽藍跡の発見によって，こう考えることができる。もともと法隆寺は四天王寺式の伽藍配置で建立されたが，それは 670 年に全焼してしまった。そこで法隆寺を再建するために，少し離れたところに，法隆寺式の今現在の「法隆寺」を建立したのだ。そして，その全焼してしまった昔の法隆寺の跡地こそが若草伽藍跡であるわけだ(この昔の焼失した法隆寺が「斑鳩寺」，現在の再建された法隆寺が「法隆寺」と考えられる)。これによって，法隆寺は再建説が有力となり，その後 2004 年の調査によって木材の建築年代が 7 世紀後半であったことから，法隆寺は再建説で確定したんだ。なお，670 年に再建されたわけだけど，それでも法隆寺が現存する世界最古の木造建築であることに変わりはないよ。

［C］彫刻

寺院の中には伽藍配置を見てもわかるように，金堂や講堂，塔などいろいろな建物があるよね。そして，これら建物の金堂などに，お釈迦様をかたどった仏像などが置かれている。こういった仏像も，結局は仏教の本場である中国の影響を受けて作製されたわけなんだけども，当時はその彫刻様式が二通りあったんだ。この時代の少し前，中国は北朝と南朝の二つに分かれた**南北朝時代**と呼ばれる時代だった。だから，彫刻もそれぞれ二つの作り方があって，北朝と南朝から両方の彫刻様式が日本に伝わったんだ。それが中国の北朝の形式を受け継いだ**北魏様式**と，南朝の様式を受け継いだ**南梁様式**だ。それぞれの違いの特徴を言うと，北魏様式が「力強く端厳で男性的な厳しい表情」をしていて，南梁様式が「柔和で温かみがある優しい表情」をしているってことだね。これが始めの［(A)飛鳥文化の特徴］の②「中国の南北朝文化を朝鮮半島経由で導入」した項目に当てはまる内容だ。


〔法隆寺百済観音像〕

では，まずは南梁様式の方から見ていこう。基本的にこれらの様式も朝鮮半島を経由して伝わってきたんだけど，その中で百済から渡来したと言われているのが『**法隆寺百済観音像**』。ただ，百済から伝わったっていうのは嘘っぽいんだけどね。ちなみに写真を見てみると，やっぱり優しそうな表情をしているよね。まあ，俺からすると間抜けた顔にしか見えないけどさ。

© 不許複製禁転載

でも，優しそうな顔といったら，むしろ『広隆寺半跏思惟像（弥勒菩薩像）』・『中宮寺半跏思惟像（弥勒菩薩像）』の二つの方だね。彼らの表情は慈愛に満ちた笑みで，こうした古風な微笑のことをアルカイック・スマイルなんて言うんだ。そして，この弥勒菩薩という仏様が，「片方はあぐらをかいて（半跏）」，「考え事している（思惟）」ことから，「半跏思惟像」ともいう。…というのが普通の先生の説明。でもよ，「アルカイックスマイル」なんて，どうでもいいわって感じだよね。ぶっちゃけ，仏像の顔の違いなんて，興味ないっしょ。だから，根本式の覚え方はそんなマジメくさった覚え方はしない。広隆寺と中宮寺の半跏思惟像も，こいつらは，なんか「は～ん，かゆいし」って感じで顔をかいてる感じでしょ？仏像で，指で顔をかゆそうにかいていたら「は～ん，かゆいし」→「は～ん，かしゆい」像だ。ちなみに広隆寺と中宮寺の区別仕方は，あまり聞かれないけど中宮寺の場合は，「背中に中くらいの変な飾り（光背）がくっ付いている」と考えればよい。



〔広隆寺半跏思惟像〕


〔中宮寺半跏思惟像〕

さて，これで南梁様式の彫刻は終了。続いて北魏様式の彫刻を見ていこう。北魏様式の特徴は，「厳しい表情」をしているということだったよね。この北魏様式の代表的な仏像が，司馬達等の孫である鞍作鳥（止利仏師）が 606 年に造った『飛鳥寺釈迦如来像』だ。これは別名「飛鳥大仏」とも言われる現存最古の仏像なんだけど，言わば，鞍作鳥のメジャーデビュー作みたいなものだね。これを造ったことで，鞍作鳥は有名な仏師となった。そのため，この後に聖徳太子の妃や皇子から「今は亡き聖徳太子のために仏像を造ってほしい」というオファーが鞍作鳥のもとに舞い込んだんだ。そこで，彼が 623 年に造った仏像が『法隆寺金堂釈迦三尊像』だ。これは中央に三体いるよね？だから「三尊像」になるわけだ。なお，この 2 つの『釈迦三尊像』と『釈迦如来像』の造りが金銅像で，それ以外の造りが木像であることは上智大学を受験する場合のみ知っておこう。

一方，鞍作鳥の作品ではないけど，この聖徳太子の関連するものとして，彼の等身像といわれるのが『法隆寺夢殿救世観音像』。この仏像の高さが 178cm だから，聖徳太子も長身だったっていうことになるね。ただ，この仏像には謎めいた裏の話がある。そもそも，この仏像は数百年間白衣ぐるぐる巻きで秘仏とされていた。でも，明治時代になりアメリカ人のフェノロサという人がその布を解いたことによって初めてその全容が明らかになったんだ。…でも，その後，この仏像を調査してみると，この仏像には頭と胸に釘が打ち込まれていることがわかったんだ。頭に釘が討ちこまれた仏像なんて聞いたことがない！なおかつ，この布をフェノロサが解いた時にも，まわりにいた坊主達が逃げ出したというんだ。だから，この仏像は聖徳太子の呪いを静めるために造られたものだとも言われている。



〔飛鳥寺釈迦如来像〕


〔法隆寺金堂釈迦三尊像〕



〔法隆寺夢殿救世観音像〕

© 不許複製禁転載

［D］工芸

彫刻のところで聖徳太子の死後，その妃や皇子・諸臣らが鞍作鳥に造らせたのが『法隆寺金堂釈迦三尊像』だったという話はしたよね。このように，聖徳太子という人はそれだけ影響力の合った人だったわけだね。だから，この聖徳太子が死んじゃったことに，聖徳太子の妃であった橘大郎女という女性もめちゃめちゃショックを受けちゃったんだ。そのため，聖徳太子という自分の希望を失った彼女は，自殺まで考えるほど落ち込んでいた。では，その時の場面を根本式ドラマでお送りしよう。

橘大郎女「聖徳太子さまが死んでしまったわ…。太子さまのいないこの世にいても，もう意味はないわ…。太子様，私はあなたのお側にいきます…」

（橘大郎女は死のうと川へと入っていこうとする。そこへ推古天皇がやってくる…）

推古天皇「待ちなさい，橘大郎女！あなたが死んで太子が喜ぶと思ってるの！？太子はあなたが自分の後を追ってきてほしいと思って死んだんじゃないの！あなたに生きてほしいって思いながら死んだハズよ！！！」

橘大郎女「はっ……！…あっ…あたし……あたし…。わぁぁぁぁ！！！」

（橘大郎女：泣き崩れる）

推古天皇「…そう，あなたは聖徳太子の分まで生きなきゃいけないのよ。」

（推古天皇：橘大郎女の肩にそっと手をかける）

橘大郎女「…そうですよね。でも，あたし太子さまのために何かしてあげたいんです。」

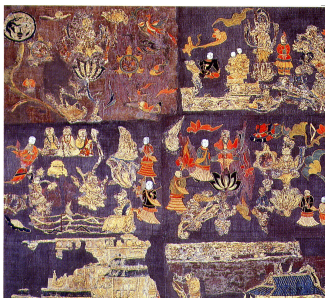
推古天皇「そう…，それなら太子さまが今いらっしゃる天国（天寿国）の様子を刺繍にして作ってみるのはどうかしら？」

橘大郎女「なるほど！さすが大王さま。ではあたし，太子さまのいらっしゃる天国の様子を刺繍でつくりますわ。」

※会話内容は史実には基づいていません

…と言うことで，聖徳太子の死後に，太子の妃であった橘大郎女が作らせたものが中宮寺にある『天寿国繍帳』だ。これは，天寿国（天国）の様子を刺繍にしたためたものということだね。以上，ちょい短い感動ドラマでした。ちなみに「繍」という漢字は書かせることもあるから気をつけてね。

繍



〔中宮寺天寿国繍帳〕

この他にも工芸品はいくつかあるんだけど，この中宮寺にある『天寿国繍帳』を除いた工芸品は全て法隆寺に所蔵されているものなんだ。

＜工芸品＞

- 中宮寺『天寿国繍帳』
- 法隆寺『竜首水瓶』
- 法隆寺『玉虫厨子』
- 法隆寺『獅子狩文様錦』

} 中宮寺『天寿国繍帳』以外の工芸品は法隆寺に所蔵されている

竜の首の形をしている



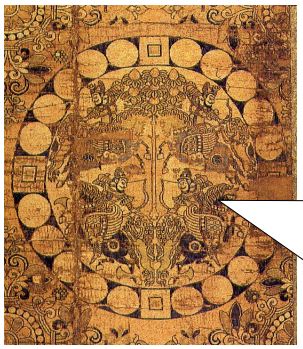
〔法隆寺竜首水瓶〕

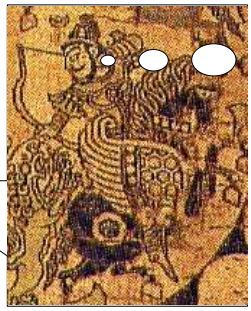
その法隆寺にある代表的な工芸品が『竜首水瓶』と『玉虫厨子』だ。『竜首水瓶』は，実はただの水差しなんだけど，その注ぎ口の部分が竜の首の形になっているんだ。だから，「竜の首」の「水瓶（水差し）」なわけだけど，まったく聞かれない…。なので，暇だったら覚えてみてくれ。それから，『玉虫厨子』というものは，「厨子」という仏像を安置するお堂の形をした仏壇に，玉虫という虫の羽が 2563 枚伏してあったことから付けられたものだ。なお，玉虫という虫は，光の具合によって緑色（エメラルド）や紫色などさまざまな美しい色に光って見える羽をもった美しい虫。この玉虫から「玉虫色」という言葉は，「見方によって，どのようにも解釈できる＝曖昧な表現」なんていう意味としてよく用いられるんだよ。その「玉虫」の羽が付いていたことから『玉虫厨子』と呼ばれるわけけど，これは絵画のところでもう少し詳しく触れよう。

© 不許複製禁転載

一方，同じく工芸品なんだけど，ちょっと変わったものが『法隆寺獅子狩文様錦』と『忍冬唐草文様』の二つ。まず，前者の法隆寺にある『獅子狩文様錦』は，ペガサスにまたがった騎士が獅子(ライオン)を射る様子を表現した文様なんだけど，実はこれは西アジアのササン朝ペルシアの文化にみられるものとそっくりなんだ。ちなみに写真を見てみようか。右が法隆寺の『獅子狩文様錦』で，左がこれに影響を与えたササン朝ペルシアの絵皿に彫られた『獅子狩文様』なんだけど，これらはどちらも騎士が獅子(ライオン)を射る様子が描かれている。この当時の日本に獅子(ライオン)がいるわけないし，右の『法隆寺獅子狩文様錦』に描かれているオッサンは，どう見ても日本人じゃなくて外国人だ。つまり，このことから『法隆寺獅子狩文様錦』は西アジアのササン朝**ペルシア**の影響を受けて，日本で作られたってことになるよね。

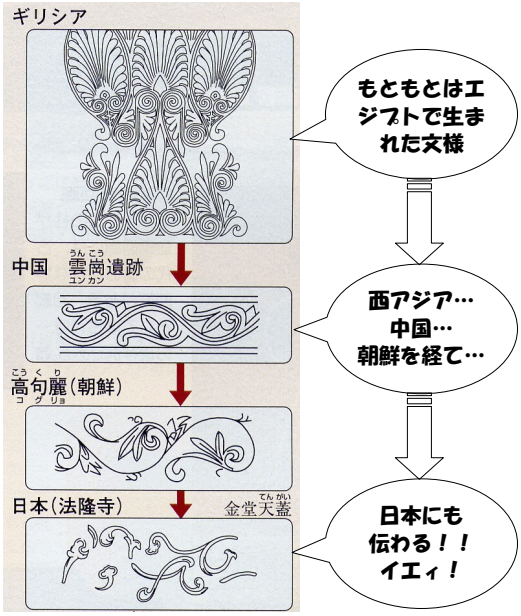

〔獅子狩文様(ササン朝ペルシア)〕


〔法隆寺獅子狩文様錦〕



〔(拡大版)〕

一方で，後者の『忍冬唐草文様』なんだけど，これも法隆寺金堂の天蓋(仏像の上にかざす装飾)にある文様で，つる草が絡み合った様子を文様化したものなんだ。でも，もともとこれは古代**エジプト・ギリシア**から発生した文様で，エジプト→ギリシア→中国→朝鮮→日本へと伝わってきたものなんだ。ちなみに，これもエンタシスと同じように，「③国際色豊かな文化」という項目に当てはまる内容だ。それにしても，外国の影響を受けたわけなんだけど「ギリシア→中国→朝鮮→日本」って随分遠くから伝来してきたものだよね。まあ，入試ではあまり問われる内容ではないんだけど，語句だけだとイメージがわからないもんね。だから，あえて写真を多めに入れることで，君たちの理解を深めてほしいんだ。…それにしても，この忍冬唐草文様だけど，初期の頃の文様からはかなり変化しちゃってるよね。



〔忍冬唐草文様〕

［E］絵画・渡来僧

このように，飛鳥時代は隋や百済・新羅などの朝鮮半島と交流が盛んだったため，朝鮮半島から日本にやってくる僧なども多かった。こうした僧たちによって，大陸の新たな情報や文化などが日本に伝えられたんだ。こうした渡来僧として有名な人物が，602 年に暦法(暦を作る方法)と天文学を伝えた百済の**観勒**と，610 年に絵具・紙・墨を伝えた高句麗の**曇徴**だ。また，曇徴と同じく高句麗の僧として日本にやってきて厩戸王(聖徳太子)に仏教を教えたのが**恵慈**。なお，これらの坊主たちは，国名と名前が正誤問題で変えられてくるから気をつけてね。

＜渡来僧＞
観勒(百　済の僧→602 年に暦・天文学を伝える)
曇徴(高句麗の僧→610 年に紙・墨・絵具を伝える)
恵慈(高句麗の僧→厩戸王(聖徳太子)に仏教を教授)

曇

© 不許複製禁転載

さて，この曇徴が絵具を伝えたことによって，日本でも絵が描かれるようになる。そして，こうした絵具を用いて描かれた絵画の中で有名なのが，法隆寺にある『玉虫厨子』須弥座絵だ。『玉虫厨子』に関しては，先ほど［(D)工芸］のところでも説明したけど，仏像や経典などを安置するための仏壇のことだ。そして，右の写真にあるように，その台座の部分を須弥座というんだけど，そこに密陀絵という技法で絵が描かれているんだ。密陀絵というのは，油に溶かした絵の具に，一酸化鉛を加えることで乾燥性を高める技法のことだ。まぁ，簡単に言ってしまえば油絵の一種ということだね。



〔法隆寺玉虫厨子〕

そして，その須弥座の部分に絵が描かれているんだけど，その左右に描かれているのが『捨身飼虎図』と『施身聞偈図』だ。この二つは仏教における教えを描いた絵なんだけど，前者の『捨身飼虎図』は，釈迦が山の中で飢えに苦しむ虎の親子に出会った，という設定の話だ。さて，もし君が飢えた虎に会ったとしたらどうする？…普通は当然逃げるよね。ところが，仏教の慈悲深い考えでは，虎の親子を餓死から救うために，自分の身を投げ与えるべきだというんだ。つまり，『捨身飼虎図』とは，自分の身を捨てて虎を飼う(生かす)わけだけど，「んなアホな！」って話だよね。自分の身を捨てて他の人を生かすという慈悲深い考えに基づくものなんだけど，僕ははっきり言ってこの考えには納得できない。そもそも，自分の命で相手を生かそうとするなんて押しつけがましい行為だし，虎としても虎のプライドがあるハズだ。僕が虎の立場なら「俺は虎だ。自分で獲物を獲ってこそ虎だ。自分で獲物が得られないからって，人間に命を差し出されるなら，飢え死にした方がマシだ。」と思うだろう。話がそれるが，ドラゴンボールにおいても似たような話がある。人造人間 18 号と闘っているベジータを助けに来たピッコロたちに，ベジータが「オレは地球人やナメック星人やカカロットと手を組んで闘うぐらいなら，ひとりだけで闘って死んだほうがマシなんだ」と言った場面がある(ドラゴンボール 29 巻参照)。僕はこの言葉に感動を覚えた。サイヤ人の王子として，彼のプライドが許さなかったわけだね。何の話か分からない子は，ドラゴンボール全巻買え。



〔捨身飼虎図〕



〔施身聞偈図〕

さて，もう一つの『施身聞偈図』もアホらしい。これは修行中の釈迦が，どうしても教えてほしい教えのために，羅刹という人を喰う悪魔に自分の命を与えるというものだ。何か『捨身飼虎図』といい，『施身聞偈図』といい，釈迦って自分から死ぬの好きな人間だよね(笑)。

© 不許複製禁転載

［文化史②－白鳳文化(天武・持統天皇期の文化)－］

［A］白鳳文化の特徴

飛鳥文化の次は，**天武天皇**・**持統天皇**を中心とした時代に栄えた**白鳳文化**だ。この文化の特徴も，当時交流が行われていた朝鮮半島や中国大陸との影響が大きい。特に，この時代は唐という強大な中央集権国家が誕生しており，唐の初めの頃の文化(**初唐文化**)の影響を大きく受けたんだ。

＜白鳳文化の特徴＞
①**初唐文化**を中心として，インド・アジア・高句麗の影響を受ける
②清新で若々しい律令国家建設期の文化

［B］建築

飛鳥時代における建築では，仏教の伝来により豪族たちによって氏寺が建立されたよね。では，なぜ寺院が豪族たちによって建立されたのだろう？それは，その当時の蘇我氏などの豪族たちが権力を握っていたから。ところが，**672 年**の**壬申の乱**で**大海人皇子**(**天武天皇**)が勝利し，それまでの畿内の中央豪族たちが没落したことで，大王と豪族の差が広がり大王の権威は大きく向上することになった。これにより，中国の“皇帝”にあやかって，大王から天皇と名称を変更し，その天皇と皇族による**皇親政治**を展開していった。こうした天皇の絶対的権威のもと，天皇神格化も進んでいったわけだ。

＜壬申の乱＞
［内容］**壬申の乱**(**672**)＝**大海人皇子**(天智天皇の弟) VS **大友皇子**(天智天皇の子)
大海人皇子には地方豪族が味方，大友皇子には畿内の豪族が味方
→大海人皇子が勝利したことにより，畿内の豪族は没落
［結果］畿内の豪族が没落したため，大王とその他の地方豪族の差は拡大
→大王の権威が絶対的となる(大海人皇子は乱後に即位して天武天皇に)
→①大王から天皇へ名称を変更(中国の“皇”帝をまねる)
→②天皇神格化が進む(ex. **柿本人麻呂**・**大伴御行**の和歌)
→③**皇親政治**(天皇と皇族による政治)が行われる

この壬申の乱以降，皇親政治が行われ天皇の権威が確立した。これによって，今までの豪族に代わって，仏教も国家(天皇)が受容していくようになったんだ。こういった国家によって仏教が統制されていくことを**国家仏教**という。そのため，これまでの寺院も国家により建立・管理されるようになる。そういった国家が建立・管理した寺院を**官寺**(**官大寺**)というんだ。つまり，飛鳥時代の氏寺と比較すると以下のようになるよね。

＜氏寺と官寺(官大寺)の違い＞
氏寺(飛鳥文化)…豪族が建立・管理した寺院
官寺(白鳳文化)…国家が建立・管理した寺院

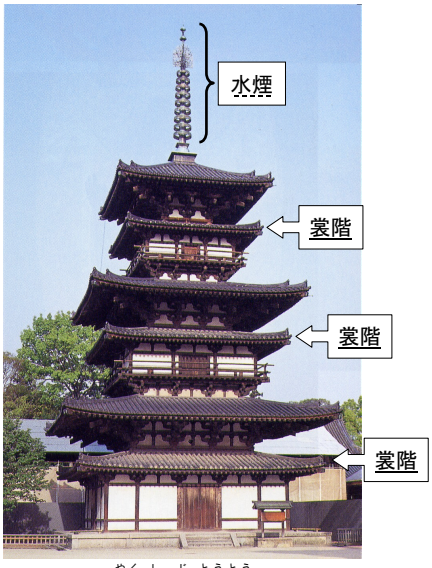
こういった国家が建立・管理した官寺として，藤原京の中にあった 4 つの寺院が藤原京四大寺と呼ばれるものだ。その中で特に有名なのが，**舒明天皇**が建立した**百済大寺**を受け継いで建てられた，高市大寺を改称した**大官大寺**と，**天武天皇**が皇后(のちの持統天皇)の病気平癒を祈って建立した**薬師寺**。でも，前者の大官大寺なんて名称そのままだよね。官寺(官大寺)の中で重要な寺院だから，「“大”官大寺」というわけだからね。また，飛鳥文化で蘇我氏の氏寺として出てきた**法興寺**(**飛鳥寺**)も，乙巳の変で蘇我氏本家が途絶えて以降は官寺として扱われるようになった。そして，これに天智天皇の時期に建立されたといわれる**弘福寺**(**川原寺**)を加えて，藤原京四大寺というんだ。

© 不許複製禁転載

＜藤原京四大寺＞

大官大寺……もともと**舒明天皇**によって建立された**百済大寺**。
→のちに平城京に移されたことにより**大安寺**と改称。
薬師寺……**天武天皇**が皇后(のちの持統天皇)の病気平癒を祈り建立。
→のちに平城京に移されるが，名称はそのまま薬師寺。
法興寺(**飛鳥寺**)…のちに平城京に移されたことにより**元興寺**と改称。
弘福寺(**川原寺**)…斉明天皇の造営した川原宮を，子の天智天皇が川原寺へ改称。

こういった寺院の中にある建築物として最も有名なのが**薬師寺東塔**だ。薬師寺の中にはもちろん薬師寺東塔と薬師寺西塔の二つがあるんだけど，入試で聞かれるのは東塔の方だけなんだ。何故かというと，右の写真を見てみよう。…さて，君はこれを何重の塔だと思う？「六重塔！」…と答えたいところなんだけど，実はこれ三重塔。六重塔に見えてしまうのは各層についている裳階と呼ばれるスカートみたいなものがあるせいで，これは層の数には入らないんだ。ところが，入試で聞かれるのはこれでお終いじゃない。後の明治時代に日本にやってきたお雇い外国人で**フェノロサ**という**アメリカ人**がいた。彼は哲学者として日本にやってきたんだけど，日本美術に関心を持ったため，いろいろな日本美術を見てまわったんだ。そしたら，このオッサンこの薬師寺東塔を見て「ワオ～，これはまさに**凍れる音楽**ですね～！」なんて言ったんだってさ。どうやら，彼には「各層が音楽の音符みたいにリズミカルに見えた」らしいんだとさ。…つまり，フェノロサにはそれぞれ裳階のところに「♪」が見えるらしいよ？僕にはまったく理解できないけどね。そして，こんな表現が入試で聞かれたりするんだから，ホント余計な事を言ってくれたものだ。また，この裳階の他にも有名なものが，頂上の部分のとんがっている部分。この部分には天女と飛雲を配置した**水煙**とよばれるものがあるんだけど，これは暇だったら覚えてみてくれ。



〔**薬師寺東塔**〕

［B］彫刻

さて，続いて彫刻を見ていこう。この白鳳文化の時期に造られた彫刻は全て金銅像であり，その彫刻として登場してくるものにも薬師寺関連が多い。

＜白鳳文化＞

白鳳文化のメインは薬師寺関連。白鳳文化＝薬師寺というイメージを持とう
※薬師寺吉祥天像(天平文化)と薬師寺僧形八幡神像(弘仁・貞観文化)は例外！

薬師寺というのは「薬」という字からも想像できるように「薬」で病気を治してくれる仏様を祀っている。それが，薬の壷を持って病気を治してくれる薬師如来という仏様と，脇侍という補佐役にあたる日光菩薩・月光菩薩という三人の仏様だ。まぁ，簡単に言えば，薬で病気を治してくれるジジイ(薬師如来)が，助さん・格さん(日光菩薩・月光菩薩)という取り巻きを率いて「薬はいらんかね～？」って突っ立っているわけよ。その三人の仏さんを祀っている彫刻が『**薬師寺金堂薬師三尊像**』だ。これは，**薬師寺**の一番中心にあたる**金堂**という建物の中に，薬師如来・日光菩薩・月光菩薩の“三”人の仏様が並んでいる薬師“三”尊像が置いてあるということ。



〔**薬師寺金堂薬師三尊像**〕

© 不許複製禁転載

まぁ，薬師寺の金堂にいる薬師三尊像は病気を治してくれるわけだけど，この**薬師寺**の中にある**東院堂**という別の建物の中には，聖観音という仏様も住んでいるんだ。「聖観音」というのは「如来」という偉〜い仏様になるために修行中の仏様のこと。つまり，もう少しで大物になれるあと一歩のところの惜しい仏様，準エースってところだね。とりあえず，この準エースも薬師寺にいるわけだけど，こいつが

聖 観 音「すんませ〜ん。最近修行で疲れてきてハイになりたいんで，ちょいと僕にも脱法ハーブ的な薬もらえます？」

薬師如来「おう，ええよ。売ったるわ。住所どこや？」

聖 観 音「え〜と，薬師寺の東院堂ってとこです〜。」

薬師如来「は？東院堂？それはちょっと遠いわ〜。オッチャン仏像やからそこまで歩いて届けるのはキツいわ〜。」

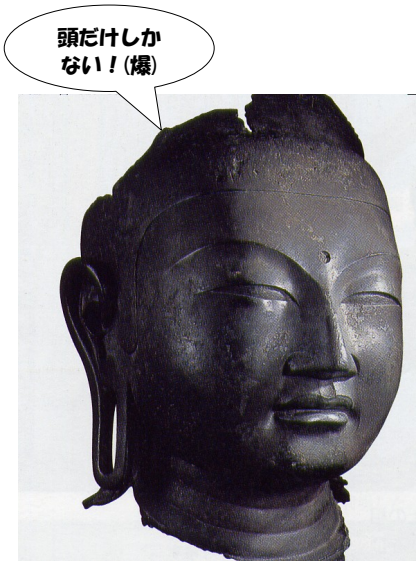
聖 観 音「そこを何とかお願いしますよ〜。」

薬師如来「いや〜，聖観音くん，東院堂は遠い！どうしようかのう…。とおい！どうしようかのう…。とおい，どうしようかのう…。とおい，どう(東院堂)しようかのう(聖観音)…。」



〔薬師寺東院堂聖観音像〕

それが『薬師寺東院堂聖観音像』だ。…オヤジギャグにしては結構うまくつなげられたんじゃね？



〔興福寺仏頭〕

さて，薬師寺以外の彫刻で最も有名なのが，左の興福寺仏頭。これはとにかくインパクト強いよね。「おい，頭だけしか写ってねーじゃねえか！」って突っ込んだ君。いいねえ〜，ツッコミのセンスなかなかあるよ。でも違うの，これは頭しかないんだ。少しこの興福寺仏像に関しては，歴史を知らなければいけない。そもそもこの仏像は，もともと蘇我(倉山田)石川麻呂が建立した山田寺にあった本尊(本堂に安置され最も重んじられる仏像)だった。だから，ちゃんとその頃には頭だけでなく胴体もあったんだ。ところが，治承・寿永の乱(源平合戦)の混乱に乗じて興福寺の坊主どもが，山田寺からこの仏像をパクっていきやがったんだ。この仏像も，盗まれるハメになるとは飛んだ災難だよね。ところが，災難はまだ続く。その後，今度はパクられた先の興福寺で火災が起きてしまったんだ。そのため，胴体とかが焼けてしまい，頭だけが残ることとなり，今現在の頭だけしかない興福寺仏頭へと至ったわけだ。

でも，興福寺仏頭って，ちょっと可哀想な仏像だよね。パクられただけじゃなく，その後の火事のせいで頭以外の部分全部がなくなっちゃったわけだからね。だから，君達もこの興福寺仏頭の気持ちを察してみてほしい。もう，仏像本人からしてみれば，トラウマになるくらいのショックなことだよね。そのため，彼は夜寝る時にも毎回イヤな夢を見るようになっていき，すでに頭しかないのに今度は頭もなくなってしまう夢を見るようになっていった。そこで，この悪夢を振り払うために『興福寺仏頭』は『法隆寺夢違観音像』のもとに拝みに行ったんだ。実は，この『法隆寺夢違観音像』は，悪夢を見た場合，この観音像に祈ると善い夢にかえてくれるという仏像なんだ。だから，もし君達も悪い夢を見たら，この仏像に祈ってみるといいよね。この白鳳文化期の仏像として，『法隆寺阿弥陀三尊像』という光明皇后の母である橘三千代の念持仏と伝わる仏像もあるけど，これはほとんど聞かれないのではずしてくれていい。ただし，法隆寺という寺院自体が創建されたのは飛鳥文化だけど，これらの仏像は白鳳文化にあたるものだから，そこだけは気をつけてね。


〔法隆寺夢違観音像〕

© 不許複製禁転載

［C］絵画


〔法隆寺金堂壁画〕

飛鳥文化のところで法隆寺再建論争について述べたけども，若草伽藍の発見などからもわかるように，現在の法隆寺は 670 年の火災で焼失した後に建て直されたものだよね。そして，その再建後の法隆寺の金堂の壁に新しく描かれたと考えられているのが**法隆寺金堂壁画**だ。法隆寺の創建は飛鳥文化だけど，先ほどの『法隆寺夢違観音像』・『法隆寺阿弥陀三尊像』などの仏像や，この**法隆寺金堂壁画**といった絵画は白鳳文化にあたるから気をつけてね。

「壁画」というのは，そのまま建物の壁とかに絵を描くものだけど，実は僕は「壁画」って言われても，はじめピンと来なかった。何でそんなことをするのかもわからなかったし，いまいちイメージがつかめなかったんだけど，現代に置き換えれば簡単だ。

－問題－「あなたの目の前に白い壁があります。あなたは手に何色ものスプレーやチョークを持っています。さて，どうしますか？」。

－答え－「落書きをする」

うん，これと同じだね。特にその場合，自分の主張を描くことが多い。だから，もともと仏教の本場であるインドや中央アジアなどでも，建物の壁に仏教関係の絵を描いて飾ったりすることが多かったんだ。そして，これが中国・朝鮮，さらに日本に影響を与えるようになる。だから，実はこの法隆寺金堂壁画も浄土の世界を描いた仏教絵画なんだけど，インドの**アジャンター**壁画や中国の**敦煌**石窟壁画に類似している。つまり，これは仏教の本場であるインドや中国の影響を受けて描かれたものであることがわかるよね。

ところが，1949 年に法隆寺の金堂で火災が起きてしまったため(壁画模写の画家が使っていた電気座布団のスイッチを切り忘れたために発生したといわれる)，この壁画もそのほとんどが焼損してしまった。そこで，この**法隆寺金堂**壁画の焼損を機に，1950 年に文化財を守るための**文化財保護法**が制定されたんだ。なお，その後の 1967 年から当時の著名画家たちによる模写が始められ，翌年の 1968 年に法隆寺金堂壁は復元されたんだけど，重要な文化財はやっぱり厳重に管理しないとまずいよね。そのため，1968 年にはこういった文化財の保護などを担当する**文化庁**が設置されることとなった。



〔高松塚古墳壁画－女子群像－〕

法隆寺金堂壁画はインドや中国の影響を受けたものだけど，一方で朝鮮の高句麗古墳壁画の影響を受けたと考えられるのが，1972 年に**奈良県**の**明日香村**で発見された**高松塚古墳**壁画だ。高松塚古墳は，7 世紀末～8 世紀初期に築造された終末期古墳にあたるんだけど，その石室の内部がどうなっているかは，それまで全く知られていなかった。でも，1972 年に研究者グループが内部を調査してみたところ，その石室の内部がすごかった！

古墳の内部にある石室(棺を安置しておくための部屋)の天井には**星宿**(星座のこと)，東西南北の壁にそれぞれ**四神**と呼ばれる**青竜**(東)・**白虎**(西)・**朱雀**(南)・**玄武**(北)，また西側の壁の左右に女子群像・男子群像が描かれていることが発見されたんだ。つまり，部屋の天井・四方の壁すべてに色々な絵が描かれているようなイメージだね。また，高松塚古墳と同じ奈良県明日香村にある**キトラ古墳**には，高松塚古墳壁画と同じく星宿や四神が描かれていることが確認されており，高松塚古墳と兄弟と呼ばれることもある。

© 不許複製禁転載

ただし，近年では雨水の浸入やカビの発生によって高松塚古墳壁画の変色や退色が問題となり，壁画の保存状態を保つために，2007 年から古墳の解体作業が行われた。現在はその解体作業も完了したけど，つい最近の話でもあるから，知らなかったらこの事は知っておこうね。

ところで，「この当時も古墳なんて作られてたの？」って思った人もいるんじゃないかな？確かに，古墳が多く築造されたのは 4 世紀から 6 世紀の古墳文化の時期で，この 7 世紀後半の白鳳文化期にはあまり造られていない。そして，古墳は大化の改新後の 646 年に出された大化の**薄葬令**以降減少していったんだけど，例外として 7 世紀末～8 世紀初期あたりまでは作られていたものがあったんだ。それが**終末期古墳**と呼ばれるもので，その例外として高松塚古墳も含まれるんだ。なお，薄葬令というのは古墳築造を簡素化させた法令のこと。この法令が出されたことで以後古墳の築造は減少していき，代わって仏教に基づく火葬が一般化していったんだ。その最初に火葬された僧侶が**道昭**というお坊さんだ。

［D］文学

日本ではそれまで文学，特に漢詩文というものは大して流行っていなかった。ところが，白村江の戦いの後，滅亡してしまった百済から教養人たちが日本に亡命してきた。これによって天智天皇の頃あたりから日本でも漢詩文が作られるようになっていったんだ。この漢詩文の文人として有名なのが天智天皇皇子の**大友皇子**や，天武天皇の子の**大津皇子**。彼らの漢詩文は後に天平文化期に成立した最古の漢詩集である『**懐風藻**』に納められている。そして，その天武天皇の頃から漢字を用いた和歌が作られるようになったんだ。その作者として有名な人物が**柿本人麻呂**や，天智天皇の奥さんの**額田王**(女性)だ。彼らの歌集も後に天平文化期に成立した最初の和歌集『**万葉集**』に納められている。どちらも，この白鳳文化の時期じゃなくて，天平文化の時期に出来たものだから気をつけてね。ちなみに，この額田王はもともと大海人皇子(天智天皇の弟)の恋人だったんだけど，めちゃめちゃ美人だった。だから，天智天皇は弟の大海人皇子に「額田王俺にくれや」って感じで奪い取っちゃうんだ。つまり，大海人皇子は自分の恋人が兄貴の嫁さんになっちゃうんだけど，やっぱりまだ額田王が好き。一方で，額田王もやっぱり大海人皇子が好き。その額田王と大海人皇子の間で，次のような和歌のやり取りがあったんだって。

「あかねさす　紫野行き　標野行き　野守はみずや　君が袖振る」(額田王)
(茜色のあの紫野を行き，標野(禁足地)を歩いているとき，
野守(野の番人)は見ていないかしら。ああ，あなたそんなに袖を振らないでください。

「紫の　匂へる妹を　憎くあらば　人妻ゆゑに　我恋ひめやも」(大海人皇子)
(紫草が匂うように，美しいあなたを憎く想うのなら，
私の兄の人妻として知りながらも，どうしてこんなに恋することがあるものでしょうか)

ちょっと難しい？まぁ，額田王と大海人皇子が野原でデートしてるわけよ。そしたら，それを監視している番人(実は天智天皇のことを指している)がいるのに，大海人皇子が手を振ってくるわけ。やめてよ，バレちゃうじゃん！ってのが，額田王の歌。一方で，大海人皇子は自分の兄貴の人妻になっちゃったけど，やっぱり額田王のことが好きなんだよね，って歌だね。こういった内容が『万葉集』に納められているんだけど，僕にとっては人の恋愛はどうでもいいので，特に何も述べません。あえて言うなら，「リア充は〇ね」ぐらいかな。

© 不許複製禁転載

［文化史③－天平文化(奈良時代の文化)－］

［A］天平文化の特徴

平城京に遷都された710年から平安京に遷都する794年までを奈良時代といい，その時期の文化を**天平文化**という。特にこの奈良時代の中心であった聖武天皇の時期には多くの作品が生まれたことから，その当時の「天平」という元号をとって天平文化というんだ。じゃあ，この天平文化の特徴を簡単にあげてみよう。

＜天平文化の特徴＞
①律令国家の繁栄と**盛唐文化**の影響を受けた華やかな文化
②貴族中心の仏教文化で，鎮護国家思想の影響が大きい
③国際色豊かな文化

天武・持統天皇時にあたる白鳳文化では，初唐文化の影響を受けて仏教文化が栄えたように，奈良時代の天平文化も唐文化の影響を受けている。特に，奈良時代には中国の唐が最盛期を迎えており，多くの遣唐使が派遣されたことから**盛唐文化**の影響を大きく受けたんだ。これが文化の特徴の①の内容だね。ちなみに，ひとつ良いことを教えておこう。基本的に日本の文化は，飛鳥文化から弘仁・貞観文化(桓武・嵯峨天皇時の文化)まで中国の影響を受けている。例えば，飛鳥文化は中国の南北朝文化の影響を受けているし，白鳳文化は初唐(初期の唐)文化の影響，天平文化は盛唐(最盛期の唐)の影響を受け，そして弘仁・貞観文化は晩唐(晩期の唐)文化の影響を受けているんだ。こうした中国文化が影響している背景にあるものは，もちろん遣唐使の派遣だ。ところが，モデルとなるべき唐が衰退していくと，周りの国々はその国独自の文化を模索していくようになる。そのため，それ以降の国風文化(藤原氏全盛時の文化)では，中国文化に基礎を置いた日本風の文化が形成されていくんだ。

＜中国文化の影響＞
①**飛鳥文化**……**南北朝文化**の影響
②**白鳳文化**……**初唐文化**の影響
③**天平文化**……**盛唐文化**の影響
④**弘仁・貞観文化**…**晩唐文化**の影響
⑤**国風文化**……中国文化に基礎をおいた日本風文化の形成

こうした中国文化の影響を受けながら，貴族中心に栄えたのが天平文化だ。ただ，この聖武天皇の時代には天然痘などの疫病や飢饉が流行したり，**740年**に九州の大宰府で**藤原広嗣の乱**などが起きたり，社会不安が増大していたよね。そこで，聖武天皇は仏教によって社会不安を鎮めようとする**鎮護国家思想**に基づいて，**741年**に**国分寺建立の詔**や**743年**に**大仏造立の詔**を出したんだ。これが②の「鎮護国家思想の影響が大きい」にあたる内容だね。なお，この過程で建立された東大寺の正倉院には，聖武天皇の遺品が多く納められている。その遺品には，中国を通じてペルシアやインドなどの国々の影響を受けているものが多いんだ。これが，③の「国際色豊かな文化」にあたる内容だね。

［B］建築・彫刻

さて，天平文化を代表する寺院といえば，聖武天皇が建立した大仏のあるお寺としても有名な**東大寺**だ。それから，聖武天皇が唐から招いた中国の高僧，**鑑真**のために建てられた**唐招提寺**がある。そして，天平文化では，この時代の建築・彫刻・絵画・工芸全てにわたって，この2つの寺院(特に東大寺)が中心になってくるんだ。百聞は一見にしかず。今言ったことが視覚的にもわかるように，これらの寺院が諸分野にどう関わっているかを表にしてみたので，少し次の表を見てみよう。

© 不許複製禁転載

寺院	東　大　寺	唐招提寺	そ　の　他
建築	法華堂(三月堂) 転害門 正倉院宝庫	金堂 講堂	法隆寺夢殿 法隆寺伝宝堂
彫刻	法華堂『不空羂索観音像』乾 法華堂『日光・月光菩薩像』塑 法華堂『執金剛神像』塑 戒壇院『四天王像』塑	『鑑真和上像』乾	興福寺『阿修羅像』乾 興福寺『十大弟子像』乾 新薬師寺『十二神将像』塑
絵画	正倉院『鳥毛立女屏風』		薬師寺『吉祥天像』 醍醐寺『過去現在絵因果経』
工芸	正倉院『螺鈿紫檀五絃琵琶』 正倉院『漆胡瓶』・『白瑠璃碗』 正倉院『楽毅論』・『雑集』		法隆寺『百万塔』

こうしてみると，天平文化のほとんどの文化財の中心となっているのが東大寺であることが一目瞭然だよね。「建築」・「彫刻」・「絵画」・「工芸」という分野の全てにわたって，東大寺が関係している。そこで，ここの章では，東大寺を中心として，「建築」→「彫刻」→「絵画」→「工芸」の分野ごとに説明していこうと思う。そっちの順番で説明していった方が，流れがスムーズになるからね。だから，基本的にはテキストに掲載されている順番で説明をしていくけど，まずは東大寺の美術品を説明してから，その他の寺院の美術品を解説していくのでよろしく。

まず，建築の分野において中心になってくるのは，やはり**東大寺**だ。その東大寺にある建築物として入試で聞かれるのは，**法華堂**(**三月堂**)と，**聖武天皇**の遺品が納められている**校倉造**による**正倉院**宝庫，そして，その正倉院の西側にある**転害門**という門だ。ただし，最初の法華堂と正倉院宝庫に関しては，彫刻や絵画・工芸など美術品との関連性が強いので，[(C)彫刻]・[(D)絵画]・[(E)工芸]の方で詳しく説明していこう。唯一，あまり関連性のない転害門に関しては，余裕があったら覚えてみてくれ。この転害門は，東大寺が 1180 年の平重衡と 1567 年の松永久秀らによる焼打ちの際にも，焼け残った数少ない建築物の一つとしても有名だ。



〔東大寺正倉院〕


〔唐招提寺金堂〕

この天平文化の中心が今出てきた東大寺と，日本に戒律を伝えた唐の僧**鑑真**のために**759 年**に建立された**唐招提寺**だ。この唐招提寺の中にある建築物として聞かれるのが**金堂**と**講堂**。そもそも金堂とは寺院の中心になる建物なんだけど，なぜ唐招提寺の金堂だけが問われるか？実は，この奈良時代にも多くの寺院が建立されているんだけど，それらの寺院の中で，金堂が現在も残っているのは，この唐招提寺だけなんだ。だから，入試では，「奈良時代の金堂で唯一現存する建築物」として**唐招提寺金堂**が聞かれるんだ。それから，もう一つの**唐招提寺講堂**は，平城京の**朝集殿**という建物を移築してきて改修したと言われている。これの聞かれ方は前文の「平城京の朝集殿を移築して改修した建築物」として，唐招提寺講堂とそのまま答えてやればいいんだけど，何故これが重要なのかわかるかな？この

© 不許複製禁転載

唐招提寺は平城宮の朝集殿を移築してきたものだから，これを調べることによって，今は無き平城京の宮殿を知ることができる。だから歴史を知る上でも重要なんだよね。


〔法隆寺夢殿〕

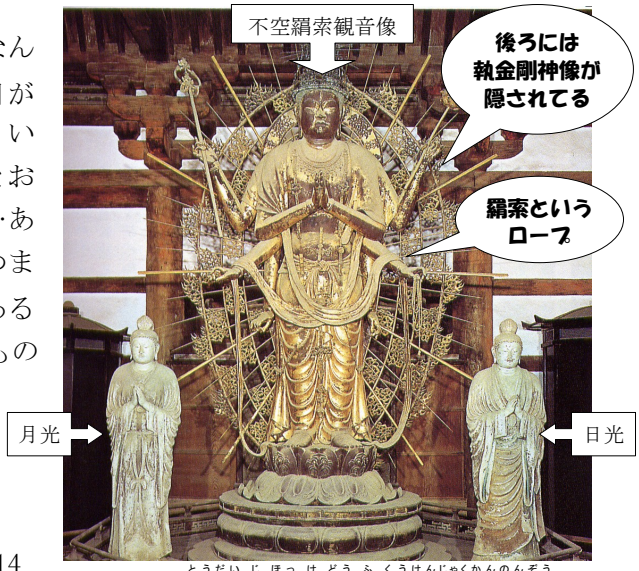
このように，寺院の建築物の中には，もともと別のところにあっものを移築してきて，寺院の建物としたものがいくつかある。そのため，それらを調べることによって，今は無き昔の状況などを知ることができるんだ。こうした別のところにあったものを移築してきたものとして代表的なものが，**法隆寺**の**伝法堂**だ。これは光明子の母である橘（県犬養）三千代の住居を移転したものと伝えられている。そのため，奈良時代の貴族などの住宅を知る遺構としても貴重なんだ。ただ，少し気をつけてほしいことがある。この法隆寺は飛鳥文化に建てられた寺院だけど，この伝法堂はその後の時代になって，新しく造られた建物だということだ。このように，寺院が造られた後に，新しく造られた別の建物が入試で問われることもあるので，その時期などにも気をつけてほしい。その代表的なものが**法隆寺**の**伝法堂**であり，もう一つのもの**法隆寺**のが**夢殿**という建物だ。**夢殿**は，右の写真のように八角形の形をした建物で，堂内には飛鳥文化期に作成された聖徳太子の等身像とされる『救世観音像』が安置されている。

［C］彫刻

まずはこの東大寺の中心的な建築物であり，法華会が行われた**法華堂**（**三月堂**）から見ていこう。でも，実はこの法華堂（三月堂）は建物自体の名称はあまり聞かれることはなくて，その建物の中にある彫刻が聞かれる。なぜなら，『**不空羂索観音像**』・『日光・月光菩薩像』・『執金剛神像』など有名な仏像がたくさんあるからなんだ。その法華堂（三月堂）にある最も有名な仏像が『**東大寺法華堂不空羂索観音**』（乾漆像）と，その取り巻きとして左右に立っている『**東大寺法華堂**日光・月光菩薩像』（塑像）だ。写真において中央に位置しているのが『不空羂索観音像』で，右が『日光菩薩像』，左が月光菩薩像になるんだけど，前者の『不空羂索観音像』は漢字で書かせることもあるから，「羂」という漢字に気をつけておこう。

羂

この中で最も重要なのが中央に居る不空羂索観音像なんだけど，この観音像の特徴は三目八臂といって三つの目があって，手が八本もあるんだ。少し写真だとわかりにくいんだけど，まずは手が 8 本あって，顔には「三つ目がとおる」みたいに額のところにもう一つ目があるんだ。……あん？「話が古すぎてわからない」って？……う～ん，つまり「ドラゴンボール」の「天津飯」みたいに目が三つあるわけだ。そして，この観音像は，羂索といって全てのものを救い，願いを叶えるという絹のロープをかけているんだ。つまり「ドラゴンボール」でいう「神龍」みたいな存在ということだね。…なんてわかりやすい説明なんだ…（笑）。ちなみに「さっぱりわからねえよ！」って思った子は「ドラゴンボール」の 10 巻～14 巻を読んでおくといい。10 巻～14 巻は，天津飯が一番輝いていた頃だからね。その後は，雑魚キャラとして見る影もなくなってしまうんだけどね…。



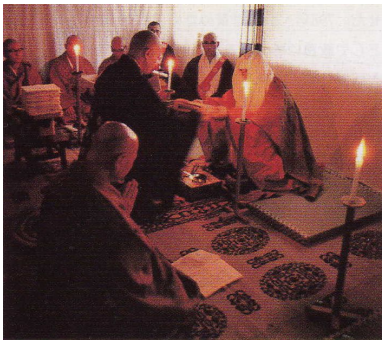
〔中央＝**東大寺法華堂不空羂索観音像**〕
〔左＝月光菩薩像／右＝日光菩薩像〕

© 不許複製禁転載



〔東大寺法華堂執金剛神像〕

ところが，実はこの不空羂索観音像の後ろには，厨子という仏像を安置する棚があって，その中には秘仏が隠されている。それが『東大寺法華堂執金剛神像』(塑像)だ。こいつは何故かメッチャ怒っている。右手に金剛を持っていて，今にも「殴るぞ，このやろう」って雰囲気満々で怒っているでしょ。実は，こいつは一年に一回だけ公開されるというレアキャラな奴で，仏教の教えでは『不空羂索観音像』が変化した姿であるとされているんだ。つまり，何でも願い事を叶えてくれる羂索をもつ観音様も，一年に一回だけ怒って執金剛神に変身することがあるよってことだね。もし，受験が終わって興味が湧いたら，これが公開される 12 月 16 日を狙って奈良に旅行に行ってみるのもいいんじゃないかな。一年に一回だけの「へ〜んしん！」が見れるわけだもんね。



〔受戒の様子 in 比叡山〕

このように，法華堂(三月堂)には重要な仏像が集中しているよね。それに対して，有名な仏像の中で，唯一別の建物である戒壇院にあるのが，『東大寺戒壇院四天王像』(塑像)だ。戒壇院という場所は，戒律を授けるための式場みたいなところなんだけど，そもそも戒律が何なのかわからない子もいるかもしれないから，少し戒律についてお話をしよう。簡単に言うと，戒律というのは坊主が守らなければいけない規律(ルール)のこと。例えば，「酒を飲んではいけない」「女と接してはならない」「殺生をしてはならない」のような内容だね。そして，正式な僧侶になるためには「私はこの戒律を守ります」と師匠に誓う儀式を受けなければいけないんだ。これを「受戒(戒律を受ける)」とか「授戒(戒律を授ける)って言うんだけどね。

この戒律は，正式な僧侶を任命するわけだから，偉いお坊さんしかこの戒律を授けることができない。でも，日本は外国から仏教を輸入した国であり，仏教の本場でないため，当時の日本にはこの戒律を授けることができる偉いお坊さんがいなかった。そこで，聖武天皇はこの戒律を受けるために，唐の高僧である鑑真に「戒律を授けてもらうために日本に来てくれませんか？」とオファーを出したんだ。その要請に応えるため，鑑真は 5 回もの渡航に失敗して盲目になりながらも，日本にやってきたわけだ。そして，この鑑真が戒律を授けるんだけど，その戒律を授ける際の式場が戒壇院という建物で，その戒壇院が東大寺に設けられたんだ。でも，畿内周辺に住んでる坊主だったら東大寺に行けばいいけど，関東とか九州に住んでいる坊主が東大寺にまで足を運ぶのは大変だよね。そこで，関東・九州の人々が戒律を受けるために，下野国薬師寺・筑紫国観世音寺にも戒壇院が設けられたんだ。これをまとめて天下三戒壇なんて言うんだけどね。

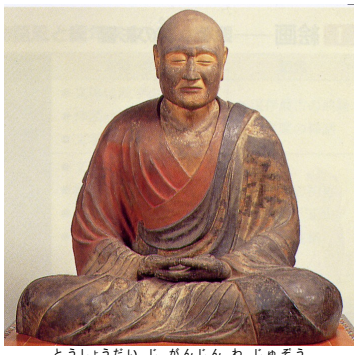
戒壇院の壇上の
四隅にそれぞれ
四天王像がいる

さて，戒壇院という場所は戒律を授ける場所なので，めちゃめちゃ重要な場所だよね。だから，この戒壇院には「おい，こら戒律破ったらアカンで」って監視してる仏様がいるんだ。それが『東大寺戒壇院四天王像』だ。ちなみに，これは四天王像というように増長天像(東)・持国天像(南)・広目天像(西)・多聞天像(北)といった四つの像があるんだけど，こいつらはそれぞれ戒壇院の壇上の四隅にいるんだ。だから，写真では四人並んでいるけど，本当はみんなそれぞれ東西南北に一人で突っ立っているんだよ。



〔東大寺戒壇院四天王像〕

© 不許複製禁転載


〔唐招提寺鑑真和上像〕

さて，戒律のお話のついでに，この戒律を日本に伝えた鑑真に関する事項も説明していこう。この唐から日本にやってきた**鑑真**のために **759 年**に建立された寺院が有名な**唐招提寺**だ。この唐招提寺は鑑真が建立したわけだから，彼の姿を移した肖像として彼の彫像がある。それが『**唐招提寺鑑真和上像**』(**乾漆像**)だ。



〔興福寺阿修羅像〕

この他の仏像として有名なものが，興福寺にある『**興福寺阿修羅像**』(**乾漆像**)と『興福寺八大弟子像』(**乾漆像**)，そして『新薬師寺十二神将像』(**塑像**)だ。なお，この興福寺は，もともと**藤原鎌足**の死去に際して建立された**山階寺**を，平城京遷都にともなって興福寺と改称したもの。だから，この**興福寺**は藤原鎌足死後，藤原氏の氏寺として栄えていったわけだ。さて，その興福寺にある仏像の中で，光明皇后(光明子)の発願で造られたのが，『**興福寺阿修羅像**』だ。この仏像は，三面六臂といって顔が 3 面，手が 6 本あるんだけど，実は，この『阿修羅像』はもともと『八部衆像』(釈迦に帰依し仏法を守護する 8 体の神々)の一つなんだ。つまり，『八部衆像』という八体の仏像の一つが『阿修羅像』ということだね。そして，この『八部衆像』と共に，本尊を囲むように配置されていたのが『興福寺八大弟子像』だ。この『十大弟子像』も十体の仏像があるんだけど，『新薬師寺十二神将像』と共に，この 2 つはほとんど聞かれないけど，暇なら覚えてみてもいいだろう。

さて，これで全ての彫刻に関する解説は終了だ。でも，少し気になったことが一つあったでしょ？すべての仏像『○○○』の後ろに「乾漆像」，もしくは「塑像」という言葉が補足してあったでしょ？実は，この奈良時代に流行した彫刻の技法には 2 通りの作り方があって，それが**乾漆像**と**塑像**なんだ。**乾漆像**は本体を土もしくは木で造って，その上から麻布をはり漆で塗り固める方法(漆を用いるから乾漆像)。それに対して，**塑像**は一本の木を中心におっ立てて，粘土で塗り重ねて色をつけるんだ(そもそも塑像の「塑」とは粘土のことを指す)。だからさっき解説した仏像とかにも，この 2 通りのどちらかがカッコになって付いていたわけだね。ところが，これらがどちらにあたるのかは混乱しやすい。そこで二つに分けてみよう。

＜**乾漆像**の彫刻＞
- **東大寺法華堂不空羂索観音像**
- **唐招提寺**鑑真和上像
- **興福寺**阿修羅像
- 興福寺十大弟子像

＜**塑像**の彫刻＞
- **東大寺法華堂**日光・月光菩薩像
- **東大寺法華堂**執金剛神像
- **東大寺戒壇院**四天王像
- 新薬師寺十二神将像

東大寺の仏像には乾漆像と塑像のどちらもあるし，どっちがどっちだったか，やっぱ混乱しやすいよね。この違いに関しては，乾漆像と塑像のそれぞれの技法の違いを考えてみよう。先ほど述べたように，塑像は粘土で製作するものだからコストはあまりかからない。でも，乾漆像の場合は，原料となる漆を大量に必要としたから膨大な費用がかかる。つまり，乾漆像を制作するにはかなりの財力が必要となる。だから，その寺院の中心となる東大寺法華堂の『不空羂索観音像』や，唐招提寺の『鑑真和上像』など，超代表的な仏像は乾漆像で制作されているんだ。また，藤原氏の氏寺である興福寺は，光明皇后が直属の皇后宮職を中心に国家権力の財力と技術を総動員したことにより，『八部衆像』8 体と『十大弟子像』10 体の全てが乾漆像で制作されている。

＜乾漆像と塑像の判別＞
☆超代表的な仏像，権力を掌握した興福寺の仏像は，コストのかかる乾漆像

© 不許複製禁転載

［D］絵画

この８世紀の天平文化＝奈良時代は，律令制度が確立した時代だ。そのため，律令制度の整備に伴って，朝廷の中にも画工司といって絵画や工芸を制作するための役職が設けられた。この朝廷お抱えの絵師たちによって描かれたものが，醍醐寺や東京藝術大学などに残っている『過去現在絵因果経』だ。これは下半分に仏教の開祖である釈迦の伝記が記されていて，上半分にはその絵が描かれている。つまり，のちの絵巻物の起源にあたるものだね。



〔過去現在絵因果経〕

『過去現在絵因果経』は，釈迦という仏教に関係する美術作品だけど，同じように，仏教関連の絵画が薬師寺『吉祥天像』だ。これは吉祥天(女)という，かつては七福神の一つにも数えられた女神を描いた，仏教関連の仏教絵画なんだけど，この吉祥天という女神については，こんな説話がある。

「信濃国にいたある坊主が，山寺に祀られていた吉祥天の像に一目惚れしてしまった。その坊さんは，こんな吉祥天みたいな女が自分のものにならねえかな〜って考えるようになった。すると，ある夜，この吉祥天とセックスをするという夢を見てしまった。翌朝，吉祥天の像を見てみると，その腰あたりに精液がついていたという。」

まぁ，これは平安時代の『日本霊異記』という仏教説話集に出てくる話なんだけど，その吉祥天を描いているのが右の写真の薬師寺『吉祥天像』だ。この写真見てみると，何か萎えるよね〜。つまりは，信濃国にいた坊さんは，この吉祥天で夢精しちまった，ってことだよね。いや〜，僕には考えられないね。だって，僕はこの吉祥天によく似たＴ子という女性を知っていますからね。…Ｔ子で夢精でしょ…？いや〜，それはキショいわ。めっちゃキショいって。これが「キショいって」言われる「きっしょうてん像」だ。なお，薬師寺といったら白鳳文化と考えていいと述べたけど，この薬師寺『吉祥天像』は例外として天平文化になるから気をつけてね。



〔薬師寺吉祥天像〕



〔正倉院鳥毛立女屏風〕

さて，下ネタ全開の後は，残りの絵画や工芸に戻ろう。そして，前者の２つを先に説明したのにはちゃんと理由がある。実は，この後に出てくる絵画や工芸品は東大寺の正倉院絡みで説明できるからなんだ。正倉院というのは，東大寺の中で法華堂に並ぶ有名な建築物で，三角形の木材を横積みにした校倉造という建築様式で造られている。そして，この正倉院には光明皇后が東大寺に献上した聖武天皇の遺品が数多く収蔵されているんだ。

その正倉院の美術品の中でも，特に有名なものが美人画の正倉院『鳥毛立女屏風』。これは，写真を見てみると，ただ単に樹の下に美人が立っているだけなんだけど，当初の頃は，髪や服に鳥の羽毛が貼り付けられていたんだ。つまり，黒い部分には色を付けないでおいて，鳥の毛をつけるというオサレな屏風なわけだ。まぁ，後に羽とかがとれちゃったために，何も書いていないみたいに薄くなっちゃってるんだけどね。とりあえず，昔は鳥の毛とかがついていたことから「鳥毛立女」と言うんだ。ちなみ読み方は「ちょうもうりゅうじょ」でも「とりげだちおんな」でも大丈夫だよ。

© 不許複製禁転載

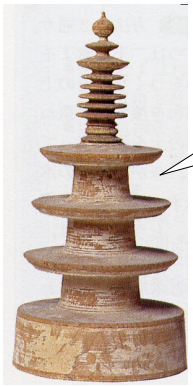
［E］工芸

そのまま正倉院絡みの続き。初めに国際的な影響を受けている作品が正倉院に多いというのを話したよね。その最たるものが，『螺鈿紫檀五絃琵琶』と『漆胡瓶』。この他にも『白瑠璃碗』というガラスのお碗や，『楽毅論』という光明皇后の書，『雑集』という聖武天皇の書などがあるけど，ぶっちゃけまったく出ないので消してくれて結構だ。なお，螺鈿紫檀五絃琵琶は古代インドに端を発した琵琶で，ふつう琵琶という楽器は 4 本の絃があるんだけど，これには 5 本の絃があるんだ。また，漆胡瓶はペルシアの影響を受けた水差しなんだけど，読み方は「しっこびん」じゃなくて「しっこへい」だからね。ダメだよ〜，「しっこびん」なんて読んだら，おしっこを入れる尿瓶みたいに思われちゃうじゃん？これは，水差しなんだって。もし「しっこびん」なんて読む水差しがあったら，水じゃなくてションベンが出てきちゃうんだぜ。…それを飲むわけでしょ？どうせ水飲んでも，後からションベンが出てくるんだから，変わりはねえけどさ。

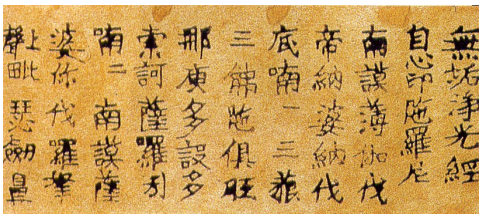

〔螺鈿紫檀五絃琵琶〕


〔漆胡瓶〕

さて，話を変えよう。天平文化にあたる奈良時代は，貴族などが政権争いをめぐった政争が多く起こった時代だ。その政争の中で，特に戦死者が多く出たのが 764 年に恵美押勝が孝謙天皇(後の称徳天皇)の重祚阻止と，道鏡の排除を狙って起こした恵美押勝の乱だった。そこで，この乱後に重祚した称徳天皇は，この乱で戦死した人々の供養をするために，100 万個の小さな塔を作らせたんだ。それがそれが法隆寺百万塔だ。これは，全部で 100 万個あったといわれてるんだけど，その多くが今現在は法隆寺に納められている。そして，その塔の中塔の中には，犠牲者のために現存最古の印刷物といわれる陀羅尼経という経典がそれぞれ納められているんだ。



〔法隆寺百万塔〕


〔百万塔陀羅尼経〕

［F］文学

白鳳文化のところで百済滅亡後に知識人たちが日本に亡命してきたことにより，漢詩文が読まれるようになったのは説明したよね。そのため，白鳳文化では大友皇子や大津皇子などの漢詩人が数多くの作品を残していったわけだったね。しかし，白鳳文化の頃には，そういった漢詩文が多く読まれたものの，彼らの作品をまとめた漢詩集は編纂されなかった。そこで，この後の天平文化期になって，天智天皇から奈良時代までに読まれた，大友皇子や大津皇子などの漢詩を納めた現存する最古の漢詩集『懐風藻』が 751 年に成立したんだ。特に『懐風藻』の漢字については『海風草』とか間違える生徒が多いから気をつけてね。そして，この『懐風藻』の編者ではないかといわれているのが，この時期の漢詩文の文人として，鑑真の伝記である『唐大和上東征伝』を著した淡海三船や，芸亭という今日の私設図書館を設立した石上宅嗣だ。ちなみに，ここでの芸亭の「芸」の字は芸能の「芸」の字ではない。これは右のように草冠のところを離して書かなければダメなんだ。



一方で，中国の漢文による詩ではなく，日本語による和歌もこの時期に多く読まれるようになっていった。そのため，大伴家持らによって，奈良時代までの約 4500 首の和歌を集めた現存最古の和歌集である『万葉集』も 770 年頃に成立したんだ。

© 不許複製禁転載

この『万葉集』には，『**貧窮問答歌**』で有名な**山上憶良**や，**山部赤人**・**大伴旅人**(720 年に隼人を鎮圧した人物でもある)・**大伴家持**(旅人の子)といった有名な歌人だけじゃなく，**東歌**(東国の農民の歌)や**防人**の歌(九州の警備にあたる兵士の歌)なども納められている。また，この『万葉集』では漢字の音・訓を組み合わせて日本語を表す**万葉仮名**が用いられたんだけど，そう言われても具体的によくわからないよね。この万葉仮名とは，例えば「疑いもなし」という言葉を「疑 毛奈思」と音読みと訓読みを混ぜて読むということだ。つまり，「夜露死苦」ってやつも音読みと訓読みを混ぜてるから，万葉仮名になるわけだね(笑)。

＜万葉歌人の覚え方＞

☆「大きい山が二つ」

「大」がつくのが大伴父子の 2 人／「山」がつくのが山上と山部の 2 人

［G］史書

天武天皇が壬申の乱に勝利し，畿内の豪族が没落したことによって天皇親政が行われるようになったことは最初に述べたよね。その後，持統天皇・文武天皇と安定した政治が続いたことで，天皇が国家を治めていくことが確立した。そこで，その天皇が日本を支配する由来や正統性，国家の形成や発展を明示するために，国史(国の歴史書)が編纂されるようになったんだ。それが**元明天皇**の **712 年**に成立した『**古事記**』だ。ただ，この古事記については，その中身と過程も知っておかなければダメなんだ。

☑ **古事記**の序文『**古事記**』

臣**安万侶**言す。……是に於て天皇詔すらく。「朕聞く。諸家の賚る所の**帝紀**及び本辞，既に正実に違ひ，多く虚偽を加ふ。今の時に当りて其の失を改めざれば，未だ幾年をも経ずして其の旨滅びむと欲す。斯れ乃ち邦家の経緯，王化の鴻基なり。故惟に**帝紀**を撰録し，**旧辞**を討覈し，偽を削り実を定め，後葉に流えむと欲す」と。時に舎人有り。姓は**稗田**，名は**阿礼**。年は是れ廿八。人となり聡明にして，目に度れば口に誦み，耳に払るれば心に勒す。即ち**阿礼**に勅語して，帝皇の日継及び先代の**旧辞**を誦み習はしむ。然れども運移り世異りて，未だ其の事を行はず。伏して惟るに皇帝陛下，……ここに於て**旧辞**の誤り忤えるを惜しみ，**先紀**の謬り錯えるを正さむとして，和銅四年九月十八日を以て臣**安万侶**に詔すらく。「**稗田阿礼**の誦める所の勅語の**旧辞**を撰録して以て献上せよ」者り。謹みて勅旨に随ひて子細に採り摭ふ。……大抵所記せるは，天地の開闢けしより始めて，小治田の御世に訖る。……并せて三巻を録し，謹みて献上る。

和銅五年正月二十八日　　正五位上勲五等太朝臣**安万侶**謹上

(臣**太安麻呂**が申し上げます。天皇(**天武天皇**)が「私が聞くところによると，豪族の家々に伝わる**帝紀**や旧辞などの記事は，真実と相違し，多くの虚偽が加えられているという。今の時期にその誤りを改めておかないと，何年か後には本当のことがわからなくなってしまうだろう。これらは天皇家の基礎のとなるものである。そこで，**帝紀**を選び記録し，**旧辞**を調べて偽りを削って後世に伝えたい」と思うとおっしゃられました。天皇のお側近くに仕える者に，姓は**稗田**，名は**阿礼**という者がいた。年は 28 で，一度見れば声に出して読み，一度聞けば記憶するという聡明な人物だった。そこで，天皇は**阿礼**にお命じになって，皇位の継承についての記録や**旧辞**などの古い物語を暗誦させました。しかし，運移り世異りて(**天武天皇**が没し)，世も変わったので完成させるには到りませんでした。これを考慮なさった皇帝陛下(**元明天皇**)は，**旧辞**の誤りを残念に重い，**帝紀**の誤りや不統一を正そうとして，711 年九月十八日，元明天皇は**太安麻呂**に詔して，「**稗田阿礼**のよみ習った天武天皇の勅令によった物語を文書に記録して献上せよ」と命ぜられましたので子細に記録しました。記録した内容は，最初から小治田の御世(**推古天皇**)までの御世までである。そして，全三巻を文書に記録して献上します。

和銅五年(**712 年**)正月二十八日　　正五位上勲五等太朝臣**安万侶**)

© 不許複製禁転載

そもそも，『古事記』の編纂事業は奈良時代になる前の天武天皇の頃から始められていたんだ。この頃には，古くから朝廷に伝わる『帝紀』という天皇の系譜を記した記録と，『旧辞』という神話・伝承などを記した記録があったんだけど，これらには誤りが多かったんだ。これをこのまま放っておいたんじゃ，何 10 年後かには何が正しくて何が間違っているのかもわからなくなってしまうかもしれない。そこで，天武天皇は稗田阿礼に命じて，その『帝紀』と『旧辞』の内容を暗記させておいたんだ。ところが，天武天皇がその後に亡くなってしまったため，この事業はそれ以降放置されてしまった。つまり，稗田阿礼は全部その内容を暗記したにもかかわらず，天武天皇の死後は完全に放置プレイされていたわけだ。そこで，元明天皇の命令によって，稗田阿礼の詠んだ内容を太安万侶(安麻呂)が書きとめていったんだ。こうして，神代(神話の時代)～推古天皇に至るまでの内容をまとめて，712 年に完成した歴史書が『古事記』だ。

こうして『古事記』という国家の歴史書が出来あがったわけだけど，これは国家の歴史書だよね。つまり，中央の歴史書は出来上がったわけだけど，それに対して地方の歴史書というのは出来上がってはいないね。そこで，元明天皇はその翌年の 713 年に，諸国に産物・地理・伝説などを記した『風土記』を作成するよう命じて，それを献上させたんだ。

☑ 風土記の編纂命令『続日本紀』

(和銅六年)五月甲子。制すらく，畿内・七道諸国の郡・郷名は好き字を着けよ。其の郡内に生ずる所の，銀・銅・彩色・草木・禽獣・魚虫等の物は，具に色目を録せしむ。……

(713 年，5 月五畿七道の地名は良い字を選んでつけよ。その地域で産出する銀・銅等の物はその細目を記録せよ)

それ故に，全国から『風土記』が献上されたわけだけど，これらの中で今現在も残っているのは出雲・豊後・播磨・常陸・肥前の 5 カ国しかないんだ。これを五風土記なんて言ったりもするんだけど，重要なのはこの中でほぼ完全に残っているのは出雲国の風土記だけであるということだ。ちなみに覚え方は以下に記しておくね。

＜五風土記の覚え方＞

☆「いつも文豪バリバリヒーヒー全立ち」

いつも→出雲／文豪→豊後／バリバリ→播磨／ヒー全→肥前／ヒー立ち→常陸

まぁ，毎度おなじみの下ネタですね。ただ，「ヒーヒー全立ち」には気をつけよう。「ヒーヒー」の部分はそれぞれ，後ろの全部勃っているという意味の「全立ち」の「全」と「立ち」の 2 つにかかっていくことになる。

古事記と同じ国史として，元正天皇の 720 年に成立したものが『日本書紀』だ。この『日本書紀』は天武天皇皇子の舎人親王らによって編纂され，中国の歴史書の体裁にならった漢文による編年体で，神代～持統天皇までの内容が書かれたものなんだ。なお，編年体というのは年表みたいに年代順で記す方法で，天皇や個人の伝記などをテーマごとに記していく紀伝体と対義語の言葉だ。そして，この『日本書紀』を初めとして，これ以降も朝廷によって平安時代まで 6 つの漢文正史が編纂されたんだ。これらを総称して六国史という。

天皇	成立	六国史	内容	編者
元正	720 年	日本書紀	神代～持統	舎人親王
~~桓武~~	~~797 年~~	続日本紀	~~文武～桓武~~	~~菅野真道・藤原継縄~~
~~仁明~~	~~840 年~~	日本後紀	~~桓武～淳和~~	~~藤原緒嗣・藤原冬嗣~~
~~清和~~	~~869 年~~	続日本後紀	~~仁明一代~~	~~藤原良房~~
~~陽成~~	~~879 年~~	日本文徳天皇実録	~~文徳一代~~	~~藤原基経~~
醍醐	~~901 年~~	日本三代実録	清和・陽成・光孝	藤原時平・菅原道真

© 不許複製禁転載

六国史の内容で知っておかなければいけないのは，まず 2 番目の『**続日本紀**』。奈良時代の史料で，出典を聞かれたら『続日本紀』と答えてやれば満点だ。それから，六国史の最後として**醍醐天皇**時に**藤原時平**・**菅原道真**によって編纂された『**日本三代実録**』に関しては，三代とは誰天皇を指しているかが聞かれる。**清和**・**陽成**・**光孝天皇**の三代は，そのまま天皇の即位順でもあるよね。

ただ，面倒なことに，これら六国史は全て年代ごとの編年体で書かれてあるから，もしも「宗教の歴史，外交の歴史について調べたい」となった場合，『日本書紀』～『日本三代実録』まで全ての項目をチェックしないといけなくなる。そこで，年代ごとの六国史の対し，政治・宗教・社会などのテーマ別(内容別)に分類したのが菅原道真の『**類聚国史**』だ。

［H］教育

このように，律令国家は国家の歴史書を作ることによって，国家支配を安定させていったわけだ。では，国家が安定したら次は何が重要になってくるだろう？それは，国家支配を維持していくための人材育成の必要性だ。そのため，人材育成のため，教育についてもこの時期から力が入れられるようになるんだ。そこで，**貴族**(五位以上)の子弟，東・西の**史部**(朝廷に文筆で仕える集団)の子弟を育成するために，中央に**式部省**の管轄のもと**大学**が設置され，地方には**郡司**の子弟教育のために，**国司**の管轄のもと**国学**が設置されたんだ。なお，大学・国学を卒業した人は官僚として官位をもらえるとされたんだけど，中には例外として五位以上の貴族の子や，三位以上の上級貴族の子や孫には大学を卒業していなくても官僚になれる**蔭位の制**という特権が定められていた。

さて，その貴族の子弟たちはその大学で勉強をするわけだよね。じゃあ，どういった科目を学ぶのかというと，当時は四道と呼ばれる 4 つの学科があったんだ。その一つが『論語』などの儒教の経典を学ぶ**明経道**(経典の“経”だから明“経”道)。それから律令や格式など法律を学ぶ**明法道**(法律の“法”だから明“法”道)。そして漢詩文や歴史を学ぶ**紀伝道**，計算を学ぶ**算道**があったんだ。ちなみに，これらの中で**紀伝道**は弘仁・貞観文化の時期になると特に重んじられるようになっていき，その先生のことを**文章博士**という。まぁ，これは次の弘仁・貞観文化で再び解説しよう。また，これらの国家による教育施設とは異なるけど，**芸亭**という私設図書館を**石上宅嗣**が設立していたね。

＜四道の覚え方＞

☆「妙な凶器でめっぽうサド」

妙な凶→明経／器で→紀伝／めっぽう→明法／サド→算道

© 不許複製禁転載

［文化史④－弘仁・貞観文化(桓武・嵯峨・清和天皇期の文化)－］

［A］平安文化の特徴

さて，平安時代の文化に入っていこう。まず，平安時代の文化と言っても，これは大きく分けると 3 つに分けることができる。それが，嵯峨～清和天皇期にあたる平安初期の**弘仁・貞観文化**，藤原氏による摂関政治期にあたる平安中期の**国風文化**(**藤原文化**)，上皇・法皇による院政が行われた時期にあたる平安後期の**院政期文化**だ。

＜平安時代の文化＞
①**弘仁・貞観文化**(桓武・嵯峨・清和天皇期の文化)
②**国風(藤原)文化**(藤原氏による摂関政治期の文化)
③**院政期文化**(上皇・法皇による院政期の文化)

この 3 つの文化を見ていくと，それぞれ文化の特徴がかなり変容しているのがわかる。特にこれらを理解するためには，時代の背景を知っておかなければいけないんだ。では，少し，これらの文化の背景を表にしてみてみよう。

文化	**弘仁・貞観文化**	**国風文化**	**院政期文化**
時代	桓武・嵯峨・清和天皇	藤原摂関政治	白河・鳥羽・後白河法皇
特色	嵯峨天皇による唐風化政策 ↳ **晩唐(唐風)文化**の全盛 ①漢詩文の流行 →勅撰漢詩集の編纂 ②**三筆**(唐風の書体)	唐の衰退・貴族社会の成熟 ↳ 唐風文化を日本的に発展させた日本文化の形成 → 継続 ①仮名の発達 →②女房文学の隆盛 →③和歌の隆盛 →勅撰和歌集の編纂 ④**三蹟**(和風の書体)	
仏教	**空海**(**真言宗**)・**最澄**(**天台宗**) ↳ **密教**の隆盛	**末法思想**(1052～)の影響 → 浄土教の地方普及 ↳ **浄土教**の隆盛	by**聖**による布教
生活	唐風の衣服 唐風の建築	日本的な衣服(**束帯**・**衣冠**など) 日本的な建築(**寝殿造**)	

特に注意しなければいけないのが，弘仁・貞観文化と国風文化の違い。この箇所は論述でも狙われるところなので，少し概説しなければならない。弘仁・貞観文化の時期には，嵯峨天皇のもと唐風化政策が推進された。その理由は後述するけど，この唐風化政策により，日本では唐風文化の影響を色濃く受けた弘仁・貞観文化が隆盛するんだ。例えば，漢詩文。これはその名の通り，中国の漢文で詩を書くわけだけど，これが貴族の教養として重視された。そのため，天皇の命令によって勅撰漢詩集などが編纂されたわけだ。それから，**三筆**(書道のうまい三傑)。三筆の代表的人物と言えば**空海**・**嵯峨天皇**・**橘逸勢**だけど，彼らの書体は唐風に力強く書くことが特色だったんだ。これらが唐文化の影響だね。そして，その**空海**(帰国して**真言宗**を開く)と，**最澄**(帰国して**天台宗**を開く)は遣唐使として唐に渡って唐で仏教を学んできた。特に空海の方は**密教**(簡単に言うと，不思議なパワーで加持祈禱などを行う)を学んで，これを日本に導入したらたちまち大ヒット！だから，この時代の建築・彫刻・絵画には密教が非常に関連してくるんだ。また，特に覚える必要はないけど，この時代の服装や建築でも唐風文化の影響が大きかったこともこの時代の特徴だね。

さて，嵯峨天皇の時期になぜ唐風化政策が進められたのかについてだけど，これは以下の［弘仁・貞観文化が形成された背景］を読んでもらえばよい。ただし，以下の内容が入試で問われるのは国公立大の論述なので，私大志望の生徒は目を通しておくか，飛ばしてしまっても構わない。

© 不許複製禁転載

［弘仁・貞観文化で唐風化政策が徹底化された背景］

律令国家の再編が進められた平安時代初期には，嵯峨天皇(上皇)のもと唐風化政策が徹底された。たとえば，唐風の儀礼を取り入れた宮廷儀式が整備されたり，中国の漢詩文が隆盛することになったのは，その典型的なものだ。では，なぜ嵯峨天皇は唐風化政策を推し進めたのか？

彼の中には，**文章経国思想**という漢文学を重視することが国家隆盛につながることを強調する思想があった。たとえば，この時期には『凌雲集』・『文華秀麗集』・『経国集』など勅撰漢詩文集の編纂が進められた。こうした漢詩文を天皇が重視すると，貴族・官人たちにも儒教・漢詩文の教養が必要とされてくる。そのため，貴族・官人は漢詩文などの唐風の教養を身につけるため，自らのクオリティを高めなければいけなくなる。また，嵯峨天皇(上皇)時には『弘仁格式』や『令義解』などの法典の編纂・整備も進められた。こうした法典などを整えると，貴族・官人たちはこれらの法典を用いて政治を行うため，それらを用いることができるだけの能力を持たなければならなくなる(それゆえ，大学の学科では歴史・漢詩文を学ぶ紀伝道が隆盛し，有力貴族は自分たちの子弟教育のために，大学の近くに大学別曹という寄宿寮を設けたのである)。

こうした官僚制の整備・充実のための政策により，貴族・官人には行政能力や漢詩文・儒教の能力が必要とされ，彼ら自身のクオリティも向上される。そして，唐風の政治制度や文化が社会に定着・浸透し，唐風文化が全盛期を迎えることになったのである(そして，この唐風の教養がベースとなり，そのあとの国風文化が発展する基盤となるのである)

では，これが国風文化の時期になるとどうなるのだろうか。唐の衰退などを背景に 894 年，菅原道真の建議によって遣唐使が廃止されたよね。こうした唐の衰退や貴族社会の成熟を受けて，国風文化(摂関政治期)には日本風の文化が形成されるようになっていくんだ。ところが，この一文を読むと，多くの受験生は「遣唐使の廃止により中国文化の影響が少なくなり，日本風の文化が形成されていった」と理解してしまう子が多い。一般的な私立大学を志望校としているのなら，その解釈で覚えてしまっても構わないんだけど、論述のある国公立大を志望している場合は，正確な理解が必要だ。

［国風文化が形成された背景］

そもそも遣唐使が廃止された理由は，(1) 朝廷の財政難，(2) **安史の乱**などによる唐の衰退，(3) 航海の危険性，(4) 文物摂取の不必要(9 世紀頃から唐や新羅の民間商人が日本に来航して，**唐物**と呼ばれる中国などから輸入された文物が多くもたらされるようになっていた。こうした民間貿易が活発化していたため，中国と正式貿易をする必要がなくなった)，ことがあげられる。つまり，(4)を見てみると，むしろ日本に多くの大陸文化が輸入されているから，別に中国文化の影響を受けなくなったというわけではない。では，どうして文化が国風化されていったのか？その理由は，(1) 対外的要因＝唐の衰退，(2) 国内的要因＝律令国家の変質にともなう貴族社会の成熟，があげられる。

(1) 今までの東アジアでは冊封体制などにみられるように，唐を中心として周辺諸国がそれに従属する国際秩序が存在した。しかし，唐の衰退によって，それまでの唐と周辺諸国の国際秩序(従属関係))が崩壊し，今まで従属していた周辺の諸民族が自立化するようになっていく。その自立化が日本でも現れるようになり，今までの中国文化が国風化されるようになったわけだ。

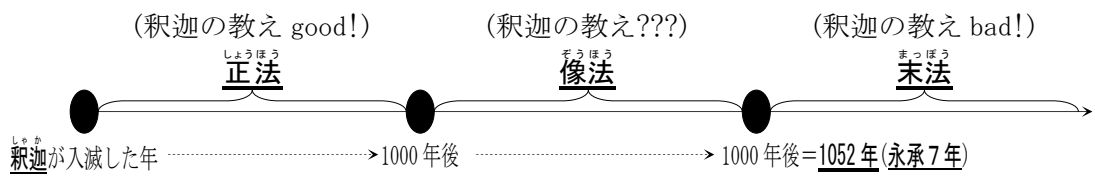
(2) 平安前期(弘仁・貞観期)には，嵯峨天皇(上皇)のもと天皇への権力集中をはかるため，検非違使や蔵人頭といった天皇直属の令外官が設けられるなど，律令国家の再編が進められた(律令国家の変質)。また，嵯峨天皇(上皇)のもと唐風化政策が徹底されていた。たとえば，唐風の儀礼を取り入れた宮廷儀式が整備されたり，中国の漢詩文が隆盛し，**文章経国思想**(漢文学を重視することが国家隆盛につながることを強調する思想)に基づき貴族・官人の教養として漢詩文や歴史が重視されたことは，その典型的なものだ。しかし，嵯峨天皇(上皇)が亡くなると，それを契機に日本的なものをもう一回見直そうとする動きが出てきた(貴族社会の成熟)。こうした律令国家の変質の過程で貴族社会の成熟が進み，唐風文化の吸収の上に文化の国風化が進んだのである。

さて，国風文化が形成された背景の詳細はとにかく，摂関政治期の国風文化の特色は日本風の文化が

形成されていったことにある。ただし，気をつけてほしいんだけど，国風文化のベースはあくまでも中国文化にあって，それを日本風にアレンジしていったという点だ。その最も典型的なものが，漢字から発達して生まれた平仮名や片仮名といった仮名だね。これこそ漢字という中国の文化を，仮名という日本風にアレンジした象徴でしょ？そして，こういった仮名の発達に伴って，国風文化になると女房文学や日本風文化の和歌が流行していき，勅撰和歌集などが編纂されるようになったわけだ。それから，弘仁・貞観文化には唐風の楷書体だった三筆から，国風文化期には優美に流れる感じの和風の書体である三蹟(小野道風・藤原佐理・藤原行成)へと変わっていった。また，衣服や建築に関しても，束帯・衣冠・女房装束などの日本的な衣服や，寝殿造のような日本的な建築が登場するようになったんだ。これらが日本風の文化にあたるわけだね。

そして，この後の仏教界に多大なる影響を与えたのが末法思想という予言思想だ。これは簡単に説明しよう。

＜末法思想＞



末法思想というのは，釈迦が死んだ年から 1000 年間は正法という釈迦の教えが正しく伝わっている期間とし，その後のまた 1000 年間は像法という釈迦の教えが徐々に乱れてくる期間，その後の 1 万年は釈迦の教えが正しく伝わらない末法の世になるという思想だ。そして，この末法の世は 1052 年(永承 7 年)から始まると考えられていて，この末法の世になると「何かしら悪いことが起きる」乱世になると信じられていたんだ。つまり，仏教版ノストラダムスの大予言のように考えてくれるといいかな。

だから，末法元年の 1052 年が近づいてくると，庶民はどんどん不安に駆られていく。「もうすぐ末法の世が近づいてくる…。末法の世になると天変地異や疫病など悪いことが流行りまくるんだろうな…。こんな世の中じゃ生きてても希望も持てやしねえ…。せめて死んだら極楽浄土で幸せになりてえよ…。」と，現実の世界に希望を持てなくなっていってしまう。そこで，そんな庶民・貴族の不安を和らげるために天台宗の中から生まれた教えが浄土教なんだ。これは，簡単にいうと「南無阿弥陀仏という念仏を唱えれば，死んだあと阿弥陀如来のいる極楽浄土で幸せになれますよ」という来世利益を説く教えだ。だから，庶民からしてみれば「生きていても良いことはないけど，死んだら幸せになれる」という浄土教の教えは，自分たちに希望を与えてくれる光のようなものだったわけだね。こうして末法思想を背景に生まれた浄土教は，庶民や貴族の支持を受けて国風文化・院政期文化という時代を経て隆盛していくんだ。

ところで，「浄土教が栄えていくのはわかるんだけど，今までの密教はどうなったの？」って気になる人もいるよね。もちろん，浄土教とは別に，密教は密教で貴族や天皇の間で流行っている。そもそも浄土教と密教というのは，密教と浄土教は根本的にご利益の対象が異なるため，この時代にはそれぞれ浄土教と密教のどちらも流行っているんだ。

＜密教と浄土教の違い＞

密　教…現世利益→貴族・天皇・上皇の支持
浄土教…来世利益→貴族・庶民の支持

禱

上に書いたように密教は現世利益を説く教え。例えば，密教は加持祈禱を行うことで，病気を治してくれたり，災難から逃れさせてくれるご利益を与えくれるものだ。だから，貴族・天皇・上皇などは病気や災難から逃れるために，密教を受容していくんだけど，この密教には問題点がある。

© 不許複製禁転載

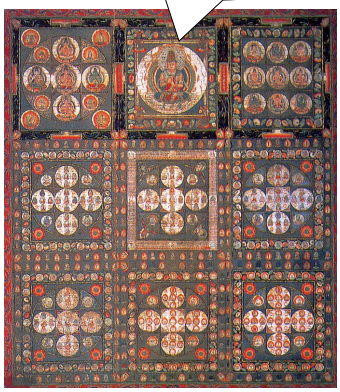
それは，密教を受容できるのは経済的に余裕のある貴族・天皇・上皇などだけで，経済力のない庶民は受容できる余裕がないということ。そして，もう一つ肝心なのが，密教は現世利益であり，死んだ後の世界は保障してくれないということ。つまり，極端な言い方をすれば「密教は，生きている間はいろいろなご利益を与えてくれるけど，死んだ後は知りません」という教えなんだ。

それに対して，**浄土教**は「死んだら幸せになれる」という来世利益を説く教えだ。だから，末法思想の影響で不安に駆られている庶民や貴族などの人々は，この浄土教を信仰していくようになる。そのため，平安時代中期になると末法思想を背景に浄土教が隆盛していくことになるんだ。

ところで，「あれ？何で貴族も浄土教を支持するの？貴族は密教も支持して，浄土教も支持するの？」って思った人もいるんじゃないかな？ …でも，そりゃそうでしょ。貴族だって若い頃は立身出世のために現世利益の密教を受容するけど，死が近づいてくれば怖くなるよね。だから，若いうちは密教を受容していくものの，死が近づいてくると来世利益のために浄土教も支持していくんだ。

さて，じゃあ院政期文化はどうなっていくのか。院政期文化は基本的には国風文化を引き継いでいくんだけど，浄土教の点で少しだけ変化するんだ。この院政期の頃もやっぱり末法の世だから，浄土教が流行っているんだけど，この時期になると，今までは中央にしか過ぎなかったものが地方へと普及していく。その普及に尽力したのが，各地で布教をしていった浄土教の聖と呼ばれる坊主達だったんだ。

［B］建築



〔教王護国寺曼荼羅(金剛界)〕

さて，話を弘仁・貞観文化に戻そう。この頃の建築・彫刻・絵画に多大なる影響を及ぼしているのが**密教**だったよね。ちなみに，今までの仏教は顕教と言って「ひたすら経典を読んでいって釈迦の教えを学ぼうとする学問のようなもの」だった。それに対して，密教というのは「秘密の授法によって不思議なパワーを体得し，加持祈禱によって病気を治したり災いを取り除いたりする」というものだ。…「何かウソっぽいな～」って思ったでしょ？でも，ウソなんかじゃない。これこそが密教なんだ。

例えば，密教の世界では灌頂と呼ばれる儀式がある。これは，右の写真のように**曼荼羅**(密教の世界を図式化したもので様々な仏が描かれている)という絨毯みたいなものを下に敷いて，その上から目隠しをしたまま木の葉(樒の花)を落とす儀式のこと。んで，木の葉を落とす先の曼荼羅には右のように「大日如来」など様々な仏様が描かれている。そして，その上から木の葉を落とすわけだから，どれかしらの仏様の上に落ちるよね？それで，例えば一番上にいる「大日如来」という仏様のところに落ちたとするでしょ。そうしたら，その仏様が自分の本尊(中心仏)となって，その仏様と縁を結ぶことが出来るんだとさ。…なお，実はあの空海も唐に渡った時に，この灌頂という儀式を行って「大日如来」と縁を結ぶことが出来たと言われているんだ。

それにしても，胡散臭い儀式だよね～(笑)。君たちからすれば「何なんだ，その儀式は。もうちょっとわかりやすく言葉で説明してくれよ」って感じだよね。でも，実は密教というものは言葉で説明するには限界がある。密教を日本に伝えた空海自身も「密教というのは奥深いもので言葉だけで言い表せるものではない。だから曼荼羅のような図画を使って悟りを開くのを助けるんだ」と言っているんだ。

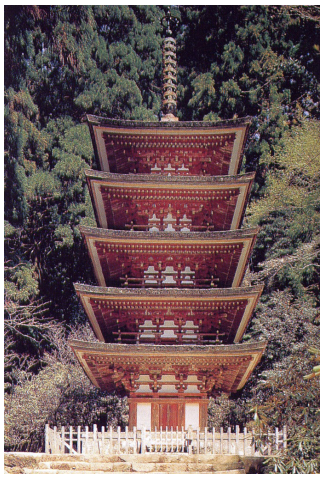

〔護摩法(秘密の呪法)〕

これで初めに言った意味がわかったかな？このように，密教というのは灌頂などの秘密の授法を行うことによって得られる不思議なパワーのこと。こうした秘密の授法を行うことで，お坊さんは神秘的なパワーを得るようになる(その一つに左写真のような護摩法というものがある)。そして，その不思議なパワーを体得したお坊さんは，加持祈禱という授法で大日如来に祈って，病気を治したり災いを取り除い

© 不許複製禁転載

たりするわけだ。例えば，日照りが続いている時にお坊さんが天に祈って雨を降らせようと儀式を行う。他にも，将軍や天皇が病気になった時に，お坊さんが病気を治るように祈るための儀式を行う。これらの儀式が加持祈禱だ。こうした加持祈禱を行うことによって，人々にご利益をもたらすのが密教というものなんだ。

このように，密教というのはお坊さんが加持祈禱を行って災いなどを取り除いたりするものだ。だから，お坊さん自身はそういった特別な力を得ることができるように，厳しい修行をしなければならない。じゃあ，そういった特別な力を宿すことができる修行場所ってどこだろう？それは神秘的な力を有している山だ。だから，お坊さん達はこの不思議な力を得るために，山中で修行する。そのため，空海の建てた**高野山金剛峰寺**に代表されるように，密教の寺院は山の中に造られていくんだ。ところが，こういった仏教の修行っていうのは男子特有のもので，一般的には女性が寺へ参詣することは出来なかった。その中で唯一女性が参詣できるお寺として栄えたのが**室生寺**だ。だから，よく室生寺は女人高野なんて呼ばれるんだ。その室生寺の建築として有名なのが**室生寺金堂**と**室生寺五重塔**。右の写真を見てもらうとわかるように，五重塔は山中に造られたわけだから，まわりには木がしげっているよね。ただ，もう一つの金堂に関しては，その屋根の造り方も聞かれてしまう。現在の屋根は薄い板で葺いた**柿葺**なんだけど，当時の屋根は檜の皮でできた**檜皮葺**だったんだ。ちなみに，「柿」という字は書かせることはないけど，「柿」という字と。は異なるんだよ(柿＝9 画／柿＝8 画)



〔室生寺五重塔〕



［C］彫刻



〔**観心寺如意輪観音像**〕

密教が流行っていくと，当然密教の彫刻も造られるようになる。それが**観心寺如意輪観音像**だ。この仏像の特徴は，密教特有の神秘的なところにあるんだってさ。確かに，頬杖をついたり，手をダラ～ンとしていたり，今までの仏像とは雰囲気が違っているよね。まぁ，俺にはやる気のないダレきったオッサンにしか見えないけどね。

これ以外にも弘仁貞観文化の仏像彫刻には，**室生寺金堂薬師如来像**・**室生寺弥勒堂釈迦如来像**もあるけど，これは「女人高野」と呼ばれた室生寺の仏像であることさえ押さえておけば大丈夫だ。これら仏像の出題の仕方では，「次のうち弘仁・貞観文化期に造られた仏像として正しいものを選べ」というように，文化の時期を特定させる選択問題や正誤問題が多い。でも，室生寺という寺自体が弘仁・貞観文化に造られた寺であることを考えれば，室生寺金堂薬師如来像・室生寺弥勒堂釈迦如来像だろうが，弘仁・貞観文化だとわかるもんね。なお，その他のものとして，元興寺・神護寺・新薬師寺の薬師如来像や，教王護国寺不動明王像・法華寺十一面観音像などもあるけど，これらは外していい。

さて，この時期には密教に関連した仏像が多く造られたわけだけど，重要なのはこれら彫刻の造り方なんだ。これらの仏像は全て**一木造**といって，一本の木から丸彫りして造る方式だったんだ。つまり，一本のデカい木から，丸ごと頭から足まで造るということだね。そして，その仏像が着ている衣は，衣のひだ(服の折り目)を美しく出すために，波が翻るようにひだを刻む**翻波式**という特徴がある。

また，この他の彫刻として押さえておかなければいけないのは**薬師寺僧形八幡神像**だ。でも，これを説明するためには，まずは平安時代から広まっていった**神仏習合**を説明しないといけないんだよね。だから，まずは神仏習合の話からしていこう。

© 不許複製禁転載

日本には神道と仏教という別々の宗教が存在した。神道というのは，日本のみで信仰されている民族宗教で，**天照大神**や**大国主神**といった日本古来の神々を信仰する宗教だ。そして，その神々を祀るために建てられたものが**伊勢神宮**(**天照大神**を祀る)や**出雲大社**(**大国主神**を祀る)などの神社であるわけだ(なお，天照大神は天皇の祖先だと言われている)。

それに対して，仏教は6世紀に百済から伝えられた，インドや中国・朝鮮半島など世界的に信仰されている宗教。そして，大日如来や阿弥陀如来などの仏様を信仰し，その仏様を祀るために寺院が建立されていったわけだ。つまり，まとめると以下のようになるね。

＜神道と仏教の違い＞

神道(日本独自の宗教)…古来の神々(天照大神・大国主神など)を信仰し，神社に祀る

仏教(世界的な宗教)……仏(大日如来・阿弥陀如来など)を信仰し，寺院に祀る

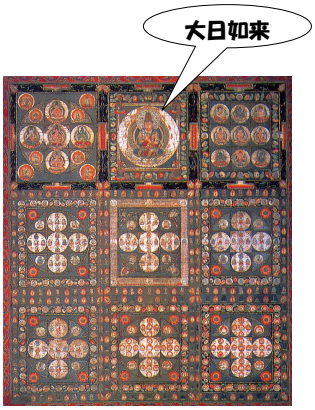
こうしてみると，神道と仏教は似たようにみえるんだけど，実はまったく別の宗教だということがわかるよね。ところが，平安時代初期，つまり弘仁・貞観文化になると，神道と仏教を同じものだと考える**神仏習合**が始まっていった(正確には奈良時代から神仏習合の傾向はみられる)。この神道と仏教を混淆(混同)する神仏習合の影響から，この時期には様々な建物が建てられた。例えば，寺院(仏教の建物)の境内に**鎮守**の神を祀ったり，神社(神道の建物)の境内に**神宮寺**という寺院(仏教の建物)を建てたり，神前読経(神の前で仏教の経典を読む)が行われたのは，その象徴的な事例だね。その中で最も顕著なのが，**薬師寺僧形八幡神像**だ。これは八幡神という神道の神様がお坊さんの格好をしているというメチャメチャなもの。神様なのに坊主の格好て，おい…って感じだけどね。なお，薬師寺自体は白鳳文化に建てられたけど，この薬師寺僧形八幡神像は弘仁・貞観文化になるから気をつけてね。



〔**薬師寺僧形八幡神像**〕

［D］絵画

絵画に関しては**曼荼羅**が有名だけど，これは先ほどの密教の説明で出てきたもの。この曼荼羅の上から目隠しをして，樒の花を落とす灌頂という儀式が行われると説明したよね。これは，密教の世界を図式化したもので，大日如来を中心に，そのまわりに菩薩とか釈迦如来といった仏様たちが描かれているんだ。この曼荼羅で特に有名なものが**教王護国寺**両界曼荼羅と**神護寺**両界曼荼羅だ。

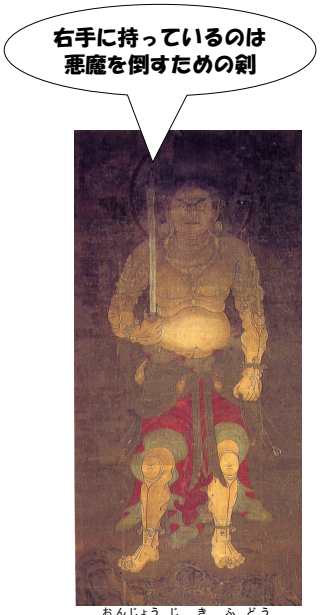


〔教王護国寺曼荼羅(金剛界)〕



〔教王護国寺曼荼羅(胎蔵界)〕

両界というのは，密教の根本経典である金剛頂経に基づいた**金剛界**と，大日経に基いた**胎蔵界**の二つを指しているんだけど，余裕があったら覚えておく程度でいいよ。ちなみに曼荼羅の“荼”を“茶”にしないように気をつけてね。



〔**園城寺黄不動**〕

こうした密教関係の絵画の中には，大日如来が全ての悪を屈服させるために怒った時の化身とされる**不動明王**を描いたものもある。こうした不動明王を描いたもので代表的なものが，**園城寺不動明王像**と高野山明王院不動明王像だ。これらのうち，園城寺のものは体の色が黄色で描かれていることから**黄不動**とも呼ばれ，高野山明王院のものは赤色で描かれていることから**赤不動**とも呼ばれるんだ(他にも青不動というものもある)。なお，前者の園城寺不動明王像に関しては，この絵画を描かせた天台宗の**円珍**も聞かれる。これは円珍が坐禅している時に，不動明王が出

© 不許複製禁転載

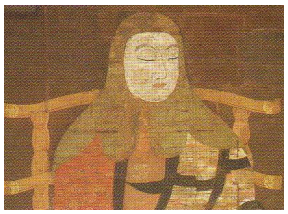
てきて「自分に帰依するならお前を守護してやる」と円珍に語ったということから，円珍が描かせたものなんだ。でも，坐禅している時に不動明王が出てきたって，どう考えても「お前寝てたら，夢に出てきただけだろ」って感じだけどね。なお，この写真は実際の園城寺にあるものじゃなくて，それを模写したものなんだ。園城寺にある黄不動は秘仏のため公開されていないので実際の写真はないんだよね。

［E］書道

この時代は晩唐文化の影響を受けているため，書道においても唐風の力強い書体が主流だった。その当時は，**三筆**と呼ばれる**空海**・**嵯峨天皇**・**橘 逸勢**の 3 人がメチャメチャうまかったんだけど，特に空海が最澄に送った書状として，有名なものが『**風信帖**』だ。これについては，少し背景の話をしよう。

天台宗を開いた最澄はもともと密教を行ってはいなかったんだけど，徐々に空海の主張する密教に興味を持つようになっていった。そこで，最澄は密教を学ぶために，年下の空海にわざわざ弟子入り。そして，密教をより深く勉強するために，最澄は空海に密教の教理を書いた書物を貸してくれって頼んだんだ。ところが，密教ってのは経典を読んでわかるようなもんじゃなく，修行してはじめて体得できるものだったよね。だから空海が「密教は経典を読んで体得できるようなものじゃないんですよ。修行をしないと意味がないですよ」って，その頼みを断る手紙を書いたんだ。その時の 812 年に書いた手紙が『**風信帖**』だ。でも，最澄は諦められない。今度は弟子の泰範を空海のもとに送って密教を学ばせようとした。ところが，いつまでたっても泰範は帰ってこない。そう，逆に泰範は空海に惚れ込んじゃったんだ。そのため，最澄が泰範に「帰ってきてくれ〜い」って 813 年に書いた手紙が『**久隔帖**』だ。でも，結局泰範は帰ってきませんでしたとさ。ちゃんちゃん。


〔空海〕


〔最澄〕

＜三筆の覚え方＞
☆「３Ｐは臭いがタチっぱなし」
３Ｐ→三筆／く→空海／さいが→嵯峨／タチっぱなし→橘逸勢

［F］文学

さて，書道のところでもそうだったけど，この時代は唐文化の影響が大きかったのが特徴だったよね。だから，この頃の文学も和歌のような日本風のものではなく，中国の漢文で詩を書く漢詩文が流行っているんだ。それゆえ，この時代には様々な漢詩文が詠まれたので，これら漢詩文の傑作を集めた「漢詩文のベストヒット集」を作るように天皇が命じたんだ。こうした天皇の命令によって編纂された漢詩集を勅撰漢詩文集というんだけど，その勅撰漢詩文集は 3 つある。それが，**嵯峨天皇**の命令で**小野岑守**らが編纂した最初の勅撰漢詩文集『**凌雲集**』。その後，再び**嵯峨天皇**の命令で**藤原冬嗣**らが編纂した 2 番目の勅撰漢詩文集『**文華秀麗集**』。そして，最後は**淳和天皇**の命令で**良岑安世**らが編纂した 3 番目の勅撰漢詩文集『**経国集**』だ。

＜勅撰漢詩文集＞
『**凌雲集**』……**嵯峨天皇**の命で**小野岑守**らが編纂＝最初の勅撰漢詩文集
『**文華秀麗集**』…**嵯峨天皇**の命で**藤原冬嗣**らが編纂＝2 番目の勅撰漢詩文集
『**経国集**』……**淳和天皇**の命で**良岑安世**らが編纂＝3 番目の勅撰漢詩文集

この中で最も聞かれるのは最初の勅撰漢詩文集である『**凌雲集**』で，その後の『**文華秀麗集**』・『**経国集**』と続くわけだけど，これらは編纂を命じた天皇，そして編纂者まで聞かれてしまう。そこで，次のゴロで覚えておこう。ちなみに『凌雲集』の「凌」は“さんずい”じゃなくて“にすい”だからね。

© 不許複製禁転載

＜勅撰漢詩文集の覚え方＞

☆「ＯＨ！ＮＯ！下がりょう(ろう)ぜ」
　ＯＨ，ＮＯ→小野岑守／さが→嵯峨天皇／りょう→凌雲集
☆「富士山が噴火だ」
　ふじ→藤原冬嗣／さんが→嵯峨天皇／ふんか→文華秀麗集
☆「よし，見た順で警告だ」
　よしみ→良岑安世／じゅん→淳和天皇／けいこく→経国集

一見すると，一つ一つのゴロに分かれている感じなんだけど，実は3つとも話がつながっている。簡単にシチュエーションを説明すると「オーマイガッ！下がった方がいいぜ。富士山が噴火したんだ。よーし，隣村にも見た順番に警告してあげよう」という三段階バージョンでした。

なお，この『凌雲集』などの勅撰漢詩文集と，天平文化で学習した最古の漢詩文集である『懐風藻』の違いがわからないという受験生がいるので補足説明しておこう。これらの違いは「勅撰であるのか，勅撰でないのか」だけだ。つまり，『懐風藻』は天皇の命令とは関係なしに作られた漢詩集であり，『凌雲集』は天皇の命令によってつくられた漢詩集である，ということだ。

＜勅撰の意味とは？＞

勅撰とは天皇の命令によって編纂された作品のこと
　『懐風藻』（天平文化）……最古の漢詩集＝天皇が編纂を命じていない漢詩文集
　『凌雲集』（弘仁・貞観文化）…最初の勅撰漢詩集＝天皇が編纂を命じた漢詩文集

こういった勅撰漢詩文集というのは天皇の命によって編纂された漢詩文集だったね。これに対して，自分で勝手に編纂したのを私撰漢詩文集というんだけど，その私撰漢詩文集には二つある。

＜私撰漢詩文集＞

『**性霊集**(しょうりょうしゅう)』……**真済**(しんぜい)(空海の弟子)が編纂した**空海**(くうかい)の漢詩文集
『**菅家文草**(かんけぶんそう)』……**菅原道真**(すがわらのみちざね)の漢詩文集

空海ってオッサンはその当時最高の教養人だった。もともと彼は仏教の世界に入る前には大学で勉強をしていてトップの成績の超天才だったんだ。だから，いずれは国家の官僚として活躍していくんだろうと両親たちも期待していた。ところが，その後謎の坊主に触発されて，空海は仏教の世界へと身を投じる。役人街道まっしぐらで両親からも期待されていたのに，いきなり仏教の世界に入るなんて空海が言い出したもんだから両親は大反対するよね。そこで，両親達を説得するために，なぜ自分が仏教の世界へ入るのかを説明したのが『**三教指帰**(さんごうしいき)』だ。三教っていうのは仏教(ぶっきょう)・儒教(じゅきょう)・道教(どうきょう)のことで，これら3つを比較して，その中で仏教が優れていることを説いたものなんだ。だから，私は仏教の世界へ入るんです，と説明したわけだ。

その後，彼は密教を学ぶために遣唐使として中国に渡る。なぜ彼が遣唐使に選ばれたかというと，中国語(漢文)が完璧だったから，というのも理由の一つだった。そして，遣唐使として中国に渡ったんだけど，その途中嵐のせいで本来着くべきところの南の方(南といっても東南アジアではなく，中国南部の地方)に流されてしまったんだ。ところが，その地の人たちが空海たちのことを海賊だと思って遣唐使だと信じてくれない…。そこで，空海は己の達筆と，漢文を駆使して手紙を書いたんだ。「私達は遣唐使なんですよ～ん」ってね。そしたら，その内容が素晴らしかったので「これは海賊の書ける文章ではない。彼らはちゃんとした遣唐使の教養人だ」とわかってくれたんだ。その時に空海が書いた漢文の内容などが載っているのが『**性霊集**(しょうりょうしゅう)』だ。ただし，これは**空海**(くうかい)の書いた漢詩文なんだけど，編纂したのは弟子の**真済**(しんぜい)という人物なんだ。まぁ，とにかく漢詩文に通じているわけだから，空海は漢詩文のエキスパートでもあるわけだね。そのため，彼は漢詩文の評論書である『**文鏡秘府論**(ぶんきょうひふろん)』も著している。

© 不許複製禁転載

さて，その空海の弘仁・貞観文化からは少し後の時代になると，学問の神様である**菅原道真**が出てくる。彼は，**文章博士**という歴史・漢詩文を教える先生から，宇多天皇によって**蔵人頭**に抜擢された人物。つまり，もともと歴史や漢詩文に関するエキスパートなわけだ。その歴史に関するエキスパートとして，編年体という時代順にまとめられていた六国史を内容別に分けた『**類聚国史**』を編纂している。これは既に天平文化の六国史に関する部分でも説明したよね。

また，彼は漢詩文のエキスパートでもあるから，遣唐使としても最適な人物。そのため，**894 年**に**遣唐大使**に任命されてもいる。結局，道真が遣唐使の必要性の無さを説いた結果，遣唐使は廃止されているけれども，ここからも道真が漢詩文に優れていることがわかるよね。この遣唐使廃止の際の史料などが載っている彼の漢詩文集が『**菅家文草**』だ。

一方，奈良時代以後，仏教が広く広まるようになると，人々の信仰を勧めるために，坊主は民間で伝えられた物語・伝説・神話などの説話を語るようになった。こうした仏教説話を集めたものが，薬師寺の僧である**景戒**が編纂した日本最初の仏教説話集『**日本霊異記**』だ。例えば，信濃国の坊主が吉祥天という女神様で夢精しちゃった話など，民間を対象とした布教活動の中で語り伝えられたお話をまとめたものだね。また，この時期には，当時乱れていた氏姓を正すために『**新撰姓氏録**』も成立している。これは桓武天皇皇子の**万多親王**が編纂した氏族たちの系図を記した書物で，皇族・豪族・渡来人などそれぞれの系統に分けて整理したものだ。

［G］教育

天平文化のところで，**明経道**(儒教の経典を学ぶ)・**明法道**(律令や格式など法律を学ぶ)・**紀伝道**(漢詩文や歴史を学ぶ)・**算道**(計算を学ぶ)といった四道と呼ばれる学科のように，教育に力が入れられるようになった話はしたよね。同じく，この時期も教育に力が注がれるんだけど，この時代にもやはり唐の影響が強い。だから，これら大学の学科の中でも，中国の漢詩文や歴史を学ぶ**紀伝道**が重視されていったんだ。なお，こうした大学の紀伝道において，漢詩文や歴史を教える教授を**文章博士**という。

このように貴族社会では大学での勉強が重要視されていくようになる。そうすると，当然貴族の親からしてみれば，自分の子供たちには勉強に勤しんでほしいよね。そこで，有力な貴族は大学の近くに**大学別曹**という自分たち貴族専用の寄宿舎を設置していったんだ。大学にもちゃんと寮はあるんだけど，有力貴族の場合は別に寮があるってことだね。だから，子供たちはその大学別曹で生活して，朝になるとそこから大学に登校するんだ。こうした大学別曹の中で，有力貴族が設置したものが藤原氏の**勧学院**や，和気氏の**弘文院**，在原氏の**奨学院**，橘氏の**学館院**だ。

＜大学別曹の覚え方＞

☆「興奮するわけありましょう」

興奮→弘文院，わけ→和気氏／あり→在原氏，しょう→奨学院

☆「婦人和姦が立ちっぱなしでがっかり」

婦人和→藤原氏，姦が→勧学院／立ちっぱなし→橘氏，がっかり→学館院

このように，当時の学問というものは大学や国学でしかできないものだった。しかも，位の高い家に生まれていないと勉強できない。大学の場合は貴族，もしくは東・西の史部の息子でなければダメだし，国学も郡司の息子でなければダメだった。学問はそんなものじゃなくて，誰でも分け隔たりなくあるべきものだよね。そこで，**828 年**に**空海**が設立したのが**綜芸種智院**という，身分の上下に関係なく学問を受けられるという画期的な学校だったんだ。ただ，こうした画期的なものも空海の死の 10 年後には廃止されてしまっている。

© 不許複製禁転載

［A］建築

国風文化(**藤原文化**)の特徴については弘仁・貞観文化のところで説明したので，簡単に概説するだけにさせてもらう。この国風文化には，(1) 唐の衰退などを背景にして，中国文化に基礎をおいた上での日本風文化が形成されていく，そして，(2) 末法思想の影響により浄土教が隆盛していく，という 2 つの特徴があったね。だから，弘仁・貞観文化の建築・彫刻・絵画が密教関係だったのと同じように，国風文化の建築・彫刻・絵画では浄土教が関係してくる。まずはその違いを捉えておくと暗記もスムーズになるよ。

さて，密教では「大日如来」こそが最高の仏様とされたんだけど，浄土教では何という仏様が最高であるとされたと思う？…**浄土教**ではよく「南無阿弥陀仏」という**念仏**を唱えるよね。「南無」というのは現代でいう「あぁ」という意味。そして，「阿弥陀仏」とは仏様である「**阿弥陀如来**」をさしている。つまり，念仏でいう「南無阿弥陀仏」とは「あぁ，阿弥陀如来様」と言っているわけだね。ゆえに，この浄土教での最高の仏様は「阿弥陀如来」だ。そのため，この時代には阿弥陀如来を祀るための**阿弥陀堂**という建物が建てられるようになるんだ。

その阿弥陀堂で有名なのが，**藤原道長**が 1020 年に建立した**法成寺**の無量寿院だ。入試で問われるのは法成寺なので，無量寿院まで覚える必要はないんだけど，この法成寺を建立した道長にはちょっと面白い話がある。

若い頃の道長は，自分の立身出世のために密教の加持祈禱を受容していたんだけど，さすがに自分の死が近づいてくると怖くなってきた。でも，密教は現世利益でしかないから，死んだ後の世界のことは保障してくれないよね。だから，彼も年をとると来世利益をとなえる浄土教を信仰するようになっていった。そのために法成寺という絢爛豪華な寺を建てて，自らの死が近づいてくると，彼はその寺の阿弥陀堂にこもって念仏を唱える日々を送ったんだ。

…ここまでは普通。でも，その最期が気持ち悪い。死の間際に，彼はその法成寺に置いてある阿弥陀如来像の 5 本の指に糸をたぐりつけて，その糸の先と自分の指 5 本とを結びつけたんだ。つまり，阿弥陀如来像の指 5 本と自分の指 5 本を糸で結んだわけだね。そして，「これで自分が死んだら，阿弥陀様が私を極楽に連れて行ってくれるのだ。南無阿弥陀仏～。」って言って死んでいったんだ。……う～ん，キモいよね。ちなみに，その絢爛豪華な法成寺は焼けちゃったので今は残っていない。

一方で，息子の**藤原頼通**も **1053 年**に宇治に**平等院鳳凰堂**を建立している。これは，10 円玉の裏に描かれていることでも有名だよね。ところが，この年号に少し注目してほしい。末法思想の始まる年は**永承 7 年**(**1052 年**)からだったよね。だから，まわりの人たちは末法の世が始まる年としてビビりまくっていた。


〔平等院鳳凰堂〕

例えば，日野資業という人は末法元年の前年である 1051 年に，慌てて日野に**法界寺**阿弥陀堂を建立している。ところが，この末法元年の 1052 年になっても，藤原頼通は気にも留めなかった。まぁ，無頓着といった方がいいかもしれないね。そこで，家臣が「頼通様。もう，末法思想の始まる年ですから，浄土教か何かにすがるために寺とかを作った方がいいですよ」って勧めたんだ。そこで，頼通も「あっ，マジで？末法の年なんだ～，……じゃあ，寺でも造っておくか。」って感じのノリで造ったのが平等院鳳凰堂だ。普通なら，1052 年の前から造っておくのに，その翌年に造るとはかなりの大物だよね。

© 不許複製禁転載

［B］彫刻


〔平等院鳳凰堂阿弥陀如来像〕

このように，国風文化の時期には末法思想の影響で浄土教にすがる人がどんどん増えていっていった。そのため，浄土教にすがる有力な貴族は，我も我もと阿弥陀如来像を注文してくるようになる。そのため，阿弥陀如来像の需要が急激に増加してしまって，今までの**一木造**じゃあ生産が間に合わなくなっちゃったんだ。一木造っていうのは一本の木を丸ごと使う方法だったから，何体も作るのは大変だもんね。そこで，頭や手など各部分を別々に造って，出来上がったらそれを組み立てるという**寄木造**が広まっていったんだ。つまり流れ作業みたいなものだね。これによって大量生産が可能になったんだけど，この彫法を考えて完成させた人物が**定朝**だ。この定朝が造った寄木造の代表的な作品が**平等院鳳凰堂阿弥陀如来像**。この平等院鳳凰堂もやっぱり浄土教の建物だから阿弥陀堂があって，そこには阿弥陀如来が置いてあるわけだね。ちなみに，この定朝ってオッサンはこの当時有名な彫刻家で，後の鎌倉時代に出てくる運慶・快慶の先祖の人だ。また，この他にも**法界寺**や**浄瑠璃寺**にも寄木造による阿弥陀如来像があるけど，これは無理して覚えなくてよい。

［C］絵画



〔高野山聖衆来迎図〕

絵画の世界でもやっぱり浄土教の影響が強い。来世利益を唱える浄土教では死ぬときに阿弥陀如来が迎えに来てくれるという。でも「さあ～，死ぬぞ」って時に本当に来てくれるのか不安になるよね。そこで，「大丈夫，阿弥陀様はこんな感じで君の死を迎えに来てくれるから」って安心させるために，その臨終の時の様子を描いたのが**来迎図**と呼ばれるものなんだ。写真を見てみると，中央に阿弥陀如来がいて，そのまわりに菩薩を伴ってやってくる様子が描かれている。特に有名なものには**高野山聖衆来迎図**や，平等院鳳凰堂扉絵・青蓮院不動明王像があるけど，余裕があったら高野山聖衆来迎図を覚える程度でいいよ。

ここまでが，浄土教の影響下の美術品。一方で，この時代には唐の衰退などを背景に，中国文化に基礎をおいた日本風文化が形成されていくようになったよね。そのため，絵画に関しても今までの中国風の**唐絵**(中国風絵画のこと)から，日本の風景を題材にした**大和絵**(日本風絵画のこと)が描かれるようになっていったんだ(院政期になると，これが絵巻物へと発展していく)。この大和絵の祖といわれるのが**巨勢金岡**で，この他にも百済人を祖とする**百済河成**がいるけど，百済河成は余裕があったら覚える程度でいい。ただ，彼らの作品は現存していないから，作品は聞かれることはない。

［D］工芸・書道


〔蒔絵〕

今説明したように，大和絵は国風文化のもう一つの特徴である中国文化に基礎をおいた日本風文化の影響によるものだった。こうした中で，日本独特の工芸品も起こってくる。その一つが**蒔絵**という技術だ。蒔絵というのは，

© 不許複製禁転載

江戸時代でもう一回出てくるので，ここでは飛ばしてもらっても構わないけど簡単に説明しておこう。蒔絵というのは，簡単にいうと，箱や茶碗とかいった漆器の上に，金や銀で文様を描いていく美術のこと。

でも，普通箱の上に金粉とか銀粉を蒔いたとしてもくっ付かないよね？普通はパラパラって落ちてしまうのが定石だ。そこで，まず漆器の上に漆を塗っておくんだ。そうすると，この漆はベトベトして糊(のり)みたいになる。そして，その漆を塗りながら文様を描いていくんだ。そうして，描き終わったら，その上から金粉とかを蒔くと，漆が接着剤みたいな役割になって，金粉が箱にくっ付くんだ。これによって，文様を描いていくわけだね。

漆器の表面に金・銀で文様をつけるのが蒔絵。貝殻などを薄く切り取って文様をつけるのが螺鈿



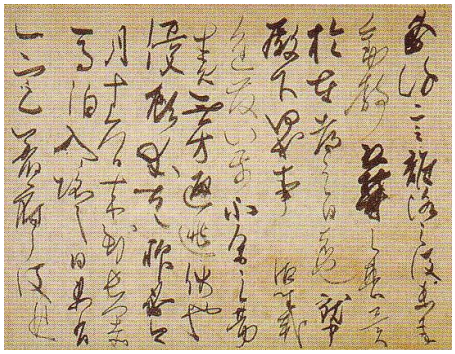
〔螺鈿蒔絵〕

一方で，唐から伝わった**螺鈿**(らでん)というものもこの時期から始まったんだけど，螺鈿って何じゃそりゃって感じだよね。これも蒔絵と似ていて，漆器などの表面に文様をつける技法だ。例えば，アワビ貝とか夜光貝みたいな，光を放つ綺麗な貝がらとかがあったとするでしょ？そうしたら，それら貝殻を薄く切り取って，漆器などの表面にはめ込んでいく。この技法が螺鈿だ。

さて，このように日本風文化のものが始まっていくわけだから，書道についても中国風の書体から日本風の書体へと移っていく。だから，弘仁・貞観文化の頃は空海・嵯峨天皇・橘逸勢といった三筆のように唐風の力強い書体で描かれていたけど，国風文化になると日本風の流れるような優美な書体である**三蹟**(三跡)へと移っていったんだ。この三蹟にあげられる人物が**小野道風**・**藤原佐理**・**藤原行成**の 3 人で，彼らの書いた書状が以下のものだ。

＜三蹟の主な書状＞

小野道風「秋萩帖」（小野道風の書と伝わる）
藤原佐理「**離洛帖**」（大宰大弐の赴任途中にあてた書状）
藤原行成「白氏詩巻」（**世尊寺流**の祖とされる）



〔離洛帖〕

基本的に三蹟の三人の作品は，**藤原佐理**の書状である『**離洛帖**』（藤原佐理が任地への旅の途中で甥にあてた書状）をちゃんと覚えておいて，それ以外の『秋萩帖』と『白氏詩巻』は暇だったら覚えておく程度でいい。ただし，藤原行成が，後に多くの書道の流派の源になっていった**世尊寺流**という書道の流派の一つの祖となったということは押さえておいてね。

＜三蹟の覚え方＞

☆「風と共に去り行く」
　風と→道風／去り→佐理／行く→行成

［F］文学

何度も何度もしつこいけど，この国風文化の時期になると日本風の文化が形成されるようになったよね。だから，今までは文学といったら中国風の「漢詩文」だったけど，この時期になると日本風の「和歌」が中心となっていく。そこで，天皇が自ら編纂を命じた和歌集がこの時期からつくられるようになったんだ。その最初の勅撰和歌集として，**醍醐天皇**の命令によって **905 年**に編纂されたのが有名な『**古今和歌集**』だ。これは，**紀貫之**・**紀友則**・**凡河内躬恒**らが編纂して出来上がったものなんだけど，この和歌集の最初(巻頭)と最後(巻末)にそれぞれ序文が書かれている。序文というのは，この和歌集を編纂した趣旨などを述べた内容のことなんだけど，その最初(巻頭)は**紀貫之**によって仮名序(平仮名で書か

© 不許複製禁転載

れた序文)で書かれていて，最後(巻末)は紀淑望によって真名序(漢字で書かれた序文)で書かれているんだ。その『古今和歌集』に載せられた歌人として有名なのが，紀貫之や六歌仙と呼ばれる**僧正遍昭**・**在原業平**・**小野小町**・**喜撰**・**文屋康秀**・**大友黒主**だ。

なお，上智大学文学部(国文・英文など)の入試問題では「大伴黒主は六歌仙の一人である。」という正誤問題があった。そして，その答えは，選択肢の「大友黒主」の「友」が「伴」になっているから誤りというもの。普通，正誤問題で漢字の誤字を「正誤問題の誤り」と捉えることってないんだけど，さすがは上智クオリティーだね…(苦笑)。

＜六歌仙の覚え方＞

☆「大小の文に喜ぶ僧在り」

大→大友黒主／小→小野小町／文→文屋康秀／喜ぶ→喜撰／僧→僧正遍照／あり→在原業平

そして，この平安時代から鎌倉時代までの間に，天皇の命によって編纂された勅撰和歌集が８つ成立するんだ。それらをまとめて**八代集**と言う。だから，『古今和歌集』はその八代集の最初にあたるわけだね。

＜八代集(勅撰和歌集)＞

『古今和歌集』→『後撰和歌集』→『拾遺和歌集』→『後拾遺和歌集』
→『金葉和歌集』→『詞花和歌集』→『千載和歌集』→『新古今和歌集』

なお，この『古今和歌集』と天平文化で学習した『万葉集』の違いがわからないという受験生がいるので補足説明しておこう。弘仁・貞観文化のところで最古の漢詩集『**懐風藻**』(天平文化に成立)と最初の勅撰漢詩集『**凌雲集**』(弘仁・貞観文化に成立)の違いは，勅撰であるのか勅撰でないのか，だと述べたよね。つまり，『懐風藻』は天皇の命令関係なしに作られた漢詩集であり，『凌雲集』は天皇の命令によってつくられた漢詩集である，ということだ。これと同じ関係にあるのが，最古の和歌集『**万葉集**』(天平文化に成立)と最初の勅撰和歌集『**古今和歌集**』(国風文化に成立)だ。つまり，『万葉集』は天皇の命令関係なしに作られた和歌集であり，『古今和歌集』は天皇の命令によってつくられた和歌集である，ということだね。だから，それぞれ「最古の」と「最初の勅撰」という違いと「漢詩集」と「和歌集」の違いに注意してほしい。

＜漢詩集と和歌集＞

最古の漢詩集＝『懐風藻』(天平文化)→最初の勅撰漢詩集＝『凌雲集』(弘仁・貞観文化)
最古の和歌集＝『万葉集』(天平文化)→最初の勅撰和歌集＝『古今和歌集』(国風文化)

これで和歌に関する内容は終了。続いては，古文でもよく出題される物語文学や日記文学について説明していこう。この時代は，古文でも多く出題されるように文学作品が数多く生まれた時代だ。では，なぜこのように文学が発達したのかというと，それには仮名文字の発達が影響している。

もともと古代の日本では，中国から伝来した漢字を用いて文章が書かれていた。この漢字のことを**真名**というんだけど，天平文化の時期になると**万葉仮名**と呼ばれる音読みと訓読みを混ぜて読む文字が生まれていったよね。例えば「疑いもなし」という言葉を「疑毛奈思」と音読みと訓読みを混ぜて読むということだ，…と天平文化のところで述べたと思う。こうした万葉仮名から発達してこの時期に成立したのが，草書体漢字を簡略化した**平仮名**(ex.「安」→「あ」)や，漢字の偏などの一部からとった**片仮名**(ex.「阿」→「ア」)なんだ。こうした仮名文字の発達によって，女性達も文章が書けるようになったため，仮名文学や女房文学が多く書かれるようになったわけだ。

ちなみに，その当時は仮名文字は女性のものとされていたから，男性はこういった物語文の作者としては登場してこない。まあ，唯一の例外は**紀貫之**の『**土佐日記**』だね。彼がなぜ仮名文字を使って日記を書いたかというと，その時期彼は最愛の娘を亡くして沈んでいた。だから，自分の心情を表しやすい仮名文字を使って書いたんだ。

© 不許複製禁転載

こういった作品の内容に関しても熱く語りたいんだけど(嘘)，ページ数の関係上，あまり多くを書くことは出来ないんだ(これも嘘)。だから，その作品の作者と概要を簡単に記しておくよ(本当は面倒だからあんま書きたくないだけ)。これは古文でも聞かれる内容だから一石二朝だよね。もし，詳しい内容が知りたかったら古文の先生のところに聞きに行ってみるのがいいね(くれぐれも俺のところには来ないように。来たら張り倒すから)。

	作品名	作者名	内容
物語文学	『竹取物語』	未詳	竹取の翁とかぐや姫の物語などを描いた最古の物語文学。
	『伊勢物語』	未詳	在原業平が主人公の和歌を中心とした歌物語。始まりは「昔，男ありけり」
	『大和物語』	未詳	伝説・説話集的性格の強い歌物語。遣唐副使清原俊蔭の子孫の音楽をめぐる物語。
	『宇津保物語』	未詳	洞穴に住む貧しい一家が，琴の霊力により繁栄する物語
	『落窪物語』	未詳	落窪の君が継母にいじめられるも貴公子に愛される物語。日本版シンデレラ。
	『源氏物語』	紫式部	光源氏の恋愛と薫大将の悲劇を描いた代表的物語文学。
日記	『土佐日記』	紀貫之	土佐守の任期を終えた貫之が土佐から帰京するまでの仮名日記。
	『蜻蛉日記』	藤原道綱の母	夫，藤原兼家との不和を中心とする家庭生活を描く。
	『和泉式部日記』	和泉式部	自分と敦道親王との恋愛を歌日記風に記した回想記。
	『紫式部日記』	紫式部	一条天皇の中宮彰子に仕えている間のことを随筆風に描く。
	『更級日記』	菅原孝標の女	父の任地上総からの帰京より老境までを回想した自伝。
随筆	『枕草子』	清少納言	一条天皇の中宮定子に仕えていた頃のことを書く。

このように，国風文化になると貴族の中では和歌，女性の中では物語文学が書かれるようになっていったわけだ。でも，これによって弘仁・貞観文化の時に盛んだった漢詩文が無くなったというわけではない。やっぱり，この時代も，大学では漢詩文を学ぶ紀伝道が重視されているから，漢詩文は貴族の教養として必須のものなんだ。だから，国風文化になって和歌が盛んになってきても，漢詩文は詠まれていて，それぞれ私的に漢詩文集などがまとめられているんだ。

そうした漢詩文集の代表的なものが，藤原明衡が今までの優れた漢詩文を撰集した『本朝文粋』だ。ちなみに彼は大名田堵の出現を述べた『新猿楽記』という著書も書いていたよね(土地制度史において既習済み)。一方で，藤原公任が私的に和歌などを集めて編纂したものが『和漢朗詠集』。これは和歌も漢詩もひっくるめて朗詠(声に出して詠む)に適したものを集めたものだ。また，こうした漢詩文を読んだり書いたりするにあたって，中には知らない漢語も出てくることがあるよね。そこで，源順が著した百科事典的な性格ももった漢和辞書が『倭名類聚抄』だ。

［G］生活

さて，じゃあ最後にこの時代の貴族や庶民の生活について見ていこう。これまでの弘仁・貞観文化の時期は，中国文化の影響を受けていたため，中国風の服装が着用されていた。一方，国風文化の時期になると，日本風文化の影響から日本的な服装が着用されるようになっていったんだ。


〔束帯〕


〔女房装束(十二単)〕

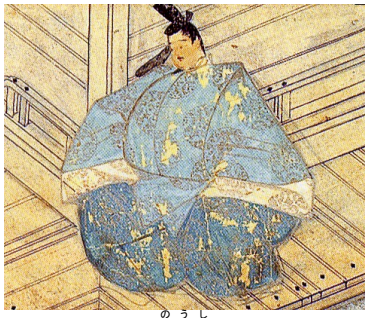
こうした日本風の服装として，男性が着用したのが束帯と，それを簡略化した衣冠だ。貴族の場合，何かしら朝廷の儀式とかがある場合には，ちゃんとした正装と呼ばれるもので参列しなきゃいけない。そこで着用するのが束帯と呼ばれるもので，この束帯を簡略化したものを衣冠と言うんだ。よく，衣冠・束帯という順番で言ったりするんだけど，これっておかしいよね。普通なら束帯の方がちゃんとしてるのだから，逆に束帯・衣冠って言うべきだよね。

それに対して，女性が着用する正装は俗に十二単なんて呼ばれる女房装束だ。ちなみに聞かれ方は女房装束を聞くほうが多い。なぜかという

© 不許複製禁転載

と，十二単は単(和服)の上に袿を 12 枚重ねて着るんだけど，これは通称にすぎず正式な呼び方じゃないからなんだ。あと必ずしも 12 枚着るとは限らないってのもあるね。

じゃあ，普段もそんな格好しているのかといったら，そうじゃない。君たちも正装である制服をずっと着用してはいないでしょ。だから，貴族たちにも普段着があるんだ。それが男性の場合は**直衣**・**狩衣**。女性の場合は**小袿**や**袴**だ。ちなみに前者の読み方は“のうし”だから気をつけてね。


〔直衣〕

一方，一般人はそんなまともな服装はしていない。男性の場合は右の絵のような**水干**や**直垂**を着ていて，女性の場合は**小袖**を普段着にしているんだ。ちなみに，これら全てが日本史で聞かれることは少ないけど，古文との併用も兼ねて，あえて日本史では出ないものも太字にしたので注意しておこう。特に読み方は古文では必須になってくるからね。


〔水干〕


〔直垂〕

さて，話が一般庶民の内容に移ってしまったから．再び貴族の話に戻そう。こうした貴族たちは，それぞれ自分の邸宅を構えて，そこに住んでいる。その貴族の住んでいる邸宅の建築様式が有名な**寝殿造**だ。寝殿造がどういう形式なのかは，写真を見てもらえばわかりやすいかな。これは**源高明**の娘**明子**の**東三条邸**の様子なんだけど，まぁ簡単に言えば，貴族のリッチな邸宅ってところだね。なお，この他にも藤原道長の邸宅である**土御門邸**も有名だよ。



〔東三条邸〕

そして，貴族たちが大人の階段を上る際に行う儀式が成人式だ。君たちは 20 歳で成人を迎えるけど，この当時はもっと早く 15 歳ぐらいで成人とみなされた。その成人儀式のことを，男の子の場合は**元服**(**初冠**とも言う)，女の子の場合は**裳着**と言うんだ。

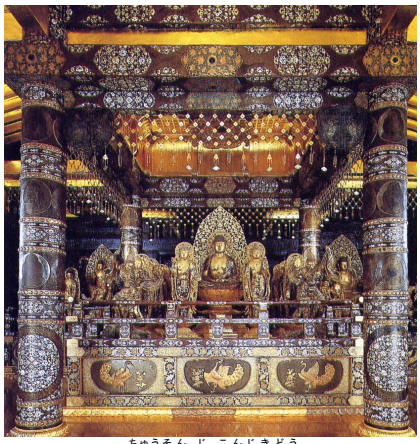
こうした成人儀式は個人としての行事だけれども，国家的な行事もある。例えば元日とか端午の節句，七夕・祈年祭などだね。このような朝廷で慣例として毎年行われる儀式のことを**年中行事**というんだ。そして，これらの儀式を行う際には当然「この儀式はこのようなやり方で行う」などといった決まりなどがある。そのため，これら朝廷の儀式や行事のあり方を記した儀式書が編纂されたんだ。代表的なものでいえば，**源高明**の『**西宮記**』や**藤原公任**の『**北山抄**』が有名だね。こうした朝廷を儀式や年中行事を研究していく学問は後に**有職故実**と呼ばれ，鎌倉時代以降の公家の中で発展していくので，その先駆けとして知っておこう。


〔安倍晴明〕

ところで，安倍晴明って知ってる？この人はちょい前に『陰陽師』として，映画でヒットしたから知っている子もいるかな。まぁ，知らない人のために簡単に言うと，占い師だ。今現在でも占いとかに夢中になっていたりする子がいるでしょ？この平安時代の頃にも，こうした占いや迷信などが流行していて，**陰陽道**という学問が流行っていたんだ。これは古代中国の**陰陽五行説**というものに基づいたものなのなんだけど，結局は単なる占いを研究する学問のこと。まぁ，こうした陰陽道の影響から，この当時には一定期間家に謹慎したりする**物忌**や，道を歩くときに縁起の悪い方向を避け，縁起の良さそうな方向へ歩くという**方違**という迷信も生まれたんだ。特に読み方には注意しておこう。まぁ，単なるジャイアンを恐れるのび太的な思考回路と同じだと思うけどね。

© 不許複製禁転載

［A］建築


〔中尊寺金色堂〕

文化の特徴のところで話したけど，この時代の文化はさして国風文化と変わりはない。末法思想により浄土教が隆盛していて，これが地方へも普及していく。それがこの時代の仏教の特徴だったね。だから，国風文化の頃には，中央にしかなかった阿弥陀堂建築が，院政期になると地方へと普及していくんだ。そのため，地方でも阿弥陀堂の建築物が建てられていくようになる。

こうした地方に建てられた阿弥陀堂建築の中で最も有名なのが，藤原清衡が陸奥国（岩手県）平泉に建立した中尊寺金色堂だ。これはその名の通り，内側も外側も金箔が押されてある金ピカの建築物だ。もともと奥州は金の産出量が多いため，それを背景にして建てられたわけだね。そして，内部には奥州藤原氏 3 代（清衡・基衡・秀衡）の遺骸が納められているんだけど，この 2 代目の基衡も毛越寺を，3 代目の秀衡も無量光院をそれぞれ建築しているので，そちらも押さえておこう。なお，奥州藤原氏を滅亡させることになった 4 代目の泰衡は特に何も建立していないし，中尊寺金色堂にも遺骸は納められていない。

＜奥州藤原三代の覚え方＞

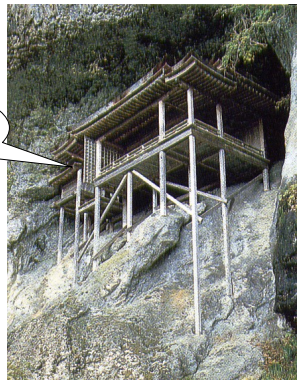
☆「肝冷やす，チューも無料！？」

き→清衡／も→基衡／ひ→秀衡／やす→泰衡／チュー→中尊寺／も→毛越寺／無料→無量光院

この中尊寺金色堂以外で代表的なものは，大分県（豊後国）にある富貴寺大堂や，福島県（陸奥国）にある白水阿弥陀堂，鳥取県（伯耆国）にある三仏寺投入堂といった阿弥陀堂建築がある。でも，この三仏寺投入堂は崖に立っているんだけど，よくこんな所に建てたものだよね。


〔富貴寺大堂〕


〔白水阿弥陀堂〕



〔三仏寺投入堂〕

＜阿弥陀堂建築の覚え方＞

☆「鳥さん，だいぶ富貴な白い服」

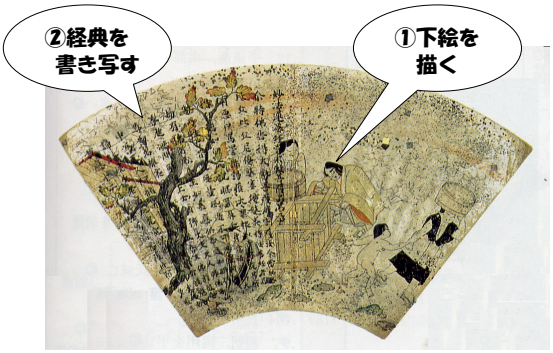
鳥→鳥取／さん→三仏寺／だいぶ→大分／富貴→富貴寺／白い→白水／服→福島

［B］絵画

こういった浄土教隆盛の背景となった末法思想の影響はやっぱり大きくて，その一つとして装飾経というものがある。これは，経典の一種なんだけど，一言で言うと貴族などによって制作された豪華な経典のこと。例えば，紫色とか紺色などの紙の上に，金や銀で経文（お経の文）を写したり，絵などを書いたりするんだ。この時期には末法思想の影響から浄土教が流行していたよね？だから，貴族たちは極楽往生や，自分たちの繁栄や安全を祈って，経典に美麗な装飾を施して，寺社に奉納していったんだ。

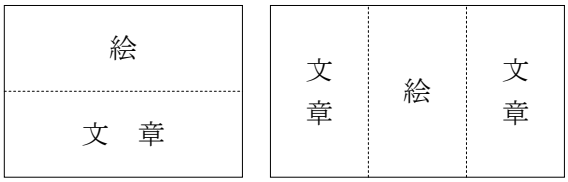
© 不許複製禁転載

こうした装飾経の中で「扇」形の紙に経典を書写したものが『扇面古写経』だ。これは．まず，紙の上に大和絵で当時の庶民や貴族の生活を描く。そして，その上から経典を書写していき，後でそれを寺社に納めるんだ。ちなみに，現在その扇面古写経は，大阪の四天王寺や東京国立博物館に所蔵されている。また，平家の平清盛も，一族の繁栄を祈願して『平家納経』を安芸国(広島県)の厳島神社に奉納している(この厳島神社参詣のために，安芸国(広島県)に開削されたのが音戸瀬戸である)。



〔扇面古写経〕

国風文化の時期には，日本風絵画である大和絵が描かれるようになったよね。これを機に，文章と絵を組み合わせて，よりわかりやすくする絵巻物がこの院政期に描かれるようになったんだ。この時代は，貴族に対して庶民などの識字率(文字の読み書き能力)は低いから，文章が読めなくても絵で何となく雰囲気がわかるしね。なお，絵巻物の描き方には，右のように上に絵を描いて，下に文章を書くといったものや，絵と，文章を交互に書いていくといった2通りがある。



こうした絵巻物で有名なのが源氏物語を題材にして藤原隆能が描いた『源氏物語絵巻』だ。今では滅多に見なくなったけど，2千円札の表に描かれているのが『源氏物語絵巻』なんだよ？ちなみに，これの描き方は室内の様子を描くために天井や屋根を取り払った吹抜屋台の手法が用いられていて，人間は根本式画風にそっくりな引目鉤鼻で描かれているよね。



〔源氏物語絵巻〕 by藤原隆能

他にも，常盤光長が描いた『伴大納言絵巻』も有名だね。これは，応天門の変(866)を題材にしたものなんだけど，応天門の変で失脚した人物の名前と，その官職名を答えられるかな？

当時，大納言の身分にあった伴善男は，左大臣の源 信を失脚させようと企んで，応天門に放火をした。しかし，結局その事件の真実が発覚しちゃって，伴善男らは流罪とされてしまった。これが応天門の変だったよね。おそらく事件の真相は伴善男らが犯人なんだろうけど，この事件ももしかして実は藤原氏による陰謀だったのじゃないか，という噂もずっと存在していた。そのため，この『伴大納言絵巻』では，その大納言の伴善男を悲劇の主人公として扱っているんだ。これで『伴大納言絵巻』の「伴」と「大納言」の意味がわかったかな？



〔鳥獣戯画〕 by鳥羽僧正覚猷

一方，鳥羽僧正覚猷の描いたといわれる『鳥獣戯画』。これは動物を擬人化して，貴族や僧を皮肉ったものなんだ。絵を見ればわかるけど，猿の坊主がカエルの仏像に対してお経を唱えていたりするでしょ。当時の仏教界が腐敗していた様子をこういった風刺画でおちょくってみたんだろうね。

© 不許複製禁転載

また，大和の信貴山を復興させた命蓮にまつわる奇跡を描いたのが『信貴山縁起絵巻』だ。縁起絵巻というのは，その寺や神社が出来た由来などを記したものなんだけど，なぜこういったものが描かれたのか？それは単純な理由なんだけど，信者を獲得するために，その寺がなぜ信仰されるようになったかを示そうとしたから。ちなみに，余談だけど，この絵巻物が起源となって，今現在日本の文化として定着したものがマンガなんだよ。



〔信貴山縁起絵巻〕

こうした絵巻物は鎌倉時代にも描かれるんだけど，まずはこの院政期に描かれた絵巻物をちゃんと覚えておかないとね。そこで以下のゴロで覚えておけばいい。

＜院政期の絵巻物の覚え方＞
☆「原人番長失禁さ」
原人→源氏物語絵巻／番→伴大納言絵巻／長→鳥獣戯画／失禁さ→信貴山縁起絵巻

［C］文学

この院政期には徐々に武士という勢力が力を強めていった時代でもあったよね。源氏や平氏といった武士団が成長していき，やがて平将門の乱とか，前九年の役，後三年の役といった戦いが起きた。10 世紀になると，こういった武士による本格的な合戦が起きたことから，合戦をテーマにした軍記物語というジャンルも書かれるようになったんだ。それが，平将門の乱を題材にした『将門記』であったり，1051 年の前九年の役を題材にした『陸奥話記』だ。…でも，前九年の役の軍記物語が書かれたのなら，もう一つの後三年の役の軍記物語は書かれていないのか，って思うよね。後三年の役に関しては，軍記物語ではないんだけど，後の南北朝時代に『後三年合戦絵巻』というものが描かれている。この『後三年合戦絵巻』は，難関私大で出題されることがあるので気をつけておきたい。何でか？よく，この『後三年合戦絵巻』は鎌倉文化のところで教えるんだけど，実は成立時期は 1347 年だから南北朝時代にあたるんだよね。だから，いろいろ絵巻物を選択肢に用意して「最も成立時期が遅いものはどれか？」なんてやってくるんだ。

さて，武士が勢力を伸ばし「武者の世」となってくる中で，一方の公家は，貴族社会の退潮を自覚するようになる。そうなると，「あ〜，昔はよかったな〜」と，過去の華やかな栄光を懐かしむようになる。そのため，こうした歴史意識に基づいて，今までの『源氏物語』のような物語文学とは違った，新たな歴史物語が描かれるようになる。それが，赤染衛門(女性)が書いたといわれる藤原道長の栄華を賛美した『栄華(花)物語』や，藤原道長の栄華に批判的な『大鏡』だ。

『栄華物語』は藤原道長の全盛を称えることで，華やかな宮廷生活が感傷的に描かれている。『大鏡』も，道長の権勢とその由来を中心に描いた歴史物語。でも，『栄華物語』とは違って，大宅世継と夏山繁樹という二人の老人に若侍が加わって，人々の前で語る構成で，摂関政治に対する批判精神がみえる。ちなみに，この『大鏡』以降につくられた『今鏡』『水鏡』『増鏡』をまとめて『四鏡』と言うのは古文でやってるよね。ちなみに成立時期はそれぞれ異なるから，同じ時代だと勘違いしないでね。

＜四鏡の覚え方＞
☆「大根水増し」←メジャーすぎな覚え方だけどね
大→大鏡(院政期)／こん→今鏡(鎌倉期)／水→水鏡(鎌倉期)／増し→増鏡(南北朝期)

© 不許複製禁転載

上でも述べたように，平安後期になると「武者の世」となり，貴族社会は衰退していった。それに伴って，貴族たちは昔の貴族政治の全盛期を振り返るようになっていく。そこで，昔の貴族全盛期の頃の物語や伝説などの説話を集大成しようとしたわけだ。この説話文学として，この時期に編纂されたものが**源 隆国**が著したと言われる『**今昔物語集**』だ。これは本朝(**日本**)・天竺(**インド**)・震旦(**中国**)の 3 カ国の 1000 近くの説話を集めたものなんだけど，この『今昔物語集』にどんな内容が載っているか，君たちは学習しているハズなんだ。

例えば，10 世紀に国司として**信濃国**に赴いた**藤原陳忠**という人物がいたよね。その彼の有名な話がこれだ。

「藤原陳忠は，信濃守の任期を終えて京へ帰還しようとしていた。ところが信濃の国境を過ぎるとき，乗っている馬が橋を踏み外し，馬ごと深い谷へ転落してしまった。周りの随行者たちが谷を見下ろすと，とても生存しているようには思われなかった。しかし，谷底から陳忠の「かごに縄をつけて降ろせ」との声が聞こえたので，かごを降ろしてみた。すると，引き上げてみると，かごには陳忠ではなく平茸が満載されていた。再度かごを降ろし，引き上げると今度こそ陳忠がかごに乗っていたが，片手に一杯の平茸を掴んでいる。随行者たちが安心し，かつ呆れていると，陳忠は「転落途中に木に引っかかってみれば、すぐそばにヒラタケがたくさん生えているではないか。宝の山に入って手ぶらで出てくるのは悔やみきれない。『**受領**は倒るるところに土をつかめ』と言うではないか。」と言い放った。」

これは，まさに貴族全盛期の頃を扱った内容で，この内容が『**今昔物語集**』に記されているわけだ。ちなみに『今昔物語』にしないように気をつけてね。ちゃんと“集”を入れないとダメだよ。

一方，この時期になると徐々に庶民の中でも文化というものが形成されていく。でも，基本的に庶民の文化といったら「歌う」と「踊る」ぐらいしかない。君ら高校生(高卒生)も遊ぶとしたら，カラオケとかしかないでしょ？だから，この時代でも歌謡といって民間で流行っている音楽がある。んで，この当時流行っていた現代歌謡のことを**今様**といって，ちょっと前の古代歌謡のことを**催馬楽**というんだ。これらは，はじめ**白拍子**(歌舞を舞う遊女)の間で歌われていたんだけど，その遊女と戯れる貴族社会にも流行していったんだ。こうした当時流行っていた今様・催馬楽を集めて**後白河法皇**がつくったヒットソング集みたいなものが『**梁塵秘抄**』だ。でも，「何で後白河法皇みたいなトップの人が，そんな庶民の歌を知ってるの？」って気になるよね。でも，それは簡単なことで，法皇自身も**白拍子**から習ったからなんだ。

☑ 今様『梁塵秘抄』by 後白河法皇

仏は常に在せども，現ならぬぞあはれなる，人の音せぬ暁に，仄かに夢に見えたまふ。

(訳①…阿弥陀如来さまは，不滅なものとしていつも存在するのだが，目に見えないことが，尊いのだ。人の物音のしないような静かな暁には，かすかに夢の中に姿を見せてくださいます。

(訳②…阿弥陀如来さまは，いつも私たちの身近にいらっしゃってくださるのですが，私には迷いが多いので，お姿を見ることができません。たまたま一人で眠った夜の暁などには，夢の中で，かすかにお会いすることができますが。

遊びをせむとや生まれけむ，戯れせむとや生まれけむ，
遊ぶ子供の声聞けば，我が身さへこそ動がるれ。

(訳①…私たちは遊びをしようとしてこの世に生まれてきたのだろうか？それとも戯れをしようとしてこの世に生まれてきたのだろうか？無心に遊んでいる子供たちの声を聞いていると，自分の体も自然と動き出すように思われる。

(訳②…私は，このように「遊女」として遊び戯れるために生まれてきたのだろうか？今，部屋外の路地あたりから聞こえてくる無心な子供たちの声を聞いていると，私の境遇や過ぎ来し方が，悔恨を伴って身を震わせることだ。)

© 不許複製禁転載

［A］建築

さて，鎌倉時代の文化に入っていきたいんだけど，この鎌倉時代が成立する上で，最も重要なのが**治承・寿永の乱**(源平合戦)だ。これは源氏と平氏が争った戦いとして有名だけど，少しその源平合戦の頃の話をしよう。

そもそも源平合戦に火がついたのは，平氏の専制によるものだったよね。平氏が強大な権力を握って，最終的には **1179 年**に**平 清盛**が**後白河法皇**を**鳥羽殿**に幽閉してしまうなんて事態に発展してしまった。そのため，これに怒った後白河法皇の皇子である**以仁王**は「平氏を倒せ～」という**令旨**(皇族からの命令文書)を全国に送ったわけだ。そして，これに呼応した**源 頼政**らが挙兵して以仁王と共に戦ったんだけど，あえなく彼らはやられてしまった。

でも，この源頼政だけじゃなく，以仁王の令旨は全国に送られていたから，木曾の**源 義仲**や**伊豆**の**源 頼朝**なんかも立ち上がることになった。そして同じく，平氏の専制に対して不満を持っていた**南都**の**東大寺**や**興福寺**の僧兵たちも立ち上がったんだ。ところが，調子に乗って兵を挙げてみたら，すぐに以仁王たちは倒されてしまった。僧兵たちからすれば「…あれれれれ。話が違うよ。…やべえよ，これ」って感じだ。当然，以仁王らを倒した後，平氏は反撃にくるよね…。でも「えっへっへ…。ごめんなさい…」じゃ済まされない。平氏はもうプンプンだからね。そして，怒れる**平 重衡**(清盛の子)によって，**東大寺**と**興福寺**は焼打ちされちゃったんだ(これを南都焼打ちという)。


〔東大寺重源上人像〕

あの東大寺がなくなってしまったというのは，文化的な大打撃だ。そこで，治承・寿永の乱が終わった後，**源 頼朝**により「東大寺を建て直そう～」という東大寺再建事業が始まったんだ。その東大寺再建のためのトップである勧進職に選ばれたのが**重源**(**俊乗坊**)っていう坊さんだ。そして，彼の尽力によって，1195 年に大仏再建供養が行われて，ようやく東大寺の大仏は元の姿を取り戻したんだ。そのため，**東大寺**には右の写真のように『重源上人像』が祀られている。

なお，重源は，大仏を再建するために，宋の工人で日本にやってきていた**陳和卿**にもその協力を求めている。そして，この陳和卿は大仏の首を修復しただけじゃなく，3 代将軍**源 実朝**の命令で渡宋用の大船を建造しているんだ。ちなみに，なぜ実朝がそんな命令を陳和卿に命じたのかというと，実はこの実朝君は学問のため宋に渡ろうと考えていたからなんだ。まあ，その詳しい理由は後々出てくるけど，実朝って和歌の名人でもあり，かなりの学問オタクだったからね。そして，その船がようやく完成して，後はその進水式。実朝も「さあ～，進水式だ～」って期待ワクワクだったんだけど，いざその船を浮かべてみたら，進水できずに沈んでいっちゃったんだってさ。実朝もちょっと可愛そうだよね。


〔**東大寺南大門**〕 by**大仏様**

さて，話を戻そう。この東大寺を再建するわけだから，各建築物も再建されることになる。その中の**東大寺南大門**を建築するにあたって用いられたのが**大仏様**(**天竺様**)という建築様式だ。これは宋の建築様式の一つで，天井を張らないのが特徴だったんだけど，屋根はあっても天井がないって何か落ち着かないよね。だから，この東大寺に採用された後はあまり流行らず。逆に，同じく宋から入ってきた**禅宗様**(**唐様**)っていう建築様式の方が，簡素で素朴な感じが禅寺に受けて流行っていったんだ。禅宗様っていうんだから，これを採用した代表的な建築物も禅寺関係で，**円覚寺舎利殿**が有名だ。なお，円覚寺ってのは，**北条時宗**の招きで来日した**無学祖元**が建立した禅宗の臨済宗の寺院だったよね。


〔**円覚寺舎利殿**〕 by**禅宗様**

© 不許複製禁転載

鎌倉時代には，宋からこういった新しい建築様式が入ってきたんだけど，もちろん平安時代からの日本の伝統的な建築様式もある。それが**和様**という建築様式で，有名なのが**蓮華王院本堂**（**三十三間堂**ともいう）だ。この蓮華王院本堂は，後白河法皇の命令で**平清盛**が 1164 年に創建したものなんだけど，「じゃあ，鎌倉文化じゃなくて院政期文化じゃん！」って思う子がいるよね？残念ながら，この蓮華王院本堂は，鎌倉時代に焼失してしまって，1264 年に再建されているんだ。そして，その再建時の建築様式が和様だから，この鎌倉文化で問われてくるわけだ。なお，余談だけど，この蓮華王院本堂（三十三間堂）で，毎年成人式に行われる儀式を知ってる？毎年成人の日になると，弓道をやっている新成人の女性たちが 60m（約三十三間）の距離を弓矢で射る「通し矢」という儀式が行われるんだ。『こち亀』を読んでいる子は磯鷲早矢が参加した儀式と気づくかもね（笑）。ただし，建物の長さが三十三間（約 60m）あるから，三十三間堂という風に教える人がいるけど，それは誤り。実際の建物の長さは 120m あるし，そもそも三十三間の「間」って長さの「間」ではなく，お堂内の柱間が 33 あるという建築用語の「間」からきているしね。なお，その他の和様建築としては，石山寺多宝塔や秋篠寺本堂，興福寺北円堂が有名だけど，この辺は文化史大好きクソ上智用の知識だから，受けない子は放っておいていい。



〔**蓮華王院本堂**（**三十三間堂**）〕by**和様**



〔観心寺金堂〕by 折衷様

一方，この和様に，新しく入ってきた大仏様・禅宗様を取り入れたのが**折衷様**で，その代表的な建築物が**観心寺金堂**だ。なお，「折衷」とは「あれこれいろんなものから適当なものをとってくる」っていう意味。つまり，和様も大仏様も禅宗様も，全部いいところを取ってきちゃえ様式ってこと。まぁ，日本風と西洋風の様式を組み合わせた「和洋折衷」の折衷と同じ意味なわけだね。

…でも，ずいぶん建築物と建築様式が多いよね。しかも，それぞれ建築様式が違うんじゃ覚えきれない。そこで，以下のゴロで覚えておこう。ちなみに，このゴロで出てくる「カラ館」っていうのは「カラオケ館」の略だ。

＜鎌倉文化の建築物の覚え方＞

☆「東大ってじぇ〜んぜん（全然）カラ館設置されんわ」

東→東大寺南大門／大→大仏様／てじ→天竺様

ぇ〜ん→円覚寺舎利殿／ぜん→禅宗様／カラ→唐様

館→観心寺金堂／設置→折衷様

れん→蓮華王院本堂／わ→和様



〔武士の館〕in『**一遍上人絵伝**』

なお，右の写真は『一遍上人絵伝』における武士の館を描いた様子。昔は平安時代の貴族の邸宅である寝殿造とはまったく違う様式の武家造と言われていたんだけど，現在では寝殿造を簡略化した様式だということがわかり，入試では問われなくなった語句だ。

［B］彫刻

さて，彫刻に入っていこう。やっぱり，この鎌倉文化の背景となっているのは仏教思想だ。ほら，国風文化のところで，末法思想の話をしたけど，1052 年からはずっと末法の世でしょ？だから，この時代も当然，末法の世であり，武士も不安になってきて仏教にすがりたいんだ。でも，この時代の武士には教養があまりなくて文字も読めない人が多い…。そこで，彫刻とかいった形而下（形あるもの）のものを見ることで，仏教を理解しようとしたんだ。だから，この時代は彫刻美術が数多く造られている。

© 不許複製禁転載

その中の一つが先ほど建築のところでやった東大寺南大門にある**東大寺南大門金剛力士像**だ。これは，東大寺南大門の入り口のところの両脇にそれぞれ二体立っている。正にこれこそ武士の気風が表れているものといえるよね。ちなみに，どうでもいいんだけど，この二体にはそれぞれ名前がついていて，左の口を「あ～」と開けているのが阿形で，右の口を「ん～」と閉じているのが吽形なんだ。この2つは，8mを越える大作で，小学校でも習った**運慶**やその子**湛慶**，弟子の**快慶**ら，**慶派**(**奈良仏師**)の一派が総出して70日足らずで制作しちゃったんだって。すごいよね。ちなみに，慶派というのは，運慶とか快慶とか“慶”がつく彼ら彫刻師の一派のことで，まあ，彫刻界のエリート達のことだ。しかも，あの国風文化期に寄木造を始めた**定朝**の流れを組んでいるんだよ。ちなみに下にその慶派の系図と，その作品名を載せておくけど，そりゃ，層々たる顔ぶれだ。ただ，快慶は弟子であるだけで，血がつながってないから気をつけてね。



〔**東大寺南大門金剛力士像**〕by 慶派一派

＜慶派の系譜＞

- **定朝**
  - **康慶**
    - **運慶**（東大寺金剛力士像）（興福寺無著・世親像）
      - **湛慶**（東大寺金剛力士像）
      - **康弁**（興福寺天灯鬼・竜灯鬼）
      - **康勝**（六波羅蜜寺空也上人像）
    - **快慶**（東大寺金剛力士像）


〔東大寺僧形八幡神像〕by 快慶

でも，こいつら慶派の連中がこの東大寺南大門金剛力士像だけ造って終わるわけないよね。当然，他にもいろいろ作品を作っているんだ。例えば，同じ東大寺には，**快慶**のつくった**東大寺僧形八幡神像**がある。この“僧形八幡神像”ってどっかで聞いた覚えがないかな？…弘仁・貞観文化のところで，神道と仏教を同一視する神仏習合の影響から**薬師寺僧形八幡神像**というものが作られていたよね。これは僧の形をした八幡神という神様を示したもので，薬師寺に造られたものだけど，東大寺でもそれとは別に八幡神像が造られたということだ。ちなみに，この神仏習合に関して，以下の内容にまとめておいた。

［神仏習合］

神仏習合に関して，詳しくは弘仁・貞観文化のところで説明したけど，これは神道と仏教を同一視するものだったよね。神道は日本古来の宗教で，仏教はインドから始まり日本に伝わった世界宗教だったけど，二つとも同じように考えてしまうというものだ。具体的に言うと，神道の信仰すべき神様と，仏教の信仰すべき仏様を同じものだと考えること。そうした中で平安時代から考えられていたのが**本地垂迹説**というものだった。これはどういうものかと言うと，仏が本物(本地)で，神様は人の前に姿を現す時の仮の姿(垂迹)だという考え方なんだ。例えば仏教の「**大日如来**」こそが本物の姿(本地)で，神道の「**天照大神**」はその「大日如来」が姿を変えた仮の姿(垂迹)だと考えるわけだ。

ところが，神道側からしてみれば「何でやねん！何で，神様の方が仮の姿やねん！神様の方が本物にすべきやろ！」って感じだよね。そのため，鎌倉時代から神道側からの反発があって，**元寇**で神風が吹いたという神国思想を背景に，神が本物(本地)で，仏は仮の姿(垂迹)であるとする**反本地垂迹説**(**神本仏迹説**)が唱えられるようになったんだ。これを主張したのが，伊勢神宮の外宮の神主だった**度会家行**で，彼が著したのが『**類聚神祇本源**』。“度”を“渡”にしないように気をつけてね。これによって，鎌倉時代からは反本地垂迹説が通説になっていって，彼の神道の一派のことを**伊勢神道**又は**度会神道**なんて言うんだ。

© 不許複製禁転載

一方で運慶らのつくった興福寺無著・世親像を見て欲しい。これは左が無著で，右が世親なんだ。「……って，どっちがどっちか区別つかねーよ。」……ですよね～～(笑)。そう，実はこの２人兄弟で，もともとこれはインドのガンダーラ地方に生まれた法相宗の祖と仰がれた無著・世親っていう兄弟なんだ。法相宗の祖であるから，この仏像も法相宗の中心寺院である興福寺にあるわけだ。天平文化の南都六宗で学習したけど，興福寺は法相宗を研究する学問研究グループだったよね。



〔興福寺無著・世親像〕by 運慶

でも，興福寺の仏像だったら，僕は康弁のつくった興福寺天灯鬼・竜灯鬼の方が好きだね。写真を見てみよう。こいつらは想像上の鬼なんだけど，何かとってもユーモラスな雰囲気がするね……というのが普通の説明。そんな誰でも言えそうな説明じゃ，根本式講義は成り立たない。…写真を見てもらうとわかるんだけど，この鬼たち妙に生意気そうな顔してるでしょ？何か，「オス！オラ天灯鬼，オラ竜灯鬼！」(孫悟空風)みたいに威張ってる感じだよね。でも，いばっていても今の不況の世の中じゃ，こいつらも生活していけない。



〔興福寺天灯鬼(左)・竜灯鬼(右)〕by康弁

ご飯が食べたくても，今の“世の中は金だから”ご飯も食べることが出来ない。鬼だって金がなかったら生活していけないのだ。…そこで，二人はラーメン屋の出前のバイトで生計を立てていくことに決めたんだ。さて，出前の注文が入って初めての配達だ！やっぱ，ここはカッコ良く「出前行ってきやーす！」って担がなきゃ！その勢いよく天灯鬼が出前を持ち上げた場面が，左側の天灯鬼の写真だ。

そして，竜灯鬼も一緒に出前に行ったんだけど，困ったことに途中道がわからなくなっちゃったんだ。その「う～ん，どっちに行こうかな～」って出前を頭に乗っけて考え事しているのが竜灯鬼だ。すんげえ，この竜灯鬼悩んでるでしょ，やっぱ道がわからないんだよね。



〔六波羅蜜寺空也上人像〕by康勝

さて，じゃあこのラーメンを誰が注文したのかというと，六波羅蜜寺で腹を空かせてまっていた空也くんだったんだ。ろくはらで，はらが空腹な空也が待っていたわけだね。「おせ～な～，まだかよ！念仏でも唱えるぞ，このやろう！」って待っていたところに，やっとのことで「へい，お待ち～！」って竜灯鬼が届けにきたんだ！「待ってました～」って食い始めたんだけど，さっき竜灯鬼のやつ道に迷ってたでしょ？だから，麺がもう伸びきっちゃってたんだよね。こいつを食ったもんだから空也くんも「おえ～～！！」って吐き出しちゃったんだ。その決定的瞬間を像にしたのが，康勝のつくった六波羅蜜寺空也上人像だ。これは吐いた時の表情を見事にとらえている。ちなみに“蜜”っていう字を“密”に間違える人多いから気をつけてね。

もちろん今までの話は嘘だらけだ。ただ，根本式の流れはつかめたと思う。本当はこの空也が口から出しているのはラーメンの麺なんかじゃなくて「南無阿弥陀仏」っていう言葉なんだ。実は，空也には可愛がっていた鹿がいたんだけど，そいつが死んでしまった。そこでとっても悲しんだ彼は，その鹿の角を杖につけて，なおかつその鹿の皮を身にまとって念仏を唱えながら歩き回ったそうなんだ。そし

© 不許複製禁転載

て，その空也が「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えると，その一言が口から出てきたというそうだ。まあ，ラーメンが口から出ようが，念仏が口から出てこようがキモイことには変わりないけどね。

ところで，今やった興福寺天灯鬼・竜灯鬼(康弁)と六波羅蜜寺空也上人像(康勝)の制作者は混乱しやすい。どっちがどっちなんだ〜ってなってしまう。そこで，この空也上人の方を以下のように覚えておけばいい。

＜慶派一派の作品の覚え方＞
☆康勝と空也上人像は“勝(しょう)”と“上(しょう)”でつなげる

こうした彫刻の世界では慶派が活躍していたんだけど，中にはこの慶派に属さないで活躍した仏像彫刻師によって制作された彫刻もある。それが鎌倉にある明月院上杉重房像だ。この制作者はわかっていないんだけど，上杉ってのでピンと来た子もいるんじゃないかな？そう，この人は，後に室町幕府の関東管領に就任した上杉氏の祖となった人なんだ。まぁ，余裕があったら覚えておく程度でいいけどね。


〔名月院上杉重房像〕

［C］絵画

鎌倉時代の絵画に関しては基本的には大きく二つに分類することができる。それが肖像画と絵巻物だ。この二つから，また細かく分類できるんだけど，まずは下のまとめを見てみよう。

＜鎌倉時代の絵画＞
- 肖像画
  - **似　絵**…禅宗以外の人物の肖像画
  - **頂　相**…禅宗の修行僧が一人前になった時に，師匠から与えられる師匠の肖像画
- 絵巻物
  - 縁起物…寺社の由来を描いたもの
  - 伝記物…高僧の生涯を描いたもの
  - 合戦物…兵乱や武士を題材としたもの
  - 六道絵…天上・人間・地獄・餓鬼・畜生・修羅の６つの世界の有様を描いたもの



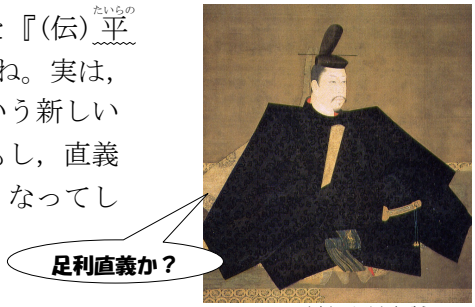
細かい内容に関しては，それぞれ触れていくので，じゃあまずは肖像画の方から見ていこう。そもそも肖像画は**似絵**と**頂相**の二つに分けられるんだ。この似絵って言うのは大和絵の一種で，文字通り“本人に似せて描く肖像画のこと”だ。「えっ？…そんなの肖像画なんだから当たり前ジャン」…って NoNoNo…。実はそれまでの大和絵っていうものは特に本人に似せて描いていたわけではないんだ。しかも，それは本人を見ないで描くことが多かった。ほら，院政期文化の『源氏物語絵巻』とかでもそうだったけど，みんな引目鉤鼻で描かれて同じような顔をしてたでしょ？右の写真を見てもわかるけど，こんなの小学生でも描けるレベルだよね。つまり，平安時代までの絵画における人物の肖像画なんて，お子ちゃまレベルのものでしかなかったわけだ。

その後，鎌倉時代に画期的なものとして登場したのが**似絵**だ。この似絵はちゃんと本人を目の前にして描くものだったから，今までの大和絵とは違って写実的に描かれているというのが特徴。そして，その似絵の代表的な絵師が**藤原隆信**・**信実**父子だ。

＜似絵の絵師…藤原隆信(父)・信実(子)・専阿弥陀仏(孫)＞
藤原隆信(父)　『(伝)源頼朝像』・『(伝)平重盛像』
藤原信実(子)　『後鳥羽上皇像』
専阿弥陀仏(孫)『親鸞聖人像』(鏡の御影)

© 不許複製禁転載

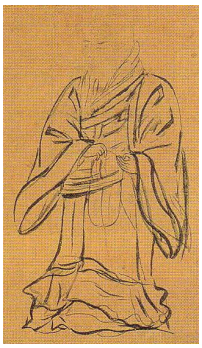
この藤原隆信が描いたと言われているのが『(伝)源頼朝像』と『(伝)平重盛像』なんだけど，「おい，(伝)って何だよ！」って気になるよね。実は，近年になってこの二つは足利直義と足利尊氏なんじゃないかっていう新しい説が発表されて，こっちの説の方が有力になってきているんだ。もし，直義と尊氏であったとすると，時代から考えて作者も藤原隆信ではなくなってしまうよね。だから，この二つは今非常に問題に出しづらいんだ。



〔(伝)源頼朝像〕

この隆信の子の藤原信実も『後鳥羽上皇像』を描いているんだけど，これは後鳥羽上皇が，承久の乱を起こす前に描かせたものなんだ。まぁ，結果的には後鳥羽上皇は敗れて，隠岐に流されることになっちゃうわけだけどね。そして，この信実の子の専阿弥陀仏もやっぱり同じ家系だから似絵を描いている。それが親鸞を描いた『親鸞聖人像』だ。これは，モデルの親鸞自身がこれを見てソックリだって言ったことから「鏡の御影」とも呼ばれているんだ。


〔後鳥羽上皇像〕
by 藤原信実


〔親鸞聖人像〕
by 専阿弥陀仏

一方，華厳宗を復興させた明恵(高弁)が，松林の樹の上で坐禅を組んで，修行をしている様子を描いたのが『明恵上人樹上坐禅図』だ。これは，明恵の弟子である成忍が書いたといわれていて，華厳宗の中心寺院である高山寺に所蔵されている。



〔明恵上人樹上坐禅図〕
by成忍

でも，何でわざわざこの明恵上人は樹の上で坐禅なんかしているのか，僕は長年ずっと疑問に思ってきた。でも，ついにこの謎が解けたんだ。

おそらく，明恵上人はノリで，樹の上で坐禅をしてみたのだ。そうしたら，樹の上から美女が着替えをしているところが見えたのである。だから，もうたまんないし，降りたらもったいない。しかも，ずっと見ていたもんだから，ちょっとあそこが大きくなってきちゃって，立ち上がるとバレてしまう。だから，ずっと彼は前かがみの姿勢を続けているわけだ。そう，これで謎は全て解けたね？明恵上人は坐禅のために手を組んでいるのではない。彼の手がどこにあるのか見てほしい。ほら，彼の手は大きくなってしまったおちんちんを抑えているでしょ。これが明恵上人が樹の上で坐禅を組んでいた真相だ。…苦情はいっさい受け付けないよ(笑)。

まぁ，樹の上で坐禅していたわけだけど，本当は，どうやら樹の上だけじゃなく石の上とかでも構わなかったらしいよ。とにかく，その高山寺のまわりにある石や樹の上で，明恵上人が坐禅しなかった石はない，というくらい片っ端から坐禅したそうだ。おそらく自然の中で坐禅することで精神を落ち着かせようとしたんだろうね(by 高山寺に電話して坊主から直接聞きました)。

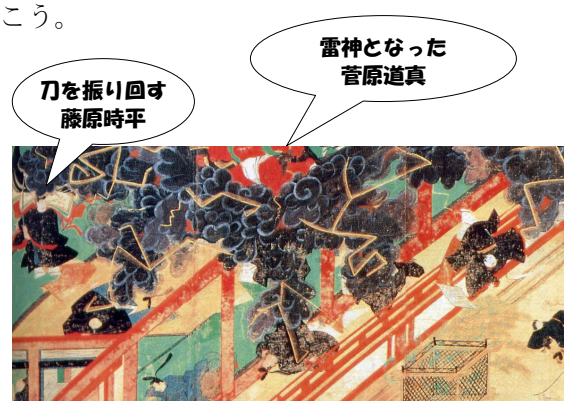
これで似絵は終了。こういった似絵に対して，**ちんそう(ちんぞう)**と読む頂相は禅宗の坊主の間で始まった肖像画で，師匠が一人前になって自分から巣立っていく自分の弟子に与えた自分の肖像画のことなんだ。そして，その弟子はその頂相を見て師匠を思い浮かべ，「あ〜〜，師匠最高っすわ〜〜。もう我慢できませんわ〜」って師の教えに思いをはせるというものなんだ。…かなり脚色してるけど，実にキモイ感じムンムンだよね。ところで，「あれ，じゃあ『明恵上人樹上坐禅図』は頂相じゃないの？」って思った人もいるんじゃないかな？確かにそう思った人もいそうだよね。でも，頂相はあくまでも禅宗のものだとさっき述べたよね。だから，明恵は禅宗ではないので頂相には含まれないんだ。つまり，頂相であるか，似絵であるかの違いは禅宗であるか，ないかってことになるわけだ。


〔頂相〕
(蘭渓道隆像)

© 不許複製禁転載

さて，肖像画は終了したので次は絵巻物に移っていこう。この絵巻物っていうのは院政期文化のところでも出てきたけど，文章と絵を組み合わせたものだったね。この時代の庶民とか武士は文字が読めなかったんだけど，絵巻物なら絵を見ていけば大体わかるっていうことで，彼らに歓迎されたんだ。だから，この鎌倉時代には多くの絵巻物が描かれている。これらはいろいろあるんだけど，大きくジャンル別に分けると，寺社の由来をテーマにした縁起物と，高僧の一生を描いた伝記物，戦や武士をテーマにした合戦物に分けることが出来る。まあ，ぶっちゃけそんな区別は覚える必要はないんだけどね。じゃあ，鎌倉時代にできた絵巻物にどんなものがあるか見ていこう。

「学問の神」とも言われた菅原道真は 901 年，藤原時平の讒言によって大宰府に左遷されてしまい，その 2 年後，失意のうち彼はその地で死んでしまった。そして，彼の死後，京都で天変地異などが相次いだため，道真は怨霊として恐れられたというのは知ってるよね。そこで，彼の怨霊を鎮めるために建立された神社が，京都の**北野神社**で，この神社の由来と，**菅原道真**の生涯を描いた絵巻物が**藤原信実**の『**北野天神縁起絵巻**』だ。内容は平安時代だけど，描かれたのは鎌倉時代になっているから気をつけてね。ちなみに，この絵の場面は，道真の怨霊が雷神となって，藤原時平を襲っている場面。まわりの人たちは逃げ回っているけど，必死に刀を振り回している時平もおもしろいよね。刀なんか振り回したら，逆に雷に打たれちゃうんじゃないかね？



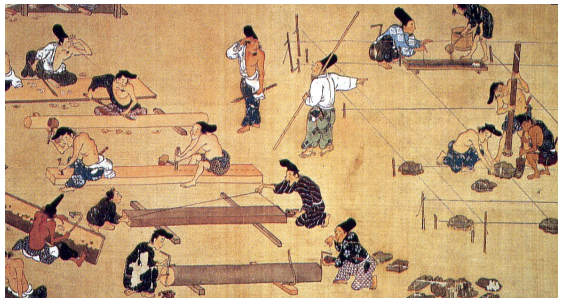
〔北野天神縁起絵巻〕

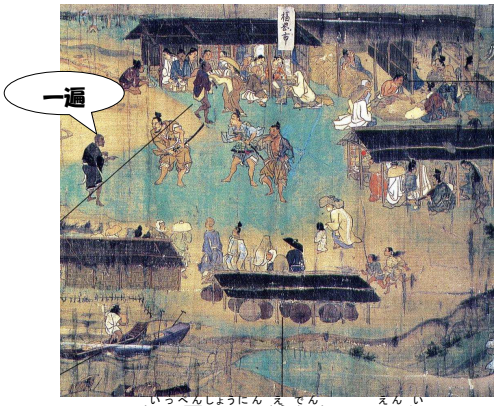
それから，同じく縁起物(寺院や神社の創立の由来)として描かれたのが『粉河寺縁起絵巻』と『石山寺縁起絵巻』だ。これらは，それぞれ粉河寺と石山寺の創立の由来を記したものなんだけど，まったく聞かれない。そもそも「粉河寺・石山寺の由来を書いた絵巻物は何か？」答えは『粉河寺縁起絵巻』・『石山寺縁起絵巻』なんて問題はつくれないでしょ？だから，これらは「鎌倉文化の時期に成立したものを選べ」という時期を問う問題ぐらいしかないんだ。


〔石山寺縁起絵巻〕

もう一つの縁起物として，この時期に描かれたものが，**高階隆兼**の描いた『**春日権現験記**』だ。これは，春日明神(神道の神)の霊験譚を集め，その春日明神を祀る春日神社に奉納されたもの。

この鎌倉時代になると手工業が発達していって，次第に手工業者といった職人たちが出てきた。その職人達による建築現場の様子が，この『春日権現験記』に描かれているんだ。だから，当時の手工業の発達を示す史料としても重要なわけだ。


〔**春日権現験記**〕 by**高階隆兼**



〔**一遍上人絵伝**〕 by**円伊**
ー**備前国福岡市**の様子ー

一方で，高僧の生涯を描いた伝記物には**土佐吉光**が描いたと言われる『法然上人絵伝』があるけど，これはかなり頻度が低い。これも法然の生涯を描いただけのものだから，そのまま出題するのは困難でしょ？ただ，一方で一遍の弟子の**円伊**が描いた『**一遍上人絵伝**』だけは絶対に外せない。「でも，それだって一遍の名前が入っているから問題に出しづらいんじゃないの？」…いやいやいや。この一遍って坊主は，布教のため，全国を行脚していたでしょ？だから，全国いろんなところを回りまわっているから，それぞれその土地の様子とかが絵巻物に描かれているんだ。その絵巻物の中で有名な場面の一つが，**備前国**の**福岡市**の様子を描いたものだ。この絵巻物の様子から，当時の市場の状況などがわか

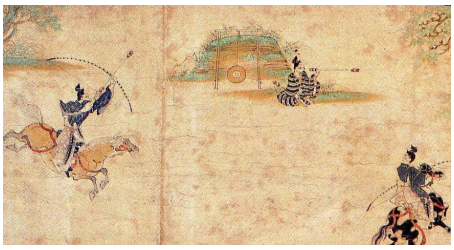
© 不許複製禁転載

るんだ。ただし，難関私大になると，問題をこう換えてくる。「これは福岡の市の様子を記したものだが，これは今の何県にあたるか？」…こうすると，君たちは「福岡だから，福岡県！」って単純な解答を書くでしょ？これは，君たちがそう書くのを期待して，わざと現在の県名で聞くんだよ。答えは**岡山県**。備前国は今現在の岡山県にあたる。

その一方で，当時の武士や合戦の様子を記した合戦物が，『**蒙古襲来絵詞**(**蒙古襲来絵巻**)』と『**男衾三郎絵巻**』だ。前者は元寇の際に奮戦した**肥後国**の御家人**竹崎季長**が，自分の武功を子孫に伝えるために描かせたもの。この『蒙古襲来絵巻』から，集団戦法や「**てつはう**」という火薬を利用した元の戦法が読み取れるよね。一方，後者の『男衾三郎絵巻』は**武蔵国**の武士の兄弟の物語を描いたもの。特に，この絵巻物には当時の武士の生活の様子が描かれていて，騎射三物の一つである**笠懸**(走っている馬上から的を射る競技)の様子が描かれているんだ。



〔**蒙古襲来絵詞**〕－**肥後国**の御家人**竹崎季長**の奮戦－

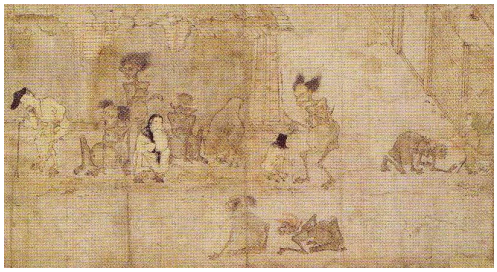

〔**男衾三郎絵巻**〕－**笠懸**の様子－

こうした合戦絵巻には平治の乱を題材にした『**平治物語絵巻**』や，後三年の役を題材にした『**後三年合戦絵巻**』(成立したのは 1347 年の**南北朝文化**の時期)もあるけど，これらはよっぽど暇だったら覚える程度で構わない。後者の『後三年合戦絵巻』には，大江匡房から『孫氏』の兵法を学んだ源義家が，飛んでいる雁の群れが乱れたことから，その下方に敵の伏兵が潜んでいることに気づくという有名な場面が描かれている。なお，この『後三年合戦絵巻』には，捕らえられた武者の舌を抜くなど，生々しい戦闘の残酷な場面が，冷徹な態度で描かれているのが特色なんだけど，これは**六道絵**の意図と重なり合うとする見方がある。「…って，そもそも六道絵って何だよ？」って感じだよね。



〔後三年合戦絵巻〕

そもそも，六道というのは人間が生まれ変わって住むことになるという，人間・天上・地獄・餓鬼・畜生・修羅の 6 つの世界のことを言う。まぁ，具体的に言うと，君たちが何かしら悪いことをして死んだ場合，その人は人間世界から地獄世界や，餓鬼世界などで住むようになるという，仏教に基づく考えのこと。こうした六道の様子を記したものが『**地獄草子**』・『**餓鬼草子**』，そして六道の一環として，病で苦しむ人々の姿を描いた『**病草子**』だ。これらは院政期～鎌倉時代初期に描かれたんだけど，その背景には，末法の世の中で，源平合戦など激動する現実に不安になっていく民衆の心情がある。つまり，末法の世に対し不安を持つようになったことで，地獄や餓鬼，病などグロテスクな世界にも目が向くようになり，そうした世界が描かれたわけだ。なお，ここで出てきた『地獄草子』や『餓鬼草子』・『病草子』，そして『平治物語絵巻』や『後三年合戦絵巻』の出題率は非常に低い。「○○文化の時期に成立した作品として正しいものはどれか？」といった時期判定問題の選択肢に入っていたりするものなので，文化史の難しい難関私大(上智・法政など)ぐらいしか必要ない知識だね。


〔餓鬼草子〕

© 不許複製禁転載

う〜ん，でもこの鎌倉時代の絵巻物も種類が多いよね。しかも，これは院政期文化の絵巻物と対比させて問題を作ってくるんだ。そのため，院政期文化の絵巻物と鎌倉時代の絵巻物を区別できるようにしなければならない。

＜院政期文化と鎌倉文化の絵巻物＞

＜院政期文化の絵巻物＞	＜鎌倉文化の絵巻物＞			
『源氏物語絵巻』	『北野天神縁起絵巻』	縁起物	『法然上人絵伝』	伝記物
『伴大納言絵巻』	『粉河寺縁起絵巻』		『一遍上人絵伝』	
『鳥獣戯画』	『石山寺縁起絵巻』		『蒙古襲来絵巻』	合戦物
『信貴山縁起絵巻』	『春日権現験記』		『男衾三郎絵巻』	

院政期文化の絵巻物の覚え方は「変人番長失禁さ」と既に記したけど，鎌倉時代の絵巻物の覚え方もゴロで覚えておこう。ただし，早慶レベルのものは外してあるけどね。

＜鎌倉文化の絵巻物の覚え方＞

☆「大ブス・カスがもう一遍、来た」

大ブス→男衾三郎絵巻／カスが→春日権現験記／もう→蒙古襲来絵巻

一遍→一遍上人絵伝／来た→北野天神絵巻

［D］工芸・書道

鎌倉時代というのは武士が勢力を持っていた時代だから，当然戦が多くなる。ゆえに武士の中でも刀剣とか甲冑(兜・鎧の総称)といった武具の需要が高まる。需要が高まれば，当然供給も高まるよね。そのため，供給する立場である工人の中でも，名工と呼ばれる名人達が登場していく。例えば，刀剣では京都の粟田口吉光，備前では長船長光，鎌倉では岡崎正宗，といった名工が出たり，甲冑では明珍家の人々が多くの名作を作っていったんだ(明珍かっちゅう(甲冑)ねん！って感じで覚えておこう…)。でも，名工の人物はどうせどこの誰だか混乱するんでしょ？だから，ゴロで覚えてしまおう。想像力豊かな人には高度な下ネタとして拍手喝采を頂けるんじゃなかろうか(笑)？

＜刀剣の名工の覚え方＞

☆「今日はあわびでオッサン構おうか？」

今日→京都／あわ→粟田口吉光　び→備前／オッサン→長船長光

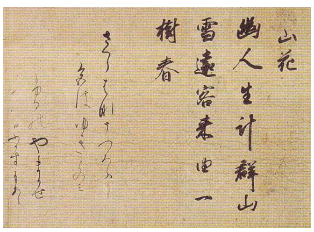
かま→鎌倉／おうか→岡崎正宗



〔瀬戸焼〕

前時代から引き続き，農業技術の発達に伴い農村が興隆したため，農民など一般庶民も陶器を使うようになった。需要が増えれば，当然その量産化がはかられるよね。そのため，平安時代後期以降，東海・北陸・西日本の各地で陶磁器産業が盛んになったんだ。その中で，代表的なものが平安時代後期から続く愛知県知多半島の常滑焼と，鎌倉時代に道元と共に宋に渡り，陶磁器の技術を学び帰国した加藤景正がその技術を用いて尾張で開いたといわれる瀬戸焼だ。

続いて書道のお話。国風文化のところで三蹟という字のうまい三傑を学習したよね。三蹟は小野道風と藤原佐理，そして藤原行成の 3 人だったね。その一人の藤原行成が創始したのが世尊寺流という書道の一派で，これが後の書道の様々な流派の源になっているって説明したと思う。この世尊寺流で書道を学んで，今までの和風的な書式に，唐風の書式を取り入れて青蓮院流という流派を創始したのが皇族の尊円入道親王っていう人なんだ。彼の書いた「鷹巣帖」なんかは有名だね。これ以降，この青蓮院流が他派を圧倒していき，結局世尊寺流の方は後継者がいなくて断絶しちゃうことになるんだ。なお，この青蓮院流は江戸時代になると御家流というものに発展していくんだけど，余力があったら覚えておく程度で構わない。



〔鷹巣帖〕

© 不許複製禁転載

［E］文学・学問

1185 年に日本で最初の武家政権である鎌倉幕府が誕生したことで，政権は公家から武家に移っていった。これにより，公家の支配は後退していくこととなったため，「あ～，昔は良かったのになぁ～。」というように，貴族たちは古き良き時代を懐かしむようになる。それを懐古主義とか言うんだけど，これによって古典を研究したり，朝廷の儀式や先例を研究したりするようになっていったんだ。その中で代表的な学問が**有職故実**というものだ。これは朝廷の儀式や年中行事を研究するものなんだけど，読み方は“ゆうしょくこじつ”じゃなくて“ゆうそくこじつ”だから気をつけてね。その有職故実で有名なのが**順徳天皇**の著した『**禁秘抄**』だ。なお，順徳天皇は，承久の乱によって佐渡に流された人でもあったね。まぁ，その時には天皇の位は退いていたので，順徳上皇になるけどね。

この懐古主義により，昔の『日本書紀』や『古事記』などの古典を研究することも盛んになる。こうした古典を研究した古典注釈書が，**卜部兼方**の『**釈日本紀**』(日本書紀の注釈書)や，**仙覚**の『万葉集註釈』(万葉集の注釈書)だ。

公家政権が衰退したことで昔を懐かしむ人もいれば，逆に鎌倉幕府に対して強い対抗意識を持つ人物もいた。それが，この当時“上皇”として院政を行っていた後鳥羽上皇だ。そりゃあ，後鳥羽上皇からしてみれば，東国では鎌倉幕府が主導権を握り政治を行っているわけだから，おもしろくないよね。そのため，後鳥羽上皇は京都朝廷の象徴として，伝統的な貴族文化である和歌を積極的に推進して，その勢力の維持に努めようとしたんだ。そこで，**後鳥羽上皇**が**藤原定家**・**藤原家隆**らに編纂を命じて，**1205 年**に完成した勅撰和歌集が『**新古今和歌集**』だ。これは天皇自らが選定を命じた勅撰和歌集「**八代集**」の最後にあたるものだね。すでに国風文化のところで，「八代集」の最初である『古今和歌集』と比べてみせたと思うけど，それぞれ何年に成立し，誰が編纂を命じて，誰が編纂したかを確認しておこう。

＜八代集＞

最初＝『**古今和歌集**』…… **905 年**(国風文化)／**醍醐天皇**の命／編者＝**紀貫之**・**紀友則**・**凡河内躬恒**

最後＝『**新古今和歌集**』…**1205 年**(鎌倉文化)／**後鳥羽上皇**の命／編者＝**藤原定家**・**藤原家隆**

なお，この編者の一人である**藤原定家**の日記は『**名月記**』と言うんだけど，この日記の中には，1231 年に起きた**寛喜の飢饉**に関する内容が記されている。今「飢饉なんてどうでもいいじゃねえかよ～。」って思った人いるでしょ？実はね，最近この飢饉に関する研究は熱心に行われていて，難関私大の入試問題でもちょっとしたブームになっているんだ。少し話が文化史から逸れるけど，飢饉に関する内容を少し述べておこう。

［飢饉の与えた影響］

江戸時代の三大飢饉，**享保の飢饉**(**1732**)・**天明の飢饉**(**1782**～1787)・**天保の飢饉**(1833～1836)は有名だよね。これらが当時の社会状況に与えた影響は非常に大きかった。例えば，享保の飢饉(1732)は日本最初の打ちこわしである**江戸の打ちこわし**(1733)を引きおこしたし，天明の飢饉は**天明の打ちこわし**(**1787**)を引きおこし，その後に行われた寛政の改革では飢饉に備えた政策(囲米の制・七分積金)が行われた。また，天保の飢饉は **1836 年**の**三河国**で起きた**加茂一揆**，**甲斐国**で起きた**郡内騒動**(**郡内一揆**)に影響を与えている。

でも，飢饉が起きるのは当然江戸時代だけじゃない。源平合戦の最中に西日本を中心に起きた**養和の飢饉**(1181～1182)は，西国を拠点にしていた平氏政権に大きなダメージを与えることになったし，**1232 年**に制定された**御成敗式目**は，**寛喜の飢饉**(1231)による社会混乱を鎮めるための政策として出された側面も持つ。他にも，室町時代に起きた**寛正の飢饉**(1459～1460)では 8 万人近くの死者を出すことになったし，江戸時代の**寛永の飢饉**(1642)は，**田畑勝手作りの禁令**(**1643**)や**田畑永代売買の禁令**(**1643**)，その後の幕府・諸藩の農政政策の転換に大きな影響を与えている。ここら辺の内容は早慶上智を受ける場合には特に気をつけておこう。

© 不許複製禁転載

さて，この藤原定家から和歌を学び，後鳥羽上皇からも寵愛されたのが3代将軍の**源実朝**だ。彼は3代将軍という地位にはあったものの，実権は母方の執権北条氏に握られて，政治の面からは遠ざけられていた。そうした思いから，彼は和歌などの学問に走り，京文化に強い関心を持っていったんだ。だから，彼の境遇を不憫に思った**陳和卿**は，学問留学のための渡宋を実朝に勧めたりしたわけだね(最終的には，船が浮かばなくて沈んじゃったって話は建築のところでしたよね)。その後，彼は甥の公暁によって鶴岡八幡宮で殺害されちゃうんだけど，実はその死ぬ日の前に非常に興味深い和歌を詠んでいる。

「いでていなば　主なき宿と　なりぬとも　軒ばの梅よ　春をわするな」
(私が出て行くと，この家は主人の家のいない家となってしまうけれども，
そうなっても，軒ちかくの梅よ，春がきたら忘れないで，梅を咲かせておくれ)

何か自分の運命を感じているような雰囲気を感じさせる…。そして，将軍であるにもかかわらず実権のない彼の境遇を表している歌だよね。こうした彼の歌を集めた私撰和歌集が『**金槐和歌集**』だ。特に金槐の“槐”を“塊”にしないように気をつけてね。

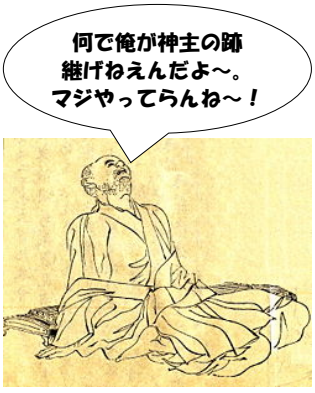
こうした源実朝のように武士であっても教養が高い人がいるように，当時は上皇・法皇の警護を行う武士の中にも高い教養をもつ者がいた。それが**西行**だ。彼はもともと鳥羽法皇に仕えていた北面の武士だったんだけど，世の無常を感じて突如23歳で妻子も捨てて出家しちゃったんだ。そして，諸国を歩き回っていろいろ詠んだ歌をまとめたのが『**山家集**』だ。

＜私撰和歌集＞
『**金槐和歌集**』(**源実朝**)…3代将軍であったが実権はなく，格調高い万葉調の歌を詠む
『**山　家　集**』(**西　行**)…北面の武士から出家して隠者となり，諸国をまわって歌を詠む

ちなみに，よく“無常”を“無情”と勘違いしてる人がいるけど全然違うからね。“無常”っていうのは「全てのものは変化していて，永遠に存在するわけではない」っていう意味のこと。つまり，「常なるものは何もない」ってことだね。でも，「何でこの時代に“無常”を感じるんだよ～」って思うよね。実は，こうした思想の背景にあるのも，末法思想が影響していたんだ。ほら，たとえ鎌倉時代になろうが，末法の世には変わりはないでしょ？(末法思想でいわれる「末法の世」とは末法元年の1052年からその後の1万年間を指す)。だから，こうした世の中に“無常”を感じて出家したり，隠遁してしまったりするわけだ。こうした西行のように世の中を歩き回ったり，隠遁した人たちを“世捨て人＝隠者”なんて言うんだけど，ちょっとそのネーミングはカッコ良すぎだよね。だって，歩き回った人は別にして，隠遁した人って結局は“引きこもり”みたいなもんでしょ。そんな奴等をカッコ良く“世捨て人”なんて言う必要はない。ただの“引きこもり野郎”でいいんだ。

さて，その“引きこもり野郎”の代表者が鎌倉初期に『**方丈記**』を著した**鴨長明**と，鎌倉後期に『**徒然草**』を著した**吉田(卜部)兼好**だ(それぞれ時期がずれていることにも注意)。『方丈記』は「行ク川ノ流レハ絶エズシテ…」の名文句で始まって，世の無常を説いたものなんだけど，ちょっとカッコつけすぎだろ～。何が「行ク川ノ流レハ…」だっちゅうの。そもそも，この鴨長明は出家して隠者(引きこもり)となっているんだけど，その引きこもった理由がショボいんだ(笑)。もともと彼は京都の下鴨社っていう神社の神主の次男として生まれた。だから，自分も神主に就任しようとしたんだけど，結局なれなかったんだ。そのため，そのことにめっちゃショックを受けてしまって，彼は出家して引きこもるようになった。つまり，ただの“やさぐれ野郎”って言った方がいいね。

もう一人の隠者(引きこもり)が『徒然草』で人間や社会を鋭く観察した吉田兼好なんだけど，実はこのオッチャン，本当の名字は吉田とは言わない。もともと彼の正しい名字は“卜部”で，この卜部家が室町時代から吉田と称すようになったんだ。これが江戸時代になって誤って吉田兼好と伝えられちゃったわけだ。だから，歴史上では卜部兼好が正しい名前なんだ。



〔鴨長明〕

＜随筆＞
『**方丈記**』(**鴨長明**)……天変地異を体験して，世の無常を説く
『**徒然草**』(**吉田(卜部)兼好**)…自然・人間・社会を鋭い洞察力で描く

© 不許複製禁転載

さて，以上が“引きこもり野郎”による文学だったわけだけど，引きこもる奴もいれば，元気活発に旅に出る奴もいるよね。それが旅行中のこととかを綴った紀行文だ。ちょうど，この時代は鎌倉という新しい都市が出来て，京都と鎌倉を結ぶ東海道の交通も盛んになっていったこともあり，紀行文や旅日記が書かれるようになっていったんだ。

だから，源親行が書いたと言われる『東関紀行』や，作者未詳の『海道記』も，これらのどちらとも京都から鎌倉まで下って再び京都まで帰るまでの旅日記なんだ。でも，紀行文といったら，**阿仏尼**の書いた『**十六夜日記**』が有名だね。この阿仏尼は藤原為家(定家の子)の後妻となったんだけど，その為家が死んだ後，先妻の子である為氏と実子の為相の間で所領紛争が起こってしまった。そのため，この息子の遺産相続争いの訴訟を解決するため，京都から鎌倉に下ることになる。そして，その旅立ちの日付が 10 月 16 日(十六夜)だったことから，『十六夜日記』というんだ。

こうした旅日記もあれば，ふつうの日常で起きた内容を記した日記も書かれた。でも，ふつう日記なんて三日坊主で終わっちゃうよね。それにもかかわらず，よっぽど暇だったのか何と 40 年近くもずっと日記を記していた公家がいたんだ！それが**九条兼実**の日記『**玉葉**』だ。この日記には，平氏最盛期から幕府成立までが詳しく記してあったので，当時のことを知る第一級の史料でもある。つまり，日記というよりは歴史の史料的意味合いが濃いわけだね。



〔九条兼実〕

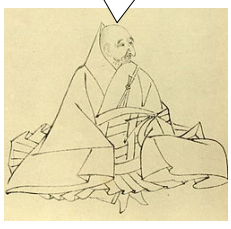
＜紀行文・日記＞

『東関紀行』　(源親行？)…京都から鎌倉まで下り，帰京するまでの紀行文
『海 道 記』　(作者不詳)…京都から鎌倉まで下り，帰京するまでの紀行文
『**十六夜日記**』(**阿 仏 尼**)…息子の訴訟解決のため，京都から鎌倉に赴く紀行文
『**玉　葉**』　(**九条兼実**)…平氏政権～幕府成立までを記した日記

こういった当時のことを知るための史料には，『玉葉』のような日記だけでなく歴史書もある。この鎌倉時代にも多くの歴史書が書かれているんだけど，それが藤原為経の著といわれる『**今鏡**』と，**中山忠親**の著といわれる『**水鏡**』だ。これらは，平安時代に書かれた『大鏡』の続きにあたるもので，南北朝時代に書かれた『増鏡』とあわせて四鏡とよばれる。ただ，『大鏡』に比べるとスケールは落ちてしまうし，『大鏡』に比べると頻度は低いけどね。

さて，鎌倉幕府が成立すれば，当然幕府の歴史を記した歴史書もある。こうした鎌倉幕府の記録を編年体でつづったのが『**吾妻鏡**』だ。幕府自ら歴史書を書くことで，幕府の正当性も主張できるからね。

こうした幕府成立に対して，公家政権のとるべき方針を記したのが，**天台座主**(天台宗のトップ)**慈円**(九条兼実の弟)の著した『**愚管抄**』だ。これは後鳥羽上皇の討幕挙兵を諫めるために著したとされるもので，その内容は末法思想と**道理**に基づいている。ちなみに，道理って何かわかる？道理というのは，世間で正しいと認められた筋道(規範)のこと。だから，慈円は，「歴史を動かすものは，道理(正しい筋道)があってこそです。今現在，幕府の政治を取り仕切っている北条義時の政治には，特に間違った部分はなく善政と呼ぶにふさわしいでしょう。ですので，そうした鎌倉幕府に対し，後鳥羽上皇が倒幕挙兵をすることには道理(正しい筋道)がございません。」と説いたんだ。まぁ，最終的に後鳥羽上皇はその忠告を聞かず，承久の乱を起こしちゃうわけだけどね。また，一方で，こうした通史の歴史に対して，日本仏教の歴史書もこの時期に成立した。それが**虎関師錬**の著した『**元亨釈書**』だ。“亨”という字を“享”にしないように気をつけてね。



〔慈円〕

＜歴史書＞

『**今　鏡**』(藤原為経？)…藤原頼通～藤原基房までの歴史を記した歴史書
『**水　鏡**』(**中山忠親**？)…神武天皇～仁明天皇までの歴史を記した歴史書
『**吾妻鏡**』(作者不詳)……鎌倉幕府の記録を編年体で記した歴史書
『**愚管抄**』(**慈　円**)……末法思想と**道理**に基づいて記した歴史書
→承久の乱前に後鳥羽上皇の討幕挙兵を諫める
『**元亨釈書**』(**虎関師錬**)…最初の日本仏教の歴史書

© 不許複製禁転載

平安時代の中頃は，『源氏物語』などのように，宮廷内の恋愛を題材とした物語が多かったよね。でも，院政期を経て，時代は「武者の世」となった。そのため，こうした戦乱と変動を続ける時代・人間を題材とした**軍記物語**が多く書かれるようになる。

その代表例が，保元の乱を題材にした『**保元物語**』や，平治の乱を題材にした『**平治物語**』，そして平家一門の栄達から壇ノ浦での滅亡までの歴史を描いた『**平家物語**』（作者は**信濃前司行長**が有力）だ。でも，これらは戦の内容だけを記したわけじゃないんだよ？例えば，一番目の『保元物語』は，当時最強の武将として**鎮西八郎**と称されながらも，戦に敗れた**源 為朝**の活躍を中心に描いていたりする。

この『平家物語』の冒頭「祇園精舎の鐘の声，諸行無常の響きあり。娑羅双樹の花の色，盛者必衰のことわりをあらわす。おごれる人も久しからず。…」というのは君たちも知っているよね？この鎌倉時代でも，このフレーズは非常に有名だったんだけど，実はこの時代の武士や庶民の識字率は低かった。つまり，文字を読んだり書いたりするだけの教養がなかったわけだ。では，それにもかかわらず何故このフレーズが有名だったのか？それの理由は**琵琶法師**の存在があったからなんだ。琵琶法師というのは琵琶を弾きながら『平家物語』などを語る盲目の芸能者たちのこと。彼らが琵琶をベンベンベン…と伴奏しながら『平家物語』を語るんだけど，これを**平曲**という。こうして『平家物語』は，琵琶法師による平曲で文字の読めない庶民にも大ヒットしていったんだ。そして，多くの語り手・読者の手を経るうちに，改訂・増補がくり返され，成長していったんだけど，このような過程で出来た『平家物語』の増補版が『**源平盛衰記**』だ。

＜軍記物語＞

『**保元物語**』……鎮西八郎**源為朝**の活躍を中心に保元の乱を描く
『**平治物語**』……源義朝の子の義平を英雄的に平治の乱を描く
『**平家物語**』……**信濃前司行長**が著し，**琵琶法師**による**平曲**で庶民に流行
『**源平盛衰記**』…『平家物語』を増補したもの


〔琵琶法師〕

なお，院政期文化の平将門の乱(935～940)を題材にした『将門記』や，前九年の役(1051～1062)を題材にした『陸奥話記』においてもそうだけど，歴史物語や軍記物語が編纂された時代は，実際にその戦乱などが起きた時代から，一つ後の時代にズレるという傾向が強い。なぜなら，軍記物語などを書くにあたっては，その戦乱に登場する人物や戦場などの研究・調査が必要になってくるからだ。ゆえに，平将門の乱や前九年の役が起きた時期は摂関政治期(国風文化)にあたるが，それらの軍記物語『将門記』・『陸奥話記』が編纂されたのは，一つ後の時代の院政期(院政期文化)になる。このことは，鎌倉文化の軍記物語においても活用できるので，一つのテクニックとして知っておくとよい。

さて，先ほど述べたように，この当時は識字率が低かった。しかも，たとえ庶民の中で文字を読める人がいたとしても，その内容は難しかったりする。そこで，こうした庶民のために易しい文体で書いてあげていったのが説話集だ。その説話集の代表作が，10 個の教訓的な内容をまとめた『十訓抄』や，平安時代から鎌倉初期の説話を集大成した**橘 成季**の『**古今著聞集**』，そして，『今昔物語集』の改訂増補版にあたる『**宇治拾遺物語**』と**無住**の著した仏教説話集の『**沙石集**』だ。

ちなみに，この「説話」の意味って知ってるかな？「説話」というのは，年少者を対象に「○○をしたりすると，最終的にはこんな事になってしまうんだよ～～。だから，○○なようなことはしないようにね」っていう教訓を示したもののことだ。これら説話文学が多く書かれたのには，鎌倉時代という新時代が到来したことにより，今までの貴族社会だけでなく，地方や庶民の世界に新たな興味が集まったことが背景にある。

＜説話集＞

『十訓抄』（作者不詳）……10 項目の教訓的な説話を収録したもの
『**古今著聞集**』（橘成季）……今昔物語・十訓抄など古今の説話を題材別に分類したもの
『**宇治拾遺物語**』（作者不詳）…『今昔物語集』の後を追った説話集
『**沙石集**』（**無　住**）……禅僧である無住によって書かれた仏教説話集

© 不許複製禁転載

最後は学問のお話だ。この当時の学問は，基本的には公家の専売特許みたいなものだったけど，源実朝に代表されるように，武士の中にも学問好きな奴が現れてきた。それが北条氏の一門で，評定衆として幕政にも参加した**北条実時**だ。彼は，自分の蔵書(持っている本)を公開して，**武蔵国**の**六浦**(鎌倉幕府の外港として栄えた地名)にある**抄名寺**境内に**金沢文庫**っていう施設図書館を設けたんだ。金沢文庫は神奈川県の地名として知っている人もいるだろうけど，その金沢町には現在も金沢文庫という図書館があって，現在は歴史博物館として残っているんだよ。


〔現在の金沢文庫〕

［F］鎌倉文化の特徴

さて，これで鎌倉文化の内容は終了したんだけど，ラストにこの文化の特徴をまとめておこう。今まで見てきたことからわかることは以下の点だよね。

＜鎌倉文化の特徴＞
①公武二元文化(公家の伝統的文化と武士の新しい文化)
②庶民文化の成長
③宋・元の新しい中国文化の導入

①の「公武二元文化」の内容はいろんな分野で顕著だったよね。文学の面では公家がまだまだ勢力を残していたけど，逆に彫刻とか工芸分野では，武士の文化が徐々に成長してきていたよね。

それから，文学面では説話集とか軍記物語でも見られたように，②のような「庶民の文化」が徐々に現れてくるようになったね。

③の「宋・元の新しい中国文化の導入」は，建築における大仏様や禅宗様，それから加藤景正の製陶技術が中国から入ってきたことが，その特徴にあたる部分だね。

© 不許複製禁転載

［文化史⑧－室町文化(室町時代の文化)－］

［A］室町文化の特徴

ひとくちに室町文化と言っても，それぞれ時期によってその特徴が異なる。そのため，この室町時代は3つの文化に区分されるんだ。それがまず，南北朝時代にあたる**南北朝文化**。それから3代将軍**足利義満**の時期にあたる**北山文化**。これは，義満の建てた金閣が京都の北山にあったからことから，北山文化と言う。そして8代将軍**足利義政**の時期にあたるのが**東山文化**。これは義政の建てた銀閣が京都の東山にあったから東山文化と言うわけだ。

＜室町文化の区分＞
①**南北朝文化**(南北朝時代にあたる文化)
②**北山文化**(3代将軍**足利義満**時に栄えた文化)
③**東山文化**(8代将軍**足利義政**時に栄えた文化)

じゃあ，3つに分けられるわけだから，それぞれ特徴が異なるはずだよね。じゃあ，どういう特徴があるのか見てみよう。ただ，南北朝文化にはこれといった特徴はない。南北朝時代の時期は戦の時代だから，文化がそれほど栄えるわけじゃないからね。

＜室町文化の区分＞
北山文化…①武家文化が伝統的な公家文化を基礎に発展
②元・明の禅宗文化の影響
東山文化…①「簡素」で「幽玄」な伝統的な日本文化の形成
②**応仁の乱**による中央文化の地方普及と民衆化の進展

北山文化の特徴は，まず公家の文化と武士の文化が融合しているところにある。特に義満が建てた金閣が，その特徴を最も顕著に表しているね。金閣寺は3層から構成されているんだけど，その1層は寝殿造という公家文化を代表するもの，3層は禅宗様という武家文化を代表する建築様式で構成されている。つまり，この金閣こそ公家文化と武家文化が見事に融合された造りになっているわけだね。もう一つの特徴は中国(元・明)の禅宗文化の影響を受けているというところ。例えば，この時代に発展した水墨画がその象徴だね。詳しくは，絵画のところで説明するけど，水墨画というのは中国から伝わった禅宗がその背景にあるからね。

これに対して東山文化の特徴は二つあって，まずは銀閣の書院造に代表されるように「簡素」で「幽玄」といった趣のある伝統的な日本文化が形成されたことが一つ目の特徴。例えば，能や茶道とか，華道，そして香道なんていった今でいう伝統的なものがこの時代に出来上がったわけだ。能も茶道も華道もそうだけど，これら全部“ＪＡＰＡＮ”って感じの伝統的な趣があるもんね。一方で，**1467年**には**応仁の乱**が起きた。この戦乱によって京都が荒廃してしまったため，公家などの文化人は京都に居られなくなってしまった。そりゃ，京都にいたら戦に巻き込まれちゃうもんね。そこで，彼らは地方の大名を頼って行ったんだ。そのため，彼ら中央の公家が地方に行くことによって，中央の文化が地方に普及していったわけだ。これが二つ目の特徴だ。

それから，この室町文化を学習するにあたって一つ留意しておいてほしい点が一つあるんだ。この時代に関しては解説を読むだけではなく，必ず通常テキストを参照しながら学習してほしい。なぜかというと，左のページが南北朝文化と北山文化，そして右のページが東山文化になっているよね。でも，この時代は，それぞれ南北朝文化は南北朝文化，北山文化は北山文化といった時代別に学習するよりも，文学は文学，絵画は絵画といったように分野別に学習した方が理解しやすい。だから，例えば連歌の歴史は南北朝・北山・東山文化と時代をまたいで解説する。そのため，文章だけだと，その語句がどこの時代にあたるのか把握しきれなくなってしまう可能性がある。そこで，随時テキストは手元に置いたまま，時代をちゃんと確認しながら学習していってほしいんだ。

© 不許複製禁転載

［B］文学史・学問史

南北朝時代という時代は，南朝と北朝に分かれて争っていた時代だったね。そして「自分たちの朝廷の方が正統な朝廷だ」ということで争っているわけだ。だから，「うちの正統の方が正しいんだ」ということを本に書いて主張したんだ。それが，まず南朝の正統性を主張した『**神皇正統記**』。これは，南朝勢力として**常陸国**の**小田城**で北朝に対抗した**北畠親房**が，その当時の**後村上天皇**(後醍醐天皇の子)に「南朝こそが正しいんですよ」って説いたものだ。そして，**伊勢神道**の強い影響から，三種の神器を南朝が持っていることこそが，南朝が正しい理由だと述べたんだ。

これに対して，北朝の正統性を主張したのが『**梅松論**』だけど，作者はわかっていない。これらは争っている当の武士たち本人の立場から書かれたものだけど，当然この時代には公家もいるよね。その公家の立場から鎌倉時代を記述したのが四鏡のラストである『**増鏡**』だ。

南北朝時代ってのは混沌とした時代だったから，それぞれの正統性を示すため，こうした歴史物が多く書かれる。他にも，湊川の戦い(1336)や石津の戦い(1338)・藤島の戦い(1338)などのように，戦いが多かったのもこの時代の特徴。じゃあ，それだけ戦いが多かったのなら，当然こうした戦いを題材とした軍記物語が書かれてくるよね。それが有名な『**太平記**』で，著者は**小島法師**だと言われている。これは南北朝の動乱を題材としていて，南朝に同情的な記述が多かったんだ(著者が南朝側の人間だったからとか，もしくは南朝側への鎮魂の意味を込めて，同情的に書いたとも言われているけどね)。


〔太平記読み〕

この『太平記』は今でも非常に有名な軍記物語だけど，実はこれがブレイクしたのは江戸時代なんだ。そもそも，『太平記』ははじめ物語僧という僧侶によって，語られる程度のものだった。ところが，江戸時代になると，これを講釈して政道や兵法を論じることが武家方から要請された。つまり，『太平記』から政治のやり方や戦の兵法をわかりやすく教えてほしい，という需要が武士側から出てきたわけだね。そこで，太平記をわかりやすく説明する人が現れたんだ。この『太平記』の講釈師を**太平記読み**という。そして，『太平記』は江戸時代に学問の役割として庶民にも普及していったんだ。

ただ，この『太平記』の中で足利尊氏のことを記している部分で「それ，おかしいよ」ってケチつけたのが**九州探題**の**今川了俊**(**貞世**)だった。そこで，太平記の誤っている部分を集成して，北山文化の時期に彼が著したのが『**難太平記**』だ。

こういった文学作品以外で文学的なものといったら和歌がある。和歌っていうのは，五・七・五・七・七で歌を詠む，今で言う短歌のこと。この和歌が鎌倉時代まで流行っていたんだけど，室町時代からは連歌という和歌から発展した遊びが広く民衆の間でも楽しまれるようになっていったんだ。

これは，まず一人が五・七・五の部分までの上の句を詠む。続いて，もう一人がその五・七・五に合うような，七・七の下の句を詠むんだ。そうしたら，今度はまた別の人がその七・七の下の句に合うように，五・七・五の上の句をつくるというリレー形式の和歌なんだ。つまり，今までの和歌よりもゲーム性を兼ね備えた，娯楽性を持ったものに変化していったわけだね。これを一般的には，複数の人間で行い，100 回続くまで詠み続けるんだけど，今言ったように，初めの頃の連歌は遊びのレベルに過ぎなかった。

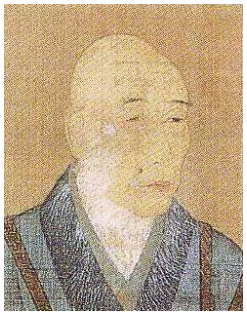

〔連歌の会〕

これを正式なジャンルにまで高めたのが，南北朝時代の関白・摂政及び太政大臣であった**二条良基**だ。彼も連歌をやっていたんだけど，いろいろな人の連歌を集めた連歌名作集として『**菟玖波集**』という連歌集をつくったんだ。そうしたら，これが準勅撰として天皇に公認されることになった。準勅撰という言葉にひっかかるかもしれないけど，天皇に認められたんだって思ってくれればいい。

© 不許複製禁転載

天皇に準勅撰として認められたことによって，連歌は正式なジャンルとして成立した。そうすると，ちゃんとしたジャンルに認められたわけだから「連歌を詠む際のルールを決めよう」って話になるよね。そこで，同じく二条良基が作った連歌のルールブック，規則集が『**応安新式**』だ。例えば，同じ言葉を連続で使ってはいけない，とかいったルールが定められたんだ。

ところで，「この“つくば”って何なの？」って少し気になるよね。実はこの“つくば”という言葉は連歌のことを指しているんだ。そもそも，この連歌をはじめて日本で詠んだのはヤマトタケルノミコトだと言われる。そして，彼が筑波山のふもとで詠んだことから「連歌＝つくば」と言われるようになったんだってさ。だから二条良基の『菟玖波集』は「連歌集」というそのままの意味になるわけだ。


〔宗祇〕

こうして，一つのジャンルとして確立された連歌は，数多くの人によって詠まれていくようになる。このような中で，東山文化期に連歌を大成したのが**宗祇**だ。彼により大成された連歌のことを**正風連歌**と言うんだけど，まあ，簡単に言うと“完成された連歌”ってことだ(正風というのは“正統な～”とかいう意味をさす)。

そして，この宗祇が，また新しく詠まれた連歌の作品をまとめて編纂したのが『**新撰菟玖波集**』だ。さっき言ったけど「つくば」は連歌という意味なのだから，今度は「新しく撰んだ連歌集」ってことになるよね。また，この**宗祇**が自分の弟子の**肖柏**・**宗長**と，三人で 100 回続けた連歌を収録したものが『**水無瀬三吟百韻**』。これは，水無瀬川の近くに奉納し，三人で歌を吟じて百回詠んだことから付いた題名だ。

［古今伝授・一条兼良］

連歌からは話がやや逸れるんだけど，この宗祇に関連する内容に少し触れておこう。彼は連歌をやるだけじゃなく，当然その根本にある和歌や古典に関してもエキスパートの人物だ。そのため，**宗祇**は**東常縁**という人物から**古今伝授**を授けてもらっているんだ。「じゃあ，古今伝授って何よ？」って話だよね。

この当時の公家も懐古主義に基づき，昔の良き時代を研究したりしている。だから，当然昔の和歌も研究したりしていくわけだけど，じゃあ昔の和歌の根本経典みたいなものって何だろう？それは，やっぱり『古今和歌集』だよね。でも，その『古今和歌集』の中には，非常にわかりづらく難しい内容のものも入っていたりする。そこで，その『古今和歌集』の難解な部分の解釈の仕方を，文章ではなく口頭で秘伝として弟子に伝えていったのが**古今伝授**なんだ。これは今出てきた**東常縁**から**宗祇**，**三条西実隆**に引き継がれて，その後の戦国時代にもいろいろな人に引き継がれていった。

また，この宗祇から和歌や古典を学び，当時の公家の中で No. 1 の文化人と言われたのが**一条兼良**だ。彼は当時最高の教養人とされたわけだけども，やっぱ彼も若い頃は，普通の公家と同じく昔の朝廷の研究をしていた。つまり有職故実書を書いていたわけだね。それが『**公事根源**』だ。“公”家の“事”の“根源”を研究するわけだから題名そのままだよね。その後，彼が関白と偉くなってから書いたのが『**花鳥余情**』。これは源氏物語の注釈書で，この文脈の内容は実はこういう意味だったんだ～，とか解説していったものだ。その後，応仁の乱が起きて最終的に**足利義尚**が 9 代将軍となったよね。でも彼はまだ若くて政治的な経験は浅いので，一条兼良に政治の心構えとかを尋ねたわけだ。その内容をまとめたのが『**樵談治要**』だ。例えば足軽は禁止した方がいいよ，とかいった内容だ。

この後，さらにこの連歌を発展させたのが**山崎宗鑑**。彼の連歌は今までの連歌とは少し違う。彼の連歌は，下の句(七・七)まで作らずに上の句(五・七・五)だけで終わらせて意味を持たせるんだ。つまり，これは五・七・五だけで終わらせる俳諧(俳句)のことだね。だから，山崎宗鑑は俳句の元祖ということになり，その彼が創めた連歌を**俳諧連歌**と言うんだ。

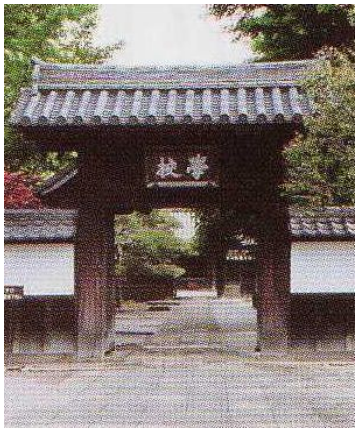
その彼の俳諧連歌をまとめたものが『**犬筑波集**』。今までの菟玖波とは漢字が違うので気をつけてね。ちなみに，犬には「おもしろい・滑稽な」って意味があるので，『犬筑波集』は「おもしろい連歌集」ということになる。この「犬」＝「おもしろい」が指しているのは俳諧連歌という，今までの連歌とはちょっと変わった連歌であるということになるよね。

© 不許複製禁転載

これで連歌は終了。それじゃあ，南北朝文化と北山文化の文学の残っている部分をやっていきたいので，まず南北朝文化に戻ろう。この時期の貴族たちは，先ほどの連歌を作っていたり，ずいぶんと暇だよね。この時期の貴族は，政治の中心が武家に移ってしまっているので，基本的にはすることがないからね。だから，「今は武家の世の中になっちゃってるけど，平安時代の頃とかは貴族の世だったんだよな。あ～。昔は良かったな～」なんていって，昔の朝廷のことを研究するんだ。それが朝廷の儀式や年中行事を研究する**有職故実**という学問だ(鎌倉文化でも学習したよね)。これで有名なのが**後醍醐天皇**の書いた『**建武年中行事**』と，**北畠親房**の書いた『**職原抄**』。前者は，後醍醐天皇が自らの政治力の再興のために宮中の年中行事を月ごとにまとめたもので，後者は日本の官職制度について書かれたもの。これで南北朝文化の文学は終了だ。

これが北山文化になると，日本と明との間に日明貿易が始まったよね。ほら，だって北山文化って義満の時代でしょ？そうすると，中国の明と交易するわけだから，中国語を喋れないとまずい。そこで，禅宗の臨済宗のトップである五山の僧たちが，中国の漢詩や**宋学**を研究するわけだ。この学問を**五山文学**と言うんだ。五山の僧による文学を五山文学というって，そのまま過ぎだけどね。そして，その研究の成果を本として出版したのが**五山版**だ。その五山文学の有名な僧が，南禅寺の**義堂周信**と相国寺の**絶海中津**だ。“信”と“津”の漢字に気をつけてね。また漢詩を研究しているわけだから，義堂周信の方は漢詩文集である『**空華集**』を著している。

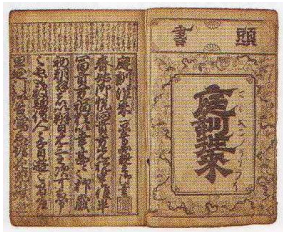
では続いて東山文化の文学史を見ていこう。この時期には応仁の乱(1467)が起きたせいで京都は荒れ果てちゃって，公家とかの文化人は京都に居られなくなっちゃった。だから，公家たちは地方の大名とかを頼っていくようになる。そのため，中央の文化が地方に普及していった，というのは始めにやったよね。だから地方でも教育が普及するんだ。特に武士の中でも教育に力を入れる人が出てきて学校とか作っちゃう。それが**関東管領上杉憲実**の再興した**足利学校**だ。これは昔からあったんだけど，廃れちゃってて，彼がこれを再興したんだ。新しく作ったんじゃないよ，再興だからね。そして，この足利学校に全国から僧侶や武士が集まってきて，高度な教育が施されたわけだ。そしたら 3000 人近くも学生が集まって，**フランシスコ・ザビエル**に「坂東の大学」とまで称されるようになったんだ。



〔足利学校〕

同じように教育が地方に普及していったものを具体的に見てみよう。それが下の儒学の地方普及ってやつだ。例えば，**桂庵玄樹**という儒学者は明から帰国後，薩摩の**島津氏**や肥後の**菊池氏**に招かれ，そこで儒学の講義をしたんだ。その後，島津氏のもとで栄えた彼の儒学の一派を薩南学派と言う。だから彼のことを薩南学派の祖なんて言うんだよ。それに対して，**南村梅軒**という朱子学者は土佐の**吉良氏**に仕えて朱子学を講義したんだ。そして，この吉良氏で興った儒学の一派を南学派，又は海南学派と言う。

このように，この頃から既に地方の武士の中では子供に教育を受けさせる習慣が出来ていた。じゃあ，どこで教育を受けさせるかというと，実はお寺なんだ。この時代は，江戸時代の寺子屋のような教育施設ってのは整ってないから，基本的には寺院に預けるんだ。その寺で用いられた教科書が『**庭訓往来**』というもの。これは**往来物**と呼ばれる手紙形式で編纂された初等教科書だ。作者は**玄恵**と言われているんだけど，読み方は“ていくん”じゃなくて“ていきん”じゃないとダメだから気をつけてね。なおかつ，こうした教育が武士の間で広まったわけだけど，この当時には既に貨幣経済も浸透していたよね。だから，武士だけじゃなく商工業者も職業上，読み，書き，計算が必要になる。そのため国語辞書が作られたんだけど，それが**饅頭屋宗二**が刊行したといわれる『**節用集**』だ。



〔庭訓往来〕

© 不許複製禁転載

［C］建築史


〔鹿苑寺金閣〕

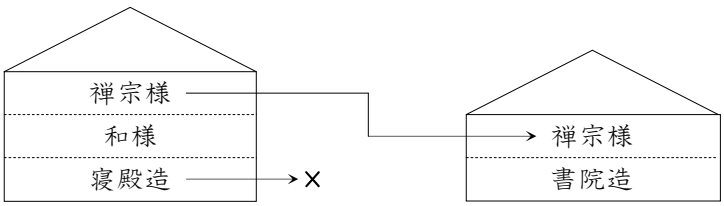
3代将軍足利義満の時期に栄えた文化を北山文化と言う理由は，義満の造った金閣が京都の北山にあったからだったよね。この**足利義満**が建てたのが**鹿苑寺金閣**だ。ただし，金閣寺って書いてはダメ。その理由は，金閣は寺ではなくて鹿苑寺という寺の中にある一つの建物でしかないからだ。もともと，鹿苑寺には金閣(舎利殿)以外にもいろいろ建物があったんだけど，義満の子の義持によって金閣以外の建物は取り壊されちゃったんだ。

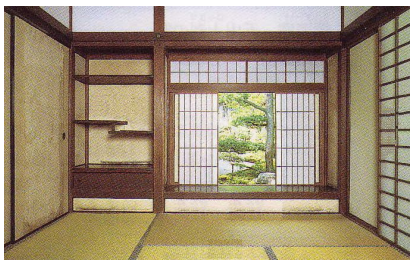
さて，この金閣は3階建てで，1階が**寝殿造**，2階は和様，3階の最上層が**禅宗様**で出来ている。そして，これにはちょいと深い意味合いがあるんだ。1階の寝殿造は，公家文化の代表格。また3階の禅宗様は禅の精神をもった武士の文化を表している。つまり公家の文化と武士の文化が融合しているのが，この金閣なわけだ。そして，この公家文化と武家文化の融合こそが北山文化の特徴でもあったよね。これは，義満が武家の頂点である征夷大将軍になった後，公家の頂点である太政大臣になっていることも背景にある。


〔慈照寺銀閣〕

これに対して東山文化を見てみよう。東山文化の名称の理由は足利義政の造った銀閣が京都の東山にあったからだったよね。そして，先ほどの3代足利義満の建てた鹿苑寺金閣に対して，8代**足利義政**が建てたのが**慈照寺銀閣**だ。ただ，これも銀閣寺って言っちゃいけない。これも慈照寺っていう寺の中に銀閣があるからだ。この銀閣は2階建てなんだけど，1階は**書院造**で，2階は金閣と同じように**禅宗様**となっている。書院造というのは，小学生のころ習ったと思うけど，床の間があって，襖があって，**明障子**・**付書院**・**違い棚**があって，…というように今の和風建築のこと。ほら，和風の部屋って，「簡素」で「幽玄」とかいった趣があるでしょ？今現在にも続く伝統的な日本文化が形成されたのが東山文化の特徴だったよね。それを見事に表しているのが，この書院造だ。この**書院造**の建物で最も有名なのが，**慈照寺**の**東求堂同仁斎**。これは銀閣の中にあるわけじゃないよ。銀閣の前に池があって，その向かいに東求堂という建物が建っている。そして，この建物の中の右奥にある義政の書斎のことを同仁斎というんだ。

＜金閣と銀閣の構造＞




〔慈照寺東求堂同仁斎〕


〔慈照寺庭園〕

ところで，鹿苑寺金閣や慈照寺銀閣の写真を見てみるとわかるけど，それぞれ金閣・銀閣の前には池が広がっているよね。こういった池の近くには左の写真のような回遊式庭園と呼ばれる庭園があるんだ。回遊式庭園というのは，一定の順路にしたがって池のまわりの庭をめぐっていくと，築山・野筋・洲浜など移り変わる様々な景色を鑑賞できるというもの(江戸時代に，各大名によって造営された水戸藩の**偕楽園**，加賀藩の**兼六園**，岡山藩の**後楽園**といった日本三名園など，大名庭園のほとんどが回遊式庭園である)。この回遊式庭園として有名なものが，鹿苑寺庭園や慈照寺庭園，

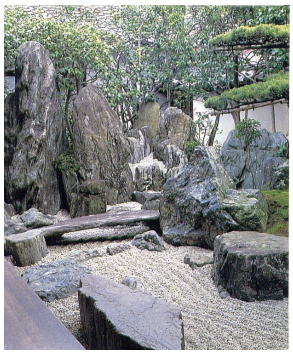
© 不許複製禁転載


〔西芳寺庭園〕

庭全体が苔で覆われていることから通称苔寺とよばれる西芳寺庭園だ。そして，こうした庭を造ったり整備したりする作庭のことを**山水河原者**と呼ぶ。その中で有名な作庭が，将軍足利義政に寵愛されて「天下第一」の作庭と呼ばれた**善阿弥**だ。なお，もしも，回遊式庭園に足を運んでみたかったら，東京の六義園に行ってみるといいよ。これは江戸幕府の 5 代将軍徳川綱吉の側用人として仕えた柳沢吉保が造営させた回遊式庭園なんだけど，中央線の水道橋駅から歩いて 10 分ぐらいで行けるからね。

こういった庭園には回遊式庭園以外にも様式があるんだけど，その様式の一つが**枯山水**と呼ばれるもの。これは水を使わないで，石とか砂で自然の海や川の流れを表現したものなんだ。この枯山水で有名なのが竜安寺石庭と大徳寺大仙院庭園だ。竜安寺の石庭は修学旅行で京都に行く場合，必ずと言っていいほど訪れることになるよね。僕も中学 3 年の修学旅行で行ったんだけど，僕からしてみれば，トンボで砂利に波線をつけただけに見えて，その時は何が素晴らしいのかさっぱりわからなかった。実は，この竜安寺の石庭の白砂利の部分は海を表していて，15 個ある石は島を表しているそうなんだ。まぁ，解釈の仕方は人それぞれ自由なんだけど，実はこの石庭にある 15 個の石は，どこから眺めても 14 個しか見えないっていうことは知ってたかな？必ず一つ隠れるというところに日本の美というものが表れているよね。


〔竜安寺石庭〕

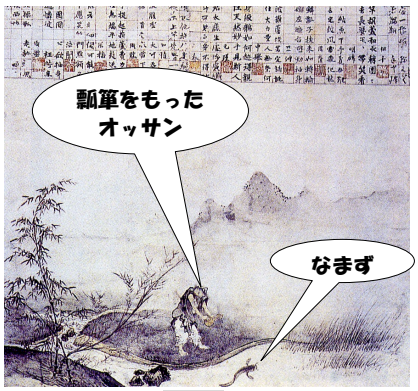

〔大徳寺大仙院庭園〕

［D］絵画史


〔寒山図〕

さて，絵画の話に移っていこう。この室町時代から広まった絵画の技法の一つに，墨一色で描く**水墨画**がある。これは墨の濃淡，つまり墨を濃く塗ったり薄く塗ったりすることで，色合いを出していくんだ。でも，そもそもこの水墨画っていうのは，日本で生まれたものじゃなくて中国から禅宗と一緒に伝わったものだった。だから，水墨画が伝わってきた当初は，絵画といっても禅宗とのつながりが非常に強かったんだ。つまり，水墨画を描くのは修行の一環のようなものだったわけだね。それゆえ，これを描いたのも，当然坊主だったんだ。その坊主の中でも絵のうまい奴が出てきて，その日本最古の水墨画の坊主が『布袋図』を描いた**黙庵**と，『寒山図』を描いた**可翁**だ。

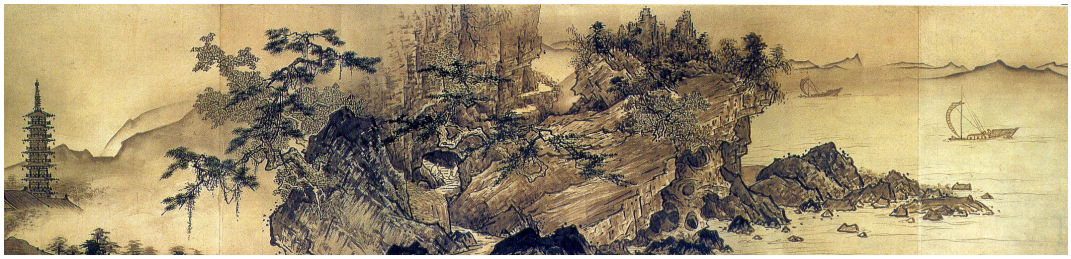
そして，北山文化になると，『五百羅漢図』を描いた**明兆**，『**瓢鮎図**』を描いた**相国寺**の禅僧**如拙**といった本格的な画僧が登場する。この後者の如拙が描いた『瓢鮎図』は，変なオッサンがヒョウタンを持ってナマズを捕まえようとしている様子が描かれている。これは「瓢箪で鮎をいかにして捕まえるか」という禅問答，つまり**公案**の内容を描いたものなんだ。ちなみにその答えは「なかなかいいね。もっとうまくやるならヒョウタンに油を塗った方がいいよ。」なんだってさ。でも，そもそもナマズを捕まえること自体，すべりやすいから素手では難しいでしょ？その上，そいつをひょうたんで捕まえるなんて不可能じゃん？そして，ダメ押しはその答えだよね。もっとすべりやすい油を塗れって…。まあ，こういった水墨画に公案の絵が描かれていることからも，この頃はまだ水墨画が禅宗の影響下にあることがわかるよね。



〔**瓢鮎図**〕

© 不許複製禁転載

この如拙から水墨画を学んで，発展させたのが『寒山拾得図』を描いた**周文**。そして，この周文から水墨画を学び，中国に渡った後に水墨画を大成させたのが**雪舟**だ。大成させたというのは，水墨画を完成させたということだけど，具体的に言うと，今までの禅の制約を乗り越えたってこと。つまり，禅の縛りは受けず，自由な絵を描くってことだ。だから，彼の作品である『**四季山水図巻**(**山水長巻**)』とか『秋冬山水図』，『天橋立図』は，禅に関係した公案とかは全く入っていない風景画なんだ。



〔**四季山水図巻**(**山水長巻**)〕



〔寒山拾得図〕

＜水墨画家の覚え方＞

☆「民情出世(みんじょうしゅっせ)」

みん→明兆／じょ→如拙／しゅ→周文／せ→雪舟

この中国から伝来した水墨画に対して，日本古来の日本画が大和絵と呼ばれるものだったね。そして，この時期に大和絵は 2 大流派に別れていったんだ。それが**土佐派**と**狩野派**の 2 つ。簡単に違いを言うと，土佐派は天皇や公家つながりで，狩野派は幕府つながり。

その土佐派の祖が**土佐光信**という人で，彼の画風は純粋な大和絵で，彼は朝廷の宮廷絵所預という朝廷お抱えの絵師になって名を馳せていった。それに対して，幕府御用絵師といって幕府お抱えの絵師になったのが狩野派。この狩野派の画風は，土佐派のような普通の大和絵とは少し違う。土佐派は純粋な大和絵だったけど，狩野派のは従来の大和絵に水墨画を混ぜた和漢(日本と中国)融合の様式なんだ。簡単に言えば「大和絵」＋「水墨画」ということ。その狩野派の祖が『周茂叔愛蓮図』を描いた**狩野正信**で，その息子が**狩野元信**。その息子の元信が描いた作品が，大徳寺にある『**大仙院花鳥図**』。これは，この絵の描き方だけ見ると水墨画っぽく見えるかもしれないけど，ちゃんと色が付いている大和絵の様式をとっているんだよ。ちょっとモノクロだとわかりにくいけどね。



〔大徳寺**大仙院花鳥図**〕

＜狩野派の覚え方＞

☆「可能性もっと出せるよ」

可能→狩野／性(せい)→正(せい)信／もっと→元信／出せ→大仙院

［E］芸能史

日本の伝統的な能は，実は中国から伝来したものではなくて，ずっと前から日本にあった**猿楽**と**田楽**というものが起源なんだ。じゃあ，猿楽と田楽って何だって話になってくるよね。そこで，まずは猿楽の方から説明していこう。この猿楽っていうのは奈良時代に唐から伝わった**散楽**が語源にある。散楽というのは，曲芸とか物まねのこと。そして，この散楽が平安中期以後なまって猿楽に発展したんだ。散楽の“ん”が猿楽の“る”に一文字変わっただけだよね。だから，この猿楽っていうのも，結局は散楽と同じで曲芸とか物まねには変わりないんだ。今でも宴会などでやるかくし芸や物まねと変わりないね。

© 不許複製禁転載

一方で，田楽っていうのは農民の中で流行った踊りだ。これはね，田植えをするでしょ？でも田植えって単純作業で飽きるじゃない？そこで腰鼓，つまりちっちゃい太鼓とか楽器をつかって田植えをしている人を囃すんだ。それが田楽だ。ちなみに右の絵でもそうだけど，女の人が田植えをしている横で，鼓を敲いている人たちがいるよね。これが，初めの頃は農耕儀礼として農村で演じられていたんだけど，平安時代の末になると貴族にも広まり，大流行していったんだ。



〔田楽の様子〕

こうして猿楽や田楽がブームになると，そういった田楽や猿楽を芸として専門的に演じる人たちが出てくる。そして，ただ単に歌ったり踊ったりするだけじゃ売れないので，彼らはその歌舞に演劇としての仕組みを加えて人前で演じるようになったんだ。つまり，今までは素人的な遊びだったものが，本格的に見世物に出来るレベルへとアップしたわけだね。この演劇のことを**能**といい，これによって，今までの猿楽は**猿楽能**。田楽は**田楽能**と呼ばれるようになったんだ。

そして，この猿楽能は田楽の要素をも取り入れていき，**猿楽能**が流行っていったんだ。そうすると，この猿楽を専門的に演じる猿楽師という人たちが生まれて，彼らによって芸能集団が形成される。でも，自分たちで集まって集団を作ったとしても，やっぱ不安になるよね？いつ新しい他の集団が出てきて自分たちが追い出されるかわからない。そこで，寺社に保護してもらって**座**(独占的な同業者組合)を結成するんだ(つまり，中世の社会経済史で学習した座の一つだね)。この出来上がった座を保護している本所，それが大和国守護である**興福寺**だ。そして，この興福寺に保護してもらって隆盛したのが，大和国にあった**大和猿楽四座**と呼ばれる**観世座**(もと**結崎座**という)・**金春座**・**宝生座**・**金剛座**の四つの座だ。この観世座から出て，3 代将軍**足利義満**の保護のもと，猿楽能を大成させたのが**観阿弥**清次とその息子の**世阿弥**元清だ。ちなみに，彼らが所属していた観世座というのは，もともと結崎座といったんだけど，観阿弥が自分と世阿弥の名前から観世座と改称したものだ。


〔**能**(観世能の興行風景)〕

その**世阿弥**の著書で，世阿弥が観阿弥から聞いた，能の作り方・演出の仕方など能の奥義を記したものが『**風姿花伝**(**花伝書**)』だ。これは世阿弥が親父に教えてもらったものを記したわけだけど，当然世阿弥だって自分の子供に能の極意を記している。それが『**花鏡**』だ。これは，長男の元雅に授けたものなんだけど，次男の元能だって，そういった能の極意を知りたい。そこで，世阿弥の息子の元能が親父である世阿弥元清との談話を筆録したのが『**申楽談儀**』だ。ただし，この“申”を“猿”にしたり，“儀”を“義”にしやすいので気をつけてね。

☑ 能－能楽論－『花鏡』by 世阿弥

幽玄の風体の事

書道諸事において**幽玄**なるをもて上果とせり。ことさら当芸において，**幽玄**の風体第一とせり。……そもそも**幽玄**の堺とは，まことにはいかなる所にてあるべきやらん。……ただ美しく柔和なる体，**幽玄**の本体なり。……

(**幽玄**の芸風について，すべての芸道においては，**幽玄**が理想の美とされている。とりわけ当芸(**能**)においては，**幽玄**の芸風が第一とされている。……一体，**幽玄**の境地というのは，本当はどのようなものであるべきなのか。……ただ美しく柔和な表情は**幽玄**の本質である。……)

© 不許複製禁転載

この能では『源氏物語』や『平家物語』などの古典文学とか，民間伝承のお話などを素材にしたものを演じるんだけど，そのためには脚本が必要になるよね。その能の脚本のことを**謡曲**というんだけど，やっぱりこれらも観阿弥・世阿弥の作になるものが多いんだ。また，能って次の幕に移る時に，その間が空いちゃうでしょ？その時に客を待たせるのもまずい。そこで，この能と能の間に，滑稽で卑俗な笑いを主な狙いとした**狂言**が行われたんだ。これは基本的には即興的に演じられるものが多いんだけど，社会や権力者に対する皮肉や風刺が込められていたため，しばしば上演停止になったりもしたんだ。

なお，こういった能の**観阿弥**や**世阿弥**，作庭の**善阿弥**，立花の立阿弥，水墨画・連歌の能阿弥といったように，将軍の側に仕えて，芸能や雑用をする人を**同朋衆**と言う。そして，この同朋衆の人たちには「～阿弥」という名前がつく人ばっかであることが示しているように，時宗の信者である**時衆**の人々が多かったんだ。他にも，同朋衆ではないんだけど，彼らと同じように８代将軍足利義政に仕えた，金工の**後藤祐乗**もいる。彼は刀の目釘(刀身が柄から抜けないようにさす釘)や小柄(脇差のさやの外側にさす小刀)の部分に金属を使って装飾をする彫金作品で有名な人物だ。まぁ，簡単に言えば，刀の部分にいろいろ装飾して，格好良く見せるものだね。

北山文化の時期に能が大成されたわけだけど，東山文化の時期に発展したものが茶道だ。では，そもそも「お茶」って，いつ頃日本に伝来したんだろう？お茶に関しては，鎌倉時代に宋から帰国した**栄西**が日本に抹茶を伝えたことが始まりだった。そして，当時のお茶は健康に良い薬と考えられていたことから，「お茶は体にいいですよ～。これでも飲んで病気治して下さいな」と，3代将軍の**源実朝**に『**喫茶養生記**』を献上したのは仏教史のところで学習したよね。


〔闘茶の様子〕

そうしたら，このお茶を飲む風習が南北朝時代になって庶民や武士の間で大ヒットして，**茶寄合**とか**闘茶**というものが行われたんだ。茶寄合はみんなで家に集まってお茶を飲みながらダベるもの。でも，中には「みんなでくっちゃべって，お茶飲むだけなんてつまんねーよ」って奴もいるでしょ？そこで闘茶というもんが開かれるんだ。これは「利き茶」みたいなもの。つまり，お茶を飲んで，「あ～，これは宇治のお茶やね」とか，その産地を当てるゲームをして，これを賭け事にするんだ。

つまり，この南北朝時代のお茶と言うのはただの飲み会にしか過ぎない。これが東山文化になると，この茶に禅宗の精神を取り入れて，静かな中で茶を味わう「茶道」というものが始まる。まぁ，簡単に言うならば，今まではわいわい皆でお茶を楽しんで飲んでいたわけだけど，静かな場所で本格的にお茶を味わうようになるわけだ。これを創始した人が**村田珠光**なんだけど，…でも，ちょっと待って。この村田珠光って人は茶に禅宗の精神を取り入れたわけだから，茶だけじゃなく，禅宗の精神を学んだハズだよね？じゃあ誰に禅を学んだのか？それが**大徳寺**の和尚さんの**一休宗純**(いわゆる一休さん)。だから村田珠光は彼の弟子にあたり，彼のもとで禅の精神を学んでお茶に取り入れたんだ。

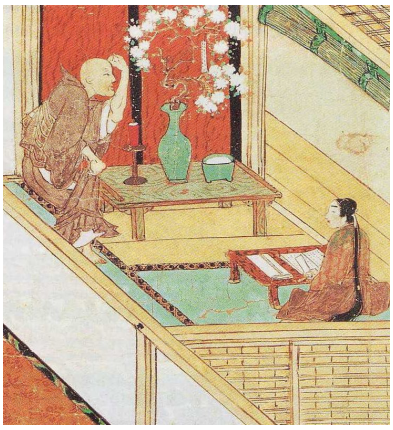
こういった茶道の，素朴で簡素な茶室で心の静けさを求めるというものが**侘び茶**だ。東山文化の特徴である「簡素」で「幽玄」なイメージにピッタリなのが，この茶道だね。そして，この村田珠光が創始した侘び茶を継承して簡素化したのが**武野紹鷗**。さらに，そこから茶道としての侘び茶を大成したのが，桃山文化期の**千利休**だ。ただし，千利休は桃山文化期になるので気をつけてね。まぁ，千利休に関する内容は桃山文化で詳しく扱おう。

＜茶道の覚え方＞
☆「ムラムラ高えセンズリ」
ムラ→村田／たけえ→武野／せん→千利休

© 不許複製禁転載

唐突に下ネタのゴロを入れてみたんだけど，残念なことに，女の子の中には「センズリ」が何なのかわかんない子もいる(笑)。わかんない女の子は，男の子に「ねねねねね，昨日センズリした？」って聞いてみてごらん。なお，本当に聞いちゃったとしても苦情はやめてね(笑)。

こうした茶道は日本の伝統芸能として，今現在も続いているよね。同じように，今現在も日本の伝統芸能として続いているのが，この時期に確立された花道(華道)だ。今でもそうだけど，仏壇の前には花を添えるよね？そこから発達して，座敷の床の間とかに花を飾る生け花の様式が**立花様式**だ。この花道の流派で有名なのが，今でも有名な池坊流。その池坊の祖が**池坊専慶**で，この後に池坊専応，池坊専好と続くけど，覚えるのは最初の専慶だけで十分だよ。


〔立花〕

じゃあ，ラストに庶民の文化を見ていこう。じゃあ，庶民の文化って何だろう？君たち庶民もクラブに行って踊ったり，カラオケに行ったりして歌うでしょ？この時代も同じで，庶民の文化はやっぱり踊りと歌。まず，踊りで代表的なものが桃井直詮(幸若丸)が創始した**幸若舞**。これはまず扇子をもつでしょ。そして，鼓の「ポン・ポン」ってリズムに合わせて踊るんだ。ちなみに，これが大好きだった戦国武将が織田信長だよ。信長は「敦盛」という幸若舞の曲の一つが大好きでね，桶狭間の戦いの出陣前にも「人間五十年，下天の内をくらぶれば，夢幻のごとくなり。一度生をえて滅せぬ者のあるべきか」って踊ったんだ。皮肉なことに，信長自身も 50 歳間近の 49 歳で明智光秀に殺されちゃうんだけどね。こうした幸若舞は，『義経記』や『曽我物語』など軍記物語の内容をもとにしたものが多かったので，織田信長や豊臣秀吉などの武将の間で人気が高かったんだ。一方，庶民の中で特に流行ったのは**風流踊り**と呼ばれるものだ。風流踊りというのは華やかなカッコをして踊ることをさすんだけど，これが都市や農村で流行っていったんだ。そして，後にこの風流踊りと念仏を唱えて踊る**念仏踊り**が結びついて，今日の**盆踊り**へとつながっていく。


〔風流踊り〕

さて，今までのは踊りだったけど，歌の方はどうだろう？この当時は，**小歌**と呼ばれる男女の恋愛などを歌った民間歌謡が庶民の中で流行していたんだけど，その小歌の良いものを集めた小歌ヒットソング集が『**閑吟集**』だ。

一方で，この時代には地方に文化が普及したり，教育のすそ野が広がったことで読者層も増えるようになった。そのため，庶民にも読みやすい短編の物語が作られるようになったんだ。それが『酒呑童子』や『一寸法師』，『浦島太郎』，『物くさ太郎』などの**御伽草子**だ。まぁ，今でいう御伽話のことだけど，これらがいつの時代に出来たか知らなかった人も多いんじゃないかな？ちなみに，これは庶民が主人公であり，庶民の台頭を示している。特に一寸法師なんて，針一寸の大きさの一寸法師が鬼を倒しちゃうでしょ。実は，これって小さな者が大きな者を倒すという下剋上を表したものでもあるんだよ。



〔物くさ太郎〕

© 不許複製禁転載

［文化史⑨－桃山文化(安土・桃山時代の文化)－］

［A］桃山文化の特徴

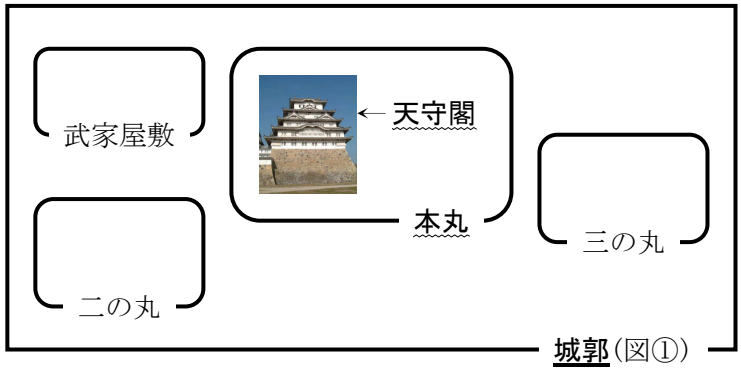
織田信長の居城は**安土城**(本能寺の変後に焼失しちゃったけどね)。また，豊臣秀吉の晩年の居城は**伏見城**で，その伏見城の跡地には桃が植えられたことから，この地は**桃山**と呼ばれるようになった。この織豊政権(信長・秀吉政権)の時期を，その居城にちなんで安土・桃山時代と呼び，この時期の文化を**桃山文化**というんだ。んで，簡単にこの時期の文化の特徴をまとめるとこうだね。

＜桃山文化の特徴＞
①新興武家や富裕な豪商らが担い手となった豪華・壮大な文化
②南蛮文化の影響

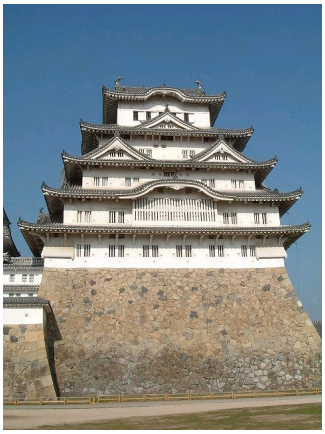
まず，この時代には織田信長や豊臣秀吉といった統一政権が誕生し，富と権力を牛耳ることになった(信長はその過程で死んじゃったけどさ)。だから，彼ら信長・秀吉や各地で大きな勢力を誇った大名たちが，そして，貿易などで儲けた豪商らが，自分の財力に物を言わせた絢爛豪華な文化を生み出していったんだ。たとえば，秀吉のつくった「黄金の茶室」なんてその最たるものだよね。これが①の特徴。そして，もう一つは，この時期にやってきたポルトガル人やイスパニア人などの南蛮文化の影響だ。

［B］建築

この時期は戦国時代や安土・桃山時代といった戦いの時代にあたるわけだから，当然お城がつくられるようになるよね。このお城のことを正確には**城郭**というんだ。この城郭の造りは，大きくて美しい**天守閣**という櫓を持つ**本丸**を中心に，二の丸や三の丸などを配している。…と言っても，意外に城の構造がどういうものなのか具体的にわかっていない人も多いと思うんだ。そこで，まずは右の図を見てみよう。



そもそも、城郭(お城)というと，よく図②のような何層かで構成された建物を連想する子がいるんだけど，これは**天守閣**という城の中にある一つの建物にしかすぎない。城というのは図①のように，いくつもの建物がたくさん配置されている全体のことを城郭という。そして，この城郭には**本丸**とよばれる中心となる区域，その次に中心となる二の丸・三の丸などといった区域があるんだ。基本的には，本丸には大名がいて，二の丸には嫡男や家臣たちが住んでいるというイメージを持ってくれるといいかな？

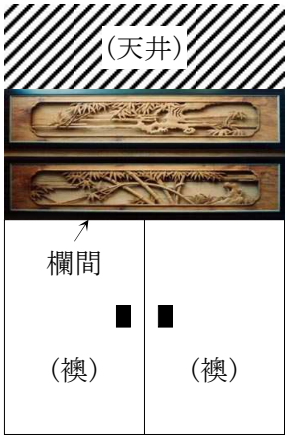

〔天守閣(図②)

そして，その本丸の区域の中に，図②のような何層にもなって構成された**天守閣**というものがある。その天守閣に大名がいて政務などを行っているわけだ。なお，こうした天守閣を造るにはそれだけの技術も必要だし，お金もかかるよね。だから，この天守閣が造られるようになったのは戦国時代の後期あたりからで，初めの頃はこんな何層にもなっている立派な建物は造られていなかったんだ。初めの頃の大名は，主に一層で構成された**書院造**の館に住んでいたりした。こうした天守閣は造らず，主に一階建てで出来ている館や，天守閣の最上部で大名が居住する書院造のスペースを**居館**という。

© 不許複製禁転載

さて，大名たちはこうした城郭に設けられた天守閣などに住んでいるわけだけど，当然大名の住居だから，その中は立派な造りになっている。例えば，襖とか障子があったとするでしょ？そうしたら，単純に襖や障子があるだけでなくて，その襖や障子に立派な絵が描かれていたりするんだ。極端なものになると，襖や障子に金箔が張ってあって，そこにまた絵が描かれているんだ。これを障壁画とかいうんだけど，詳しくは絵画のところで説明するね。

でも，その襖と天井の間には，当然右のようにスペースがあるよね。その空間にもちょっとしたお洒落を施しているんだ。右の写真のような，襖と天井の間にはめ込まれた，格子や透かし彫りの板のことを**欄間**という。



このような天守閣などをもつ城郭が全国各地に築かれていったんだけど，この天守閣を持つ城で，現存最古のものが愛知県にある**犬山城**だ。これはこの地を治めていた織田氏が築城したものなんだけど，「おっ？織田氏か！」って思ったよね。そう，あの信長の家系にあたる織田氏だよ。まあ，築かれたのは信長の生まれるずっと前だけどね。その織田氏から登場したのが織田信長で，彼はついに畿内を勢力下におく大大名に成長したよね。そこで，自分の権勢と天下統一のあり方を示そうとして 1576 年に建てたのが**安土城**だ。こいつの天守閣内部はそりゃ，もうメチャメチャ豪勢だった。例えば，襖の屏風には当世第一の絵師狩野永徳に描かせたりしているんだ。

今までのものは信長関係の城が多かったね。でも，当然次の天下人の秀吉も豪壮な城郭を造っている。それが 1583 年に築かれた**大坂城**や**聚楽第**，**伏見城**なんだけど，実はこれらのどれも，その当時のものは現存していないんだ。大坂城は現存しているとは言っても，戊辰戦争の戦火によって大半が焼失しちゃっているし，1588 年に後陽成天皇の行幸が行われた聚楽第も今では存在しない。

聚楽第から移築



〔西本願寺飛雲閣〕



〔大徳寺唐門〕

聚楽第から移築

この秀吉の建てた聚楽第は，天皇を迎えるぐらいだから，超豪勢だった。そして，この後，秀吉は関白を辞めて甥の豊臣秀次に関白を譲ることになった。それと同時に，この邸宅も秀次にあげたんだけど，後に秀吉に嫡子(秀頼)が生まれたため，徐々に秀次は秀吉からウザがられて，最終的に自害させられちゃったんだ。これに伴って，聚楽第も壊そうってことになったんだけど，さすがにもったいないよね。そこで，その大半を使って新しく伏見城を築城して，残りの一部を**西本願寺飛雲閣**と**大徳寺唐門**に移築したんだ。だから，今現在は存在しないため，豪華絢爛だった聚楽第を見ることはできない。…でも，待って！移築したっていうことは，その伏見城とか，西本願寺とかの部分から聚楽第が復元できるんじゃない？…そう，カギは伏見城が握っているのだ。



〔西本願寺唐門〕



〔西本願寺書院(鴻の間)〕

3つとも伏見城から移築した



〔都久夫須麻神社本殿〕

ところが，その聚楽第の大半を移築した伏見城も 1623 年に江戸幕府により廃城とされてしまった。つまり，聚楽第を知る最大の手がかりであった伏見城も今はないわけだ。ただ，この伏見城の一部もまた**西本願寺唐門**や書院(鴻の間)から**都久夫須麻神社本殿・唐門**に移築されているんだ。つまり，これら移築したものから，当時の聚楽第や伏見城の一部を知ることが可能になるわけだ。だから，それぞれ聚楽第・伏見城の遺構といわれるんだ。

© 不許複製禁転載

この秀吉がまだ信長の家臣だった頃には，彼は中国地方の毛利氏征伐を任せられていた。その中国征伐の拠点としていたのが兵庫県の姫路城だ。この頃の姫路城は今みたいな立派な城郭ではなく，これは江戸時代の 1609 年に姫路藩主の池田輝政が大改築を行って今の規模の平山城の姫路城になったんだ。なぜこの城がこれだけ有名かって言うと，この城は外見が美しいだけでなく，軍事的にも非常に優れた城だったから。そのため，こうした外見美と機能美を併せ持っていることから白鷺城とも呼ばれているんだ。


〔姫路城天守閣〕

さて，今まで出てきたこれらの城郭には，それぞれ丘に建てられたものもあれば，平地に建てられたものもあったんだけど，実はこうした築城法といったものは時代と共に変化していったんだ。簡単に築城法の形態を見てみよう。

＜築城法の形態＞
山城（山に築城） → **平山城**（丘に築城） → **平城**（平地に築城）

戦国時代の中期辺りまでは城を落とされないために山の上に造られる**山城**だった。これだと，攻める相手側としては山の上にあるし，非常に落としづらい。城の上から弓矢でピュンピュン射られてしまうもんね。ところが 1543 年に種子島に鉄砲が伝わった。これにより攻める側も下からバキューンと撃ち返せるようになる。…ということは，もう山の上に城を造る意義はなくなってしまうよね。そのため，山から丘の上に造られる**平山城**へと変わっていき，最終的には領国経営の政治面を重視したため平地につくられる**平城**へとなっていく。つまり，この築城法に大きな影響を与えたのは鉄砲の伝来だったんだ。

［C］絵画

さっき建築のところで天守閣には殿様が居るという話をしたよね。やっぱ大名っていうのは，その土地の頂点に君臨する人で，それだけ権威を持った人だ。そこで，大名自身の権威を象徴するために，天守閣の中には豪華な**障壁画**（障子や襖，壁に描かれた絵画）が描かれるんだ。ちなみにこれは障子や壁にそのまま描くんじゃなくて，紙に描いたものを貼り付けたもの。

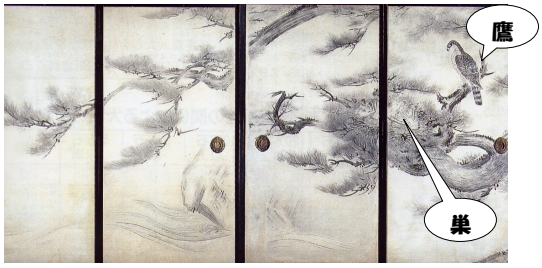
この障壁画には二つの様式があって一つは室町時代に完成した水墨画。そして，もう一つが金碧障壁画というもので，これは金箔を押した画面に緑や青，朱色といった濃い色彩を用いて描くんだ。まさにリッチの極みだよね，金箔の上に絵を描くなんて…。でも，金の上に絵を描くって結構難しいよね，だって色が付かないでしょ。だから，何度も何度も絵の具を塗り重ねて描くんだけど，この技法を**濃絵**というんだ。なお，読み方はあくまでも“**だみえ**”だからね。


〔**唐獅子図屏風**〕by**狩野永徳**

さて，こういった障壁画がたくさん描かれて，その作品がいっぱい残っているんだ。この中心となったのが室町時代に登場した狩野派だ。室町時代の狩野派は正信・元信と続いたよね。その元信の孫で，狩野派の隆盛を築いたのが**狩野永徳**。この人の作品の『**唐獅子図屏風**』だけは絶対に覚えておかなければダメだよ。白黒写真だとわかりにくいけど，この雄雌の獅子（ライオン）以外の余白は金で仕立ててある。まったくもって贅沢の極みだね。また，狩野永徳はこの他にも『檜図屏風』や『**洛中洛外図屏風**』といった作品も描いているけど，後者の方に関しては，風俗画という分野のところで扱おう。

© 不許複製禁転載

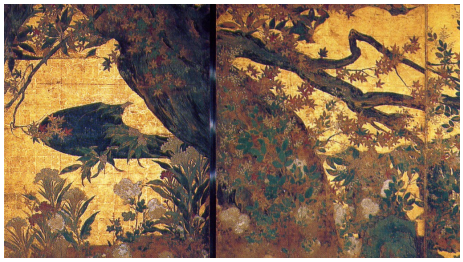
その永徳が死んだあと，永徳の様式を受け継いだ代表的な画家が，彼の弟子の**狩野山楽**だ。彼の作品には二つあって，彼の最も雄大な作品が『松鷹図』だ。またまた白黒だからわかりにくいんだけど，この作品の余白は金とかは使っていないんだ。だからこれは水墨画なんだ。ちなみにこの絵は松の枝にとまっている親の鷹が巣のヒナを守っている様子を描いたものだよ。まあ，ぶっちゃけ，そんなのは気にせず作品と作者を覚えておけばいいんだけどね。その覚え方は後でまとめて教えるから安心してくれ。さて，同じく彼が描いた金碧画が『牡丹図』で，こちらは金碧画だからやっぱり余白は金になっている。

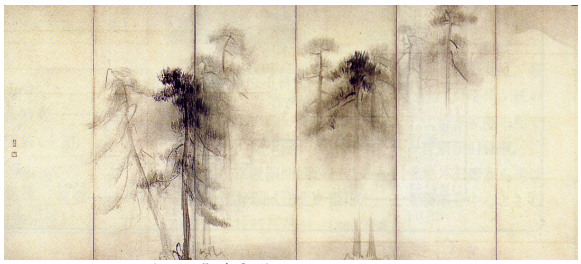


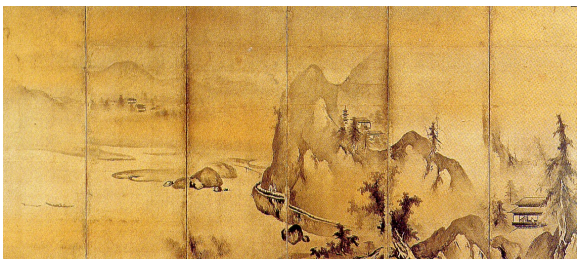
〔松鷹図〕by 狩野山楽


〔牡丹図〕by 狩野山楽

一方で，この狩野派以外にも作者がいる。その中で有名なのが，雪舟５代目を自称した**長谷川等伯**で，彼は『智積院襖絵』という金碧障壁画を描いている。これは『唐獅子図屏風』に次ぐ頻出の作品だね。ちなみに真ん中の黒いでかいものは楓の巨木だそうだ。また，もう一つの作品の水墨画『松林図屏風』は何かぼやけているけど，これは靄にけむる松林を描いたものだから，そりゃぼやけて見えるよね。狩野派以外の画家は等伯の他にもう一人有名なのがいる。それが近江の武士であった**海北友松**で，彼の水墨画の作品としては『山水図屏風』が有名だね。


〔智積院襖絵〕by長谷川等伯


〔松林図屏風〕by 長谷川等伯


〔山水図屏風〕by 海北友松

でも，こういった作品と作者って覚えにくいよね。そこで，これらはゴロで覚えておくといいかな。

＜狩野派以外の作品の覚え方＞

☆「長谷川，勝利の陳謝で解放ざんす」

長谷川 → 長谷川(はせがわ)・勝利 → 松林(しょうり)・陳謝 → 智積院(ちしゃ)

解放 → 海北(かいほう)・ざんす→山水(さんす)

さて，狩野派というのは今あげた永徳と山楽以外にもいろいろいる。その永徳も含めて狩野派と呼ばれる人たちの作品が多いのが風俗画と呼ばれるジャンルなんだ。これはその名の通り，風俗嬢についての絵…ではなく，庶民とかの市井の風俗を描いたものだ。ほら，大名たちのは天守閣に住んでいて，市内の様子とかはわからないでしょ？だから，こういった市内の様子を風俗画として描かせたりしたんだ。その中で有名なのがやっぱり**狩野永徳**で，京都の市内や洛外，市民の様子を描いたのが『**洛中洛外図屏風**』だ。これは織田信長が上杉謙信に贈ったことで有名だね。他にも**狩野吉信**の『職人尽図屏風』や，狩野秀頼の『高雄観楓図屏風』などがあるけどこれらは外していい。逆に外せないのが，永徳の末弟の**狩野長信**の描いた『花下遊楽図屏風』だ。これは桜の花の下で，貴人とお供の男女が遊楽するものを描いたものだよ。


〔花下遊楽図屏風〕
by 狩野長信

© 不許複製禁転載

ちなみに，狩野派はこの風俗画以外にも南蛮人との交流や風俗を主題にした**南蛮屏風**というものを多く描いているけど，『世界地図屏風』や，『泰西王侯騎馬図屏風』などのこれらは聞かれないので安心してくれ。ただし，これらを描いたのは宣教師ではないからね。これらは宣教師が自らの布教と南蛮文化を理解させるために，南蛮人やその風俗を狩野派の画家に頼んで描いてもらったものなんだ。


〔南蛮屏風〕

……随分，狩野派も頑張ってくれたもんだよね。ある意味，こいつらが頑張ってしまったおかげで君たちが覚える作品が多くなってしまったわけだ。まずは，入試に出る狩野派の画家とその作品を並べてみよう。

＜狩野派の作品＞

狩野永徳…『**唐獅子図屏風**』・『檜図屏風』・『**洛中洛外図屏風**』（風俗画）
狩野山楽…『松鷹図』・『牡丹図』
狩野長信…『花下遊楽図屏風』（風俗画）

…やっぱ多いよね。そして混乱するよね。もちろん写真も見ておかなければならないけど，作品と作者が混乱しやすい。…でも，ご安心を。ちゃんと根本式ゴロ合わせによる覚え方があるのだ。

＜狩野派の作品の覚え方＞

☆「長野で話したＡからＢの参照用ボタン」
長野で話した → 長信（ながの）＝花下遊楽（はなした）
ＡからＢの → 永（Ａ）徳＝唐獅子（から）／洛中洛外（ら）／檜（Ｂの）
参照用ボタン → 山楽（さん）＝松鷹（しょうよう）／牡丹（ボタン）

簡単にシチュエーションを説明すると，長野に遊びに行ったら，「Ａ」ボタンと「Ｂ」ボタンがついているスイッチがあったんだけど，「これは押してはいけません。参照用です」という変な注意書きがしてあったという意味不明なシチュエーション。

［D］芸能

さて，芸能の茶道に入っていこう…，と言う前に，まず茶道の歴史を簡単に振り返っておこうか。詳しくは室町時代のところを参照してほしいけどね。


〔千利休〕

鎌倉時代に栄西がお茶を日本に伝えたけど，南北朝時代までは，ただの飲み会のようなものに過ぎなかったよね。それが東山文化の時期になると，今までの飲み会でしかなかった“お茶”に，**村田珠光**が禅の精神を取り入れて本格的に静かな中で茶を味わう“茶道”というものが始まった。こういった茶道の，素朴で簡素な茶室で心の静けさを求めるというものが**侘び茶**というものだったね。そして，この村田珠光が創始した侘び茶を**武野紹鷗**が引き継いで，さらにそこから茶道としての**侘び茶**を桃山文化期に大成したのが，堺の豪商出身の**千利休**（**宗易**）だったんだ。つまり，３人の人物によって，時代をまたいで“茶道”は完成されたわけだね。

そして，その“茶道”がこの桃山文化の時期になってすごいブレイクしたんだ。それは何故かというと，信長とか秀吉とか諸大名に保護されたから。まぁ，簡単に言うと，“茶道”っていうのは，その当時の大名のステータスであったんだ。大名ってのはさっきも話したように，自分の権勢を誇示しようとしたよね。だから，その一つとして当時流行っていた茶道を保護して，そのための茶碗とかも良い物をたくさん購入しようとしたんだ。

© 不許複製禁転載

例えば，あの織田信長なんかも松永久秀と「平蜘蛛」っていう当時最高の茶器をめぐって対立している。もともと，この「平蜘蛛」は松永久秀が所有していたんだけど，畿内では信長の勢力が強くなってきたので，久秀は信長の家臣となることになった。そこで，その誠意を示すために，これまた当時最高級の茶器「九十九髪茄子」という茶器を信長に献上したんだ。もちろん信長は大喜び！今まで久秀は自分の仕えている大名の嫡子を毒殺したり，将軍を暗殺したり，寝返ったりと悪人として有名だったんだけど，あえて信長は彼を家来にすることにしたんだ。…でも，信長としてみれば，「九十九髪茄子」だけじゃなく，「平蜘蛛」の方も欲しくてしょうがない。そこで，久秀に「くれや」って言ったんだけど，久秀は「平蜘蛛だけはダメ」って断ったんだ。そら，だんな欲張りすぎですがなって感じだよね。

ところが，信長としてみればやっぱり欲しい。そして，二人の関係は徐々に悪くなって，最終的に久秀はまた寝返ってしまった。そのため怒った信長は久秀の城に兵を差し向けて，ついに久秀は天守閣まで追い詰められたんだ。普通なら，自分の保身に走って，この「平蜘蛛」をあげて許しを乞うたりするでしょ。でも，久秀はここが違う。その天守閣に登って，その上から「おい，信長てめえこのやろう。欲しいだろ？俺の「平蜘蛛」欲しいんだろ？……誰がてめえなんかにあげるか！てめえにあげるくらいなら爆破しちゃるわ！」って感じに，その「平蜘蛛」と一緒に自分の身も爆破させて死んでいったんだ。……壮絶というより，ダイナミックだよね。…といったように，大名はそれだけ茶器の名器といったものを欲しがるわけだ。君たちも小学生の頃，カードのレアカードなどを集めようとした感覚と同じような感じだね。

このように，大名の中で茶道がめちゃめちゃブレイクしていることがわかる。そして，その当時，「天下一の茶匠」と呼ばれたのが千利休だったわけだ。彼の茶道の精神も，侘び茶に基づくものだから非常に簡素なもの。これを最も象徴しているのが，**千利休**の茶室である**妙喜庵待庵**だ。これはたった**2畳**しかない茶室で，すっごい小さい入り口から入るんだ。そこで，ハゲの千利休と二人っきりでお茶……。俺なら絶対に逃げ出すね。なお，この千利休の弟子はたくさんいて，武家的茶道を成立させた**古田織部**や，**如庵**という茶室を造作した織田信長の弟**織田有楽斎**が有名どころだ。


〔妙喜庵待庵〕

こうした No.1 の茶匠である千利休から茶道を学ぼうとした大名が信長や秀吉で，特にこの**豊臣秀吉**は **1587 年**の島津氏討伐のあと，**京都**の**北野神社**で**北野大茶会**という茶会を開催している。これは身分にかかわらず誰でも参加することが出来て，千利休・**今井宗久**・**津田宗及**といった三宗匠（茶道の三傑）も参加したんだけど，要はただの茶器の名器の自慢大会みたいなもの。例えば，この時秀吉は，自分の自慢である大坂城の「黄金の茶室」を持ち運んでそれを披露している。だから，秀吉としてみても「俺の茶室とか茶碗すげえべ？」って自慢するために大会を開いたわけだね。

でも，もちろん秀吉だけじゃなく，他の大名も茶碗を集めている。秀吉の時に朝鮮出兵ってあったでしょ？実は当時，朝鮮は陶磁器の大産地だった。そこで，西日本の大名たちは出兵のついでに，朝鮮人の陶工たちを強制連行して日本に連れ帰ってきたんだ。そして，自分の国に連れ帰った大名たちが，朝鮮人陶工に陶磁器をつくらせたことにより，その土地で有名な陶磁器がつくられていった。それが**お国焼**と呼ばれるものだ。例えば，**鍋島氏**では**有田焼**，**島津氏**では**薩摩焼**，**毛利氏**では**萩焼**，松浦氏では平戸焼といったものが生産されるようになったんだ。なお，この中で特に有名なものが有田焼で，この有田焼も朝鮮出兵の際に朝鮮から連行された鮮人陶工の**李参平**が創始したものだ。

こうした侘び茶を大成した千利休だったんだけど，実は当時彼を保護していた秀吉とは，ちょっと茶道に対する価値観が異なっていた。秀吉は「黄金の茶室」を造ったりと派手なものを好んでいたんだけど，利休は「そうじゃない，茶道の本質は侘びなんだ。だから，簡素にいかないとダメなんだ」というように考えていた。

© 不許複製禁転載

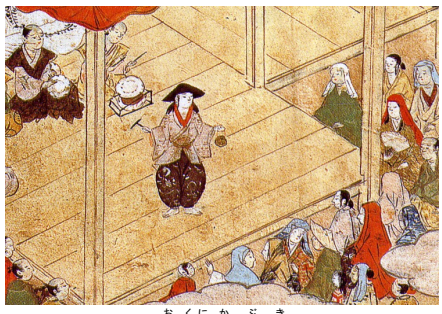
だから，その「侘び」の精神を茶碗にまで反映させようと考えた。そこで，彼が京都の陶工長次郎に命じて作らせたのが**楽焼**だ。この焼き物は絵柄とかはまったく無しの黒一色でできた茶碗で，めちゃめちゃ渋い「侘び」の精神が出ているよね。そして，これを京都の聚楽第で焼いたことから，その聚楽第の「楽」をとって楽焼といい，これ以降京都では長次郎の子孫である楽家が代々作成するようになったんだ。


〔楽焼〕by 長次郎

つまり，茶道に対する千利休の価値観は「侘び」という渋さを求めるもの。それに対して，秀吉の茶道に対する価値観は「黄金の茶室」からもわかるように，華やかさを求めるもの。こうした対立や，最終的に利休が大徳寺の山門上に自分の木像を置いたことなどが秀吉の逆鱗に触れ，利休は自害を命じられちゃったんだ。

さて，今解説をした茶道は基本的には上層階級の間で流行っていたもの。でも，下層階級の間では，そこまでお金もないし，茶道なんて出来るわけない。だから，やっぱり庶民の文化といったら今まで見てきたのと同じように「歌う」か「踊る」かのどちらかなんだ。これらはどちらもお金がかからないもんね。例えば，「歌う」なら，この当時も室町時代から引き続いて**小歌**(男女の恋愛歌謡)が流行っている。でも，それまでのものはただ“詩”だけのもので，伴奏というものはなかったんだ。これに節付け，つまり作曲をしていったのが**高三隆達**という人物だ。よく教科書には「小歌に節付け…」なんて難しく書いてあったりするけど，要は作曲したっていうだけのこと。んで，じゃあ実際にはどうやるかというと，この小歌に小鼓とかの伴奏をつけて歌うんだ。これを彼の名前から**隆達節**と言う。

じゃあ，「踊り」は？それが出雲大社の巫女と称した**出雲阿国**が始めた**阿国歌舞伎**だ。これを京都の北野神社などで興行してみたら大ヒット！やがて，諸国の遊女たちがこれを真似るようになっていき，江戸時代には女歌舞伎として発達していったんだ。ちなみに，この「かぶき」とは「傾く」からきた「かぶく」という，常識はずれの行動をしたり，奇抜な格好をしたりすること。南北朝時代の頃にも似たような人々がいて，その場合は「**ばさら**」と呼んだんだけどね。


〔**阿国歌舞伎**〕

つまり，この頃から徐々に文化の中に“人々に見せる”文化が生まれていったわけだね。今ならサッカーを見に行くとか，コンサートに行くとか“見るもの”はいっぱいあるけど，この当時まではそんなものなかったからね。そりゃ，きれいな女の人が踊っていりゃ，みんな(男は)見に行くでしょ？

こうした“人々に見せる”ものとして，もう一つこの当時から始まったのが，**人形浄瑠璃**だ。これは，人形芝居の高度なものなんだけど，実際には江戸時代の元禄文化になってから爆発的にヒットしていく。じゃあ，どうやってやるのかっていうと，人形劇みたいに人形を操って，その横で別のオッサンが浄瑠璃節という語り(ナレーション)をしていくんだ。つまり，人形を操る人と，台本を読むナレーターがいるわけだね。でも，それだけじゃ寂しいでしょ？そこで，その後ろで**琉球**伝来の**蛇皮線**から発達した**三味線**による演奏で，場面を盛り上げたりするんだ。なお，この人形浄瑠璃と歌舞伎に関しては，江戸時代に発展していくので，江戸時代のところで詳しくまた解説する。ちゃんと江戸時代とつなげて学習するようにしてね。

［E］印刷

じゃあ，ラストに印刷の歴史を見ていこう。今までの日本での印刷技術というものは，木版に文字を彫って，それに墨を塗って紙に刷る木版印刷が中心だった。一方で，朝鮮ではすでに**木活字**(木による印刷のための版)や銅活字(銅による印刷のための版)を用いた活字印刷(この活字とは，雑誌などでいう

© 不許複製禁転載

活字のことではなく，“活字”という版のこと)が発達していた。これが，秀吉の朝鮮出兵の際に日本にも伝わって，以後日本でも活字印刷術が行われるようになったんだ。そして，この木活字の技術を用いて，後陽成天皇の勅命で出版された一連の書物を総称して慶長勅版という。こうして，この活字印刷術が今までの木版印刷に代わって日本でも主流となっていったんだけど，これが日本に定着することはなく，結局江戸時代の寛永期ごろからは，再び木版印刷が主流になってしまった。まあ，その理由は漢字と仮名を組み合わせる日本語表記の難しさからだろうって言われている。

一方で，宣教師のヴァリニャーニによってヨーロッパの活字印刷術も伝来した。これは銅活字(銅による印刷のための版)を用いたもので，この技術を用いてイエズス会により出版されたものを総称してキリシタン版(天草版)というんだ。じゃあ，具体的にどういったものが出版されたかというと，キリシタンの入門書である『どちりな＝きりしたん』や，平家物語をローマ字で記した『天草版平家物語』，イソップ物語をローマ字で記した『天草版伊曽保物語』，そして日本語とポルトガル語の辞書である『日葡辞書』などがある。でも，右に「NIFONNO　COTOBA(日本の言葉)」と書かれてあるように，全部ローマ字で書かれている…。ローマ字で書かれても困るべ？すっげえ読みにくいもん。だから，結局これも日本には根付かなかったんだ。


NIFONNO
COTOBA TO
Hiſtoria uo narai xiran to
FOSSVRV FITO NO TAME-
NI XEVA NI YAVA RAGVETA-
RV FEIQE NO MONOGATARI.
IESVS NO COMPANHIA NO
〔天草版平家物語〕

ところで，以上の説明で大体わかったかな？実は，話がややこしくなるだろうと思って，少し説明を簡略化したんだ。だから，詳しく知りたい場合は下の印刷の歴史を読んでほしい。ただ，入試では本木昌造以外出ないけどね。

［印刷の歴史］

朝鮮侵略によって新しい印刷技術が伝来するまでは，「木版印刷」が主流だった。これは君たちが小学生の頃につくった版画と同じもの。つまり，木の板に文字を彫って，それに墨を塗って紙に刷るわけだけど，これだと新しいものを印刷したい場合には，いちいち毎回新しく彫らなきゃいけないよね。だから，非常に面倒な作業が必要なんだ。

こうした「木版印刷」に対して，朝鮮侵略によって朝鮮から伝来したのが，「活字印刷術」というものだ。ちなみに，この活字印刷の“活字”とは本などに印刷された字の“活字”のことではない。辞書で調べてもらっても結構なんだけど，この“活字”とは印刷のために用いる版のことなんだ。これは，この版の面に，合金を使って文字とか記号を凸形にするもの。つまり，「木版印刷」は木版に彫って凹形にしたもの，「活字印刷」は“活字”という版に合金を付けて凸形にしたものということだ。

しかも，この活字印刷の優れているのは，それぞれ一字ずつに分かれているところ。どういうことかというと，“日”っていう漢字のついた活字(その版のこと)があったり，“本”といった漢字のついた活字(その版のこと)がいくつもあるんだ。そして，それを 2 つ組み合わせることで，“日本”という文字をつくって印刷することができる。つまり，漢字，仮名それぞれ一つ一つの版があって，それを組み合わせて文章をつくるわけだね。

こうした版の元となるものには，木や銅，金属があって，それをそれぞれ木活字とか銅活字，金属活字と言う。んで，特に朝鮮から伝来した印刷術は主に木活字で，ヨーロッパから伝来したものは銅活字が主流だったんだ。ただ，後者はヨーロッパから伝わったわけだから，当然日本語の活字ではなく，“U”とか“N”，“K”，“O”といったローマ字の活字であったんだけどね。

でも，こうした新技術だったんだけど，日本では漢字とか仮名とかが多くてややこしい。ローマ字なら 26 個の活字で済むけど，日本語は平仮名だけでなく，漢字も多いから非常に面倒だもんね。「あ～，“日”って活字が見当たらなくなっちゃったよ～」とか無くしちゃったりするかもしれないでしょ？そのため，結局江戸時代の寛永期ごろからは，もともとの木版印刷のほうに戻っちゃったんだ。じゃあ，それがいつまで続いたかというと，明治初期に本木昌造が鉛製の活字印刷を発明するまで。この鉛製印刷っていうのも，活字印刷の一つだよ。桃山期の頃は，銅とか，木を使って活字をつくっていたけど，それをただ鉛(元素記号 Pb)でつくったというだけだ。

© 不許複製禁転載

［文化史⑩－江戸文化（文化の特徴・建築・文学・芸能・学問・教育）－］

［A］江戸文化の特徴

江戸時代の文化は大きく 3 つに分けることができる。それが 3 代将軍家光前後の**寛永文化**，5 代将軍綱吉前後の**元禄文化**，大御所時代前後の**化政文化**だ。

＜江戸時代の文化＞
寛永文化（家光前後の文化）……桃山文化を継承した絢爛豪華な文化
元禄文化（綱吉前後の文化）……**上方**（**京都**・**大坂**）を中心とした町人文化
化政文化（大御所時代前後の文化）…**江戸**を中心とした享楽的・退廃的な町人文化

これらの文化の特徴とその流れを簡単に説明しよう。江戸幕府が出来上がって，幕藩体制が確立するようになった 3 代将軍家光の頃に栄えた文化のことを**寛永文化**と言う。家光の時期の元号は，武家諸法度の「寛永令」からもわかるように「寛永」であるから，そのまま寛永文化というわけだね。

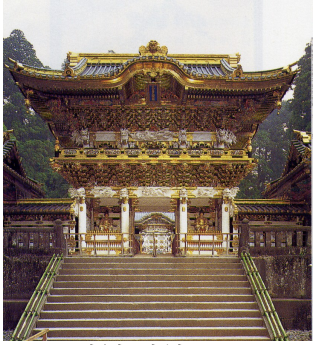
この時期は江戸幕府が出来上がったばかりで，無駄な出費とかもまだ出ないし，幕府の財政というのは豊かだ。そのため，この寛永文化期の文化財には幕府の財力に物を言わせた絢爛豪華な作品が多いんだ。つまり，「織田信長」→「豊臣秀吉」が自分たちの権威を象徴した絢爛豪華な桃山文化と同じように，この時期の文化も，江戸幕府の権威を象徴するがために豪華なものであるというわけだ。つまり，寛永文化は桃山文化の延長線上，引継ぎにあたると言えるよね。

ところが，5 代将軍綱吉の頃になると，明暦の大火に代表されるように幕府の財政は厳しくなっていった。そのため，もはや豪華な建築物とかを建てる余裕はなくなっていく。それに代わって，財力のある町人が文化の中心となっていく。こうして経済の中心である**大坂**や**京都**などの**上方**で，町人を中心として 5 代将軍綱吉の時期に栄えた文化が**元禄文化**だ。綱吉の時期の元号は，「元禄小判」からもわかるように，そのまま元禄だもんね。なおかつ，この綱吉の頃には鎖国体制が完全に確立したことによって，外国の影響を受けることがほとんどなくなった。それによって，日本独自の文化が創られていったんだ。

その後，享保の改革や，田沼時代・寛政の改革を経て，11 代将軍徳川家斉の大御所時代の時期に訪れたのが**化政文化**だ。ちょうど，大御所時代は「文化」・「文政」の時期にあたるので，その文「化」と文「政」から化政文化と言うんだ。じゃあ，どういった文化だったのかというと，一言で言うと享楽的な文化。この家斉の大御所時代ってのは，まったく見る価値もないぐらいの放漫政治が行われた時代で，寛政の改革や天保の改革のような統制がまったくない超ルーズな時代だった。でも，逆に庶民たちからしてみれば，自分たちの好きなように物事を楽しむことができる。そのため，この時期に経済の中心となっていった**江戸**で，享楽的・退廃的な文化が栄えていったんだ。

［B］建築

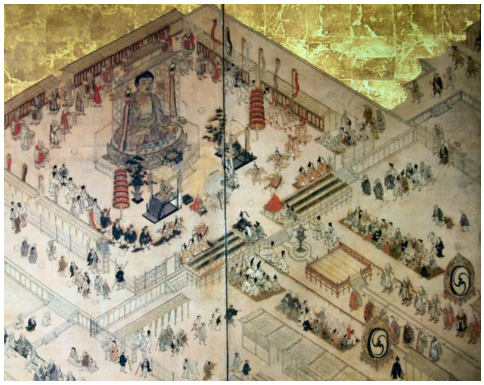
1616 年，江戸幕府を創設した徳川家康がこの世を去った。そこで，**徳川家康**を東照大権現という神として祀るために 3 代将軍家光のころに大改築されたのが**日光東照宮**だ。これは墓と寺院と神社が一体になったような構造の**権現造**という建築様式で造られたものなんだけど，「何で改築なの？」という質問があるだろうから，一応答えておこう。そもそも，家康を祀るための東照宮は静岡県の久能山と，栃木県の日光の 2 つに建てられていた。この日光の方を家光が 1634～36 年にかけて大改築を行って今の日光東照宮になったんだ。これは，徳川幕府を創設した家康という存在を通じて，徳川幕府の権威を示すために，これだけ豪華なものにしたわけだね。


〔**日光東照宮**陽明門〕

© 不許複製禁転載

こういったものに対して，逆に平和の時代として落ち着いた建築物の代表が，桂離宮（八条宮智仁親王の別邸）と修学院離宮（後水尾上皇の山荘）だ。これは写真を見てもらうとわかるけど，書院造りみたいな感じの落ち着いた雰囲気だよね。こういった書院造の中に，茶室風建築を取り入れた建築様式を**数寄屋造**というんだ。よく数寄屋造の“寄”を“奇”にする場合があるから気をつけてね。


〔桂離宮〕


〔大仏再建供養(1691)〕

このように，寛永文化の時期には江戸幕府などによって様々な建物が建てられていったわけだけど，元禄文化の時期には，明暦の大火後の財政難のため，それらを幕府が建てるのは困難になっていった。だから，この時期に建築されたもので，代表的なものは 1705 年に再建された東大寺大仏殿ぐらいしかないんだ。この東大寺の大仏殿は，桃山文化の茶道をめぐるストーリーでも登場した松永久秀によって，焼失してしまっていた。そのため江戸時代の 1691 年になって，ようやく大仏開眼供養が行われ，1705 年になって大仏を納める大仏殿が完成したんだ。なお，同時期に再建された長野の善光寺本堂は覚えなくてよい。

この他にも，大名によってによって造営された水戸藩の**偕楽園**，加賀藩の**兼六園**，岡山藩の**後楽園**といった大名庭園と呼ばれる回遊式庭園もあるけど，全然出ないし，P61 で確認してみてくれ。

［C］小説

さて，江戸時代の文学のお話をしていこう。ただし，ここでまず君たちの頭を活性化させなきゃいけない。…そもそも江戸時代以前，特に室町時代以前には，こういった文学を読む階級の人間はどういう人間だったかわかるかな？…この時代に文学を読む人は，ちゃんとした教育課程を受けた一部の知識人とか上層階級のものでしかなかったんだ。なぜかというと，当時は本を読むにも庶民も一般武士も文字の読み書きが出来なかった。だから，室町時代以前には庶民用の文学なんていったものは書かれることはなかったんだ。ところが，室町時代から『庭訓往来』などが庶民教育に使用されるようになって，徐々に教育というものがだんだん庶民の中にも芽生えていくようになった。そのため，そうした庶民的な短編物語である**御伽草子**が流行するようになったんだ。これで有名なのが，現在でもよく知られている「一寸法師」や「浦島太郎」，「物くさ太郎」といったものだね。

こうした中世の御伽草子のあとを受けて江戸時代の初期に出版された小説が**仮名草子**だ。本来，小説ってのは，その後に出てくる井原西鶴の浮世草子以降に本格化するんだけど，この仮名草紙はその井原西鶴が登場するまでの橋渡し的な役割にあたるものだね。じゃあ，どういった内容のものを書いたのかっていうと，これは仮名を用いて啓蒙（一般人の教養を高めること）・教訓などの様々な内容を書いたものなんだ。つまり，こういった仮名草子の中に，読者の知識レベルがあがる話とか，教訓の話とかを入れることで民衆を教育しようとしたわけだね。だから，まだこの頃の仮名草子っていうのは本格的な小説といったものではなくて，庶民を感化するためって感じのものだったんだ。なおかつ，この頃はそこまで教育が民衆にまでは広がっていなかったから読者層が武士を想定したものだったんだよね。

ところが，これが元禄期頃になると，君たちも知っている**寺子屋**と呼ばれる民間の教育施設で，ちゃんとした初等教育である読み・書き・そろばんが教えられるようになったんだ。だから，一般庶民も読者としてこういった小説を読むようになってくる。でも，一般庶民と言っても今現在も同じように皆が皆，啓蒙・教訓とかの話をされても拒否反応が出る奴がいるよね。例えば君たちもそうでしょ？そんな説教じみた教訓の話とかされても「え～，そんなんマジ勘弁してよ～。そんな説教みたいな話されても

© 不許複製禁転載

何もおもしろくないし～～。」ってなるよね？じゃあ，万人に受けるタイプで，面白みのある内容って言ったら何がある？やっぱ自分たち町人のこととか，現在の風潮・風俗を扱ったものが面白いよね。そこで，そういった当時の風俗である浮世(当時の風俗のことをさす言葉)を扱った**浮世草子**というジャンルを書いたのが有名な**井原西鶴**だ。じゃあ，当時の風俗って言ったら何かって言うと，これで決まり！好色，そして享楽生活だ。…おっと，言葉が難しすぎたかな？好色ってのは国語辞典をひくと「異性に強い欲望や関心を持ち，常に情事の機会を求めている様子」だそうだ。つまり，ソフトに言うと「あ～，女(もしくは男)とやりてえ。セックスしてえ」と四六時中思っているということだ。そう考えると，今も江戸時代の人々も考えてることは変わってないわけだね(笑)。ちなみに「色」ってのは，欲望とかいった意味なんだ。だから，男色はゲイ，女色はレズって意味になるんだよ。


〔井原西鶴〕

さて，そうしたら，その井原西鶴の作品を見ていこうか。この人のジャンルは大きく 3 つに分けられるんだけど，初めの頃に書いていたのが先ほどの好色(男女の性欲お盛ん話)を扱った**好色物**だ。その好色物の中で特に西鶴のデビュー作となったのが『**好色一代男**』だ。題名を見てもらえばわかるけど，これは主人公の世之介が 7 歳にして恋を知り，諸国をめぐって好色修行をつんで最終的に大金持ちになるって話なんだ。まあ，随分ぶっ飛んだ話だけど，もう当時の江戸時代の人からしてみれば「こいつは何て最高の人生なんだ。羨ましいぞ，この野郎」って，もう今までにない衝撃的な内容で，見事に大ヒットだったんだ。この勢いに乗せて書いたのが，『好色五人女』(実在した 5 件の恋愛事件を，5 人の女性を主人公に描く)や，『好色一代女』(美貌な女の情事欲に満ちた生涯と，その後の転落を描く)だ。

…まぁ，西鶴さんも随分はっちゃけたもんだよね。ちなみに，この最後の『好色一代女』を描いたときの西鶴さんの年齢は 45 歳…。う～ん，そろそろこの年齢になったら落ち着いた方がいいよね。さすがに死ぬまで，ずっとこういった作品を描いていくのは，さすがの西鶴君も「……」と感じたようだ。だから，ジャンル変更～～～。そこで，一転して急に武士の道といったカッコいいハイセンスなジャンルを描くことにしたんだ。それが**武家物**というジャンルで，その作品が『**武道伝来記**』と『武家義理物語』だ。『武道伝来記』は，諸国の有名な敵討ちの話とかを短編にして，30 話近くにまとめたもので，『武家義理物語』は，「まことの武士道の姿」とはいかなるものかってテーマを主題にして，武士とは自分の身を捨ててでも，義理を尽くせって説いたものなんだ。…いや～，それにしても相当ジャンルをかっこよく変更したものだよね。ちなみに，一言。こういった武士の生き方を説いていますが，井原西鶴は大坂の“町人”出身なんだよね。

でも，やっぱりこういった武家物は本人自身，相当矛盾があったんだろうね。やっぱ自分自身は町人だ。だから，町人を題材にしたテーマに移したんだ。それが**町人物**という町人を題材にしたもので，その中で特に有名なのが『**日本永代蔵**』だ。これは例えば三井高利とかいった金持ちになった町人の話とかを 30 話集めてまた短編小説にしたものなんだけど，本当に売れに売れて当時のベストセラーになったんだよ。この本を描いて，商人はとにかく金儲けをして節約して頑張れって説いたんだけど，これはリッチな商人とかのお話だよね。それに対して，中・下層階級の町人の姿を描いたのが『**世間胸算用**』だ。これはそういった貧乏な町人が，大晦日に一年の総決算として借金取りから借金を取り立てられる話を描いたものだ。つまり，この町人物においては，上層階級の町人の“見事に立身出世して成功しました”っていう『日本永代蔵』と，中下層階級の町人の“必死で貧乏頑張ってます”っていう『世間胸算用』の対極の話があるわけだね。

ところが，こうした浮世草子が元禄期は栄えてたんだけど，井原西鶴ってあまりにも大物でしょ？だから，この後にも他の作家とかが浮世草子のジャンルを書いたんだけど，ほとんど西鶴のパクリとかだったんだ。そのため，マンネリ化しちゃって，結局浮世草子は衰退していっちゃったんだ。そのため，

© 不許複製禁転載

今までとは少し方向性を変える必要が出てくる。今までの浮世草子は好色物や，武家物，町人物など一般庶民の世界を題材にして，その当時の風俗などを描いたものだった。そこで，今度は題材の舞台を遊里(遊郭。今で言う風俗・ソープ)という庶民とは別の世界に持ってきたのが**洒落本**という文学だ。洒落本の“洒”は“酒”じゃないから気をつけてね。つまり，一言で言うと遊里文学ということになるね。その遊里において，遊女(風俗嬢・ソープ嬢みたいなもの)と客の遊びや会話を描いて行くんだ。その洒落本作家として有名だったのが**山東京伝**。だから，それを取材するためかは知らないけど，彼は遊里に通いまくっていたんだ。ところが，こうしたものは風俗を乱すっていうことで，**寛政の改革**で山東京伝の『仕懸文庫』が発禁処分にあって，彼も手鎖 50 日の刑にされちゃったんだ。そのため，処罰されちゃった山東京伝は後述する読本作家に転向してしまって，以後洒落本は衰えてしまうんだ。


〔春色梅児誉美〕

それなら，今度は舞台をいちいち遊里に限定しないで，民間に求めていけばいいじゃない？そこで，その洒落本の影響下で，人情本という男女間の恋愛関係を描く小説が流行っていったんだ。この**人情本**という恋愛小説のジャンルを確立したのが**為永春水**で，彼の著したのが『春色梅児誉美(暦)』だ。これは，色男の丹次郎が自分の許婚のお蝶，丹次郎の情人の深川芸者米八，同じく深川芸者仇吉の三人の女性との間に起こる恋愛関係を情痴的な雰囲気の中で描いた小説。ほら，女の子の場合，恋愛小説って好きでしょ？だから，これは今までのように男性じゃなくて，恋に焦がれる女性をターゲットとした恋愛小説なんだけど，予想を超える勢いで男性にも見事大ヒットしたんだ。ところが，この内容は韓国ドラマみたいな純愛じゃなくて，エロティックな部分がかなり濃かった。そのため，また風俗が乱れるってことで，**天保の改革**で処罰されちゃったんだ(その処罰によるショックで為永春水が病没したため，以後人情本は衰退する)。それじゃあ，ここまでのジャンルを簡単にまとめておこう。

＜洒落本・人情本＞

洒落本(遊里を舞台にした小説)…代表的作家＝**山東京伝**『仕懸文庫』
→**寛政の改革**で処罰される

人情本(男女間の恋愛小説)……代表的作家＝**為永春水**『春色梅児誉美』
→**天保の改革**で処罰される

こういった洒落本だろうが，人情本だろうがエロい内容が入っていると、風俗を乱すっていうことで処罰されちゃう。そこで，そういったエロい部分を一切カットしたのが**滑稽本**だ。この滑稽本ってのは，「滑稽」って言葉を見ればわかるように、「笑い」を目的にした小説だ。その滑稽本として有名なのが**十返舎一九**によって書かれた『東海道中膝栗毛』だ。これは弥次さん喜多さんのお話で有名だよね。東海道を旅する弥次郎兵衛弥(弥次さん)と，喜多八(喜多さん)が失敗と愚行を重ねていくお笑い珍道中だ。


〔東海道中膝栗毛〕

その十返舎一九に少し遅れて滑稽本を発表したのが**式亭三馬**で，彼の代表作が『浮世風呂』や『浮世床』だ。これは庶民の社交場でもある銭湯や髪結床(床屋のこと)を舞台にして，そこで繰り広げられる会話とかおもしろい話を描いたものなんだ。例えば「おっかさん，おとっつぁん！お客さんのお子さんが，お風呂の中でションベンしちゃったよ！」「で〜じょ〜ぶだ。今日は特別な入浴剤を使ったんだ，とかでも他の客には言っておけ」みたいな面白い日常会話(？)が，描かれているんだ。…もちろん，上記の話は僕の創作だが…。

こういった洒落本，人情本，そして滑稽本をひとくくりにすると，これらは全て会話中心の文章(口語中心)なんだ。それに対して，ちゃんと文章を読んでいくことを主とした本が**読本**というものだ。つ

© 不許複製禁転載


〔雨月物語〕

まり，「　　」(かぎ括弧)付きの会話主体の文章ではなく，“～～なりけり。しかれども～～～”みたいに普通の文章(文語文)で書かれたのが**読本**というものだ。でも，読みやすい会話中心の文章ならレベルの低い読者でも読んでいくだろうけど，ちゃんとした文語体の文章だと読者も読みにくいよね。もし，真面目なことを書いたとしても，読者からしてみれば「つまんねえよ」って興味を持たれないかもしれない。そこで，読者が興味を持ちやすいような怪奇物や歴史物を題材にとったんだ。特に，前期の場合は怪奇物，後期の場合は歴史物を扱うようになっていくんだけど，その前期読本の代表的なものが**上田秋成**の『雨月物語』だ。

これは9つの短編のこわ～～いお話から成っているんだけど，その中の一部「浅茅が宿」っていう話では，久しぶりに再開した妻と一晩床を共にするわけだけど，朝目が覚めると妻の姿はなかった。しかも，その自分のいる家は，つる草や雑草だらけの廃墟となっていた。でも，ここは以前に自分が住んでいた家に間違いはない。…よくよく考えれば，妻はすでに死んでいて，もしかして物の怪が妻に化けて妻の姿をしていたのではないか…，という話なんだ。まあ，つまり妻と久しぶりにエッチしたと思ったら，実は幽霊とエッチしていたという話ってこと。…そう考えると，恐いよね。この時代はゴムなんてないし幽霊とやった後はどうなるんだ……おーっと！危ない危ない。いつものくせが…。まぁ，この『雨月物語』はそういった怪奇物を扱ったお話なんだ。よく子供の頃に，江戸時代ぐらいの怖い話を聞かされたんじゃないかな？それは，この『雨月物語』だったかもしれないね。

その上田秋成の後に現れたのが，**滝沢(曲亭)馬琴**だ。この馬琴が何と28年もの年月をかけて全精力を注いで完成させた大作が，あの有名な『南総里見八犬伝』だ。これは，何と100冊近くにもなる大長編で，八つの玉を持つ里見八犬士が，安房の里見家を再興するという話なんだ。僕も子供の頃に読んだ話なんだけど，さすがにあまりにも長かったので挫折した思い出がある。それから，この『南総里見八犬伝』を著す少し前に扱った作品が『椿説弓張月』。これは保元の乱に敗れた鎮西八郎**源為朝**が，伊豆大島から九州・琉球へ渡って活躍するという話だ。



〔南総里見八犬伝〕

この主人公の源為朝は，武芸の達人で，当時は最強に強かった。そのため，保元の乱で崇徳上皇側に味方して敗れたにもかかわらず，死罪は免れ，伊豆大島に流罪になったんだ。でも，そこでも暴れまわっちゃって，結局最終的に自害することになる。ただし，その強さから，実は琉球に逃れて王様になったという伝説が残っていて，それを題材に作られたんだ。

さて，少し疲れてきたかもしれない。ここからは，お子ちゃまにはあまりお話できない，エロ本の歴史についてだ。おそらく皆目が輝いたんじゃないだろうか？さあ，頑張っていこう。…今まで解説してきた文語体の読本，口語体の洒落本，人情本，滑稽本に対して，江戸時代に書かれた絵本のことをまとめて**草双紙**と言う。これは，初め赤本から始まって，黒本・青本，そして黄表紙を経て，最終的に合巻に至るまでの，絵本形式で書かれた本の総称のことなんだ。

＜草双紙の変遷＞

(赤本 → 青本・黒本 → **黄表紙** → **合巻**)＝これらを総称して**草双紙**という

黄表紙(表紙が黄色い大人向けのエロ絵本)…代表的作家＝**恋川春町**『金々先生栄花夢』
→**寛政の改革**で処罰される

合　巻(黄表紙を数冊合わせたエロ絵本)……代表的作家＝**柳亭種彦**『**偐紫田舎源氏**』
→**天保の改革**で処罰される

何か赤本とか青本，黒本って言うと，君たちからすると過去問のイメージが強いけど，何で現在の過去問が赤本とか青本，黒本って言うかというと，表紙が赤や青，黒だったりするからだよね。江戸時代のものも，それと同じで，赤本は表紙が赤で，青本は表紙が青，黒本は表紙が黒，黄表紙は表紙が黄色

© 不許複製禁転載

なんだ(合巻は別)。じゃあ，どう変化していったかというと，初めの赤本の頃は子供向けの絵本だった。その赤本として描かれたものが『舌切り雀』とか『猿蟹合戦』なんだ。これが後に黒本とか青本に変わっていくんだけど，ここまでは少し大人向きになったものの内容に対して差はない。ところが，その後に**恋川春町**により『**金々先生栄花夢**』が描かれて以降，**黄表紙**という完全に大人向けの絵本に変わったんだ。つまり，言わば表紙が黄色いだけで，それは大人向けのエロ本とわかるわけだね。ちなみに，この『金々先生栄花夢』は，田舎から江戸に向かう主人公が目黒の粟餅屋で夢を見て，30 年間栄華を極めるが，結局夢だったという儚さを悟るという話なんだけど，これも風俗を乱すっていうことで，洒落本作家の山東京伝の『仕懸文庫』と同じく寛政の改革で処罰されちゃったんだ。



〔金々先生栄花夢〕

＜寛政の改革による処罰の覚え方＞
洒落本作家＝山東京伝『仕懸文庫』……“サ”行でつなげられる
黄表紙作家＝恋川春町『金々先生栄花夢』……“カ”行でつなげられる

この寛政の改革で弾圧されたことで，また処罰されないように，今度は方向性を道徳的な話や敵討物へと少し変えたんだ。ところが，今までの内容だったらいいけど，敵討物とかのストーリーになると当然長編になってしまうよね。そうすると，何冊も増えてしまって読者も離れちゃう。そこで，その何冊かを合わせて(くっつけて)出版する**合巻**へと変わっていったんだ。つまり，大長編エロ絵本みたいなものだね。その合巻の代表作が**柳亭種彦**の『**偐紫田舎源氏**』(室町時代に時代を移して大奥の実情を描いた話。偐紫は偽の紫式部，田舎源氏はまがい物の源氏物語の意)なんだけど，これは室町時代のお話なんだけど，実際には当時の将軍家斉の大奥生活をモデルにしているのがバレバレで，**天保の改革**で処罰されちゃったんだ。ちなみに，11 代将軍の家斉はめちゃめちゃ子沢山で何と 16 人の女性から 55 人(男 28・女 27)もの子供を生ませている。そのため，余った子供を他の藩の養子へと出させていったんだ。この家斉が大藩すべてに自分の血筋の者を養子に入れ将軍の親戚にすることで，幕藩体制を強化しようとしたとする説もある。おもしろい説だとは思うけど，さすがにね…。


〔偐紫田舎源氏〕

＜天保の改革による処罰の覚え方＞
人情本作家＝為永春水『春色梅児誉美』……「春」水と「春」色／人情(じょ)と春色(しょ)
合　巻作家＝柳亭種彦『偐紫田舎源氏』……覚え方「にせの合流」

［B］俳諧・和歌・川柳・狂歌・紀行文

室町時代に和歌から派生したものが**連歌**であったことはすでに室町文化のところで述べた。その連歌から派生したものが**俳諧**なんだけど，簡単にその歴史を概略しよう。そもそも連歌というものは和歌の 5.7.5.7.7 の部分を，上の句(発句とも言う)の 5.7.5 と，下の句(脇句とも言う)の 7.7 の二つに分けて複数の人でそれぞれ詠みあっていくという遊びだった。この連歌の基礎を築いた人が南北朝時代の**二条良基**で，これを東山文化期の**宗祇**が大成させたわけだ。これによって，今までは芸術としては和歌しか認められなかった分野に連歌も加わるようになったんだ。つまり，もともと芸術として認められていたのは和歌だけで，連歌は遊びのレベルでしかなかった。これが二条良基を経て，宗祇によって芸術として認められたわけだ。そして，この連歌からまた遊びのものとして生まれたのが 5.7.5 だけで意味をもたせる**俳諧**(のちの俳句)なんだ。その俳諧を始めたのは東山文化期の**山崎宗鑑**だったよね。そして，こ

© 不許複製禁転載

の俳諧が，江戸時代に**松永貞徳**，**西山宗因**を経て，**松尾芭蕉**によって大成されたんだ。この芭蕉によって，ついに俳句も芸術のひとつとして認められるようになった。つまり，簡単に整理すると以下のようになるね。

＜和歌・連歌・俳諧＞

和歌……5.7.5.7.7 で詠むもの

連歌……5.7.5 の上の句と，7.7 の下の句をそれぞれ別の人が詠む

→初めは遊びとして始まるが，

二条良基(南北朝文化)を経て，**宗祇**(東山文化)によって大成される

俳諧……5.7.5 の上の句のみで意味をもたせる。

→初めは遊びとして**山崎宗鑑**(東山文化)によって始められるが，

江戸時代に**松永貞徳**，**西山宗因**を経て，**松尾芭蕉**によって大成される

これで，俳諧が生まれる背景と，その流れがつかめたことだと思う。そうしたら，俳諧の歴史について解説していこう。

そもそも連歌から派生したのが俳諧なわけだけど，これを始めたのが東山文化期の山崎宗鑑だった。でも，この頃の俳諧は「俳諧」という言葉自体が，もともと滑稽という意味する言葉であったように，5.7.5 だけで意味をもたせようとする，連歌から転じた遊びのレベルでしかなかったんだ。

こうした遊びのレベルでしかなかった俳諧を和歌や連歌と同じような芸術のレベルに高めようとしたのが江戸時代の**松永貞徳**だったんだ。そこで，俳諧をわかりやすく解説して普及させようとしたんだけど，そもそも貞徳自体が連歌師であったように，やっぱ「俳諧は和歌とか連歌より 1 ランク下」っていう考えから抜け出すことができなかった。簡単に言えば，俳諧はもともと連歌の一部であったんだから，連歌に倣っていくべきなんだって考えていたわけ。だから，連歌の枠から抜け出せなくて，その句の内容も保守的・微温的なものになりがちだったんだ。ちなみに，その貞徳によって率いられた一門を貞門派といって，この中には，綱吉の時代に幕府の歌学方に登用された北村季吟などがいる。

まぁ，とりあえず，貞門派の句は保守的なものが多くて，同じような作品ばっかになっちゃって，「何だよ，完全にマンネリ化しちまってるじゃん」ってことで飽きられていってしまった。それに代わって新しい勢力として登場してきたのが**西山宗因**を中心とする談林派のグループだったんだ。今までの貞門派は連歌に倣って，俳諧をひとつの文芸として確立させようとしたんだけど，結局連歌の枠からは抜け出せなかった。それに対して談林派は「そんな連歌にこだわっているから，いつまでも俳諧は 1 ランク下に思われちまうんだよ。そんな連歌のルールなんて全部無視して，好きなようにやればいいんだよ。そうすれば，俳諧ってのがより注目されるじゃん」って自由奔放な作品を作っていったんだ。こういった抽象的な話をしても今イチわかりにくいかもしれないから一つの作品を紹介しよう。

順礼の　棒ばかり行く　夏野かな(貞門派)

しれぬ世や　釈迦の死跡に　かねがある(談林派)

こうしてみると，その違いがよくわかるんじゃないかな？貞門派の作品は「夏野」とか，どうも枠にはまった保守的な感じが強いよね。それに対して談林派の作品は「釈迦の死跡」とか自由奔放な感じが強い作品だよね。ちなみに下の談林派の作者は井原西鶴。彼はもともと俳諧師であったが，後に浮世草子作家へと転向するんだ。



〔松尾芭蕉〕

そして，この俳諧を芸術の域にまで完成させたのが有名な**松尾芭蕉**だ。もともと芭蕉は貞門派の俳諧を学んで，その後談林派の影響を受けて 2 つの門派から学ぶことで，この俳諧を完成させたんだ。その松尾芭蕉によって，体系づけられた「さび」「しおり」「細み」などの俳諧を蕉風(正風)俳諧と言うんだ。でも，さすが

© 不許複製禁転載

に芭蕉といえども，俳諧がどうあるべきかって事には相当悩んだ。そこで，その俳諧のあり方を探すために旅に出たんだ。昔の西行や宗祇みたいに旅に出ることで，この芭蕉も独自の文章をつくりあげていったわけだね。

そういった旅を重ねるうえで書かれていったのが『野ざらし紀行』(江戸から大和方面にまで至る芭蕉最初の句集)や，『笈の小文』(江戸から関西地方までの紀行文)，そして『**奥の細道**』(江戸～奥羽・北陸地方から美濃の大垣にまで至る紀行文)なんだ。この中で特に重要な旅になったのが『奥の細道』で，門弟の曾良と二人っきりで旅をした上で書かれたものなんだけど，この『奥の細道』に収録されている「五月雨を　集めてはやし　最上川」のすごさってわかるかな？この句から「5～6 月に最上川を訪れた芭蕉が,少し前に降った雨により川の水量が増して，そのすごさに圧倒されている」様子が読み取れる。たった 17 文字の中から，それが思い浮かぶ。これが俳諧を大成させるという領域なんだ。なお，こうした円熟期の芭蕉の作品とかを，後に芭蕉の門人が選んでつくられたのが『猿蓑』だ。

ところが，こういった偉大な人を生んでしまうと，この後に続くのが難しい。確かに芭蕉によって確立された俳諧が普及することで，一般の人も俳諧を詠んだり，俳諧は大衆化されていったんだけど，それによって文学性が欠けていっちゃったんだ。つまり，簡単に言えば庶民によって，ショボい句が詠まれることで，世俗化していってレベルが下がっていってしまったわけだ。

そこで，こうした動きに歯止めをかけて，芭蕉の時のような俳諧を再興させようって動きが活発になっていくんだ。その中心にいたのが画家としても有名だった摂津国出身の**与謝蕪村**で，その蕪村の作品を集めた句集が『蕪村七部集』だ。この蕪村の他にも俳諧を再興させた人が他にもいたんだけど，そういった大物たちが相次いで死んでいっちゃったので，またそれ以降は世俗化していってしまったんだ。つまり，皆が皆俳諧を詠むことで，型にハマった平凡なショボい句ばっか詠んでいくから，またレベルが下がっちゃったんだね。だから，明治期の正岡子規にも「天保以後の句は概ね卑俗陳腐にして見るに堪へず(1840 年代以降に詠まれた句は下品で何もおもしろくもないし，見るに堪えない)」なんて言われるぐらいの末期的な状況にあったんだ(故に，明治時代になると今までの俳句を批判した正岡子規による俳句の革新運動が始まる。なお，この正岡子規が 5.7.5 の発句，7.7 の脇句と続ける，この発句を“俳句”と称するようになり，以後俳諧は俳句と呼ぶようになる)。

ただし，その中で独りだけ異彩を放っていた人がいた。それが信濃国出身の**小林一茶**だ。この人は 3 歳で母と死別して，その後父の遺産をめぐって継母・異母弟と対立したり，子供の 3 男 1 女とも全員早くに死んじゃったりと不遇な境遇だった。特にその長女が亡くなった時はめちゃめちゃ悲しんで，そこでつくられたのが彼の句集が『おらが春』なんだ。だから，彼の句には自分の境遇から強者への反感，弱者への同情をうたった句が多い。例えば「痩蛙　負けるな一茶　是にあり」。これは彼の自分へのエールでもあるわけだけど，何か僕たちも勇気づけられるよね。

＜俳諧の覚え方＞

☆「待って，妊娠ダーリン，バブー！」

待って → 松永(まっ)・貞門派(て)

妊娠 → 西山(にんしん)・談林派(だーりん)

バブー → 芭蕉(ば)・蕪村(ぶ)・一茶(ー)

じゃあ，俳諧がどんどん盛んになっていく一方で和歌はどうだったのか？俳諧が庶民的なものであるのに対して，和歌というものは中世以来，公家がその中心であったんだ。ところが，江戸中期以降になると，庶民が文化の中心となっていったよね。それに伴って，和歌を公家だけのものではなく，誰でも詠めるものにしようって動きが起こっていったんだ。その中で現れたのが**香川景樹**だ。この人はもともと歌の家で有名な公家の香川家の養子になったんだけど，離縁されてしまった。それがきっかけとなって公家から離れた自分流の歌風を打ち立てたんだ。その景樹の一派のことを**桂園派**って言うんだ。こういった景樹の桂園派とは別に，各地を行脚して歌を詠んでいったのが越後出雲崎の禅僧であった**良寛**だ。

© 不許複製禁転載

この人は奇妙な行動ばっかしてたんだけど，それだけ感性が豊かで天真爛漫な歌を詠んだんだ。ちなみに，以下の作品は良寛の作品だけど，ずいぶん童心に満ちた歌だよね。何か良いおじいちゃんって感じのイメージがするよね。

子供らと　手毬つきつつ　この里に　遊ぶ春日は　暮れずともよし
（子供たちとこの里で手まりをついている現在の春日なら，暮れなくてもいいのに）

こういった俳諧や和歌と並行して，庶民の間でより遊び的な要素をもつものとして流行したのが**川柳**や**狂歌**だ。**川柳**は，俳諧と同じように 5.7.5 で詠むわけだけど，季語とか切れ字も必要ないから自由に詠めるわけだ。この川柳の採点者として有名だったのが**柄井川柳**で，この採点者にちなんで川柳と呼ぶようになったんだ。その彼の詠んだ川柳とか，他の人（川柳は世間を風刺して詠む場合が多いので作者の名前は匿名の場合が多い）のおもしろい川柳を集めて出版したのが『**誹風柳多留**』だ。「俳諧風の川柳を多く留めてみました」ってことだね。ちなみに，この川柳で有名なのが田沼時代に詠まれた「役人の子はにぎにぎを　よく覚え」ってやつがある。「にぎにぎ」ってのは田沼時代に広く行われた賄賂のことを指しているわけだけど，こういったように川柳は，当時の政治や世間を風刺することが多かったんだ。

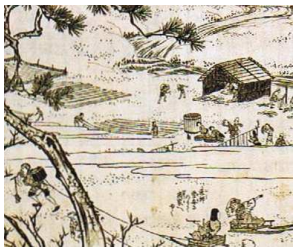
こうした俳諧を遊びにしたのが川柳であるように，和歌を遊び形式にしたのが**狂歌**だ。これも川柳と同じように政治とか世間を風刺したりするわけだけど，特に江戸後期の幕政改革が行われる頃になると大いに流行していったんだ。その狂歌の中でもいろんな文芸に通じたスターだったのが**大田南畝**だ。でも，こういった狂歌を詠む人は，さすがに自分の名前で詠むのは処罰されたりして危なかったから，いくつか狂名というペンネームを持っていたんだ。その彼のペンネームが**蜀山人**とか四方赤良，寝惚け先生とかいろんなものだ。この大田南畝に習って，その後に活躍したのが**石川雅望**で，この人もやっぱりペンネームを持っている。それが宿屋飯盛だ。こいつは宿屋の主人でもあったから，このペンネームをつけたんだ。

＜川柳・狂歌＞

川柳……俳諧から派生した遊び（5.7.5）
→**柄井川柳**が代表的

狂歌……和歌から派生した遊び（5.7.5.7.7）
→**大田南畝**（**蜀山人**・四方赤良）・**石川雅望**（宿屋飯盛）が代表的

その一方で，この時期の街道の発展から諸国をいろいろまわれるようになった。だから，今までにはなかったその地域の地理とかいったものに関する随筆とか紀行文が書かれたんだ。その中で代表的なものが越後の**鈴木牧之**が雪国の自然や生活を紹介した『**北越雪譜**』だ。この人は自分の地元が越後であったから，そういった書物は書きやすいよね。それに対して，三河の国学者であった**菅江真澄**はもっとすごい。この人は東北地方を 30 年近くも歩きまわったんだ。その旅をしている時に記した日記が『**菅江真澄遊覧記**』だ。ただ，そのまま『菅江真澄遊覧記』を書いた人誰ですか？と聞くわけはないよね。だから，入試では東北地方を歩きまわって『遊覧記』を書いた人誰ですか？って聞いてくるんだ。ちなみに，高校生の時，僕は菅江真澄が女だと思ってたんだけど，こいつは男だからね。元巨人の桑田真澄が男であるのと一緒だ。これらはイメージがつきやすいように入試では聞かれないが，それらの挿絵を載せておいた。これらは，文章のみで解説した場合，ビジュアル的に読むのがしんどくなるであろうことを想定して載せただけなので，入試ではまったく聞かれない。そもそも，これらは絵画じゃなくて書物だしね。


〔北越雪譜〕

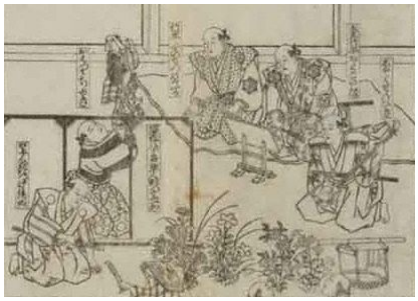

〔菅江真澄遊覧記〕

© 不許複製禁転載

［C］芸能(浄瑠璃・歌舞伎)

さて，それじゃあ江戸時代の芸能のお話をしていこうか。今までの庶民の文化といったものは“歌う”か“踊る”のどちらかだったよね。これは，たとえ時代が荒れていたりしたとしても，庶民の中で必ず行われている文化だ。現代でも“カラオケ”や“クラブ”といったものがあるのと同じ，というのは室町文化のところでも話したと思う。その室町文化の特に義満の北山文化の頃には，平和な時代が訪れたということで能という“観る”文化が栄えたよね。同じように，江戸時代になって平和な時代になったということで，同じように“観る”文化が栄えるようになる。その江戸時代に“観る”文化として隆盛した代名詞が「人形浄瑠璃」と「歌舞伎」なんだ。そうしたら，まずは人形浄瑠璃の方から説明していこう。

この人形浄瑠璃がいつ成立したかというと，これは安土桃山時代に出来たものなんだけど，そもそも君たちは人形浄瑠璃が何なのかわからないと思うんだ。これは簡単に言えば，人形劇の一種だと思ってくれればいい。人形を操る人(人形遣い)がいて，その物語を語っていくナレーター(語り＝浄瑠璃節)がいる。そして，これに琉球から伝来した三味線を伴奏にして演じていくんだ(朝鮮からではないので気をつけるように)。人形劇を思い浮かべてくれれば大体どういうものかは推察できるだろう。これが，桃山文化の時期から続いていたんだけど，江戸時代の元禄期になって大ヒット！何でいきなりそんな大ヒットしたのか？それは，簡単。それだけの名脚本家，名ナレーター，名操り師がいたからなんだ。それが脚本家の近松門左衛門，語り(ナレーター)の竹本義太夫，人形遣いの辰松八郎兵衛だったんだ。でも，そういった劇を行うためには，ちゃんと劇場を用意しなきゃいけないよね。その浄瑠璃を行うための竹本座を開いたのが竹本義太夫だ。この人の語り(浄瑠璃節)は義太夫節って呼ばれるぐらいの名語りで，この語りによって浄瑠璃の世界を制覇しちゃうぐらいの名ナレーションだったんだ(この義太夫節以前のものを古浄瑠璃と呼び，義太夫以後のものを新浄瑠璃と呼ぶ)。その竹本義太夫が大阪道頓堀に開いた竹本座で，その専門の脚本家となったのが，あの近松門左衛門だ。名ナレーターの後ろに名脚本家ありってとこだね。


〔人形浄瑠璃〕

この近松の作品にはいろいろ傑作があるんだけど，主に時代物と，世話物の二つのジャンルに分けることができるんだ。まずは，時代物から見ていこう。これは歴史上の事件とか伝説を扱ったものなんだけど，その時代物の代表作が『国性(姓)爺合戦』だ。これは，実際に歴史上で，明の貿易商の父と日本人の母を持つ鄭成功が，中国に渡って明を再興するために明国の将軍となって，清と戦った史実がある。これをもとにして脚色して，主人公和藤内(国性爺。モチーフは鄭成功)が中国に渡って，明を復興するっていう作品なんだ。実際の史実では，最終的に鄭成功は明を復興できなかったんだけど，この『国性爺合戦』では見事に復興するというストーリーになっている。これはストーリーを聞いただけでもカッコ良さそうだよね。そして，何と 17 ヶ月も公演されるというロングランになったんだ。


〔近松門左衛門〕

それに対して，世話物っていうのは，その当時に実際に起こった事件などを脚色した現代物だ。これで有名なのが『曽根崎心中』や，『冥途の飛脚』，そして『心中天網島』。まぁ，基本的に全てこれらの話は，男と女が恋に落ちるんだけど，いろいろな事情がからまって，最終的に駆け落ちしようとしたり心中しようとするって物語。一応，主なストーリーと主人公などを知りたい場合は次のものを参照してくれればいいかな。まぁ，『国姓爺合戦』以外中身は聞かれないけどね。

© 不許複製禁転載

＜近松門左衛門の作品＞

時代物……『**国性(姓)爺合戦**』(明朝の遺臣と日本人の母を持つ**和藤内**(**鄭成功**がモチーフ)が明を再興する)

世話物……『**曽根崎心中**』(醤油屋の手代徳兵衛と遊女のお初が，義理に迫られ，恋を貫いて曽根崎天神の森で心中する物語)

『**冥途の飛脚**』(飛脚問屋の忠兵衛が罪をおかして，新町の遊女梅川と心中に赴こうとするが，故郷の新口村で捕らえられる物語)

『**心中天網島**』(紙屋治兵衛が女房おさん，遊女小春との義理人情のからみの末，遊女の小春と心中する物語)

でも，こんな題名とその内容を言われても何も感じないよね。僕も受験生の頃はそうだった。「こんな全て心中ばっかのストーリーのどこがいいんだよ。よくこんなものがヒットしたよな〜。」って思っていた。でも，やっぱ僕の考えは，その中身を読んでいないから，浅はかなものだったんだ。この「曽根崎心中」の一部を紹介しよう。これは，その主人公の徳兵衛とお初が，心中に向かうその道行の冒頭の部分だ。

「この夜の名残，夜も名残。死に行く身をたとふれば，あだしが原の道の霜。一足づつに消えて行く。夢の夢こそあはれなり。あれ数ふれば暁の，七つの時が六つ鳴りて，残る一つが今生の，鐘の響の聞きをさめ。寂滅為楽と響くなり。」

(この世に別れを告げることになり，夜も今夜限り。こうして死にに行く身をたとえるならば，墓場の道の霜が，一足踏むごとに消えていくようなもので，夢の中で夢を見るように，はかなく哀れなもの。おや数えてみれば，暁の七つの鐘がもう六つ鳴って，残る一つがこの世の鐘の聞きおさめ。(その鐘の音も)寂滅為楽(死ねば安楽)と響くのだ)

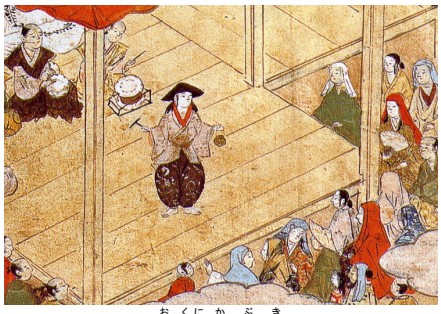
この部分を読んだら，さすがに感性の疎い僕でも心が震えた。この箇所はすべて七五調で，流れるような文になっている。ぜひ，声に出さんでもいいから，読んでみてほしい。これを名ナレーターの竹本義太夫が読むわけだから，その劇場では完全に惹きつけられるだろうね。このように，近松門左衛門の作品は，人間の情とかにライトをあてたヒューマニズムに基づく内容で，「作者の氏神」とまで評されるぐらいの名脚本家だったんだ。

この近松門左衛門から指導を受けて，近松死後に興行主，そして脚本家として活躍したのが**竹田出雲**だ。この竹田出雲が書いたのが『仮名手本忠臣蔵』。これは，主君旧赤穂藩主**浅野長矩**の仇討ちのため，**大内良雄**ら赤穂浪士 47 人が**吉良義央**邸への討ち入りをした 1702 年の**赤穂事件**をモチーフにしたものだ(当時の将軍は 5 代**徳川綱吉**)。『忠臣蔵』は今でもそうだし，その当時もそうだけど，上演すればまず間違いなしの大ヒットっていう物語だからね(仮名とは赤穂浪士 47 名と仮名 47 文字をかけた言葉)。ちなみに，彼は他にも『菅原伝授手習鑑』(菅原道真の左遷をテーマにしたもの)や『義経千本桜』(源義経の伝説を扱ったもの)なども合作で制作している。

その竹田出雲に指導を受けた**近松半二**(父が近松門左衛門と親交があっただけで，近松の子ではない)は上杉・武田の抗争をめぐる恋物語を扱った『本朝 廿 四孝』を制作したんだけど，この後になると徐々に時代の動きについていけなくなって，その後浄瑠璃は衰退していってしまった。そのため，後に人形を使った芝居とかはしないで，宴会とかの座敷で演奏を聞かせることを目的とした**歌(唄)浄瑠璃**が主流となっていったんだ(その歌浄瑠璃では，**常盤津節**・**新内節**・**清元節**・**一中節**などの一派が代表的)。

この浄瑠璃が衰退していった 18 世紀以降になって，浄瑠璃に代わって人気が出て行ったのが歌舞伎だ。でも，この歌舞伎に関しても，それまでの歴史があるので，少し時代を戻してその歴史を説明しよう。そもそも歌舞伎という言葉は「かぶく(傾く)」って言葉が名詞化したものなんだけど，これは異様な格好をして，常識外れの行動をとるという意味。

© 不許複製禁転載


〔阿国歌舞伎〕

こうした人たちのことを「かぶき者」って言うんだけど，その奇妙な格好をしていることから発生したのが歌舞伎だ。この歌舞伎を始めたのが，安土・桃山時代に出雲大社の巫女といわれる**出雲阿国**だ。この出雲国(島根県)という当時も今も変わらないの後進国から，京都に出てきたわけだけど，自分が目立つためにはどうすればいい？たとえ，自分の得意の踊りを披露したところで，そこまで注目は集まらないよね。そこで，胸に十字架，腰に瓢箪をつけて男のカッコをして京都の北野神社とかで舞踊として踊ったんだ。つまり，これこそが異様なカッコをした「かぶき」だよね。もちろん，さすがに独りじゃないよ？この男装した阿国が，今度は女装した男優とかと戯れる感じの舞踊だったんだ。そうしたら，この**阿国歌舞伎**が大ヒット。阿国だけじゃなくて，各地で遊女の人が踊る**女歌舞伎**というものが生まれていったんだ。ところが，当然女が踊れば男はムラムラきて，金を払ってでも交尾をしようとする。これは風俗が乱れるってことで，幕府はこの女歌舞伎を禁止したんだ。そこで，今度は少年の男の子が踊る**若衆歌舞伎**が演じられるようになったんだ。ところが，若い少年が踊れば，また大人の男はムラムラきて金払っちゃう。そこで，また風俗が乱れるってとこで，幕府は若衆歌舞伎も禁止にしたんだ(今では気持ち悪いけど，当時はゲイってのは普通のことだった。例えば織田信長の小姓の森蘭丸は，信長の相手役として有名だしね。それが当時の風俗だったから，逆に豊臣秀吉は，どうしても男を好きになれない自分に対して凹んでいたぐらいなんだ)。

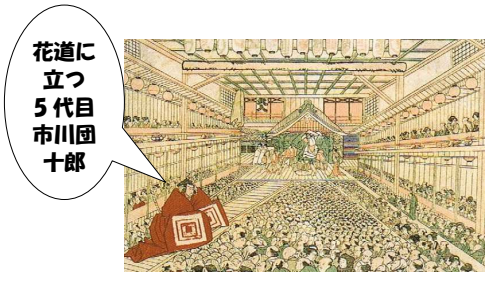
さて，女もダメ。そして若い少年もダメ。そうしたら，後は成年男子が踊るしかない。それが**野郎歌舞伎**だ。だから，男役も女役のどちらも，成人した男が踊るわけだけど，そんなん観たいと思う？僕だったらゲロゲロだね。ブーイングの嵐だ。そこで，この野郎歌舞伎になったことによって，今までの踊ることを主体とした舞踊から，劇を主体とした演劇へと変わっていくんだ。

そのためには，それだけの芸の力を身につけなければいけない。こうして，元禄期になると名優が現れるようになって，**元禄歌舞伎**と呼ばれる歌舞伎の勢力が台頭してくるんだ。その名優として名を馳せたのが江戸の**市川団十郎**，上方(大坂・京都)の**坂田藤十郎**，**芳沢あやめ**だ。これら三人はそれぞれ得意とした演技があって，市川団十郎は**荒事**っていう武人や鬼神などの豪快な演技を得意としていて，坂田藤十郎は**和事**という恋愛劇，芳沢あやめは**女形**という女役を得意としたんだ。だから，この頃はまだまだ役者中心の劇だったんだけど，その後になると脚本を浄瑠璃作家でもある近松門左衛門に書いてもらったりして，徐々に脚本とかも整えられていったんだ。


〔市川団十郎〕


〔坂田藤十郎〕

ただし，近松の作品はやっぱり，人間の情とかを売りにしてるから，浄瑠璃の方が作品として大ヒットしていた。だから，元禄期には近松門左衛門という大物を擁する浄瑠璃に圧倒されていたんだ。ところが，近松が死んで，その後の竹田出雲以後は徐々に浄瑠璃が衰退していった。その浄瑠璃に代わって，伸びていったのが歌舞伎なんだ。ただし，この頃にはもうさっきの三人みたいな大スターはいない。そこで，その歌舞伎を流行らせるために，浄瑠璃みたいに大道具とか舞台装置を改良して，今現在でもある花道とか回り舞台とかをつくっていったんだ。こうした劇場の要素が大きくなってスケールアップしたことで観客がどんどん集まっていったんだね。その江戸で栄えた歌舞伎の三座が，**中村座**・**市村座**・**森田座**で，これをまとめて江戸三座と言う。



〔中村座の劇場内部の図〕

© 不許複製禁転載

これ以降，歌舞伎は完全に庶民の娯楽として定着していった。そうした化政文化期の歌舞伎の代表的な作者が四世**鶴屋南北**だ。四世っていうのは，鶴屋南北の名前を受け継いでいった四代目の，鶴屋南北ということ。この人の得意としたのが**生世話物**っていう，世話物(現代物)の中で写実性の強いものなんだけど，それで有名なのが『東海道四谷怪談』だ。“お岩さん”って怖い話で聞いたことあるかな？そのお岩さんはある浪人の妻だったんだけど，その夫に毒殺されて，亡霊として復讐するという怪談の話なんだ。その鶴屋南北が死んだ後は，それに続くような作者が現れなくて，少し沈滞してしまうんだけど，その後に登場したのが**河竹黙阿弥**だ。この人は先ほどの四世鶴屋南北の次の，五世鶴屋南北の門人となって，白浪物っていうジャンルを得意としたんだ。**白浪物**ってのは盗賊を主人公にしたもので(白浪とは盗賊の異称)，その中で有名なのが『白浪五人男』というものだ。

［D］学問

さて，それではその他の学問について見ていこう。基本的に，その他の学問に関しては，それぞれの学問の分野における学者と，その著書または功績を聞いておしまいだ。

まずは，**本草学**から。本草学っていうのは，漢字を見ればわかるように，薬の元となる草，つまり薬草を主に研究する学問だ(薬用となる動物・植物・鉱物を研究)。その本草学を研究していたのが**貝原益軒**で，自分の研究した薬物 1362 種を独自に分類して著したのが『大和本草』だ。直訳すれば，そのまま「日本の薬草」だよね。その貝原益軒と同じ頃に，加賀藩主前田綱紀に仕え，本草学を研究していたのが**稲生若水**で，前田綱紀の命で彼が著したのが『諸物類纂』だ(彼の時には完成せず，死後の享保期になって，徳川吉宗の命でようやく完成した)。

続いて，**和算**。これは日本独自の数学のことを和算っていうんだけど，この和算の普及に貢献したのが**吉田光由**の『**塵劫記**』だ。これは，足し算・掛け算とか簡単な問題と，絵入りのわかりやすい説明を載せた，いわば小学生用算数の教科書だ。この著書によって，日本でも寺子屋などで，そろばんが使われるようになって，そろばんが普及したんだ。このように，それまでの日本の和算というものは西欧の数学に比べると，足元にも及ばないぐらいのレベルだった。ところが，そんな中一人の天才によって，日本の和算は西欧にも劣らない域にまで高められた。それが，数学の天才，**関孝和**だ。この人はヨーロッパの影響などとはまったく無縁なこの元禄期に，独自に円周率を 355/113 とする，微分・積分の境地にまで達していた，数学界における本当の天才だ。そういった微積に関する内容を記しているのが，彼の『発微算法』だ。

一方，暦をつくったり天文観測をしたりする幕府の天文方という役職に任じられたのが**貞享暦**を作成した**安井算哲**(**渋川春海**)だ。この暦に関しては，簡単にその歴史を説明しよう。

今までの暦は**宣明暦**という暦が平安時代から江戸時代まで使用されていた(862 年～1684 年)。この暦はかなり正確だったんだけど，ただ一つ問題点があって，800 年に 2 日間だけ暦がズレちゃうんだ。だから，江戸時代に新しい暦を作成しようということで，中国(元)の**授時暦**というものを参考にして，貞享暦という日本風の暦が作られたんだ。

なお，時たまに勉強している生徒から「先生，日明貿易の時に明から贈られてきた**大統暦**というものがありましたが，あれはどうなったんですか？」という質問がある。あの大統暦は日本が中国に服属する証として，明から送られてきたわけだけど，実際には使用されなかったんだ。でも，その暦を送られただけで服属の証になってしまうわけだけどね。

［E］教育

さて，学問の話を続けよう。学問というものは教育に関わる根本的なものでもあるけど，その中で江戸幕府は，儒学のうちの特に**朱子学**を重要視した。じゃあ，なぜ朱子学が重視されたのだろうか？

江戸幕府が全国支配を行うにあたって，幕府にとっては幕府支配を安定させることや，士農工商とい

© 不許複製禁転載

う身分秩序を維持することが必要になる。そこで，幕府は朱子学や陽明学・古学などの学派に分かれる儒学のうち，朱子学を重んじることにしたんだ。この朱子学で最も重視される考えは，君臣や親子などの上下関係を重んじる「**大義名分論**」。簡単に言えば，「目上の人には絶対に逆らってはいけませんよ」という教えのこと。だから，上下関係を重んじるわけだから

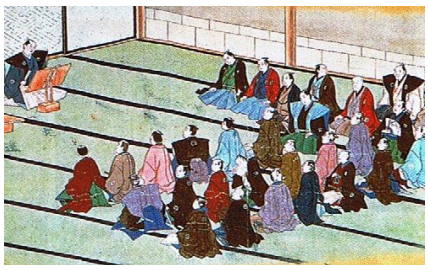
「将軍 ＞ 大名 ＞ 武士(**士**) ＞ 農民(**農**) ＞ 工人(**工**) ＞ 商人(**商**)」

という構図が成り立つよね。ゆえに，この中では将軍が一番偉いことになるから(本当は将軍よりも偉い存在に天皇がいるんだけど)，みんな将軍には服従するようになる。つまり，幕府が統治するにあたって，朱子学は，将軍が一番偉いということになる最も都合の良い学問だったわけだ。

そこで，初代将軍の徳川家康は朱子学を重視するため，京都**相国寺**の僧で「近世朱子学の祖」と呼ばれた**藤原惺窩**を京都から招こうとしたんだ。結果的に，藤原惺窩はそれを辞退するんだけど，その代わりとして弟子の**林羅山**を推薦する。そして，林羅山は**家康**(初代)～**家綱**(4 代)の**侍講**(天皇や将軍に講義をする家庭教師)となり，家綱(4 代)～家継(7 代)の時期には朱子学が全盛期を迎えることになるんだ。

そして，この中で特に朱子学を重んじていたのが 5 代将軍の**徳川綱吉**だ。彼は生類憐みの令を出した将軍としてマイナスイメージがあるけど，父親の家光(3 代)から「この子は生まれながらにして聡明だ」と評価されるぐらい，学問・仏教・儒学(朱子学)に秀でた人物だった。特に儒学なんかは，8 年間にわたって 1 ヶ月に 6 回も，自ら家臣に『論語』や『孔子』を読んで聞かせるぐらいの熱の入れようだ。そんなわけだから，儒学を始めた孔子を特に尊敬している。そこで，その孔子を祀るための湯島に建てた聖堂が**湯島聖堂**だ。そして，その湯島聖堂の敷地内に，朱子学を教える学問所を設けようとしたんだけど，学問所を一から造るのは結構骨が折れるよね。そこで，**林羅山**が**上野忍ヶ岡**に設けた林家の私塾**弘文館**を**湯島**に 1691 年に移築してきたんだ。それが有名な**聖堂学問所**だ。


〔湯島聖堂〕


〔聖堂学問所での講義〕

ただし，この聖堂学問所は林家の私塾を移築してきたに過ぎないから，まだ林家の私塾ということになる。そのため，のちの **1797 年**に幕府が直轄する**昌平坂学問所**(**昌平黌**)となったんだ。

こうした朱子学を教える学校に対して，のちの 1811 年に**高橋景保**の建議で設けられた洋書翻訳機関が**蛮書和解御用**だ。これは，ラクスマンの来航(1792)・レザノフの来航(1804)・ゴローウニン事件(1811)など，この時期に日本に来航する外国船が増加していたため，それらの外交文書を翻訳するために設けられたもの。そして，1853 年にペリー来航を契機に外国事情の調査なども必要となったため，日米和親条約締結後の **1855 年**に**洋学所**となり，翌年の **1856 年**には**蕃書調所**と改称された(こののち蕃所調所は 1862 年に**洋書調所**，さらに 1863 年には新しく広い講舎へと移転されたことにともない**開成所**と改称された)。

また，この幕末の頃に毎年のように流行っていたのが**天然痘**。天然痘というのは，高熱と発疹を起こす伝染病なんだけど，これにかかると 4 分の 3 は死に至ってしまう。そのため，この天然痘にかかるのを予防するために，牛痘法という手段が用いられたんだ。これは，まず**牛痘**(牛の天然痘)にかかった牛からウイルスを取り出し，それをワクチンとして人間の体に打ち込む。これで人間は天然痘に対する免疫力をつけることができるわけだけど，その牛痘接種機関として，1858 年に**伊東玄朴**ら蘭学者によって江戸に設けられたのが**種痘所**だ(こののち種痘所は幕府直轄となり，1863 年に**医学所**と改称されている)。

なお，ここまで説明した昌平坂学問所(昌平黌)・開成所・医学所は，江戸幕府が滅亡したのちに明治政府が取り上げられることになるんだけど，これらを合併して **1877 年**に設立されたのが**東京大学**だ。

こうした幕府が直轄していた学校に対して，諸藩が家臣の子弟教育のために設けた学校を**藩校**(**藩学**)といい，庶民教育のために設けられた学校を**郷校**(**郷学**)という(郷校の中には藩校の分校的な存在とし

© 不許複製禁転載

て設けられたものもある)。

＜主な藩校･郷校＞

藩校…秋田藩＝明徳館(佐竹義和が設立)・仙台藩＝養賢堂(伊達吉村が設立)
米沢藩＝興譲館(上杉治憲が設立)・会津藩＝日新館(松平容頌が設立)
水戸藩＝弘道館(徳川斉昭が設立)・加賀藩＝明倫堂(前田治脩が設立)
尾張藩＝明倫堂(徳川宗睦が設立)・岡山藩＝花畠教場(池田光政が設立)
広島藩＝修道館(浅野重晟が設立)・長州藩＝明倫館(毛利吉元が設立)
福岡藩＝修猷館(黒田斉隆が設立)・熊本藩＝時習館(細川重賢が設立)
薩摩藩＝造士館(島津重豪が設立)
郷校…岡山藩＝閑谷学校(池田光政が設立)・民　間＝含翠堂(摂津平野の庶民が設立)

それにしても，藩校の数がずいぶん多いよね～。でも，全て覚える必要はまったくなく，通史の内容で知っておかなければいけないものがメインを占めている。たとえば，岡山藩主の池田光政が設立した花畠教場(藩校)と閑谷学校(郷校)は，藩校・郷校の中で最も早く設けられたものとして「文治政治」の箇所で既習済みのハズだ。

また，寛政の改革が行われた 18 世紀末前後には，名君と呼ばれた藩主により，藩の財政を建て直す藩政改革が行われたことも既習済みだと思う。そうした各藩主が設立した藩校として問われるものが，蠟の専売制を行った熊本藩主の細川重賢(銀台)が設立した時習館，米沢織の専売制を行った米沢藩主の上杉治憲(鷹山)が設立した興譲館，秋田杉の専売制を行った秋田藩主の佐竹義和が設立した明徳館だ。

＜藩政改革の覚え方＞

☆「(ハナクソ)ほじくろう」
　ほ→細川／じ→時習館／く→熊本藩／ろう→蠟
「ウンコよね」
　ウ→上杉／コ→興譲館／よね→米沢織(米沢藩)
「飽きたら冷めんな」
　飽きた→秋田杉(秋田藩)／さ→佐竹／め→明徳館

「さあ，みんなハナクソほじくろう！(根本)」→「あいつ下ネタばっかでウンコよね(生徒の小声)」→「…下ネタ飽きたからって冷めんなよ(根本)」と言ったやりとり的な覚え方でした。

さて，これでわかったように重要なものは基本的に通史で学習したものだよね？なので，後は会津藩の日新館，水戸藩の弘道館，薩摩藩の造士館といった文化史で問われる 3 つを押さえておけばいいわけだ。残りのものは頻度的にも非常に低いものなので，よっぽど余裕があったら太字のものを覚えるぐらいの方がいいね。


〔寺子屋〕

こうした幕府や諸藩が設立したものに対して，民間で各地に設けられた庶民教育機関が寺子屋だ。こうした寺子屋では，東山文化につくられた『庭訓往来』や室鳩巣の著した『六諭衍義大意』，『実語教』･『童子教』などを教科書として，読み・書き・算盤といった初等教育を教わることができる。そして，その後に儒学や蘭学などの高等教育を学びたい場合には，それぞれの学者たちが設立した私塾へと入門すればよいわけだ。

こうした私塾に関しては次のページに譲るとするけれども，私塾の多くは講義の「儒学・国学・蘭学」の箇所で解説しているので，ここでは講義で扱うことのできなかった私塾について説明していく(講義で扱った私塾には□をつけてある)。

© 不許複製禁転載

＜主な私塾＞

陽明学…近江＝**藤樹書院**(**中江藤樹**が近江に開いた私塾)
　　大坂＝**洗心洞**(陽明学者の**大塩平八郎**が大坂に開いた私塾)
古　学…京都＝**古義堂**(**堀河塾**)(**伊藤仁斎**が京都に開いた私塾)
　　江戸＝**護園塾**(**荻生徂徠**が江戸に開いた私塾)
国　学…伊勢＝**鈴屋**(**本居宣長**が伊勢松坂にある自宅に設けた私塾)
　　江戸＝**和学講談所**(**塙保己一**が幕府の許可を得て江戸に設立した学問所)
蘭　学…江戸＝**芝蘭堂**(**大槻玄沢**が江戸に開いた私塾)
　　大坂＝**適塾**(**緒方洪庵**が大坂に開いた私塾)
　　出身者＝**福沢諭吉**・**橋本左内**・**大村益次郎**・**佐野常民**
　　長崎＝**鳴滝塾**(**シーボルト**が長崎郊外に開いた私塾)
　　出身者＝**高野長英**・**小関三英**
朱子学…大坂＝**懐徳堂**(大坂の町人の出資により設立された私塾)
　　学　主＝**三宅石庵**→**中井甃庵**→**中井竹山**
　　出身者＝**富永仲基**『**出定後語**』・**山片蟠桃**『**夢の代**』
漢　学…豊後＝**咸宜園**(**広瀬淡窓**が**豊後日田**に開いた近世最大規模の私塾)
　　長州＝**松下村塾**(**吉田松陰**が叔父から受け継いだ長州萩の私塾)
　　出身者＝**高杉晋作**・**久坂玄瑞**・前原一誠・伊藤博文

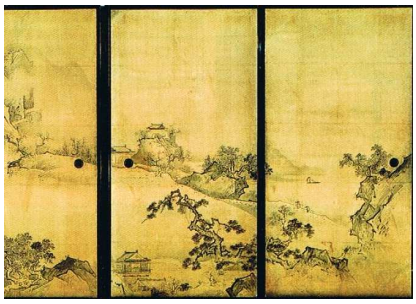
大坂の豪商の出資により設立された懐徳堂は，儒学者の**三宅石庵**を学主として迎え(その後，学主は**中井甃庵**・**中井竹山**へと引き継がれる)，朱子学など庶民教育を目的として設けられたもの。その出身者である**富永仲基**は『**出定後語**』で儒教・仏教・神道を批判し，同じく出身者の**山片蟠桃**は『**夢の代**』で「鬼神はない」とする**無神論(無鬼論)**を展開した。また，同じく大坂の陽明学者であった元大坂町奉行所の与力**大塩平八郎**は，奉行所を辞めた後に私塾として**洗心洞**を開いている。

こうした私塾の中で，3000 人以上の学生を集めた近世で最大規模の私塾が**広瀬淡窓**が**豊後日田**に開いた**咸宜園**だ。そして，明治維新に大きな影響を与えることになった**松下村塾**は最も有名な私塾と言ってもいいだろう。これは長州藩士の**吉田松陰**が叔父から受け継いだ私塾なんだけれども，彼の思想は出身者の**高杉晋作**や**久坂玄瑞**(1864 年の禁門の変で戦死)，前原一誠・伊藤博文など幕末～明治期に活躍した人材を輩出することになる。

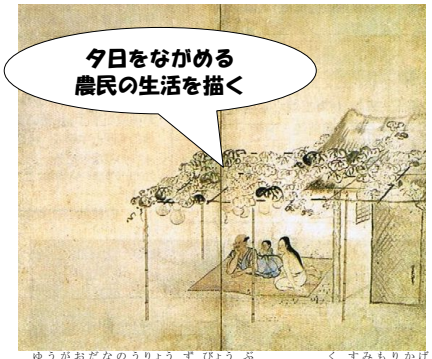
© 不許複製禁転載

［A］狩野派・土佐派・装飾画・蒔絵(寛永文化・元禄文化)

初めに述べたように，寛永文化というものは桃山文化を継続した，いわば桃山文化の延長線上のものであったよね。だから，絵画の世界においても，桃山文化で中心をなしていた狩野派が，寛永文化においても中心にいる。その狩野派の頂点にいたのが狩野永徳の孫にあたる**狩野探幽**。彼は何と 16 歳の頃から幕府の御用絵師(幕府お抱えの絵師)として活躍していた。だから，狩野派の一門を率いて上方や江戸を行ったり来たりして，いろんなところで様々な絵を残していったんだ。その中で特に有名なのが大徳寺にある『大徳寺方丈襖絵』だ。そして，この大徳寺の他にも大坂城や京都御所などいろんなところで障壁画(障子や壁に描く絵)を描いたことによって，彼の名声と，そして狩野派は絶対的な存在として確立されたんだ。この探幽の活躍によって絶対的な権威となった狩野派は，幕府御用絵師の中でトップである奥絵師にまでなっている。


〔大徳寺方丈襖絵〕by**狩野探幽**

ところが，人間っていうものは，こういった権威を不動のものにすると，その後はその権威を守ることに必死になってしまう。だから，この探幽後の狩野派もその権威・地位を守ろうとしたため，今までのような目新しい創造性というものが失われてしまったんだ。それゆえ，この後の狩野派は明治期まで続いたんだけど，探幽のような有名な作品は生まれなくなってしまった。だから，そうした狩野派の中で，狩野派の権威的な画風から外れた絵を描いたことによって，狩野派から破門されちゃった人もいる。それが**久隅守景**や英一蝶だ。その久隅守景の描いたのが，礼儀に縛られない農民の生活を描いた『夕顔棚納涼図屏風』。でも，そういった農民の生活とかいったものは，権威を維持しようとする狩野派の規範には合わなかったので，結局狩野派から破門されてしまった。同じように，英一蝶も都会や農村の風俗とかを描いていたので，狩野派の画風にそぐわないってことで破門されちゃったんだ。



〔夕顔棚納涼図屏風〕by**久隅守景**

この狩野派と同じように，社会的権威をもった画派が**土佐派**だ。土佐派ってどこかで聞いたことがあるよね？そう，室町時代に室町幕府の御用絵師となった狩野派に対して，宮廷の絵所預になったあの**土佐光信**の土佐派だ。室町時代の頃には，こうした朝廷のお抱えの絵師である宮廷絵所預になったわけだけど，その後戦国期になると，土佐派は衰退して宮廷絵所預からも外れてしまっていた。その衰退していた土佐派を江戸時代に再興したのが**土佐光起**だったんだ。この土佐光起が宮廷絵所預に復帰して，それ以降も土佐派は朝廷の絵師として続くんだけど，その後は光起を超えるような人物は現れなかった。これも，狩野派と同じように，権威の維持に傾いてしまったため，目新しいものが生まれなかったわけだね。


〔洛中洛外図巻〕by 住吉具慶

その土佐派は，ずっと京都にいて離れることはなかったんだけど，その土佐派から別れて江戸へ活躍の場を求めていったのが**住吉派**だ。その住吉派の祖となったのが**住吉如慶**で，その子供の**住吉具慶**は『洛中洛外図巻』を制作し，幕府の御用絵師に任ぜられている。ただし，狩野派が御用絵師の中のトップである奥絵師であるのに対し，住吉派は御用絵師までに過ぎないけどね。しかし，この住吉派も結局権威の維持に努めたため，その後に衰退してしまうんだ。結局，幕府や朝廷などの権力の保護下になると，保守的になってしまい，目新しい作品などを生むことはなくなってしまうわけだね。

© 不許複製禁転載



〔風神雷神図屏風〕 by俵屋宗達

さて，こういった土佐派や住吉派の画風は，日本古来の大和絵だったわけだけど，この大和絵に革新的な装飾性をもたらした人がいたんだ。それが有名な**俵屋宗達**だ。でも，革新的な装飾性と言っても，イマイチよくわからないよね。だから，この人の代表的作品の『風神雷神図屏風』を見てみよう。これは，今までの大和絵と比べてみると，その違いがすぐにわかるんじゃないかな？今までの大和絵の場合は，全体に絵を描くのが常であったけど，この『風神雷神図屏風』は大胆にも，真ん中には何も書かずに，左に天鼓をもつ雷神，右に風袋を両手に持つ風神を描いている。そして，風神とか雷神が何かノリノリな雰囲気を醸し出している何ともダイナミックな絵だよね。こういった大胆な構図で，魅力あふれる**大和絵**の絵画を**装飾画**っていうんだ。

ただし，さすがに俵屋宗達が独学で絵画を学んだわけなくて，これを指導した人がいた。それが，宗達とも親交のあった江戸時代のレオナルド・ダ・ビンチ，**本阿弥光悦**だ。その本阿弥光悦に俵屋宗達も絵画を習ったわけだ。この本阿弥光悦という人は，あのイタリアのレオナルド・ダ・ビンチみたいに書道・茶陶・蒔絵・絵画といった様々な分野を極めていた人なんだ。書道においては，寛永の三筆(寛永期において字のうまい三傑)の一人でもあるし，茶陶や絵画も自ら描くし，その指導も行っていた。つまり，その当時でいう万能人であったわけだね。



〔舟橋蒔絵硯箱〕 by 本阿弥光悦

その中で特に彼が秀でていたのが，**蒔絵**という分野だ。蒔絵というのは，箱とか茶碗とかいった漆器の上に，金や銀で文様を描いていく美術。でも，普通箱の上に金粉とか銀粉を蒔いたとしてもくっ付かないよね？普通はパラパラって落ちてしまうのが定石だ。そこで，まず漆器の上に漆を塗っておくんだ。そうすると，この漆はベトベトして糊みたいになる。そして，その漆を塗りながら文様を描いていく。そうして，描き終わったら，その上から金粉とかを蒔くと，漆が接着剤みたいな役割として，金粉が箱にくっ付くんだ。これによって，文様を描いていくわけだね。

その蒔絵における本阿弥光悦の代表作が『舟橋蒔絵硯箱』だ。これは金粉の部分が舟や波を表していて，鉛を用いた黒い部分が橋を表しているんだ。こういった全てに秀でている，まさに総合プロデューサーみたいな存在だったのが本阿弥光悦なわけだね。そのため，徳川家康からも 1615 年に洛北**鷹ヶ峰**に敷地を与えられて，そこで**芸術村**というのをつくって，一族や工匠たちとそこに住んだんだ。つまり，芸術家だらけの村ということだ。

さて，話が蒔絵の方に移ってしまったので，始めの俵屋宗達による装飾画の話に戻そう。その俵屋宗達の装飾画を，より洗練させたのが**尾形光琳**だ。ところが，そもそも尾形光琳ってのは，ちゃんと絵師として修行していたような人ではなくて，元々はただの遊び人。もともと，この人は雁金屋っていう京都有数の呉服商の次男として生まれたんだけど，若い頃はそのお金でいろんなところを遊び呆けてる放蕩息子だったんだ。

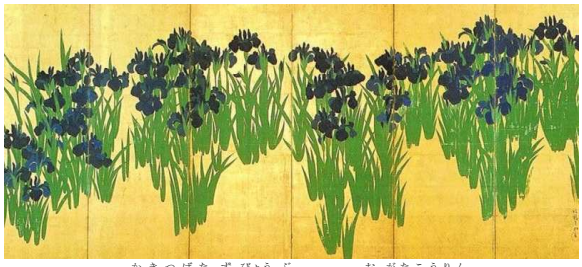
ところが，その雁金屋を経営していた父親が死んだことによって，雁金屋は没落してしまった。そこで，彼はやむを得ず絵師になることにした。そして，イチから絵画修行を始めたんだけど，その過程で彼に大きな衝撃を与えたのが，先ほどの俵屋宗達の『風神雷神図屏風』だったんだ。この光琳は宗達に絵画を学んでいたわけじゃないよ。でも，その宗達の画風に衝撃を受けて，それを受け継いだわけだ。

こういった狩野派や土佐派のように親から子へ，もしくは師から弟子へ教えていくようなものではなく，まったく師弟関係のない画家たちによって受け継がれていった流派のことを**琳派**と言う(そして，

© 不許複製禁転載



〔紅白梅図屏風〕by尾形光琳


〔燕子花図屏風〕by尾形光琳

この後もまったく師弟関係のない江戸の酒井抱一などによって受け継がれていく)。ちなみに，この琳派っていうのは，もちろん尾形光琳の「琳」からきている。故に，この尾形光琳に衝撃を与えた俵屋宗達こそが琳派の先駆になるわけだ。つまり，先人の作品を独学で学んで，そのエッセンスを自分で会得して，新たな作品を生み出して行く，それが琳派だ。

だから，尾形光琳も俵屋宗達のような大胆な構図を用いながら，なおかつ自分の要素を取り入れていったんだけど，その光琳の最大の要素というものがデザイン性だ。彼は呉服商として生まれたことにより，子供の頃から家には華麗な衣装の文様などが溢れていた。そうしたものが，彼のデザイン性を育てたわけだ。だから，今でも本屋の美術コーナーに行けば光琳の制作したデザインは著書として並んでいるんだよ？

さて，そうした光琳の中で有名な作品が『紅白梅図屏風』や『燕子花図屏風』だ。『紅白梅図屏風』は，真ん中にでっかい水流を描いて，左右に白梅・紅梅を描いているなんとも大胆でデザイン性に優れた作品だ。今までの絵画と比べてもらうとわかるけど，こんな構図の作品なんて今まではなかったよね。同じように『燕子花図屏風』も燕子花を一面に書きつくすという大胆な構図だよね。まあ，僕からすると，ただ手を抜いただけのようにも受け取れるんだけどね。また，彼はそのデザイン性を活かして，蒔絵においても『八橋蒔絵硯箱』を手がけているんだ。この彼の蒔絵に対しても影響力を及ぼしたのが，先ほどの俵屋宗達のところでも出てきた本阿弥光悦だ。


〔八橋蒔絵硯箱〕
by 尾形光琳

［B］風俗画・浮世絵(元禄文化～化政文化)

今まで解説してきた美術はどれも高級感溢れる作品だったけど，それに対して庶民にも受け入れやすいジャンルが風俗画というものだ。この風俗画というのは，市井の様子とか，一般庶民の日常生活を題材にした絵画のことを言うんだけど，これが描かれるようになったのは安土桃山時代からなんだ。その理由と背景を簡単に説明しよう。

安土・桃山時代の頃になって，ようやく今までの戦乱が終結しそうな気配になってきた。それに伴って，一般の人々は平和を期待するようになるよね。その一方で，平和になったことで，権力者である大名も「庶民の生活ってどんなんだろう…？」って，自分たちの知らない庶民の生活に関心を寄せるようになる。それらがあいまって，日常生活を題材にする風俗画が，安土桃山期に描かれるようになった。ただし，初めの頃は今述べたように，これらを命ずるのは権力者だから，それらを描くのは権力者の保護のもとにあった狩野派だったんだ。例えば，狩野永徳による『洛中洛外図屏風』や，狩野長信による『花下遊楽図屏風』などが代表的だね(桃山文化を参照)。そのため，寛永文化の頃も風俗画を描いていたのも狩野派。それゆえ，彦根藩の井伊家が所有する『彦根屏風』も作者はわかっていないんだけど，狩野派のタッチによって描かれたものなんだ。これは，写真を見てもらえばわかるけど，庶民の生活を描いているものだね。


〔彦根屏風〕

© 不許複製禁転載

こうした風俗画の中の一つの流派として，江戸時代に全盛期を迎えたのが**浮世絵**だ。これは，風俗画の一種なんだけど，その題材を庶民の日常生活の中でも，特に彼らの関心ごとである美人や役者を主題にして描いていったものなんだ(後には風景画も描かれるようになる)。その浮世絵というジャンルを確立したのが，有名な**菱川師宣**だ。ただ，よく浮世絵という言葉は聞いたことがあると思うんだけど，イマイチそのイメージがつかみにくいと思うんだ。そこで，この浮世絵というジャンルが成立した過程の話をしておこう。

この浮世絵を確立した菱川師宣は，もともと千葉の最南端である安房国出身の人物だった。そして，成人すると江戸に出て，本の挿絵画家として活躍していた。例えば，井原西鶴の『好色一代男』の江戸版の挿絵を担当したりもしていたんだ。ところが，本を出版すると，今みたいにコピー機なんてないから，それぞれ絵を一枚一枚描かなければいけないよね。そして，当然その発行部数が多くなると，もうめちゃめちゃ大変になっちゃうよね。

そこで，彼が始めたのが，挿絵を版画で刷っちゃうという方法だったんだ。版画であるなら，いちいち描かなくても墨で摺れば手間が省けるもんね。そして，彼はこの版画による挿絵というレベルから脱皮を図る。つまり，版画をそのまま応用して，今までの本の挿絵ではなく，一枚の絵画として発行するようになったんだ。それが浮世絵版画というものだ。この版画という技術によって，絵を大量生産することが可能になる。それゆえ，値段的にも安いから庶民も手軽に手に入れられるようになって，一躍絵画の主流になったんだ。だから，この師宣は浮世絵の祖となったわけだね。



〔見返り美人図〕
(肉筆画)
by**菱川師宣**

これで浮世絵の成立過程がわかったかな？浮世絵はもともと浮世草子の挿絵であったわけだ。だから，浮世絵版画の始めの頃は，浮世草子の挿絵に関係する美人などを扱った絵が主流だったんだ。ただし，この浮世絵版画を始めた菱川師宣も版画のような大量印刷物ではなく，肉筆画という自筆による作品も描いている。それが有名な『見返り美人図』だ。この『見返り美人図』は白黒写真だとわかりにくいけど，ちゃんと何色もの色で描かれたカラー版なんだ(例えば，着物の色は赤だし，帯の色は緑色)。だから，これは浮世絵版画じゃなくて，自筆の肉筆画なんだ。なおかつ，この当時の浮世絵版画は墨一色で塗る墨摺絵というモノクロ版だったから，版画の場合だと色は白黒にしかならなかったしね。


〔弾琴美人〕
by**鈴木春信**

この浮世絵版画は，その後になると，今までの墨一色で塗る墨摺絵というモノクロ版から，紅とかも用いた三色による紅摺絵と呼ばれるものに変わっていく。そして，その紅摺絵なんかと比較すべくもない，何色も摺れる豪華なカラー版の多色刷り版画が作られるようになったんだ。それを完成させたのが，**鈴木春信**という人で，その彼による多色刷り版画のことを，何色にもわたる錦のように美しいということで**錦絵**と呼ぶ。

この錦絵は浮世絵の史上においても非常に価値が大きい。だって，今まで庶民が，手に出来るカラー版の絵は肉筆画ぐらいだった。でも，その値段は高いし手は出せない。一方，浮世絵版画だと白黒版だった。ところが，この錦絵により，普通に手に入れられる浮世絵版画も，カラーになるわけだから庶民も大喜びだよね。だから，この錦絵の発明によって，浮世絵は，その後の喜多川歌麿や東洲斎写楽という天才を輩出した時期に黄金時代を迎えるんだ。ちなみに，この錦絵を創始した鈴木春信も，菱川師宣と同じように美人画のジャンルの絵を描いている。それが『弾琴美人』だ。これはそのまま絵を見てもわかるように，琴を弾いている女性を描いたものだね。

© 不許複製禁転載

ところが，さすがに美人画を描くにしても，菱川師宣の頃と同じような形式では飽きられてしまう。そこで，今までのように一人の女性の全体像を描く様式をいくぶん変えて，余白や背景の部分を減らして，紙いっぱいに主役を描くようになっていったんだ。つまり，徐々に主役である美人をアップにしていったわけだね。そして，これを目いっぱいに度アップにしたのが**喜多川歌麿**の代表作である美人画『**婦女人相十品**』(この中で著名なものが掲載している「ポッピンを吹く女」)だったんだ。今までの菱川師宣・鈴木春信の頃と比べると，女性が画面に占める割合が非常に大きくなっていることがわかるよね。こういった容貌を画面にいっぱいに度アップにして，胸から上の上半身だけを描く手法を**大首絵**と言うんだ。



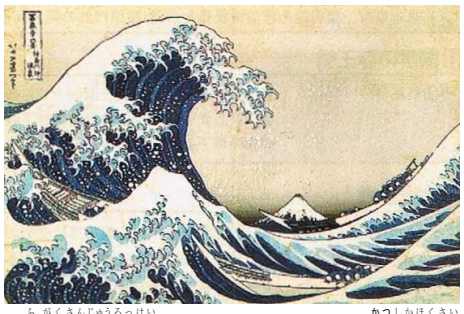
〔婦女人相十品〕「ポッピンを吹く女」by**喜多川歌麿**

こうした美人画というのは，当時の花魁など美人を題材にしたものだ。でも，当時の風俗といったら，美人とかじゃなくて，もう一つ歌舞伎もあるよね。だから，こういった美人画だけでなく歌舞伎役者を描く役者絵も流行っていたんだ。そして，この役者絵において，その大首絵の手法を応用して，突如現れた天才が**東洲斎写楽**だ。この人はめちゃめちゃ謎に包まれた人で，1794 年からその翌年にかけてのわずか 10 ヶ月ほどで，役者絵や相撲絵 140 点もの浮世絵を制作したんだけど，実際にこの人が誰だったのかはわかっていない。今でも「東洲斎写楽は誰々だった」なんていう推理がされていたりするんだ。その写楽が出展した作品の中で特に有名な作品が歌舞伎役者である 5 世市川団十郎をモデルにした『市川鰕蔵』だ。


〔市川鰕蔵〕by**東洲斎写楽**

こういった浮世絵というものは「浮世(現世)」という意味を持つように，当時の風俗である美人や歌舞伎役者を扱ったジャンルだ。そして，実は人々にとって，この浮世絵はただ鑑賞するだけのためのものではなくて，彼らのあこがれやファッションといったものの情報源でもあったんだ。つまり，具体的にいうと，人々が知りたがる吉原の花魁や歌舞伎役者(これらは現在でいう芸能人のような立場にあたる)の情報を伝えるメディアの存在であったのが浮世絵なんだ。それゆえ，浮世絵では，人々の知りたがる美人や歌舞伎役者を題材に描いていったわけだね。

ところが，こうした美人画や役者絵といったものは，そのジャンル自体が風俗を乱したりする。そのため，幕府は数度にわたって浮世絵の取り締まりを行ったんだ(喜多川歌麿は 1804 年に幕府に咎められて，手鎖 50 日の刑を受けている。なお，東洲斎写楽の場合はその素性自体がわからないので，処罰は受けていない)。そのため，その後は，五街道の発達で旅への関心が高まったことにより風景画に移していくことになる。その風景画の代表的な画家が，日本が世界に誇る**葛飾北斎**と**歌川(安藤)広重**だ。その**葛飾北斎**の代表作が『富嶽三十六景』だ(富士山をいろいろな季節や場所から 36 図描く。のちに裏富士を加えて 46 図となる)。その中でも特に有名な作品が，君たちも一度は見たことのある『神奈川沖浪裏』だ。これは，荒々しい波の表現の仕方とか本当に天才としか思えない表現方法だよね。


〔富嶽三十六景〕「神奈川沖浪裏」by**葛飾北斎**


〔東海道五十三次〕「庄野」by**歌川(安藤)広重**

こういった風景画における「動」の世界を描いた北斎に対して，「静」の世界を描いたのが**歌川(安藤)広重**の『東海道五十三次』だ。これは東海道の風景・風俗や宿場町を描いたものなんだ。東海道の宿場の数は 53 宿だから東海道 53 次であるわけだね。ただし，この『東海道五十三次』にはパクリ疑惑もあるんだけどね。

© 不許複製禁転載

［C］文人画(南画)・洋風画・写生画(化政文化)

こういった浮世絵に対して，外国からの影響によって発達した絵画が，その他の文人画(南画)や，洋風画・写生画だ。まずは，そのうちの**文人画**(**南画**)から説明していこう。文人画というのは，学者や文人が，その専門とは別に趣味として描いた絵画のことを言う。別名，中国の南宗画の影響を受けたことから南画ともいうんだけど，正確には少し違うんだ。

そもそも，日本では江戸幕府による鎖国政策のため，海外物の輸入に関しては規制が厳しかった。ただし，伝統ある中国の文物に関しては比較的緩やかで，中国からは多少影響を受けることがあったんだ。その中国から影響を受けたものが，中国の科挙制度に合格したものが描く南宗画(南画)というものだ。この南宗画というのは，もともとはそういった科挙に合格したような限られた文人しか描くことの出来ない階級制度に密着した絵画だった。ところが，こうした南宗画の実際の作品を日本で見ることができるのは長崎とかごくわずかでしかなかった。じゃあ，実際にはどうしていたのかというと，中国から輸入された「芥子園画伝」や「八種画譜」といった絵画の手引書を読んで学習するしか手がなかったんだ。つまり，絵画の作品自体は見ないで，その「南画の描き方マニュアル」を読んで描いたわけだね。

ところが，その「芥子園画伝」や「八種画譜」を翻訳・解釈したんだけど，本来の南画とは間違った解釈をしちゃったんだ。本来の中国の南画は，科挙に合格した高級官僚しか描けない階級制度と密着したものだったよね。でも，日本では南画を「身分の枠から放たれた自由な世界」なんだと勝手に解釈しちゃったんだ。つまり，日本における文人画(南画)というのは，そういった誤解の上に成り立ったわけだ。ただ，それ故に逆に中国のマネではない日本独自の絵画になったんだ。

さて，この南画を間違って勝手に解釈しちゃった人物，それが**池大雅**と**与謝蕪村**だ。そして，この二人による合作が『**十便十宜図**』だ。合作って言うと，二人で，一つの絵を描いたように捉えるかもしれないけど，これは違うからね。この『十便十宜図』は実際には，10 図から成る「十便」と，もう一つ 10 図から成る「十宜」を合わせた 20 図があるんだ。そして，そのうちの「十便」を池大雅が描いて，もう片方の「十宜」を与謝蕪村が描いたものなんだ。ちなみに，掲載している絵画は，池大雅の「十便」のうちの一つである「釣便図」というものだ。



〔**十便十宜図**〕「釣便図」
by 池大雅

そして，この後そういった文人同士の交流によって，全国的に文人画が流行していった。その中で文人画を発展させたのが**谷文晁**だ。彼の作品に関しては聞かれない。じゃあ，この人は何をしていたのかというと，たくさんの門人に対して文人画を教えたんだ。その門人の一人が，豊後竹田の**田能村竹田**だ。ただし，この人の場合は，「豊後竹田の人」と聞いてくるだけでお終い。それに対して，谷文晁のもう一人の門人として問われるのが，蛮社の獄で処罰された三河田原藩家老の**渡辺崋山**だ。この渡辺崋山の代表作が下総国の古河藩家老である鷹見泉石を描いた『**鷹見泉石像**』だ。これは文人のレベルには収まらないぐらいにめちゃめちゃうまいよね。だから，先ほどの谷文晁を入試で聞く場合は「渡辺崋山に絵画を教えた人は誰？」って問題にして彼を聞いてくるんだ。



〔**鷹見泉石像**〕
by**渡辺崋山**

洋風画というのは，西洋の遠近法などに影響を受けて，日本人によって描かれた西洋風絵画のこと。でも，江戸時代の初期は，江戸幕府の鎖国政策のため，西洋の絵画といったものが，日本人と接触することはなかった。しかし，その後の徳川吉宗の享保期になると，漢訳洋書(中国語に翻訳された洋書)の輸入が緩和されたことによって，蘭学の研究が盛んになった。それに伴って，その蘭学と一緒に西洋絵画の研究も行われるようになって，徐々に洋風画が広まっていったんだ。

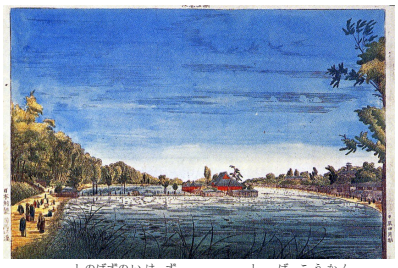
© 不許複製禁転載

ただし，初めの頃の洋風画というのは，今述べたように，蘭学などのヨーロッパの自然科学を勉強する過程で，それと一緒に「洋風画も嗜もうかな～？」程度のものだったんだ。つまり，蘭学やヨーロッパの自然科学を研究する学者が，趣味のレベルで西洋画を研究するぐらいのレベルのものであったわけだ。その代表的な人物が科学者であった**平賀源内**だ。だから，彼はエレキテルや火浣布などを発明する一方で，西洋画にも興味を示していて，洋風画の作品を残している。それが『西洋婦人図』だ。ところが，右の絵下手くそだよね！ヨーロッパの婦人を描いているんだけど，この女性サザエさんみたいで気持ち悪いもん。…と，批判されたのかどうかは知らないけど，彼はこの後西洋画を描いてはいないんだ。おそらく，自分の見た西洋画と，自分の描いた『西洋婦人図』にギャップを感じて，「もう，やめとこ…」って思ったんだろうね。



〔西洋婦人図〕
by**平賀源内**

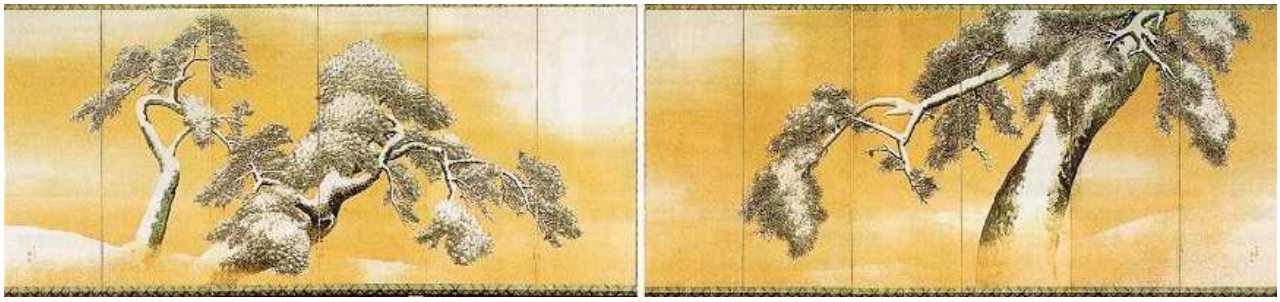
でも，西洋画から受けた衝撃は忘れられない。自分がそんなに絵がうまくないのなら，自分では描かないで他の絵のうまい奴に託せばいい。そこで，ちょうど彼が秋田藩の銅山視察に招かれた時に，自分の勉強のために持っていた要所の挿絵を，秋田藩士の**小田野直武**って人に見せてあげたんだ。そうしたら，もともと絵画を習っていた小田野直武も，その西洋画というものの迫真性に衝撃を受けて，源内と共に江戸に出て，洋風画を描くようになったんだ。それゆえ，その洋風画の作風を活かして，彼はあの『解体新書』の挿絵も描いている。


〔不忍池図〕by**司馬江漢**

そして，この直武が指導した人物が，その後に日本で始めて**銅版画**を創った**司馬江漢**だ。銅版画というのは，銅の版に薬品を塗って銅を腐食させることで，銅の部分に凹凸をつくるんだ。そうすることによって，版画になるよね。なおかつ浮世絵のような木版(木の版画)とは違って，形が壊れたりせず，ずっと使用できるという利点があるんだ。こういった銅版画という銅による版画を創始したのが司馬江漢なんだけど，彼はそれだけじゃなくて，ヨーロッパ風の油絵による風景画も試みている(小田野までの段階では，西洋風に描く技術のみで，西洋の油絵具は用いられていなかった)。その代表作が『不忍池図』だ。そして，司馬江漢の後に，銅版画を発展させたのが**亜欧堂田善**という人だ。ちなみに，彼も油絵ではないが，『**浅間山図屏風**』を残している。


〔浅間山図屏風〕by 亜欧堂田善

こういった西洋画とは少し違うんだけど，西洋画のような立体的で遠近法を用いた写実的な絵画を写生画という。つまり，今までの日本風絵画に，ヨーロッパの遠近法や影をつけて，写実的に描いたもののことだね。その写生画を完成させたのが，京都の**円山応挙**で，その応挙の有名な作品が『雪松図屏風』だ。これは素人の目から見ても，非常にうまいのがわかるよね。江戸の浮世絵画家ら巨匠に並ぶぐらいの力量だ。それゆえに，京都では人気を独占して，彼のもとには弟子がどんどん集まってきて，あの狩野派や土佐派をも上回るぐらいの勢力を持つようになったんだ。こういった彼の門人たちの派を**円山派**というんだ。


〔雪松図屏風〕by 円山応挙

© 不許複製禁転載

そして，その応挙に学んで，後に四条派の祖となったのが，**呉春**(**松村月溪**)だ。もともとこの人は文人画の与謝蕪村に絵画を学んでいたんだけど，その後彼が死んじゃったので，応挙に学ぶようになった。そして，その蕪村の文人画と，応挙の写生画の画風を混ぜて，自分の画風を確立したんだ。そういった呉春や彼の弟子たちが，京都の四条通りに住むようになったので，この呉春の門人を総称して**四条派**という。つまり，大きな意味で言えば，四条派も円山派の中に位置づけられることになるよね。

［D］陶磁器

さて，それでは陶磁器についての話をしていこうか。寛永文化というものが，桃山文化の延長線上であったのと同じように，この寛永文化の時期の陶磁器においても，桃山文化の延長線上にあるんだ。そこで，陶磁器のそれまでの話を説明しよう。

そもそも陶磁器といった焼き物は鎌倉時代までは壺などの単なる生活用品として用いられていた。ところが，この陶磁器の役割が室町文化末期になると，その様式が今までとはガラっと変わるんだ。その陶磁器に影響を与えたのが茶道だ。東山文化期になると村田珠光によって茶道が創始されたよね。その茶道を行うためには，湯のみ茶碗とか水差とかが必要になってくる。そこで，今までの陶磁器はその茶道具として用いられるようになったんだ(こういった茶道用の陶磁器を茶陶という)。

そして，茶道はその後，戦国時代・安土桃山時代，大名も愛好したことによって爆発的なヒットとなったよね。これに伴って，その茶道具として用いる陶磁器も各地でいろんなところで作られるようになったんだ。その中で，桃山文化期の茶道の第一人者である千利休は，自分の「侘び」の精神を茶碗にまで反映させようと考えた。そこで，彼が京都の陶工長次郎を指導して，京都の聚楽第で焼いたことから，その聚楽第の「楽」をとって楽茶碗というものを作らせたんだ。これはめちゃめちゃ渋い！まったく絵柄とかもなくて，ただ黒一色の茶碗なんだ。つまり，茶道の「侘び」を反映させるために，あえて渋い茶碗を千利休が長次郎に作らせたわけだね。そして，これ以降京都では長次郎の子孫である楽家が代々作成するようになったんだ。これを**楽焼**って言うんだ。


〔楽焼〕by 長次郎

その一方で，当時の大名たちの中でも茶道が流行っていたから，こういった茶碗を集めることがブームになっていた。例えば，豊臣秀吉が金の茶室を作らせたのは有名な話だよね。だから，当時の大名たちもやっぱり茶碗とかの陶磁器に力を入れたい。ところが，当時の日本は朝鮮とか中国に比べると，焼き物の技術はまだまだだった。そこで，ちょうど朝鮮出兵に駆り出された西国の大名たちは，その出兵のついでに朝鮮に住んでいた陶工たちを強制的に日本に連れ帰ってきて，日本で焼き物を作らせようとしたんだ(朝鮮出兵は地理的な関係もあり，九州の大名が中心となっていた)。

そのため，朝鮮出兵に駆り出された西国の大名は，朝鮮人陶工を強制的に日本に連れ帰ってきて焼き物を造らせたんだ。この焼き物を**お国焼き**という。そのお国焼きの中で有名なものが**李参平**によって始められた鍋島氏の**有田焼**，金海・朴平意による島津氏の**薩摩焼**，李勺光・李敬による毛利氏の**萩焼**，巨関による松浦氏の**平戸焼**だ。ちなみに，この中で覚える創始者は李参平だけでいいよ。それ以外の朝鮮人陶工の創始者は参考のために載せただけだからね。そして，これ以降，日本では良質の陶磁器が生産されるようになって，逆に多くの陶工を奪われた朝鮮では，陶磁器が衰退してしまう。それゆえに，元禄・慶長の役は「焼き物戦争」とも言われるんだ。

さて，ここまで江戸時代以前の陶磁器の歴史について説明してきたけど，実は今まで説明してきた陶磁器は全て「陶器」であって，「磁器」ではないんだ。「……？」おそらく今僕が言った意味を理解できた人は皆無に近いと思う。ここで，君たちの中にある今までの知識というものをブチ壊さなければいけないんだ。

© 不許複製禁転載

今まで僕は陶磁器，陶磁器といってきたが，実は陶磁器という，そのもの自体はこの世に存在しない。陶磁器という語句はあくまでも，土や石などから作る粘土質の「陶器」と，ガラス質をもつ「磁器」の総称なんだ。だから，陶磁器というものは「陶器」と「磁器」の 2 種類に分けることができる。そして，今まで説明してきた楽焼やお国焼きなどはすべて，「陶器」にあたるものなんだ。じゃあ，「陶器って何？」って話になるよね。

陶器というのは，土などを焼いてつくる，もともとは古墳時代における須恵器が根源にある。その須恵器の「須恵(すえ)」という語句がのちに「陶(すえ)」に変わる。そして，その後に「陶(すえ)」を「陶(とう)」と呼ぶようになったんだ。これが「陶器」だ。だから，「陶器」を作るには，土さえあればいいんだから簡単だよね。それに対して，「磁器」はガラス質のもので，非常に高度な技術を要するんだ。なおかつ，その原料となる白磁鉱というものは，採れる場所が限られているので，全国各地で生産できるわけではない。そして，今までの日本では，白磁鉱が採れる場所は発見されていなかったので，「磁器」は作られたことがなかったんだ。

そんな折の 1616 年，朝鮮から連行されて有田焼を創始した李参平が有田の泉山において，白磁鉱を発見し，それを用いて日本で初めて「磁器」を焼いたんだ(ただし，あくまでも伝承で，現段階で確証はない)。これ以降，有田では「磁器」の生産が行われるようになって，藩主鍋島氏のもと発達していったんだ。

ただし，この始めの頃の有田焼は白磁や，染付の技術を用いた青磁ぐらいしかなかった。「またまた難しいこと言って…」って思ったかもしれないけど，別に何も難しくないよ。ただ単にそのまま何もせずに焼いた，真っ白な磁器を白磁といって，藍色とかで染めてから焼いた磁器を青磁っていうだけなんだ。これじゃあ色気が何もないよね。ただ単にその磁器が白だったり，少し模様がかった青だったりするだけでしょ？何か絵とかが描いてあったら相当センス高いよね。そこで，中国人からそういった色をつける色絵という技術を学んで，日本で色絵を創始した有田焼の陶工が**酒井田柿右衛門**だ。この色絵という技術は，釉をつけた陶器や磁器に絵を描いて仕上げる技術なんだけど，よくわからないよね。



〔色絵花鳥文大深鉢〕
by 酒井田柿右衛門

まず，ふつうに陶器に絵を描こうとしても，ガラス質なんだから上から絵なんて描けないはずだよね。そこで，始めに釉という薬品を塗っておいてから焼くんだ。そうすると，陶器や磁器にツヤが出て，絵を描くことが出来るようになる。そして，その上で絵を描いた後，もう一度軽く焼くと見事絵のついた陶器・磁器が出来上がるんだ。これを色絵とか上絵付の技法という。そして，この酒井田柿右衛門の色絵は，特に赤を基調としていたので，彼の技法を**赤絵**と呼ぶんだ。ちなみに，その色絵を用いた柿右衛門の代表作が右に掲載した『色絵花鳥文大深鉢』だ。

この色絵(その一部が赤絵)を始めたことによって肥前の**有田焼**は国内だけじゃなく，国外にまで輸出されるようになった。そして，それが伊万里港から積み出されたので，有田焼のことを**伊万里焼**とも言うんだ(九州の有田に住んでる人からすると，有田で作っている有田焼が，伊万里焼で定着してしまったことが不満らしい。だから，伊万里焼を有田焼と呼ぶように運動を展開しているという…)。こうした有田焼の大ヒットを得て，加賀においても有田焼の技術を用いた磁器が生産されるようになったんだ。そうした加賀において生産された磁器が**九谷焼**だ。


〔色絵藤花文茶壷〕
by 野々村仁清

こういった「磁器」が流行っていくと，さすがに今までの「陶器」も負けていられないよね。そこで，この「陶器」においても色絵が始められたんだ。その陶器における色絵の大成者が**野々村仁清**だ。そして，彼がこの色絵の技術を用いて京都において始めた陶器が**京焼**というものだ。今まで陶器といったものは楽焼のところで見たように渋いっていう感覚のものが多かったよね。

© 不許複製禁転載

ところが，この“今までの陶器は渋い”って感覚を打ち破ったのが，仁清による京焼だったんだ(京焼とは楽焼を除く，清水焼や粟田焼などを総称したもの。楽焼は渋いタイプで，色絵は行わない)。だから，仁清は**京焼の祖**ということになる。そして，この仁清に学んで，その後も京焼の隆盛を極めたのが尾形光琳の弟，**尾形乾山**だ。

［E］その他の美術

さて，元禄文化期におけるその他の美術作品，そして学問の話をしていこう。まずは染物のお話をしていこう，…というと何か取っ付きが悪いからファッションの話をしていこう。現在の君たちが服装などのファッションにこだわるように，江戸時代の人々もやっぱりファッションに関しては関心が強かった。だから，そのファッションの主となる着物に関しても，センスのいい模様とかが入っていてほしいよね。ところが，当時は派手な着物を着たいとか思っても，そこまで派手な着物を作る技術はなかった。当時の着物の模様をつけるためには，刺繍をせざるを得なかったんだ。確かに，刺繍によってある程度までは模様はつくれるけど，さすがにド派手なものとか繊細な模様とかは難しい。


〔友禅染〕

そこで，今までの刺繍ではなく，そのまま生地に模様を描く技術を編み出したのが**宮崎友禅**という人だ。本来だったら，生地にそのまま絵を描いても滲んじゃったりするよね？そこで，彼はその生地に糸目糊っていう糊をつけてから絵を描く技法を創始したんだ。そして，尾形光琳のデザイン性の影響を受けて，彼が制作したものを**友禅染**って言うんだ。


〔護法神像〕

一方で，彫刻のお話に移ろう。鎌倉時代までは彫刻作品が随分出てきた。しかし，近世になると作品が一元化してきたため，目新しい作品は登場しなくなった。その中で，唯一際立った個性を出していたのが**円空**だ。この人は名前の通り坊主なんだけど，修験道の修行として，一生涯全国を行脚し続けた人。そして，その時に彼が携えていたのが鉈一丁で，その鉈を用いて，訪れた農村や漁村で農民や漁民のために仏像や神像を彫っていったんだ。こういった鉈によって仏像や神像を彫る彫法をそのまま**鉈彫**と言う。そういった鉈彫りによる代表的な作品が，掲載されている『護法神像』だ。そりゃ鉈で彫るんだから荒々しい感じになるよね。ちなみに，彼はずっと行脚し続けて，全部で 12 万体の鉈彫りによる仏像や神像をつくったと言われているんだ。でも，普通に考えると，一年 365 日なわけだから，50 年生きたとしても 12 万は相当無理のある数字だよね。

［A］神道国教化の推進

近現代を理解する上で，重要な要素になってくるのは，政治・経済・外交，そして思想だ。近現代は，思想が背景となって政治・経済・外交などに影響を及ぼしたり，逆に政治・経済・外交が背景となって思想に影響を及ぼしたりする。だから，近現代の思想を理解するには，当時の政治・経済・外交と共に，思想を理解していくことが重要になるんだ。

さて，時代を明治初期に遡ってみよう。**1867 年**の**王政復古の大号令**によって，天皇を中心とした新政府が樹立された。王政復古の大号令とは，平安時代のように天皇自らが政治を行っていた「王政」の時代に「復古(古に復す)」するというもの。だから，これからは政治の中心となる天皇の権威を高めていかなければならない。そのためには，政治機構などを整えていく必要があるんだけど，他にも何か活用できるものがあるんじゃないか？

それは宗教だ。ヨーロッパではキリスト教を国教(国の宗教)として採用している国が多いけれど，日本でも同じように，神道を国教として重視していけばいい。そもそも，神道とは，天皇家の祖先とされる天照大神など日本固有の神々を信仰するもの。この神道を国教としてしまえば，「天照大神などの神々を信仰＝子孫である天皇家を信仰」するわけだから，天皇家の神格化につながるはずだ。そこで，明治政府は，祭政一致の立場から(祭祀(宗教)と政治を一体化させる方針のこと)，神道国教化政策を推進していったんだ。

ただし，神道を国教としていくためには，まずやらなければいけないことがある。それは**神仏習合**(**神仏混淆**)を否定すること。平安時代の頃から，人々は神道と仏教を混同していて，どちらも同じようなものだと解釈していたよね。そこで，明治政府は**1868 年**に**神仏分離令**(**神仏判然令**)を発布して，神仏習合(神仏混淆)を禁止したんだ。まあ，簡単にいえば「神道と仏教は違うもんだからな，お前ら」と国民にお触れを出したわけだ。

でも，これは国民にとっては衝撃的。「マジかよ，仏教と神道って違うものだったのか！しかも，明治政府は神道を国教にしようとしているわけだし，仏教はまがい物だったっちゅうわけだな」って感じで，寺院や仏像などが破壊される仏教排斥運動が巻き起こったんだ。これを**廃仏毀釈**という。



〔**廃仏毀釈**〕
右手の神官の指示で経文・仏具が燃やされ，左手の僧が嘆き悲しむ様子が描かれている

毀

なお，廃仏毀釈によって仏教勢力は一時的に衰退してしまうんだけど，その後，浄土真宗の僧侶である**島地黙雷**や，**哲学館**(現在の東洋大学)を創立した**井上円了**らの努力によって復興されていく。

こうして，神仏分離令によって神道と仏教が違うものであることを明らかにしておいた上で，**1870 年**に発布されたのが**大教宣布の詔**だ。これは，天皇自らが「これからは神道を日本の宗教としていく」って表明したものなんだ。そして，宣教使という役職が神道国教化を推進していったんだけど，仏教勢力による抵抗などで結局うまくはいかなかったんだ。

なお，この神道国教化政策は，明治初期の官制改革にも大きな影響を与えている。1869 年の版籍奉還に伴う官制改革では，祭祀関係を担当する**神祇官**という官庁が行政を担当する太政官より上位に置かれた。普通に考えたら，「祭祀(宗教)＜行政(政治)」のハズなのに，「祭祀(宗教)＞行政(政治)」としたのには，それだけ神道国教化に力を入れようとしていたって証だよね。

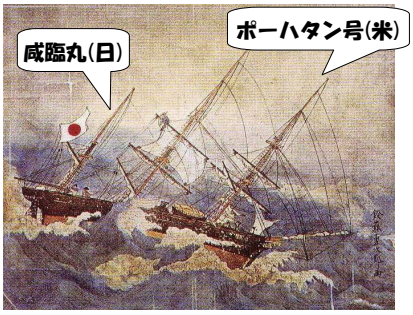
でも，神道国教化政策は失敗に終わってしまった。そのため，神祇官もその必要性が低下して，1871

年の廃藩置県に伴う官制改革では神祇官から**神祇省**に格下げされて，太政官の下位に置かれちゃったんだ。ちなみに，その後は神道を中心とする神祇省に代わって，1872 年に神道・仏教をつかさどる**教部省**へと変更されたが，1877 年には廃止されて内務省に併合されている。

［B］啓蒙思想

明治維新後の文明開化の風潮の中で，欧米から新しい政治制度・経済組織・法律などの知識や，イギリス流の**功利主義**(貴族などの一部の特権階級だけでなく，一般市民の最大多数の幸福を求める思想)・フランス流の**自由主義**(政府などの権威に抑圧されず，個人の自由を尊重しようという思想)などの思想などが日本に伝えられていった。その中で，啓蒙思想家とよばれる人々が，新たな思想などを日本に紹介していったんだ(情報の少ない一般人に，知識を与えていくことを啓蒙という)。こうした啓蒙思想家の中で代表的な人物が**中村正直**と**福沢諭吉**だ。

中村正直は，**スマイルズ**の『自助論(Self Help)』を翻訳した『**西国立志編**』や，**ミル**の『自由論(On Liberty)』を翻訳した『**自由之理**』を著したことで知られているんだけど，スマイルズの『自助論』は僕のお勧めの本だ。現在は現代語訳でわかりやすく書かれたものがあるので，受験が終わったら一度はこの本を読んでもらいたい。内容は，大筋で言うと「天は自ら助く者を助く」というものなんだけど，あの本田圭佑もこれを読んで感銘を受けたそうだよ。



〔咸臨丸(左)〕

ただ，中村正直による啓蒙活動は，結局のところ西洋人の著書を翻訳しただけ。本当に人々を感化させていきたいのであれば，自らの言葉で書いていく必要があるよね。そうした自らの言葉で，人々を教え諭していった人物が**福沢諭吉**(通称ゆきっつぁん)。

豊前国**中津**藩士の子として生まれたゆきっつぁんは，もともと**大坂**の**適塾**(**緒方洪庵**が開いた蘭学塾)で蘭学を学んでいたんだけど，藩命で江戸に赴いた時に，これからはオランダ語ではなく，英語が世界の基準になると悟る。そして，英語の猛勉強に励んで，日米修好通商条約の批准書交換のため，1860 年に日本船で初めて太平洋の横断に成功した**咸臨丸**(艦長は**勝海舟**)に乗船して，アメリカに渡るんだ。この時にアメリカに渡った経験と，その後にヨーロッパに渡った経験を通して刊行したものが，欧米諸国の諸制度・実情を紹介した『**西洋事情**』だ。


〔福沢諭吉(右)〕

その後，1872 年に刊行したものが『**学問のすゝめ**』。これは，「天は人の上に人を造らず，人の下に人を造らず」という有名な一文から始まるもので，この時代の 10 人に 1 人が読んだと言われる。まあ，簡単に言えば「人間は皆平等なんですよ～。でも，人によって成功する人と失敗する人がいますよね～？これは学問をしているか否かの違いなんですよ～。ちゃんと学問をして勉強すれば，人は出世できるんです。だから勉強しましょうね～。そして，一人一人が独立して成長することで，一国も独立していくことができるわけです～。だから，国が独立していくためには，個人個人の独立が必要なので，みんな学問をしましょ～。」ってこと。そして，日本が独立して文明を発達させていくためには，ヨーロッパの文明を取り入れていくことが必要なんだって説いたものが『文明論之概略』。この他にも，イギリスをモデルとした三権分立を伴った立憲君主制を説いた『国会論』も著しているけど，これはほとんど聞かれないね。

＜福沢諭吉の著書＞
『**西洋事情**』……欧米諸国の諸制度・実情を紹介
『**学問のすゝめ**』…学問による個人の独立・国家の隆盛を説く
『文明論之概略』…自国の自主独立のための西洋文明の摂取を説く
『国会論』……イギリスをモデルとした三権分立を伴った立憲君主制を説く

☑ 福沢諭吉の啓蒙思想『学問のすゝめ』by 福沢諭吉

天は人の上に人を造らず，人の下に人を造らずと云へり。されば天より人を生ずるには，万人は万人皆同じ位にして，生れながら貴賤上下の差別なく，万物の霊たる身と心との働を以て天地の間にあるよろづの物を資り，以て衣食住の用を達し，自由自在，互に人の妨をなさずして各安楽にこの世を渡らしめ給ふの趣意なり。されども今広く此人間世界を見渡すに，かしこき人あり，おろかなる人あり，貧しきもあり，富めるもあり，貴人もあり，下人もありて，其有様雲と泥との相違あるに似たるは何ぞや。其次第甚だ明なり。実語教に，人学ばざれば智なし，智なき者は愚人なりとあり。されば賢人と愚人との別は学ぶと学ばざるとに由て出来るものなり。

（「天は人の上に人を造らず，人の下に人を造らず」と言われる。そうであるならば，天から人が生ずる以上，万人が万人みんな同じ身分のはずで，生まれながらにして貴い賤しい，身分が高い低いといった差別はないはずである。また，人は，万物の霊長たる人間の身と心の働きをもって，天地の間にある万物を活用して衣食住の必要を満たし，人々がお互いに妨げをしないで，各々安心してこの世を自由自在に渡ることができるはずである。しかし，今，広くこの人間社会を見渡してみると，賢い人もいれば，愚かな人もいるし，貧しい人もいれば，お金持ちもいるし，生まれながらにして身分の高い人(貴い人)いれば，人に使われる下人という人もいる。このように同じはずの人の間に雲泥の差があるように思われるのはどうしてだろうか。だが，このことは実はとても簡単なことである。実語教(平安末期に作成されたものと推定されている初等教科書)の教えに，人が学ばなければ智は無いし，智が無いということは愚かということだ，とある。ならば，賢人と愚人との違いは，学ぶのか学ばないのかという理由で生まれてくるのである。）

明治時代の人々は，こうした啓蒙書を読むことによって，自分自身を高めていくことが国の隆盛につながる」って考えていた。つまり，「国を造るのは人である」のであって，「国が人を造るわけではない」。個人個人が物事をしっかりと考えて自立していくことによって，国が構成されていくわけだ。現代の人々の中には「政府が悪い。国が悪い」とか言う人が多々いるけど，それは違う。たとえ，国がクソであったとしても，国民が自立していれば，国は立て直すことができる。でも，いくら国が素晴らしかろうが，国民が自立できていなければ，その国はいつか亡びるだろう。だから，こうした一人一人の意識が大切なのであり，僕らがそれを高めていくことが日本の再生につながっていくのだと思う。君たち受験生も，大学に合格した後には，そうした意識をもって勉学に取り組んでいってもらいたい。「現状維持は，ただ停滞を意味する」だけなのだから(ちょっと語ってみた)。

さて，ゆきっつぁん一人が頑張って国民を感化させていくにも，さすがに一人では限界がある。それなら，知識人が皆で集まって人々を啓蒙していけばいい。そこで，アメリカから帰国した**森有礼**(のち第１次伊藤博文内閣時に初代文部大臣となる)が中心となって，**1873 年**に結成されたのが**明六社**だ(1873年＝明治六年に設立されたことから明六社と名づけられた)。

この団体は，森有礼を初代社長として，**福沢諭吉**，**中村正直**，**加藤弘之**，当時の**国際法**を翻訳した『**万国公法**』を著した**西周**(石見国津和野藩出身)，『泰西国法論』を著した**津田真道**(美作国津山藩出身)，『日本道徳論』を著した**西村茂樹**(下総国佐倉藩出身)などを社員として，そして，**1874 年**には機関誌として『**明六雑誌**』を発行したんだけど，翌年(1875 年)の讒謗律・新聞紙条例の公布によって廃刊になってしまっているんだ。

＜明六社社員の覚え方＞

☆「明六社に何人も復活」

→明六社 に　なん　にん　も　ふっ　か　つ

西周　中村正直　西村茂樹　森有礼　福沢諭吉　加藤弘之　津田真道

［C］民権論・国権論(明治 10 年代)

啓蒙思想家たちによって，欧米の思想が日本に紹介されていくなかで，当時の**自由民権運動**に大きな影響を与えたのが，フランス人の**ルソー**が唱えた**天賦人権論**(**天賦人権思想**)。これは，「人は生まれながらにして自由・平等の権利を持っている」という考え方で，**加藤弘之**の著した『国体新論』や『真政大意』によって日本に紹介されたんだ。また，**中江兆民**は**ルソー**の『社会契約論』を翻訳した『**民約訳解**』を著したことで，東洋のルソーというあだ名をもっている。でも，内容が若干難しいので，誰でもわかるような平易な文章で書いたものがあると有難いよね。それが**植木枝盛**の著した『**民権自由論**』だ。

こうして紹介された天賦人権論を根拠にして，日本で生まれていった思想が**民権論**というものだ。まあ，簡単に言えば「国民はみんな平等の権利を持っている。それに政府は 1868 年の**五箇条の(御)誓文**の中で「公儀世論の尊重(国民みんなの意見を尊重します)」を掲げたんだから，みんなの意見を聞いて政治を行っていくべきだ」というもので，ここから「国会開け！憲法つくれ！」という**自由民権運動**につながっていったんだ。

つまり，フランスの思想である「天賦人権論」が日本に紹介されて，「民権論」とよばれる思想に変わっていき，その思想を根拠に「自由民権運動」という運動が起きていった，ということだね。

ところが，先ほど『国体新論』や『真政大意』で，天賦人権論を日本に紹介した加藤弘之はあることに気付いた。

「ちょっと待てよ？国民の意見を尊重していくと，おそらく国民たちは税金下げろって言い出すよな。税金を下げたりしたら国の予算が減ることになって，国を強くすることも難しくなってしまう。そして，国が強くなれないまま，欧米諸国に植民地化されちまったら…(以下略)。…こりゃトンでもねえことになっちまうじゃねえか！俺はとんだ勘違いをしていたわ。今の日本の状況を考えたら，国民の意見を尊重することよりも，国を発展することの方が大切だわ！植民地化されたら元も子もねえからな。」

こうした国民の意見を尊重する民権論に対して，国家の発展を優先する考え方を**国権論**というんだけど，**加藤弘之**は『**人権新説**』を著して，ダーウィンの**社会進化論**の立場から(進化論は弱肉強食・優勝劣敗の立場をとっている)，天賦人権論を否定して国権論を主張したんだ。

でも，これはもともと民権論を唱えていた人からすれば面白くないよね。「てめえ，何裏切ってんだ，バカヤロー」って感じだ。そこで，**馬場辰猪**は『天賦人権論』，**植木枝盛**は『天賦人権弁』を著して，加藤弘之の『人権新説』を批判したんだ。

ただ，『天賦人権論』なのか『天賦人権弁』なのか，ややこしい。これは先ほどの「てめえ，何裏切ってんだ，バカヤロー」を，工藤新一(名探偵コナン)風に言えば解決できる。

＜『天賦人権論』の覚え方＞

☆「バーロー」(工藤新一は「バカヤロー」を「バーロー」と言う)

バー→馬場辰猪／ロー天賦人権論

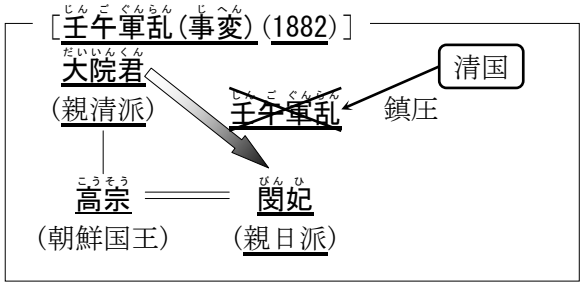
［D］脱亜論

ここまでは，今回は天賦人権論などの「思想」が自由民権運動という「政治」に与えた影響を説明した。逆もしかり。今度は朝鮮や条約改正という「外交」の問題が，「思想」に与えた影響を見ていこう。

［朝鮮をめぐる清国との対立］

日本は，日清朝三国提携論に基づいて(日本・清国・朝鮮の 3 国が提携することで，欧米列強に対抗していこうという考え)，1871 年に日清修好条規，1876 年に日朝修好条規を締結する一方で，日本国内では近代化政策を推進していった。しかし，日本だけではなく，日本・清国・朝鮮の 3 カ国が近代化されていかなければ，日清朝三国提携論は立ち行かなくなる。そこで，日朝修好条規を締結して以降，日本主導のもと朝鮮軍隊の近代化がはかられたんだ。

その朝鮮国内では，国王高宗の妃である閔妃一族が実権を握り，日本にならった朝鮮軍隊の近代化を進めていた。つまり，閔妃は親日派にあたるわけだね。一方，高宗の父である大院君は親清派の立場で，清国にしたがって近代化していくべきだと考えていた。でも，当時は，日本主導のもと近代化が進められていて，閔妃が実権を握っていたので，大院君からしてみれば面白くない。そこで，大院君は軍隊を率いて反乱を起こし，閔妃一族を追い出そうとしたんだ。大院君に率いられた兵たちは，閔妃の要人を殺害したり，日本公使館も襲撃したんだけど，最終的には清国が兵を派遣したことによって解決した。この 1882 年に起きたクーデタ事件を壬午軍乱(事変)という(日本史では従来壬午事変という名称だったが，近年世界史に合わせて壬午軍乱と呼ぶようになった)。

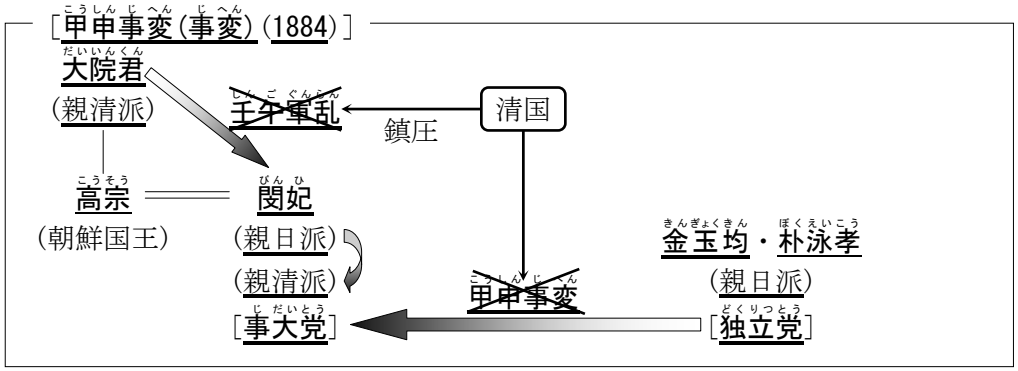


壬午軍乱は結局清国の派兵により，鎮圧されることになった。その一方で，日本は公使館が襲撃され，日本人も殺害されたことを受けて，同年の 1882 年に済物浦条約を結ばせ，賠償金などを支払わせたんだ。

でも，ちょっとこれはやりすぎだった。ここで，閔妃は「あたい勘違いしていただわさ。日本に従っていこうって考えていたけど，日本は賠償金を要求してくるし，一方の清国はあたいのピンチを助けてくれただわさ。……やっぱ，これからの時代は清国よね～！」って，閔妃は親清派に傾いてしまったんだ。こうした閔妃を中心に，清国と結んで権力の維持をはかろうとしたグループを事大党という(弱者が強者に従うことを「事大」という)。

その一方で，「いやいや，そんなこと言ってもやっぱり日本でしょ。日本の近代化の勢いは凄まじいからな！」という金玉均や朴泳孝ら親日派のグループもいる。こうした日本と結んで，朝鮮の近代化を進めて朝鮮の改革をすすめようとしたグループを独立党という(日本と結ぶことで，今までの清国の支配から「独立」しようとするのが「独立党」であると考えるとよい)。

そんな中，1884 年にインドシナ(現在のヴェトナム)の支配権をめぐって清国とフランスが戦争した清仏戦争が起きて清国が敗北した。これを見た金玉均・朴泳孝らの独立党は「ほ～ら，言ったじゃねえか。清国になんか頼っていかないで，やっぱり日本だろ！」ってことで，日本軍の援助を得てクーデタを決行したんだ。この 1884 年に起きたクーデタ事件を甲申事変(世界史では甲申政変)という。



でも，このクーデタも清国軍の派兵によって，鎮圧されちゃった(その後，金玉均と朴泳孝は日本に亡命するが，金玉均は 1894 年に上海で閔妃派により暗殺され，朴泳孝は日本側の手先として韓国併合を推進した)。

この甲申事変後，日本側は日本公使館がまたも襲撃されたとして，1885 年に朝鮮との間で**漢城条約**を結ばせて，朝鮮側に賠償金を支払わせた。一方，清国とは**1885 年**に，日本全権の**伊藤博文**と清国全権の**李鴻章**との間で**天津条約**が調印されて，朝鮮問題に関する内容が定められた。内容としては，「①朝鮮からの日本・清国両軍の撤兵」，「②出兵の際の相互事前通知(今後朝鮮で事件が起きて出兵をする場合には，まず相手(日本 or 清国)に連絡を入れる」などが取り決められたんだ。

上記のような**1882 年**の**壬午軍乱(事変)**・**1884 年**の**甲申事変(政変)**の結果，日本の朝鮮に対する影響力は弱体化してしまった。初期の頃は，日本優位な形で朝鮮の近代化を進めていたのにね～。このことを受けて，**福沢諭吉**が自ら主宰する『**時事新報**』に発表したのが，「脱亜入欧」を説いた「**脱亜論**」だ。

これは要約すると，「今までの日本は，清国・朝鮮と力を合わせて欧米列強に対処するべきだと考えていた。しかし，日本は近代化が進められており，すでに西洋文明に達しようとしている。しかし，未だに清国と朝鮮は開明しようとしない。……日本は欧米列強から自立しようとしているが，日本には清国・朝鮮の開化を待っている余裕などない。むしろ，これらの国とは謝絶するべきであり，日本は欧米列強と行動を共にしていくべきだ。」と述べたもの。つまり，「アジアを脱して(脱亜)，西欧の仲間入りしていく(入欧)」ということだね。

図 脱亜論『時事新報』by 福沢諭吉

我日本の国土は**亜細亜**の東辺に在りと雖ども，其国民の精神は既に**亜細亜**の固陋を脱して**西洋**の文明に移りたり。然るに爰に不幸なるは，近隣の国あり，一を**支那**と云ひ，一を**朝鮮**と云ふ。……左れば今日の謀を為すに，我国は隣国の開明を待て共に**亜細亜**を興すの猶予ある可らず。寧ろ其伍を脱して**西洋**の文明国と進退を共にし，其**支那朝鮮**に接するの法も，隣国なるが故にとて特別の会釈に及ばず，将に**西洋**人が之に接するの風に従て処分す可きのみ。悪友を親しむ者は，共に悪名を免かる可らず。我れは心に於て**亜細亜**東方の悪友を謝絶するものなり。

(わが日本の国土は**アジア**の東端に位置するのであるが，国民の精神はすでに**アジア**の古い習慣を脱し，**西洋**の文明に移っている。しかし，ここに不幸なのは隣国があり，その一を**支那**(**清国**)といい，一を**朝鮮**という。……そうであるから，現在の(日本が欧米列強から自立する)戦略を考えるに，わが国は隣国(**清国**・**朝鮮**)の開明を待ち，共に**アジア**を発展させる猶予はないのである。むしろ，その仲間から脱出し，**西洋**の文明国と進退をともにし，その**支那**(**清国**)・**朝鮮**に接する方法も，隣国だからと特別の思いやりをもつに及ばず，まさに**西洋**人がこれに接するように処置するべきである。悪友と親しく交わる者も，また悪名をまぬがれない、私は心の中で，東**アジア**の悪友と絶交するものである。)

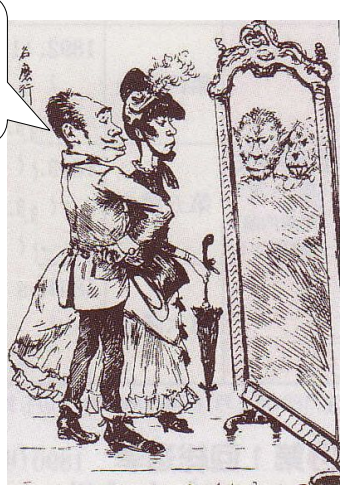
こうして，このゆきっつぁんが唱えた「脱亜論」の影響で，日本の対外方針はアジア侵略へと傾いていくことになるんだ。『学問のすゝめ』で「天は人の上に人を造らず，人の下に人を造らず」と述べていたゆきっつぁんが，「脱亜論」では「アジアの上に日本をおき，日本の下にアジアをおく」というのだから，これにはちょっと矛盾が生じるよね。

［E］近代的民族主義

［朝鮮をめぐる清国との対立］で上述したように，日本は欧米列強に追いつくため，近代化政策に邁進していった。でも，この頃の日本は，江戸時代に結ばされた安政の五カ国条約など不平等条約のせいで，関税自主権がないわ，領事裁判権があるわで不利益を被っていた。そこで，当時の外務卿であった**井上馨**は，**欧化政策**と呼ばれる欧風化政策を推し進め，日本の近代化を欧米列強にアピールすることで，不平等条約を改正してもらおうと考えたんだ。


〔鹿鳴館〕

例えば，イギリス人**コンドル**の設計によって東京日比谷に設けられた**鹿鳴館**はその最たる例だね。ここで，舞踏会が開かれ，「どうです？世界のみなさん！日本もすんごい近代化が進んでるんですよ！連日連夜，この鹿鳴館で party 開いちゃってますからね。…そ〜れ，ずんちゃっちゃ，ずんちゃっちゃ」って，日本の近代化を必死にアピールしまくっていたんだ。…まぁ，短足の日本人がタキシードなんか着ている時点で滑稽だけど，踊っている当の本人たちは真剣だったみたいだけどね。



〔鹿鳴館外交〕
by **ビゴー**(フランス人)

この他にも，民間では漢字・平仮名・片仮名などをやめて，ローマ字にしようとかいう運動もあったんだけど，ここまで西洋文化を全て正しいと考え，猿真似ばっか進めていけば，国内で反発も起きてくる。

それが近代的民族主義と呼ばれるもので，大まかにいえば「もつと日本民族というものに誇りをもっていこう」という民族を重視する考えを民族主義というんだ。例えば，**三宅雪嶺**や**志賀重昂**が唱えた**国粋主義**(**国粋保存主義**)は，「政府による欧化主義はやりすぎだ。日本には文化・歴史など固有の伝統があるのだから，それに誇りをもっていこう」というもの。彼らは**政教社**という団体を結成し，雑誌『**日本人**』を発行して，その国粋保存主義を主張していったんだ。そういえば，この政教社の『日本人』といえば，1888 年に問題化した高島炭鉱問題を取り上げた雑誌としても有名だね。

また，その三宅雪嶺らの政教社に呼応した**陸羯南**が，新聞『**日本**』を発刊して主張したのが**国民主義**というもの。これは国粋保存主義と同じく，政府の欧化主義を批判したものなんだけど，「日本人という民族の精神は失われてしまった。これを再び回復して，国民一人一人が自立しなければならない。その国民が自立することによって，国家が統一されて発展する」というもの。つまり，政府によって上から国民を統一していくのではなく，国民一人一人が自立することによって国民は統一されるのだ，ということだね(一般的に「国民主義」は軍国主義や国家主義のような「ナショナリズム」という意味で用いられるが，陸羯南の「国民主義」は侵略を肯定する思想とは異なる)。

羯

ただ，国粋保存主義と国民主義の細かな考え方の違いは特に問われない。なぜなら，雑誌『日本人』と新聞『日本』は一心同体的なもので，三宅雪嶺に新聞『日本』の社説を書いてもらったり，陸羯南が雑誌『日本人』の社説を書いたり，お互い提携していて似たようなものだからね。

一方で，**高山樗牛**が雑誌『**太陽**』で唱えた**日本主義**は少し毛色が違う。これもやっぱり，政府の欧化主義に反発して，「日本古来の伝統的な民族精神を大切にしよう」というところまでは似ているんだけど，日清戦争後に展開されたこともあって，植民地を拡大する海外進出を唱えた点が大きく異なるね。

＜近代的民族主義＞

①**国粋(保存)主義**…政府の欧化政策を批判して，日本的な伝統・美意識の尊重を説く
　三宅雪嶺・**志賀重昂**が唱える→**政教社**を結成し『**日本人**』(雑誌) を発行
②**国民主義**……政府の欧化政策を批判して，国民の統一・国家の独立・公共の利益を説く
　陸羯南が唱える→『**日本**』(新聞) を発行
③**日本主義**……海外進出を唱え，君民一体・国祖崇拝など伝統の重視を説く
　高山樗牛が唱える→『**太陽**』(雑誌) を発行

⇕

＜平民的欧化主義＞

④**平民主義**…政府による**貴族的**欧化主義を批判して，平民による**平民的**欧化主義を説く
　徳富蘇峰が唱える→**民友社**を結成し『**国民之友**』(雑誌)・『**国民新聞**』(新聞) を発行

こうした近代的民族主義に対して，欧化主義自体はいいんじゃねって近代的民族主義と対立していたのが**徳富蘇峰**。彼は，もともと熊本洋学校でアメリカ人のジェーンズの教えを受けたクリスチャンだったので(**徳富蘇峰**・**海老名弾正**など，**ジェーンズ**に教えを受けた熊本洋学校を卒業したキリスト教信者のグループを熊本バンドという)，もともとは穏健的な考え方をもっていた。そこから，彼は**平民主義**というものを唱えるんだけど，これは「政府のような上からの**貴族的**な欧化主義は良くない。国民たちから巻き起こる**平民的**な欧化主義が大切なんだ」というもの(これを平民的欧化主義という)。

そして，**民友社**という団体を結成し，『**国民之友**』という雑誌や『**国民新聞**』という新聞を発行して，平民主義を広めていったんだけど，そんな彼に衝撃的を与える出来事が 1895 年に起きる。それが日清戦争後の**三国干渉**だ。

［三国干渉］

1894 年の日清戦争で勝利した日本は，翌年の 1895 年に**下関条約**を結んで，清国から**遼東半島**を譲り受けた。しかし，遼東半島を狙っていた**ロシア**は，**フランス**・**ドイツ**を誘って，**遼東半島**を清国に返還することを要求してきた(これを**三国干渉**という)。

その結果，日本は **3000 万両**(4500 万円にあたる)をもらう代わりに，清国に遼東半島を返還することになったが，これにより日本は「**臥薪嘗胆**」を合言葉に富国強兵を更に推し進め，ロシアへの敵対心を高めていった。

日清戦争時に『大日本膨張論』などを著して，植民地拡大を求める対外膨張論を説くようになっていた徳富蘇峰にとっても，この三国干渉は，涙さえ出ないほどの悔しさを感じさせ，これを機に彼は「国家こそを価値観の第一におくべきだ」という**国家主義**へと思想を大転換することになるんだ(なお，太平洋戦争時にも代表的な国家主義者として活動した徳富蘇峰は，敗戦後 GHQ により公職追放処分を受けている)。

［F］国家主義

上記のように，日本国内の思想も三国干渉を機に，「国家こそを価値観の第一に置く」**国家主義**へと集約されていくことになる。そして，日清戦争に勝利した日本は，日露戦争にも勝利したことで真の列強国の仲間入りを果たすことになる。そのため，国民の中にも「日本は一等国になったんだ」って気分が蔓延していって，国家を第一に考える「国家主義」から個人の自由や権利を尊重する「個人主義」へと傾く人々が増えていったんだ。つまり，「日露戦争で勝利して，国家の最大目標である一等国の仲間入りできたんだし，そろそろ国民一人一人が権利とかを主張したっていいでしょ」ってことだね。さらに，この頃には産業革命の進展によって資本主義が確立していたこともあって，都市や農村の間でも，国家の利益よりも自分たちの利益を重視する傾向が出始めていた。

これは政府としてはマズい。国民たちにも一等国である日本国民という意識をもたせて，国民の思想を引き締めなければ…。そこで，こうした「個人主義」などの傾向に歯止めをかけるため，「国家主義」に基づいて **1908 年**に出されたのが**戊申詔書**だ(戊辰戦争とは漢字が異なるので注意)。これは天皇自ら「みなさ～ん，日露戦争に勝利したことで浮かれポンチになっていませんか～？日本が一等国になった今だからこそ，よりいっそう頑張らなきゃいけないんですよ～？日露戦争ではお金を使いすぎて財政的にも結構キツいんですからね～(この頃には日露戦争後の反動で**1907 年**には**明治40年の恐慌**が起きていた)。こういう時こそ，仕事に励んで，無駄を無くして節約しなくちゃダメですよ～。お国のために尽くしましょうね～」って，**勤倹**・**節約**を求めたものだ。

さらに翌年の 1909 年には，この勤倹・節約の理念に基づいて，日露戦争後の戦費負担で疲弊した町村の財政基盤を立て直すために**内務省**を中心に**地方改良運動**が進められている。

［G］社会主義

日清戦争(1894)前後から産業革命が進展したことで，自由競争による資本主義が確立した。でも，金持ちの資本家が財を増やしていく一方で，労働者たちは低賃金・長時間労働で酷使されることになる。しかも，その労働条件は，現在に換算すると日給 3000 円相当に過ぎず，1 日に 12 時間，長い場合には 18 時間(朝 6 時～夜 12 時まで)も働かされたりすることがあるからね。当然，その労働環境が問題視されるようになる。

こうした労働者の境遇から，賃金 up や労働時間の cut など労働条件の向上を求めた労働運動が盛り上がることになる。さらに，「なんで，俺らの給料はこんなに安いんだ…。俺らが頑張った分は，すべて金持ちの連中たちに搾取されていく…。あんな奴ら(資本家)がいなくなれば，みんなの給料はもうちょっと増えて平等な世の中になるのに…」という**社会主義**思想も広がっていくことになるんだ。

ただ，この社会主義に関しては，大きくキリスト教社会主義とドイツ流社会主義の 2 つに分けることができる。キリスト教社会主義とは，「労働者の待遇はひどすぎる。労働者の地位をもっと向上させて格差とかをなくしていこう」という，キリスト教の隣人愛のように，「広い心ですべての人を平等に愛しましょう」という博愛の精神が根底にある。だから，あくまでも平和主義的で，革命を起こそうなどといった暴力的な考え方には発展しない穏健的なものなんだ。こうしたキリスト教社会主義の代表的な人物では，労働組合期成会を結成した**高野房太郎**や，社会民主党の結成に参加した**安部磯雄**・**木下尚江**があげられるね。こうしてみると，キリスト教社会主義者には，労働運動や社会主義運動の初期に出てきた人が多いよね。

＜代表的なキリスト教社会主義者＞

高野房太郎…アメリカで労働運動を学んで帰国し，**1897 年**に**職工義友会**・**労働組合期成会**を結成
安部磯雄……**1901 年**に**社会民主党**の結成に参加し，東京専門学校(早稲田大学)の講師も務める
木下尚江……**1901 年**に**社会民主党**の結成に参加し，日露戦争に反対した小説『**火の柱**』を著す

でも，これはちょっと非現実的でしょ。「広くみんなを愛しましょう～」なんて言っているけど，資本家が，労働者も含めてみな平等にしようなんて考えるわけない。だから，「労働者が自ら立ち上がって，労働者による天下を築くしかないんだ」っていうドイツ流社会主義が起きてくる。これは，ドイツ人のカール・マルクスによって体系づけられたマルクス主義の影響を大きく受けた考え方だ。まぁ，このマルクス主義が，「革命を起こして労働者が天下を取るんだ」っていう共産主義につながるので，ドイツ流社会主義は暴力的なものって考えるとよいね。そのドイツ流社会主義の代表的な人物が，もともとはキリスト教社会主義だったんだけど，ロシア革命(1917)の影響を受けて共産主義へと転じた**片山潜**や，大逆事件で刑死した**幸徳秋水**，日本共産党を結成した**堺利彦**などになる。ゆえに，ドイツ流社会主義者には，共産主義者や無政府主義者が多いことがわかるよね。

＜代表的なドイツ流社会主義者＞

片山潜……**1897 年**に**労働組合期成会**の結成に参加し，機関誌「**労働世界**」の主筆となる。
　　1901 年に**社会民主党**の結成に参加し，のちに共産主義者へと転じる。
幸徳秋水…『**万朝報**』の記者で，**1901 年**に**社会民主党**の結成に参加。1903 年に**平民社**を結成し，『**平民新聞**』で非戦論を展開するが，**1910 年**の**大逆事件**で刑死
堺利彦……『**万朝報**』の記者で，1903 年に**平民社**を結成し，『**平民新聞**』で非戦論を展開する。
　　1922 年には**山川均**らと**日本共産党**を結成。

［H］戦後の文化

戦時中は，ファシズムのもと学問・思想・言論の自由が制限されていたけど，戦後に民主化が進むと，学問・思想・言論の自由が認められていく。例えば，1948 年には日本文化の向上・発達に貢献した人物に与えられる**文化勲章**が復活しているし(戦後は 11 月 3 日の文化の日に授与される)，翌年の 1949 年には**日本学術会議**も設立されている。日本学術会議とは，研究者たちが集まって，研究成果などを話し合ったりする学会の最高機関にあたるもの。だから，日本の「科学者の代表者による内外に対する代表機関」って言われるんだけど，科学者ってよくわかってない人もいるんじゃないかな？そもそも科学っていうのは，人文科学(哲学・文学・語学など)・社会科学(政治学・法律学・経済学など)・自然科学(物理学・化学・生物学など)の 3 つに分けられるので，それぞれの研究者たちが，分野ごとに研究成果を話し合うわけだ。その各分野の科学者たちから構成される最高機関が日本学術会議ってなわけだ。


〔**法隆寺**金堂壁画〕

こうした自由が認められていくと，逆に気持ちが緩んでしまう部分もあるのかもしれない。それが，**1949 年**に起きた**法隆寺金堂壁画の焼損**だ。法隆寺金堂壁画とは，インドの**アジャンター**壁画や中国の**敦煌**石窟壁画に類似している仏教壁画で，白鳳文化において登場したことがあるよね(文化史講義録[前近代編]を参照)。

ところが，**1949 年**に法隆寺の金堂で火災が起きてしまったため(壁画模写の画家が使っていた電気座布団のスイッチを切り忘れたために発生したといわれる)，この壁画もそのほとんどが焼損してしまった。そこで，この法隆寺金堂壁画の焼損を機に，**1950 年**に文化財を守るための**文化財保護法**が制定されたんだ。なお，その後の 1967 年から当時の著名画家たちによる模写が始められ，翌年の 1968 年に法隆寺金堂壁は復元されたんだけど，重要な文化財はやっぱり厳重に管理しないとまずいよね。そのため，1968 年には，こういった文化財の保護などを担当する**文化庁**が設置されることとなったんだ。

さて，戦後初期の日本経済はボロボロだったけど，1955 年頃からは高度経済成長が始まっていく。そのおかげで，国民の生活水準も向上していき，1950 年代後半には「**三種の神器**」と呼ばれる**電気冷蔵庫**・**電気洗濯機**・**白黒テレビ**が登場し，1960 年代前半には「**新三種の神器**(**3C**)」と呼ばれる（**自動車**・**クーラー**・**カラーテレビ**も登場する。

じゃあ，そのテレビっていつから始まったのか？それは **1953 年**のことで，この年からＮＨＫでテレビ本放送が開始されたんだ(ラジオ放送は大正時代の **1925 年**に開始されている)。ただ，登場したばかりの頃は，ぜいたく品なので一家に一台なんて状況は無理。人々は街頭テレビや電器店などに群がって，プロレス中継などに熱中するって感じだね(堀北真希が出演する「always 三丁目の夕日」みたいな)。

そして，このテレビの普及に一役買ったのが，**1964 年**に開催された**東京オリンピック**だ。そりゃ，日本初のオリンピックは，自宅で見たいものね。そして，オリンピックが東京で開かれるのだから，人々は東京にわんさか集まってくる。そのため，オリンピック開幕の直前に，東京～大阪間をつなぐ**東海道新幹線**も **1964 年**に開通しているんだ(その翌年には，最初の自動車専用高速道路として名古屋～神戸間に**名神高速道路**が開通している)。

でも，こうした急速な経済成長が進むと，徐々にそのリバウンドが出てくる。つまり，高度経済成長によって経済は発展したけど，その過程で起きた社会のひずみのことだね。例えば，人口の集中する都市では都市公害と言われる，**光化学スモッグ**・大気汚染・水質汚濁・地盤沈下・騒音・交通難・住宅難などが問題となる。そして，都市に人口が集中して過密化が進む一方で，若者が都市に出て行くことで農村の過疎化が進み，農村の農業衰退・食糧自給率の低下などが深刻化していくことになったんだ。

こうした問題の中でも，特に重要になるのが小学生の時にも学習した，**水俣病**・**イタイイタイ病**・**新潟水俣病**・**四日市喘息**といった四大公害訴訟だ。

＜四大公害訴訟＞

①**水俣病**……新日本窒素肥料会社の水俣工場から，**熊本県**水俣湾に垂れ流された工場排水に**メチル水銀**が含まれていたため，それに汚染した魚介類を食べた住民が感染した中毒症。

②**イタイイタイ病**…三井金属の神岡鉱業所からの排水中の**カドミウム**が原因で，**富山県神通川**流域の住民に発生した腎臓障害や軟骨化症

③**新潟水俣病**……昭和電工の鹿瀬工場から水俣工場から，**新潟県阿賀野川**に垂れ流された工場排水に**メチル水銀**が含まれていたため，それに汚染した魚介類を食べた住民が感染した中毒症。

④**四日市喘息**……**三重県**四日市石油コンビナートから排出された排煙に含まれていた亜硫酸ガス・窒素酸化物が原因で，地域住民の間で発生した喘息などの呼吸器系疾患。

これらの四大公害訴訟はすべて原告側(被害者側)が勝訴しているんだけど，当初は企業側も国もその責任を否定しているんだよね…。こうした政府の対応に国民はブチ切れ。民間でも反対運動が起こるようになったので，政府も公害問題に対応するための法律を制定しなくちゃいけなくなったわけだ。そのため，**1967 年**に，大気汚染・水質汚濁などの公害を規制し，その責任を規定した**公害対策基本法**が制定され，**1971 年**には環境問題を取り扱う**環境庁**が設置されたんだ。

［地球環境問題］

これまでは公害問題ということで話は済んでいたけど，1990 年代になると，地球温暖化など問題は複雑化して，世界レベルの話になってくる。そのため，公害対策基本法は 1993 年に**環境基本法**に引き継がれ，環境庁も **2001 年**の省庁再編に伴い**環境省**へと改編されている。

また，こうした地球温暖化などは国連会議でも話し合われるようになって，1992 年にリオデジャネイロで**地球サミット**が開かれ，「**アジェンダ 21**」が採択されている。そして，160 以上の国と地域が参加した **1997 年**の**地球温暖化防止京都会議**では，CO_2 など温室効果ガスの排出削減率・排出量取引などを定めた「**京都議定書**」が採択されたんだ。これは，CO_2 など温室効果ガスの排出削減の数値目標を具体的に示したもので，簡単に言えば，「世界各国は○○年までに，CO_2 などを出す量をこのくらい減らしましょうね」って，具体的な数値目標を出したもので，日本も 2002 年に国会で国内批准している。ところが，当時世界で 1 番 CO_2 を排出していたアメリカは，「そんなん無理！」って言って，この京都議定書から離脱してしまったんだ(アメリカは自分の国益ばっか考える国だかたね…)。さらに，発展途上国に対してガス排出の削減義務が課されていなかったため，現在世界で 1 番 CO_2 を出している中国には削減義務がないという問題もあるんだ。

こうした公害などの社会問題がありつつも，日本の高度経済成長は止まらない。その象徴的なで出来事として，**1970 年**には**日本万国博覧会**が大阪で開催されている(万博のシンボルで，中央広場にある「**太陽の塔**は，「芸術は爆発だ」という名言(？)で有名な**岡本太郎**が作ったもの)。これは「20 世紀少年」って漫画でもよく出てくるよね。

［G］原子力問題・核兵器制限

1945 年 8 月 6 日の広島，8 月 9 日の長崎と，日本は原子爆弾を投下された唯一の被爆国だ。でも，戦後になって，日本はまた別の形で被曝している。

1954 年，アメリカはマーシャル諸島の**ビキニ環礁**で**ビキニ水爆実験**を行っていた(水爆実験とは，水素爆弾の実験のこと)。この時に，アメリカは危険区域を指定していたんだけど，その区域から 35km 離れた海域で操業していた日本漁船の**第五福竜丸**が巻き込まれて，船員 23 名全員が被曝するという惨事が起きてしまったんだ(被曝した船員の**久保山愛吉**は半年後に死亡している)。

この事件を契機に，原水爆の禁止を求めた原水爆禁止運動が国民的な規模で盛り上がることになる。そして，東京**杉並区**の婦人たちが始めた原水爆禁止の署名運動がたちまち全国に広がり(これを杉並アピールという)，1955 年には第 1 回**原水爆禁止世界大会**が**広島**で開かれたんだ。

［核開発問題］

ビキニ水爆事件などのように，核実験を大気圏内や水中で行えば，空気中や水中が放射能で汚染されることになる。そこで，1963 年に英・米・ソ連の間で調印されたのが**部分的核実験停止条約**。これは，大気圏内・水中・宇宙空間で核実験を行うことを禁止した条約なんだけど，中国・フランスは調印していないんだよね。さらに，地下での核実験が除外されているという抜け穴があるため，結局は核開発が制限されることはなく，既存の核保有国であったアメリカ・ソ連・イギリス・フランス・中国以外にも，インド・パキスタン・北朝鮮などでも核開発が進んでいってしまったんだ。

さて，核兵器の開発が各国で行われるようになると，抑止力としての核兵器も意味をなさなくなってしまう。アメリカ・ソ連などからしてみれば，核兵器を持っていることによって，他の国を牽制することができるわけだからね。そこで，核兵器の保有国をこれ以上増やさないようにするため，1968 年に結ばれたのが**核兵器拡散防止条約**だ。これは，核兵器を保有している国が，非保有国に核兵器を渡したり，作り方を教えたりしないこと，さらに非保有国も自ら核兵器を作らないことを定めた条約。日本も，この条約にサインしているので，日本は核兵器を自ら開発しちゃいけないわけだ。そもそも，この条約が結ばれる前年の 1967 年には，当時の**佐藤栄作**首相が，核兵器を**「持たず・作らず・持ち込ませず」**の**非核三原則**を表明しているしね(ただし，「持ち込ませず」については，戦争など有事の際には，沖縄へ核兵器を持ち込むことができるという日米間の密約が存在したことが確認されており，「持ち込ませず」は表向きの言葉に過ぎなかった)。

一方で，核開発の競争はその後も継続されたが，地球を破壊し人類を滅亡させる危険性もはらんでいる。そして，1986 年に起きた**チェルノブイリ**原発事故は，ソ連の**ゴルバチョフ**大統領にも核戦争が起きた場合の恐ろしさをイメージさせることになった。そのため，アメリカとソ連の間で長らく交渉が難航していたＩＮＦ(中距離核戦力)に関する**ＩＮＦ全廃条約**(**中距離核戦力全廃条約**)が 1987 年に結ばれることになったんだ(ＩＮＦ(中距離核戦力)とは，米ソ国境間の 5500km を超えて飛ばせる核兵器のこと)。

その一方で，政府は原子力を平和のために研究・開発・利用するなら問題ないと考え，1955 年に**原子力基本法**を制定している。これは，あくまでも「原子力の研究・開発・利用は平和目的に限る」ことを定めたものなんだけど，これに基づいて，翌年には原子力研究所が**茨城県東海村**に設立されて(1956)，原子力の研究が進められる。そして，1963 年には，その**茨城県東海村**の原子力発電所で初めて発電に成功して，ここから原子力発電が日本でも進められていくんだ(特に，1973 年の第一次石油危機で石油価格が高騰したこともあり，それ以降は原子力発電が占める割合が増加していった)。

こうした原子力発電は，現在の日本の発電力の約 30%を占めているんだけど，原子力発電は，CO_2 排出量が非常に少なく，少量の核燃料の消費で大量の発電ができる発電コストの低さというメリットがあるものの，同時に大量の放射性物質が生じるので安全性が重要な問題となる。1986 年に旧ソ連の**チェルノブイリ**発電所で重大事故が発生し，日本でも 2011 年の東日本大震災による福島第一原発事故以外にも，下記のような原発事故が起きているんだ。

＜原発事故＞

①**もんじゅ事故**(1995)……福井県敦賀市の高速増殖炉(もんじゅ)でナトリウムが漏洩したことによる火災事故。

②**東海村臨界事故**(1999)……茨城県東海村の株式会社ＪＣＯのウラン加工工場で発生した臨界事故(原子力事故)→日本で初めて事故被曝による死亡者 2 名を出した。

③**福島第一原発事故**(2011)…東日本大震災(2011)の影響により発生した原子力事故。

［H］戦後の文化人

戦後の文化人で代表的な人物は，多岐分野にわたる。テレビが普及する 1960 年代以前は，映画の全盛期の時代で，世界的な評価を受けた日本映画の三大巨匠に数えられるのが以下の 3 人だ。

＜三大巨匠（映画監督）＞

①**黒澤明**……1950 年に『羅生門』でベネチア国際映画祭グランプリを受賞。
『羅生門』・『生きる』・『七人の侍』などが代表作（1998 年に国民栄誉賞を受賞）。

②**溝口健二**……1952 年に『西鶴一代女』でベネチア国際映画祭国際賞を受賞。
『西鶴一代女』・『雨月物語』・『山椒大夫』などが代表作。

③**小津安二郎**…1953 年に公開された『東京物語』で世界的な評価を受ける。

上記以外の映画監督では，『男はつらいよ』の山田洋次，『HANABI』の北野武なども有名どころだね。

それ以外の文化人は，一般常識の範疇だと思うので，知らない人はくたばれば良い。12 歳で歌手としてデビューして，『柔』・『川の流れのように』などが代表作の**美空ひばり**（僕の方が歌うまいけどね）。それから，漫画界では，『鉄腕アトム』・『ブラックジャック』などで知られる「戦後ストーリー漫画の開拓者」**手塚治虫**（僕の方が絵うまいけどね）や，『サザエさん』を描いた**長谷川町子**（1992 年に国民栄誉賞を受賞）。

プロスポーツ選手としては，読売ジャイアンツの背番号「3」が永久欠番となり，「う～ん，どうでしょう」で有名な野球選手の**長嶋茂雄**は，2013 年に国民栄誉賞を受賞している（僕の方が物真似うまいけどね）。

そして，いずれ教科書に太字として載るであろうサッカー元日本代表の**三浦知良**。1993 年に始まったＪリーグの初代ＭＶＰとなったことは言わずもがな，「ＫＩＮＧ」と言ったら，この人しかいないよね（三浦知良については，文化史テキストの［前近代編］で 1 ページを割いて解説しているので要参照）。ただ，漢字を間違えることが非常に多いので気をつけてね。三浦知良の「知」を「和」にする奴がすごい多いんだよね。そもそも，「知」という漢字は，「知」と読むことはなく，「知」としか読まない。これは，出生届けを出す時に，カズさんの親父が漢字表記を「和良」ではなく「知良」と書いて，振り仮名に「かずよし」と書いてしまったせいらしい。

なお，僕の尊敬するカズさんについての良い話を一つ。2007 年の参議院選挙の際に，自民党はカズさんに対して，参議院議員に立候補しないかと出馬を打診した。正直，これほど失礼なことはないよね。当時，40 歳になりながらも現役バリバリでやっている選手に対して，「サッカー辞めて政界に入らないか？」と引退を要求したことになるんだから。

ところが，カズさんは「一晩考えさせてください」と 1 日置いてから，断りの電話を入れたそうだ。なぜ，即答で断らなかったのか？それは，「即答で断るのは失礼にあたると思ったから」。…やはり，人間が出来ているね。本来は，その場でブチ切れても良いところ，あえて相手の立場まで考えるわけだから。

なお，以前生徒から「先生，カズさんってそんな重要なんですか？」って質問があったけど，「もちろん。いずれ入試では大問 1 個丸ごと出題されることになるよ。」と答えたら，本当に信じちゃったようなので，僕もビックリした。あくまでも僕が作ったテキストだからね（笑）。

［A］明治初期～明治 10 年代の文学

戯

江戸後期の滑稽本・洒落本・黄表紙・人情本・合巻などの小説類のことを戯作という。こうした江戸文学の延長線上として，**仮名垣魯文**が著した『安愚楽鍋』・『西洋道中膝栗毛』のような，明治初期の文明開化を題材に描いたジャンルのことを**戯作文学**というんだ。これは本来，文章の書き方が江戸文学と同じだから江戸文学に入れていいと思うんだけど，扱った題材が明治維新後のことなので，ギリギリ明治文学に含まれちまうのよね。例えば，『安愚楽鍋』は文明開化で大流行した**牛鍋**を題材にしたものだし，『西洋道中膝栗毛』は十返舎一九の『東海道中膝栗毛』のパロディ版として，弥次さん・喜多さんがロンドンに行くって話。だから，どちらも文明開化による西洋文明に触れている内容なので，明治文学に組み込まれちゃうわけだ。


『安愚楽鍋』

その後，明治 10 年代(1877 年～1887 年)に，自由民権運動が活発化すると，文学でも自由民権運動の思想を宣伝するための本が書かれていく。それが**政治小説**というジャンルだ。ただし，これはあくまでも小説レベルのものなんかじゃないからね。本来の小説というものは，主人公の心情などを描写していくものだけど，この政治小説はただの宣伝本に過ぎない。言うなれば，君たちが中学・高校の時に「部活どこに入ろうかな～」って考える時に，先輩たちが勧誘のために行う劇のレベルに過ぎない。

「部活どこに入ろうかな～？」
「剣道部に入ると，精神的にも肉体的にも鍛えられて最高だぜ。さあ，みんな剣道部に入ろう！」
と同じような感じで，
「何で俺たち庶民は，政治的な活動に参加できないんだろうな～？」
「自由民権運動は素晴らしいぜ。みんなで国会とか憲法作ろうって盛り上がってるんだ。さあ，みんなも自由民権運動に参加しようぜ！」
ってなレベルのもの。だから，政治小説の代表的な作家も自由民権運動に参加していた者が多い。例えば，『雪中梅』を書いた**末広鉄腸**は自由党に参加していて，『経国美談』を書いた**矢野竜溪**(本名は**矢野文雄**という)は立憲改進党に参加していたし，『佳人之奇遇』を書いた**東海散士**も，のちに進歩党(もと立憲改進党)に参加しているしね。

＜政治小説＞
末広鉄腸「雪中梅」……青年政治家国野基の自由民権運動活動を描く
→「末広てっちゅうばい(てっちゅう＝鉄腸・てっちゅうばい＝雪中梅)でつなげる」
矢野竜溪「経国美談」……古代ギリシアになぞらえて民権思想を宣伝
→「矢野竜溪の「溪」と経国美談の「経」でつなげる」
東海散士「佳人之奇遇」…憂国の青年東海散士の活躍を描く

［B］明治 20 年代前半の文学

ここまでの文学は近代文学と呼べるようなレベルにはなかったよね。戯作文学は江戸文学の延長線上にすぎないし，政治小説は自由民権運動の宣伝本にすぎない。でも，ようやく，明治 20 年代になって，近代文学と呼べる**写実主義**が展開されていく(写実とは，人生や社会の現実をありのままに客観的に描くこと)。これは早稲田大学教授も勤めた**坪内逍遥**によって主張されたものなんだけど，じゃあ，写実主義って何なんだろう。

逍遥

そもそも，明治初期の戯作文学も含めて，江戸時代の小説は荒唐無稽・勧善懲悪的な内容ばかりだった。つまり，江戸時代の小説は，現実的には起こりえない内容だったり(荒唐無稽)，良い奴が勝って，悪い奴は懲らしめられる的な内容だったわけだ(勧善懲悪)。わかりやすい例としては，滝沢馬琴(曲亭馬琴)の『南総里見八犬伝』があるけど，この物語の主題は因果応報(良い行いをすれば良い報いがあり，悪い行いをすれば悪い報いがあること)・勧善懲悪(善良な人や善い行いを推奨して，悪者や悪い行いを懲らしめること)にあるしね。

ところが，この『南総里見八犬伝』に噛み付いたのが**坪内逍遙**。



〔坪内逍遙〕

面倒くさいタイプ

「こんな話ありえねえっしょ！だいたい，毎回イイ奴が勝つ，ワルイ奴が負ける，みたいなこと言ってっけど，実際そんな毎回毎回イイ奴が勝つなんてこたあ，現実には起こらなかったりするっしょ！ワルイ奴が勝つことだってあんだから，そんな美化しちゃいけねえっしょ！現実に起こったことを，ありのままに書く，すなわち「写実」こそが文学っしょ！」

と，こうした戯作文学のような勧善懲悪主義を批判して，『**小説神髄**』という文芸評論で，写実主義こそが文学において必要な要素なんだって主張したんだ(あくまでも『小説神髄』は，小説とは写実主義であるべきと唱えた文芸評論なので，小説ではない)。だったら，その写実主義に基づいた小説自分で書いてみろや！って話だよね。そこで，写実的に描いた小説が『当世書生気質』だ。

(…でもさ～，コイツ正直めんどくさくね？コイツね，『南総里見八犬伝』についても，わざわざ『小説神髄』で批判しているんだけど，江戸時代の作品にイチイチ突っかかるなっつうの。そんなん読めばフィクションだなってわかるんだし，僕だったら「うっせえよ，くたばってしまえ」と言いたくなるね)。

髄随

そうしたら，この坪内逍遙の写実主義に，僕と同じように「くたばってしまえ」と異を唱えた人物がいたんだ。それが，坪内逍遙の弟子にあたる**二葉亭四迷**だ(二葉亭四迷のペンネームの由来は，自分の処女作『浮雲』を発表する際に，坪内逍遙の本名を借りて出版した自分を「くたばってしまえ」と卑下したことによる)。そもそも，坪内逍遙の『当世書生気質』は，まだ江戸時代の戯作文学の勧善懲悪主義の影響が抜けきれていなかった。だから，二葉亭四迷は「坪内さんもまだまだっす。そもそも，文章を書く時には，文語体じゃなくて，いつも使う話し言葉に近い口語体で書くべきっす」っていう**言文一致体**を主張したんだ。だったら，二葉亭四迷もその言文一致体で小説書いてみろや，って話だよね。そこで，その言文一致体で書いた小説が『**浮雲**』だ(また，二葉亭四迷はツルゲーネフの『猟人日記』を翻訳した『あひびき』も著している)。

でも，自分の弟子の立場にあたる二葉亭四迷から批判された坪内逍遙もめっちゃショックだったんだろうね。「うぅぅぅ…。そんなに僕のこと批判しないでよ…(>д<)。だったら，僕もう小説書かない！僕，シェイクスピアが好きだから演劇やるもん！」って，のちに演劇界に転身してしまうんだ([演劇史]で後述する)。

＜写実主義＞

坪内逍遙「**小説神髄**」……ありのままに描写する写実主義を唱えた文学評論
「当世書生気質」…『小説神髄』の趣旨にそい，写実的に描いた小説
二葉亭四迷「**浮雲**」……小市民生活における人々の心理を**言文一致体**で描写
「あひびき」……ツルゲーネフの『猟人日記』を翻訳

さて，この写実主義が文学界に影響を与えていくなかで，文学界の中心的な存在となったのが，**尾崎紅葉**・**山田美妙**らが結成した**硯友社**だ。この文学結社が発行した同人誌を『**我楽多文庫**』と言うんだけど，彼らも言文一致体の影響を受けている。『夏木立』を著した**山田美妙**は「～です」で終わる言文一致体，熱海で許婚のお宮を貫一が蹴り飛ばす場面で有名な『**金色夜叉**』や，『多情多恨』を著した**尾崎紅葉**は「～である」で終わる言文一致体で書いているしね。

一方，この尾崎紅葉と並び称されたのが『五重塔』を著した**幸田露伴**だ(尾崎紅葉と幸田露伴が並び称された時代を「紅露時代」という)。なお，幸田露伴のように，東洋風の雄渾な作風を理想主義というんだけど，それは知らなくていい。

＜写実主義(幸露時代)＞

山田美妙「夏木立」……言文一致体の短編集
尾崎紅葉「金色夜叉」……金銭と愛情の相克を描く
「多情多恨」……知識人の内面を描く
} **硯友社**から『**我楽多文庫**』を発行

幸田露伴「五重塔」……五重塔を建てる大工の姿を力強く描く

［詩歌(俳句・短歌・新体詩の総称)］

俳句・短歌・新体詩などを総称して詩歌というんだけど，写実主義は俳句においても影響を与えている。俳諧といえば，江戸時代の元禄文化の頃に松尾芭蕉が登場して，俳諧が確立されたけど，その後は，与謝蕪村・小林一茶ぐらいしか偉大な人物は登場せず，クソな作品ばっかが詠まれるようになってしまった。

こうした俳諧の状況を憂えて，俳句・短歌の革新をめざしたのが**正岡子規**だ。正岡子規曰く，「俳諧・和歌は江戸時代の頃，庶民どもがクソな作品を作りまくったせいで腐っちまった。だから，それを立て直すためには，見たものをありのままに詠む写生が重要なんだ。たださ，俳諧・和歌って馴染みづらいから，これからは俳句・短歌って言うようにしようぜ。」ってことで，彼は『歌よみに与ふる書』を著して，写生を重んじることで俳句・短歌の革新をめざしたんだ。なお，正岡子規は日清戦争に従軍した後，結核により終世病床で文学活動に専念するんだけど，そうした中で著したものが「病牀六尺」だ。

この正岡子規に学んだ弟子で，門下の双璧と言われたのが河東碧梧桐と，俳句雑誌『**ホトトギス**』を発行した**高浜虚子**なんだ。

［C］明治 20 年代後半の文学

写実主義は現実をありのままに描くもの。でもさ～，文学なんだから別に理想的・空想的・妄想的な内容であったっていいじゃん？

例えば，「島はどこに浮かんでいるのか？」と言われたら，「海！」と答えるけど，それは現実をありのままに描く写実主義になる。「島が空に浮かんでいる」ことだって，あってもいいんじゃないかな？

漫画『ONE PEICE』において，ルフィたちは空島を目指したけど，そういった空想的なものを求めたっていいじゃないか！空島があると信じたルフィたちをベラミーたちは嘲笑ったけど，モンブラン＝クリケットは，空島があると信じるルフィたちのことをバカにしなかった。そして，ノックアップストリームに乗って空島へと向かったルフィたちに対して，モンブラン＝クリケットは，「ロマンだぜ！」と言って送り出したでしょ？このような，「空に島があったっていいじゃないか！」的な，日清戦争前後に主流をなした理想的・空想的・妄想的な内容で書いていく作風を**ロマン主義**というんだ。…あっ，『ONE PIECE』読んだことない奴は置いていくよ。

＜写実主義・ロマン主義の違い＞

写実主義……現実的・客観的な内容→「島は海に浮かぶもの！」
ロマン主義…理想的・主観的な内容→「島が空に浮かんでいてもいいじゃない！」

そのロマン主義の代表的な文豪が**森鷗外**。鷗外は，軍医としてドイツに留学していたんだけど，そのドイツを舞台にした『**舞姫**』で名声を高めて，イタリアの詩人アンデルセンの『愛の物語』を翻訳した『即興詩人』も著している。それ以外の作品としては，後期に『阿部一族』や『雁』も著しているけど，それはいずれ日露戦争後の反自然主義でまた説明しよう。

鷗

そして，この森鷗外からその才能を絶賛されたのが 5000 円札としても有名になった**樋口一葉**。樋口一葉は肺結核で 24 歳にして亡くなってしまっているので，作家であった期間はわずか 1 年余りにすぎない。その中で発表されたのが『**たけくらべ**』・『**にごりえ**』なので，短命でなければより偉大な評価を受けていたかもしれないね。なお，この樋口一葉の『たけくらべ』・『にごりえ』が発表されたのが，**北村透谷**が創刊した『**文学界**』という雑誌で，これはロマン主義作家の母体となった雑誌なんだ。

その他のロマン主義文学としては，**泉鏡花**の『高野聖』や，徳富蘇峰の弟である**徳冨蘆花**の『不如帰』・『自然と人生』なんかが有名だね(徳冨蘆花は熊本バンドの一人としてキリスト教徒であり，国家主義へと傾いていった兄の蘇峰とは非常に仲が悪かった。そのため，蘇峰とは区別したいという意識から，蘇峰の「徳富」に対して，「徳冨」の姓を用いた)。

蘆

＜ロマン主義＞

森　鷗外「**舞姫**」……ドイツを舞台とした太田豊太郎と踊り子エリスの恋愛
「即興詩人」……イタリアの即興詩人アンデルセンの『愛の物語』を翻訳
樋口一葉「**たけくらべ**」…遊郭に近い下町の少年少女たちの淡い恋を流麗に描く
「にごりえ」……銘酒屋の酌婦お力をめぐる人情の機微を精細に描く
北村透谷『**文学界**』……1893 年に創刊されたロマン主義文学の母体となった雑誌
泉　鏡花「高野聖」……高野山の旅僧が飛騨山中で経験した神秘的な物語
徳冨蘆花「不如帰」……結核にかかった妻が病気感染を理由に離縁される悲劇を扱う
「自然と人生」…散文詩風の文体で自然風物を写生する

［詩歌(俳句・短歌・新体詩の総称)］

日清戦争前後には，ロマン主義が文学の主流を担っていったけど，詩歌においてもロマン主義が全盛期を迎えるんだ。そのロマン主義的な短歌を発表したのが**明星派**と呼ばれるグループ。これは**与謝野鉄幹**が創刊した短歌雑誌の『**明星**』に作品を掲載したグループのことなんだけど，その中心的メンバーが妻の**与謝野晶子**や，**石川啄木**だ。

啄

与謝野晶子といえば，官能的な『**みだれ髪**』で有名だけど，これってどういう作品かちゃんと知ってるかな？これは，セックスした後の女性は髪の毛が乱れている状態だから，「乱れ髪」というんだけど，与謝野晶子の顔がどれだけ美人か，めっちゃ気になるでしょ？もう男子生徒諸君は，「どんだけエロいんだ，この女は！」と興奮気味のハズだ。

はい，どーん！(右の写真必ず参照！)



〔与謝野晶子〕

「お前じゃ，勃たねえよ！！！」

「鉄幹すげえな，こんな女とやるのか！」

「ジャガー横田じゃねえか！！！」

…いや，ホント与謝野鉄幹，尊敬しますよ…。

さて，明星派の代表的歌人としては，「働けど働けど我が暮らし楽にならざり，じっと手を見る」の歌集『**一握の砂**』で有名な**石川啄木**がいる。彼には，貧困に苦しんでいた好青年のイメージがあるかもしれない。でも，貧困に苦しんでいたのは当たり前。実際は，仕事をしても長続きしないただの仮面ニートで，金が入ると，妻子がいてもすぐに女遊びに使っちゃう。しかも，借金も平気で踏み倒す鬼畜ヤロウだったんだ。だから，金がない時は，いつも家で一人おもちゃ(玩具)を使って自慰にふけっていたんだろうね。それが『**悲しき玩具**』だ(実際の内容はぜんぜん違う)。そして，貧乏であったこともあり，大逆事件(1910)を契機に社会主義へと傾いていく。その大逆事件で幸徳秋水が処刑された直後に発表した評論が「**時代閉塞の現状**」なんだ。

一方，この頃には，西洋詩にならって**新体詩**が詠まれるようになった。これは字数制限のある俳句(5.7.5)や短歌(5.7.5.7.7.)とは違って，字数制限のない自由に詠んでいく詩のこと。例えば，安倍なつみ(元モーニング娘)が 2004 年に発表した，以下の詩みたいな感じだね。

「トマト」安倍なつみ(2004)

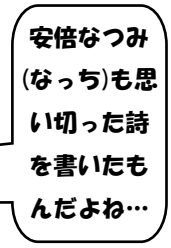
トマトはピーマンになれない
トマトは茄子になんかなれっこない

トマトはトマト
赤くて丸くて光ってる
トマトはトマトらしくあればいい
時々レタスに憧れたりもするけど
トマトはトマトなんだもん

「みんなほんもの」相田みつを(1984)

トマトがねえ
トマトのままでいればほんものなんだよ

トマトをメロンにみせようとするから
にせものになるんだよ
みんなそれぞれほんものなのに
骨を折ってにせものになりたがる



さて，この頃の新体詩は文語定型詩といって，文語体で詠んでいくものなんだけど，その中で有名な作品が**島崎藤村**の処女作『若菜集』，**土井晩翠**の『天地有情』，**上田敏**の『海潮音』，**北原白秋**の『邪宗門』といったところだね。

なお，大正時代になると，口語定型詩といって，口語体の新体詩にかわっていくんだけど，代表的な作品としては，**高村光太郎**の『道程』，**萩原朔太郎**の『月に吠える』，**室生犀星**の『抒情小曲集』が有名だね(テキストでは[大正・昭和文化(文学)]の箇所に記載されている)。

［D］明治 30 年代の文学

上記のように，『**若菜集**』でデビューしたのが**島崎藤村**なわけだけど，彼はその後小説家に転じている。そして，僕も大学生の頃に読んだ『**破戒**』を発表するんだ。これは「破壊」ではなく「破戒」。では，どういう作品なのかというと，社会の暗黒面に焦点を当てた作品なんだ。

［破戒(あらすじ)］

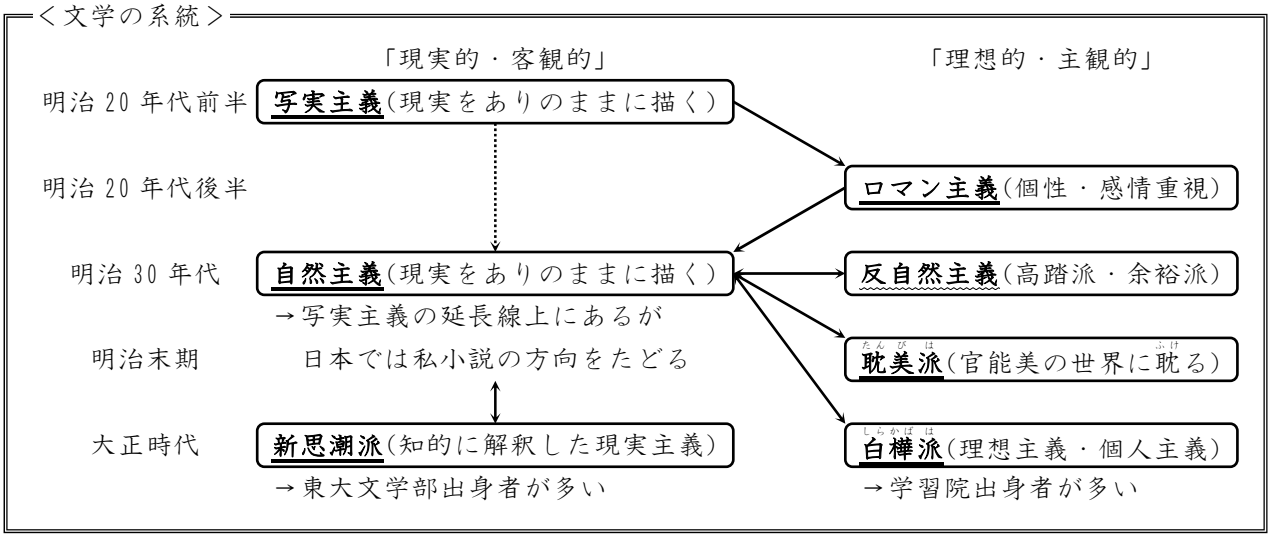
主人公の瀬川丑松は，長野県の被差別部落の家に生まれた。しかし，丑松の家は部落の長の立場であり，何不自由ない暮らしをしていたが，幼い頃から父より「部落出身者であるということは隠して生きろ」という「戒め」を受けていた。成人した丑松は小学校教員となっていたが，ある日電車の中で偶然，部落解放運動をしていた猪子蓮太郎と出会う。同じ部落出身者として活動を行う蓮太郎を慕うようになった丑松は，自分も部落出身であることを蓮太郎に伝えたいと悩み，葛藤する。そして，蓮太郎の死をきっかけに，丑松は自らが部落出身であることを打ち明けてしまう(親の「戒め」を「破る」ことになる)。そして，彼の人生は大きく転換することになる。社会から追放され，アメリカのテキサスをめざして旅に出る。

これは，当時の日本が抱えていた社会問題を扱った衝撃的な作品だ。このような部落問題などの社会・人生などの暗黒面を現実的にありのままに描く作風を**自然主義**というんだ。島崎藤村の『破戒』のストーリーは，ドストエフスキーの『罪と罰』にも似ている部分があるけど，それもそのはず。日本の自然主義はもともと，フランス・ロシアの自然主義文学の影響を受けたものだからね(なお，島崎藤村は昭和時代には，狂死した父をモデルに，明治維新前後の苦しみを『夜明け前』で発表したが，その後病没している)。

＜ロマン主義と自然主義の違い＞

ロマン主義(日清戦争前後)…人間の自由な個性・感情を重視し，自我の解放を主張
自然主義(日露戦争前後)……理想を排して現実をありにままに描く(日本では私小説化)

上記のように，理想を排して現実をありのままに描く**自然主義**が日露戦争前後に主流になる。こうしてみると，文学の系統は，写実主義や自然主義のように「現実的・客観的なノンフィクション系」と，ロマン主義のように「理想的・主観的なフィクション系」の 2 つに大別できるよね。



さて，日露戦争前後には，「現実的・客観的」な自然主義が主流になっていったわけだけど，あくまでも本来の自然主義は，島崎藤村の『破戒』に代表されるように，「社会・人生などの暗黒面を現実的にありのままに描く」ものだった。



しか～し！日本の自然主義は，たった一人の衝撃的な作品によって全てがおかしな方向に行ってしまう。それが田山花袋の『蒲団』だ。こいつは一言で言うと変態。かなりの変態。この話は…

「妻子をもつ中年の小説家のもとに，若くて綺麗な女学生が弟子入りしてくる。ほんで，この子ええな～って思っていたら，実はこの女学生には男がいた。だから，ブチ切れちゃったら，その女学生はその男の元に去って行ってしまった。…うおお，めっちゃ寂しいやんけ。…あっ，そういえば，あの子が寝泊りしてた蒲団があるハズ！…おお，これが，あの子の寝ていた蒲団や！うおお～ん(泣)…そうだ，匂いも嗅いじゃえ！う～ん，くんかくんか！グッド smell～！」

って，自分の思いをそのまま赤裸々に書いたわけだ。そんな 40 超えたオッサンの愛欲をカミングアウトされてもな…。…だから，変態って言ったでしょ？


〔田山花袋〕

いいかい？本来の自然主義は，あくまでも「社会・人生の暗黒面」を現実的にありのままに描くものなわけだ。ところが，田山花袋は，自分の「日常生活における体験」を現実的にありのままに描いてしまったわけだ。ここから，日本の自然主義はおかしな方向，つまり私小説の方向に向かってしまうんだ(このような作者自身を主人公にして，その私的な体験を写実的に描く小説を私小説といい，それの最初が田山花袋の『蒲団』になる)。

女弟子とのイケナイ関係に失敗した田山花袋は，のちに『田舎教師』を著している。これは，北関東の田舎教師として教鞭をとる主人公が，成功してやろうと夢を描くんだけど，恋愛も人生もうまくいかず，最終的には不治の病で死ぬ話(どんだけ寂しい人生やねん)。まあ，田山花袋本人は学校の先生になった経験はなく，別の人物をモデルにした話なんだけどね。ただし，重要なのは『蒲団』の方だ。この『蒲団』の影響はハンパなかった！他の作者たちは

「おおおおお！！！！！これが自然主義か！！！！！！自分の見たもの，感じたものを現実的にあり

のままに描いていけばいいのだな！よし，オラもやるぞ」

と勢いづいて，以下の作者たちがそれぞれ作品を発表していく。内容は多少脚色が入るが，大体こんな感じ。

国木田独歩の『武蔵野』は，「武蔵野(埼玉県)の自然は美しいね…」

…そっちの「自然」じゃない。

『牛肉と馬鈴薯』は，「牛肉と馬鈴薯(じゃがいも)があれば肉じゃがの出来上がり！」

…肉じゃが美味しいよね。

徳田秋声の『黴』は，「オイラはニート。何もしないで毎日過ごしているから日々時間が早く過ぎる。おっと，身体にカビが生えてきたぜ！」

…たしかに「黴」は自然に発生するからね…。

『あらくれ』は「俺は身体にカビがはえた荒くれ者だぜ！」

…風呂入れよ。

正宗白鳥の『何処へ』は，「おお，わたしは何処へ行けばいいのでしょう？」。

…宇宙にでも行ってください。

＜自然主義＞

田山花袋	「蒲団」……美しい女弟子芳子へ寄せる中年作家の欲情を描く
	「田舎教師」……利根川べりの田舎の小学校教師の短い生涯の物語
国木田独歩	「武蔵野」……武蔵野の自然美を綴った短編集
	「牛肉と馬鈴薯」…現実と理想とを著した短編小説
徳田秋声	「黴」……無為・無理想の男の人生を客観的に描いた自伝的私小説
	「あらくれ」……自我と奔放に生きる女お島の半生を描く本格小説
正宗白鳥	「何処へ」……生活目標を失い「幻滅の悲哀」に生きるインテリの姿を描く

…もう，目も当てられない。まあ，このように，日本の自然主義は，本来の「社会・人生などの暗黒面を，理想を排して現実的にありのままに描く」ものから，「作者自身の日常生活などを現実的にありのままに描く」私小説へとなってしまったわけだ。

［詩歌(俳句・短歌・新体詩の総称)］

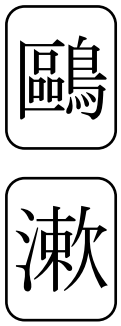
先ほど，ロマン主義の影響を受けた短歌グループの明星派を説明したけど，日露戦争前後の写実的な自然主義も短歌に影響を与えるんだ。それが正岡子規に学んだ**伊藤左千夫**らの**アララギ派**だ。伊藤左千夫も，正岡子規と同じように写実的な歌を主張して，短歌雑誌『アララギ』を創刊するんだけど，そのアララギ派の中心的な存在として活躍したのが，長編小説の『土』を著した**長塚節**なんだ。

なお，そのアララギ派は伊藤左千夫の死後も，伊藤左千夫に学んで，歌集『赤光』を発表した**斎藤茂吉**や，歌集「柿蔭集」を発表した**島木赤彦**などが大正時代にも活躍しているんだ(テキストでは[大正・昭和文化(文学)]の箇所に記載されている)。

こうした自然主義に対して，対象から一歩離れて高いところから眺める高踏派・余裕派を**反自然主義**というんだけど，僕としてはこの名称はやめてほしい。なぜなら，この反自然主義として扱われるのが，後期の**森鷗外**や**夏目漱石**だからだ。夏目漱石の『吾輩は猫である』は，「吾輩は猫である。まだ名前はない。」から始まるものだけど，これは人間の世界を猫の目という別の視点から描写する別次元のものだからね。だから，こういった巨匠の比較対象に，田山花袋などの自然主義を持ってこないでほしいんだよね。

＜反自然主義＞

森　鷗外	「阿部一族」・「雁」
夏目漱石	「吾輩は猫である」・「坊っちゃん」・「三四郎」・「道草」
	「それから」・「彼岸過迄」・「こころ」・「草枕」・「明暗」（未完）



森鷗外といえば，明治 20 年代後半のロマン主義で登場したけど，夏目漱石の影響を色濃く受けていた後期の森鷗外は余裕派にあたる。江戸時代に肥後藩で起きた，阿部一族が全滅した『阿部一族』や，『雁』など夏目漱石に並ぶ巨匠とされているからね。

さて，一方の**夏目漱石**の有名な作品は枚挙に暇がない。『吾輩は猫である』のほかに，『坊っちゃん』・『三四郎』・『道草』・『それから』・『彼岸過迄』・『こころ』・『草枕』などがあって，最後の『明暗』は執筆途中に漱石が亡くなってしまったため未完となっている。この中で，『こころ』ならば，現代文の教科書で取り上げられているから，一度は目にしたことがあると思うけど，作品中には「寂しい」という言葉が何回か出てくる。でも，その「寂しい」という言葉は，それぞれ意味が異なっているんだよね。こうしたところに，夏目漱石の文学の奥深さが表れているんだけど，日本史の問題では，単純に「夏目漱石の作品を選べ」などの下らない問題しか問われない。

僕が出題者ならば，「夏目漱石の作品の中で最も印象に残った作品とその理由を書け。」という問題を出してみたい。大学側の出題者からすれば，そんな問題は採点が大変だから絶対に出題しないだろうけど，文学部の問題なら，そういった問題を出した方が良いんじゃないかと思う。そういった類の問題ならば，文学部にとって本当に欲しい学生が簡単に判別できるんじゃないかな？

ただ，実際の入試問題はくだらない一問一答で出題される。それだったら，僕にも考えがある。くだらない問題には，くだらない覚え方で対応してやればいい。それで覚えられれば，入試には対応できるのだから。…ということで，これ以降の大正文学については，実際の文学作品の内容とは全く異なるけど，覚えられる内容で説明していく。実際の小説の内容が知りたければ，テキストに書いてある小説のあらすじを参考にしてくれればいいかな(それぞれの文学グループの特徴については正確に記述するので安心してよい)。

［E］明治末期～大正時代の文学

明治 30 年代の自然主義は，理想を排して現実的にありのままに描くことが主題におかれていたけど，実際は，作者自身の体験談の私小説になってしまった。こうした日本における自然主義はあらぬ方向に行ってしまったことに反発する形で，大正時代には**耽美派**，**白樺派**，**新思潮派**などが生まれていく。

まずは，「美」に「耽」るという意味の**耽美派**。美しいものといえば何だろう？それはもちろん女性だ(ただし，美人に限る)。

例えば，君たちにとって美しい or 可愛いなって思うアイドルは誰だろう？まあ，異論は認めるけど，僕の乃木坂ヲタの友達曰く「齋藤飛鳥」だそうだ。では，質問。

「齋藤飛鳥はウ〇チしますか？」

答えは，します。いくら可愛いアイドルだろうが，実際はウ〇チもするし，オシッコもする，これ現実。これは，現実に目を背けずに，「現実的・客観的」な描写になるから，写実主義・自然主義ということになる。では，次の質問。

「有村架純はウ〇チしますか？」

答えは，しません(断じてしません)。有村架純はウ〇チしないんです，これ現実。これが「理想的・主観的」な耽美派なんだ。現実的には，有村架純もウ〇チするかもしれない(いや，しない)。でも，そういった「現実的」な内容で書いてしまったら，文学は面白くない。文学に「虚構性」があったっていいじゃん。むしろ，そうした「虚構性」などの遊びがあることで文学は面白くなる。

例えば，「女性の脚がキレイだ」という意見。実際には，すね毛を剃っているんだろう。でも，そんな現実論ではつまらない。そうした部分には目をつむって，「あの透き通るような素足」のように，「虚構性」で美化していくのが耽美派なわけだ。だから，官能的なエロティックな内容がかなり多いのが耽美派の特徴なんだ。

だから，この耽美派として代表的な**谷崎潤一郎**の『刺青』は，その脚の美しさについて，これでもかってぐらいに語っている。これは，一人の刺青師が，街中で見かけた駕籠からこぼれ出た女性の真っ白な脚に釘付けになり，「うわ〜，あの脚マジたまんねえ！めっちゃ刺青彫りてえ！」っていう，脚フェチのお話(マジ)。それから，『痴人の愛』は(痴人とはバカという意味)，田舎者で真面目なサラリーマンだった奴が，カフェで出会った女に惚れるんだけど，実はその女がクソビッチ(アバズレ)な女だった。それでも，そいつは「こ，こ，こ，こんな感じで振り回されるのがたまらん(最高やねん)！…も，も，もっと俺を振り回してくれ！」っていうドMな話(マジ)。しかも，ここでも，脚フェチの描写は何度も出てくるので，結局のところは谷崎潤一郎本人が，ドMで脚フェチだった，っていう性癖暴露本になるのよね。なお，戦後には『細雪』という大阪の四姉妹の話も著している。

この谷崎潤一郎を推薦してデビューさせたのが，同じく代表的な耽美派作家の**永井荷風**だ。その永井荷風の代表作が，花柳界(芸者や遊女の社会)の風俗を描いた『腕くらべ』なんだけど，彼は，研究熱心で，60 歳になっても浅草のストリップ劇場に日々通い詰めていたことで知られている。それだけ，女性の身体の研究に熱心だったんだろうね(ただの趣味だろうけど)。なお，彼は晩年，千葉県市川市の菅野ってところに暮らしていたんだけど，それ僕の生まれた家のすぐ近くなんだよね(苦笑)。

こうした耽美派の作品を主とした雑誌が，森鷗外を中心に，谷崎潤一郎らの小説を掲載した『**スバル**』や，永井荷風がオーナーを務めた『**三田文学**』なんだ。なお，『三田文学』は慶應大学文学部の機関誌でもあるので，慶應大受験者は気をつけておこう。

＜耽美派の覚え方＞

「長い腕の刺青縮んでた」

→長い　腕の刺青　縮んで　た

永井　腕くらべ　刺青　痴人の愛　谷崎

耽美派と同じように，自然主義に反発して，雑誌『**白樺**』を創刊したのが「学習院」出身者の多い**白樺派**。こちらは，学習院というボンボン出身の者が多いので，世間の認識とのズレがある(僕はボンボンが嫌いです)。例えば，

「人間とは本来自給自足の生活をするのが理想的な姿だ。」とか理想主義だったり

「人類みんなが平和で，幸せでありますように。」とか人道主義だったり

「人間にはそれぞれの権利・自由を求める権利があるんにゃ！」みたいな個人主義だったりする。

だいたい，こういう目線の理想主義の奴って，ビンボーを知らない育ちの良いボンボンな奴だからね。だから，白樺派のほとんどが公家などの華族出身の上層階級の者が多いんだ。例えば，**武者小路実篤**なんて，「武者小路」って苗字をみただけで公家出身だなってわかるでしょ。彼は，典型的な理想主義者で

「人間が本来あるべき姿は自給自足だ。だから，皆で共同して働いて共同して暮らす社会を作ろう。」

って，宮崎県に**新しき村**というものをつくって，そこで共感した友達たちと一緒に暮らす自給自足の生活を始めたんだ。…でも，実際にはそれは理想論に過ぎないよね。そして，その 6 年後に

「やっぱ，や〜めた。僕ちょっと帰らせていただきますわ。」

って，一人で帰っちゃった。そして，今度は埼玉県入間郡にも新しき村を建設したんだ。なお，この埼玉県入間郡の新しき村を現在も存在しているんだよ？独立村として村旗まで作っているんだけど，現在は人口 23 人しかおらず，高齢化が進行しているのが村の悩みだそうだ。受験に疲れて，自分を必要としている人を求めている場合には訪ねてみるといいね(帰って来られないかもしれないけど)。

この武者小路実篤のように，一元的にしか物を語れない理想論者をおめでたい人と言うけど，その彼の小説が『お目出たき人』。これは，主人公が近所に住む美しくて可憐な女子学生に恋をする。でも，一度も話したこともないのに，「あの子と結婚したいな。あの子には俺以外に良い奴はおらんやろ！うん，俺と結婚するのがあの子にとっても幸せやな！」って，考えるようになり，彼女の学校の近くをう

ろつく。そして，ついに彼女の父親に「結婚させてや！」って，求婚するけどもちろんダメ。でも「いや，それでもあの子は俺のことが好きやで！」と思い込み続けた，おめでたい人，いや妄想壁ありのストーカーの失恋話。実は，これ武者小路実篤の 25 歳の時の実体験なんだけどね(苦笑)。でも，その子はその後に結婚しちゃったので，もう諦めるしかない。じゃあ，その少女の妹にアタックだ。それが『その妹』(実際の内容は違うよ～)。

この武者小路実篤にの従妹と結婚したのが，学習院時代の同級生**志賀直哉**だ。この志賀直哉は小説家になる前に，実は歌手を目指していたんだ(実際はそんなこたあない)。そして，「シンガー(singer)直哉」として活動し，路上ライブなどで歌手の道を夢見ていた。

直　哉「さあ，今宵も singer 直哉がお届けする歌声をお聞きください。俺が高校生の頃に作った曲です。…singer 直哉で『暗夜行路』！」
…♪♪♪～～～
通行人「うるせーよ，おめえ！静かにしやがれ！」
直　哉「…ふっ，俺の歌声に嫉妬している奴がいるな。とくと聞きやがれ。…♪♪♪～～～」
通行人「うるせーっつってんだろうが！…くそったれ，黙らせるにはチャカで殺ってやるか…」

…bang！bang！

直　哉「…うっ…。…い，いてえよ…。なんだったんだ…，人が気持ちよく歌ってたのによ…。」
(自分の撃たれた腹を見て)
直　哉「……あ，あ，あんやこらあ(なんじゃこりゃあ)！！！(松田優作風に)」

ということで，「singer 直哉，あんやこらあ(暗夜行路)！」で覚えられるね。

白樺派の武者小路実篤との繋がりが深いのが**倉田百三**だ。『出家とその弟子』がヒットしたことで有名になり，白樺派との交流が増える。そして，こいつも武者小路実篤の「新しき村」にも積極的に協力して，自分の家を新しき村の福岡支部にしているからね。

ところが，この白樺派の中で唯一，現実の中で理想を生かすことのできない悩みから，自分勝手になれなかったのが**有島武郎**だ。彼も，もともとの生まれが良かったので学習院中等科を卒業した後，北海道の札幌農学校(のちの北海道大学)を卒業している。その北海道の小作人の苦しい生活を扱ったのが『カインの末裔』なんだけど，その中で彼は小作人たちの気持ちを理解しようと励む。でも，労働者・農民などの貧しい階級と，もともと上層階級で育った有島武郎では，決定的に距離が違う。そして，彼はその悩みで苦しむようになり，最終的には自殺してしまっているんだ。こうした自分自身と重ねて，自我の強い女が破滅する話として書かれたのが『或る女』だ。これは，主人公は女性だけど，自分自身をそのまま描いた作品で，有島武郎自身も『或る女』と同じように，最終的に破滅して自殺してしまっているのは，本人も予感があったのかもしれないね。

＜白樺派の覚え方＞
「武者小路実篤はおめでたい人で，フラれた後はその妹に求婚」
「志賀(singer)直哉あんやこらあ(暗夜行路)」
「有島武郎・『或る女』の有(あり)と或るでつなげる」

「学習院」出身の多い白樺派に対して，『**新思潮**』という雑誌を創刊したのが，「東大」出身者が多い**新思潮派**だ。虚構性を重視して現実を美化する耽美派や，理想主義・人道主義に基づく白樺派が「主観的・理想的」に描くのに対し，新思潮派は，現実を美化せず，物事を深く観察する「客観的・現実的」なタイプにあたる。ただし，私小説にすぎない自然主義のようなクソとは一緒のレベルじゃない。

例えば，**芥川龍之介**の『鼻』における描写はめちゃめちゃ鋭い。これは「長い鼻にコンプレックスを持っている男は，その鼻のせいでバカにされまくっていた。そこで，鼻を短くすれば，バカにされなくなるだろうと思って鼻を短くしたら，その短くなった鼻を見て人々は笑うようになった」という話。これ，「人は，他人の不幸には同情するけど，その不幸を乗り切ると逆に物足りなくなったりして，逆に不幸に陥れようとしたりする」という人間の暗い一面を表現しているんだよね。やっぱり東大出身だから，ズバ抜けて頭がいいんだけど，逆に深く考えすぎちゃうんだろうね。その後には，「人間とは存在そのものが苦である」とか考えるようになって，それを背景に書いたのが『羅生門』だ。この作品で，「人間は生きるためには必然的に悪を抱え込むことになり，その悪を許すことができるのは悪しかないのだ」という暗い人生観を描いているんだけど，芥川は最終的に自殺しちゃっているしね。僕からすれば，もうちょっと人生楽しみなよって思っちまうけど…。

さて，その芥川竜之介の親友だったのが**菊池寛**で，彼は『**文藝春秋**』を創刊して，芥川の業績を評した芥川賞を設立している。その菊池寛の父親は，自分と母親を捨てて愛人とともに逃げたクソ親父だった。そんな父に恩讐(復讐)しようという恨みをもつ中で著したのが『恩讐の彼方に』。そして，のちにそのクソ親父が家に帰ってくるのが『父帰る』なんだ。…これは僕の作り話だけどね。

新思潮派の作家は，この 2 人をしっかり押さえてくれればよい。他にも，『破船』・『学生時代』・『受験生の手記』を著した**久米正雄**や，『女の一生』・『波』・『路傍の石』を著した**山本有三**もいるけど，この 2 人は仲の悪さの方が有名かもしれない。

［coffee break(入試には出ない話)］

久米正雄は夏目漱石の門下生だったのだが，その漱石の娘である筆子に恋をした。でも，筆子には松岡譲という好きな男がいたため，久米正雄はフラれてしまった。久米正雄が意気消沈していた折に，夏目家宛てに「久米正雄は女狂いで性的不能者(インポ)である。さらに性病患者だ」という怪文書が届く。これを送ったのが，久米正雄と昔から仲の悪かった山本有三。でも，逆に誹謗中傷された久米に筆子が同情してくれて，ちょっといい感じになる。そうしたら，久米正雄は調子に乗って，自分(久米)と筆子が結婚する予定であるかのような小説を発表したり，雑誌に「漱石の令嬢は久米正雄と結婚する」という情報を自ら雑誌に流したりしたんだ。久米はこれで自爆。筆子から完全に嫌われて，夏目家からも出入り禁止される。それでも，久米は諦めない。「筆子が無理なら妹の恒子でも良い。それでもダメなら筆子の従妹でも良い」と求めたけど，もちろん無駄。最終的に，筆子は松岡と結婚しましたとさ。その時の体験を美化して書いたのが『破船』である。

［F］大正末期～昭和初期の文学

大正時代には，賃金アップや労働時間の短縮を求める労働運動が高まり，1917 年に起きたロシア革命の影響から社会主義運動が盛んになっていったよね。それに伴って，社会主義思想を文学でも広めていく運動が起きていく。そして，プロレタリアート(労働者・農民など資産の無い無産階級のこと)の立場から，彼らの生活とか考え方を描いていく**プロレタリア文学**が盛んになっていくんだ。つまり，大正時代に展開された労働運動や社会主義運動を，文学にすることで「現実の労働者たちはこんなに大変で，ストライキ起こしても上手くいかないんだぜ。もっと皆知ってくれよ。(…これで，現実世界での労働運動・社会主義運動が成功していくかもな…イッヒッヒ)」っていうことだ。ただし，こうした社会主義思想には，穏健的な「社会民主主義」と急進的な「共産主義(マルクス主義)」の 2 つがあったよね。だから，これらのプロレタリア文学の系統にも，社会民主主義系の『**種蒔く人**』・『**文芸戦線**』と，共産主義(マルクス主義)系の『**戦旗**』の 2 系統があるんだ。

穏健的な社会民主主義系の『**種蒔く人**』は 1921 年に創刊されたんだけど，1923 年の関東大震災のせいですぐに廃刊になってしまった。そのため，翌年『**文芸戦線**』に引き継がれ，1925 年に結成された社会民主主義系の団体である**日本プロレタリア文芸連盟**(略称プロ連)の機関誌的な存在となっている。そして，この雑誌に『**海に生くる人々**』を発表したのが**葉山嘉樹**なんだ。

＜プロレタリア文学(社会民主主義系)の覚え方＞
「速まる海に種蒔く先生」
→「はやま る　海に　種蒔く　先生」
葉山　海に生くる人々　種蒔く人　文芸戦線

一方で，急進的な共産主義(マルクス主義)系の『**戦旗**』は，革命を起こそうとする共産主義の姿勢が，『戦旗』の「戦」という言葉に表れているよね。こちらは，1928 年に結成された**全日本無産者芸術連盟**(略称**ナップ**)が発刊した機関誌なんだけど，ここに発表されたのが，**徳永直**の『太陽のない街』や，**小林多喜二**の『蟹工船』だ。特に『蟹工船』は 2009 年に映画化もされているから，知っている人もいるんじゃないかな。その小林多喜二は，完全に共産主義者で，共産党員として非合法活動中に治安維持法によって逮捕され，1933 年に特別高等警察の拷問により警察署で撲殺されてしまっている。

＜プロレタリア文学(共産主義系)の覚え方＞
「お得な太陽，小ばかに戦う」
→「お得な　太陽　小ば　かに　戦う」
徳永　太陽のない街　小林　蟹工船　戦旗

社会主義運動という政治・思想的内容の強いプロレタリア文学に対して，政治などは一切抜きにして感覚を重視した純粋文学が**新感覚派**というもの。これは，自然主義のように，現実をありのままに描くリアリズムを排して，感覚的・印象的に書いていくのが特徴なんだけど，抽象的すぎてわかりづらいよね。では，具体的に例を出して紹介しよう。

新感覚派の代表的な作家といえば，戦後の 1968 年にノーベル文学賞を受賞した**川端康成**。彼の代表作といえば，『伊豆の踊子』や『雪国』だけど，『雪国』の始まりぐらいは知っているよね？

「トンネルを抜けるとそこは雪国だった。」

この始まりはあまりにも有名すぎるけど，この「トンネルを抜けると…」で省略されている主語とは何でしょう？生徒に尋ねると，「私！」という答えが返ってくるんだけど，「私」がトンネルを走り抜けていくのかな…(笑)。正解は「列車」。でも，生徒が「私」と錯覚するのもしょうがない。無生物主語の「列車」が，まるで「人」であるかのように錯覚する擬人法を用いているからね。こうした無生物主語などの擬人法を用いた，新感覚の描き方が新感覚派の特徴なわけだ。

だから，その川端康成と『文芸時代』を創刊した**横光利一**の，邪馬台国の女王卑弥呼を日輪にみたてた『日輪』や，自身がヨーロッパに旅行した時の経験をもとに書かれた『旅愁』でも擬人法が用いられている。それ以外の小説の『頭ならびに腹』においても，「真昼である。特別急行列車は満員のまま全速力で馳けてゐた。沿線の小駅は石のやうに黙殺された。」と，擬人法が使われているからね。

さて，新感覚派のような純文学に対して，庶民が求める娯楽的な内容を小説にしたものもある。それが**大衆文学**と呼ばれるジャンルだ。大正時代には義務教育が普及し，中学校卒業者や高等学校・大学卒業者が急増したことによって，大衆文化と呼ばれる庶民文化が広がった。そうした大衆の求める娯楽的な内容を題材にした文学が大衆文学ってことだね。だから，ウケがいい時代小説や歴史小説が書かれるんだ。

それが，大衆文学の先駆けとなった**中里介山**の『大菩薩峠』や，**大佛次郎**の『鞍馬天狗』・『赤穂浪士』などの時代小説，**吉川英治**の『宮本武蔵』などの歴史小説だ。なお，直木賞でも知られる**直木三十五**は，南国薩摩藩の島津家の御家騒動を扱った『南国太平記』で人気を博した。そして，大衆文学の品位を高めたということで，仲の良かった菊池寛によって直木賞が設けられたんだ。

こうした大人を対象とした文学に対して，童謡や童話など児童を対象としたのが児童文学。これは，夏目漱石の門下生だった**鈴木三重吉**が創刊した『**赤い鳥**』が中心を担い，芥川竜之介の『蜘蛛の糸』や，新美南吉の『ごんぎつね』などの童話が掲載されて，現代でも読み継がれているんだ。

［G］戦中～戦後の文学

戦中の文学としては，**堀辰雄**が自身をモデルにした『風立ちぬ』を 1938 年に発表しているけど，これは宮崎駿監督によって 2013 年に映画化されたから，知っている人も多いだろうね。まあ，映画版の『風立ちぬ』は，堀辰雄の『風立ちぬ』の設定を借用しただけで，内容はほとんど違うんだけどね。

一方，1937 年に日中戦争が勃発すると，出版社によって作家が戦地へと送られて，戦争文学が書かれるようになる。その中で 1938 年の徐州会戦に従軍していた**火野葦平**は，戦闘体験を『麦と兵隊』として描いて 100 万部のベストセラーとなっている。その一方で，1940 年の南京攻略戦に従軍していた**石川達三**は『生きてゐる兵隊』で日本軍の残虐を描いてしまったため，発禁処分となっているんだ。

戦後の文学でも，戦争や軍隊に関する作品がある。戦中の 1945 年にフィリピンで米軍の捕虜となった**大岡昇平**は，その体験を『俘虜記』として，また前年のフィリピンのレイテ沖海戦における死闘を『レイテ戦記』で発表している。また，社会主義運動に参加していた前歴をもつ**野間宏**は，激しいリンチや制裁がまかり通っていた軍隊での体験を『真空地帯』で表現している。

＜戦争文学＞
大岡昇平……『俘虜記』（1948）
『レイテ戦記』（1971）
野間宏……『真空地帯』（1952）
『暗い絵』（1948）

一方，原爆に関する作品も描かれるようになる。8 月 6 日の広島への原爆投下で，自らも被爆した**峠三吉**の『原爆詩集』には，原爆だけでなく戦争に対する皮肉も込められている。

また，**井伏鱒二**の『黒い雨』は，広島への原爆投下によって被爆した夫婦と，原爆投下後に降った強い放射能をもつ黒い雨を浴びていたことが判明した姪の縁談が破談になってしまう，というものだ(戦前には『山椒魚』を著している)。

＜原爆に関する作品＞
峠三吉……『原爆詩集』（1952）
「ちちをかえせ　ははをかえせ
としよりをかえせ　こどもをかえせ
わたしをかえせ　わたしにつながる
にんげんをかえせ
にんげんの　にんげんのよのあるかぎり
くずれぬへいわを　へいわをかえせ
井伏鱒二……『黒い雨』（1965）

戦争で敗れた日本では，本土が焦土(焼け野原)となり，日本人は打ちひしがれていた。しかも，戦時中に正しいと信じられていた武士道による不屈の精神や，天皇制による愛国精神などの倫理観や道徳観がが崩壊することにもなった。そうした人々に対して，『堕落論』・『白痴』で明日へ踏み出す道を示したのが**坂口安吾**だ。坂口安吾は，「人間は弱い生き物であり，人間は堕落する。戦争に負けたから堕ちるのではなく，人間だから堕ちるのだ。堕ちるまで堕ちろ。だが，人間は永遠に堕ちぬくことはできない。堕ちる道を堕ちきることによって，自分自身を発見し，救わなければならない。」という逆説的な表現で，戦後の打ちひしがれた人々に活路を見出したわけだ。なお，坂口安吾のような，戦後の反権力的・反道徳的な言動でブームになった作家の人々を無頼派(新戯作派)というんだ。

その坂口安吾とともに無頼派の一人に数えられたのが**太宰治**だ。彼は，没落する華族を描いた『斜陽』(1947)で人気を博したが，その翌年に「恥の多い人生を送って来ました」で始まる『人間失格』を書き上げた後に，玉川上水で愛人と入水自殺している。もともと薬物中毒や病気で，何度も自殺未遂をしまくっていた太宰治だけど，この時の自殺理由は「小説を書くのが嫌になったから」だそうだ。

坂口安吾……『堕落論』（1947）
『白痴』（1947）
太宰治……『斜陽』（1947）
『人間失格』（1948）

でも，もっと壮絶な死をした人なら**三島由紀夫**だろう。彼が注目を浴びた『仮面の告白』は，三島由紀夫の自伝的なもので，自らが同性愛者であることを綴った作品。そして，45 歳の時に自衛隊市ヶ谷駐屯地に乗り込んで演説をした後に，割腹自殺をしたことは有名すぎるよね。

でも，作品だけのインパクトで考えたら，三島由紀夫よりも**石原慎太郎**のデビュー作『太陽の季節』の方がとんでもない作品かな。これは読まない方がいいと思うけど(本気で)，衝撃的な内容なので簡単にご紹介。「酒・タバコ・ギャンブル・女遊びに明け暮れていたボクシング部の高校生が，街でナンパした女と出会う。ホテルで勃起したチ○コを突き刺して障子を破る。でも，エッチしまくるうちに飽きちゃって，自分の兄にその女を 5000 円で売りつける。でも，その子が自分の子供を妊娠してしまっていて，堕ろさせようとする。手術に失敗して女の子が死んじゃう。葬式で遺影に香炉を投げつける」っていうDQNの話…。これによって当時23歳の最年少で芥川賞を受賞するんだけどね…(この小説から，常識はずれのDQNな行動をする若者たちを指す言葉として，「太陽族」という流行語が生まれた)。

この石原慎太郎とともに新世代の作家と注目され，『飼育』で芥川賞を受賞したのが**大江健三郎**。のちには，知的障害者である自らの長男との実体験をもとに書いた『個人的な体験』を著して，1994 年にノーベル文学賞を受賞したことは知っておくといいだろう。

最後は，歴史小説や推理小説。**井上靖**の『天平の甍』は，戒律を伝えるための高僧を日本に招くために渡唐した普照・栄叡など留学僧の運命を描いたもの(天平は聖武天皇時の元号，甍は瓦のことで，753 年に来日した鑑真が建立した唐招提寺の瓦のことを指している)。

それから，**司馬遼太郎**の『坂の上の雲』は傑作だね。これは，明治維新～日露戦争までの近代化していく日本を描いたもので，「坂の上の雲」とは欧米列強が存在する地位を雲に例えて，それを目指して坂を上っていくという意味なんだ。他にも，坂本竜馬が主人公の『竜馬が行く』や，土方歳三が主人公の『燃えよ剣』も名作なので，受験が終わったらぜひ読んでみるといいね(特に後者の『燃えよ剣』は僕のお気に入りなのでおススメ)。

松本清張は推理小説の巨匠として有名すぎるよね。2007 年にもドラマ化された『点と線』が代表作だけど，それ以外の小説も幾度となくテレビドラマ化・映画化されている。最近でも『砂の器』が 2004 年に(中居正広主演)，『黒革の手帖』が 2004 年に(米倉涼子主演)，『ゼロの焦点』が 2009 年に映画化されているからね(広末涼子ら主演)。

三島由紀夫… 『仮面の告白』(1949)
石原慎太郎… 『太陽の季節』(1956)
大江健三郎… 『飼育』(1958)
『個人的な体験』(1964)
井上靖…… 『天平の甍』(1957)
司馬遼太郎… 『坂の上の雲』(1968)
松本清張…… 『点と線』(1958)

［A］明治時代の教育

明治維新直後は，まだ江戸時代の頃からの藩が存続していたため，藩ごとに教育が行われていた。でも，1871 年に廃藩置県が断行されたことで，大名による藩は廃止されて明治政府の直轄領である県となり，全国は明治政府によって統一されたよね。これによって，教育に関しても，全国の教育行政を担当する省庁が必要になる。そこで，1871 年に**文部省**が設置されて，長官として**大木喬任**が初代文部卿に就任したんだ。そして，設置されるとすぐに文部省は教育制度の確立に着手していく。

近代国家を建設していくためには，優秀な人材を育成しなければならないし，そのためには学校を全国に設立していかなければならない。そこで，日本は欧米の教育制度をそれぞれ研究していき，それを模範とした学校制度を創設することを方針に定めたんだ。その第 1 弾とも呼ぶべきものが，**フランス**流の教育制度に倣って，**1872 年**に公布された**学制**だ。ただし，この学制が公布されるにあって，その前日には「**被仰出書**(学事奨励に関する太政官布告)」という太政官布告が全国に出されている。これは，学制本文の前にそえて，全国に配られたので，学制の序文にあたる。そして，そこには学制がめざす教育理念(基本精神)が以下のように示されている。

図 被仰出書(学事奨励に関する太政官布告)－**学制**序文(1872)－『法令全書』

人々自ラ其**身**ヲ立テ，其**産**ヲ治メ，其業ヲ昌ニシテ，以テ其生ヲ遂ル所以ノモノハ他ナシ，**身**ヲ修メ，**智**ヲ開キ，才芸長スルニヨルナリ。而テ其**身**ヲ脩メ，**智**ヲ開キ，才芸ヲ長スルハ，学ニアラサレハ能ハス。是レ**学校**ノ設アル所以ニシテ，日用常行，言語，書算ヲ初メ，士官・農商・百工・技芸及ビ法律・政治・天文・医療等ニ至ル迄，凡人ノ営ムトコロノ事，学アラサルハナシ。人能ク其才ノアル所ニ応シ，勉励シテ之ニ従事シ，而シテ後初テ生ヲ治メ，**産**ヲ興シ，業ヲ昌ニスルヲ得ヘシ。サレハ学問ハ身ヲ立ルノ財本共云ヘキ者ニシテ，人タルモノ誰カ学ハスシテ可ナランヤ。……之ニ依テ，今般**文部省**ニ於テ**学制**ヲ定メ，追々教則ヲモ改正シ，布告ニ及フヘキニツキ，自今以後，一般ノ人民(華士族農工商及婦女子)必ス邑ニ不学ノ戸ナク，家ニ不学ノ人ナカラシメン事ヲ期ス。

(人々が自分自身で立**身**し，その**資産**を蓄え，その生計を立てていく，そうすることでその一生を全うすることができるのは，それは他でもない，**身**を修め，知識を広め，才能や技芸を伸ばすことによるのである。そうして，その**身**を修め，**知識**を開き，才能や技芸を伸ばすことは，学問によらなければ不可能である。これが**学校**を設置している理由であって，日常生活の行い，言葉遣いや書道・算数を始めとして，役人・農民・商人・様々な職人・技芸に携わる人，及び法律・政治・天文・医療などに至るまで，およそ人の営むもので学問が関係しないものはない。人はその才能のあるところに応じて勉め励んで学問に従事し，そうして初めて自分の暮らしの道を立て，**資産**を蓄え，事業を盛んにすることができるであろう。そうであるから，学問は立身のための資本というべきものであって，人たるものは，誰が学問をしないでよいということがあろうか(いや，人間誰しもが皆学ばなければならないのである)。……このために，このたび**文部省**で**学制**を定め，順を追って教則を改正し布告していくので，今から以後，一般の人民(華族・士族・卒族・農民・職人及び女性や子供)に，必ず村に学ばない家が一軒もなく，家には学ばない人が一人もいないようにしようと期待する。)

この「被仰出書」のなかで述べられているポイントは 2 つ。1 つ目は，「人々が自分自身で立身し，知識を広げて，その資産を蓄えるためには，学問をしなければならないのだ」という，**功利主義**(一般市民の最大多数の幸福を求める思想)の観点から**立身出世**が説かれていること。まあ，難しいことをうんちゃらかんちゃら言ってるけど，簡単に言えば「勉強しましょう」ってことだね。…あれ？でも，こうしてみてみると，「被仰出書」で述べられている教育観って，**福沢諭吉**が書いた『**学問のすゝめ**』と共通していることに気がつくハズだ。そもそも，ゆきっつぁんは『学問のすゝめ』で，学問をして個人個人が自立することで，国家の独立も達成することができると説いていたよね。そうした実学を重んじて，

立身出世を目標とするゆきっつあんの考え方が，文部省の教育方針として採用されたわけだ。

2 つ目は，「村に学ばない家が一軒もなく，家には学ばない人が一人もいないように」とあるように，四民平等の立場から国民全てを就学させる**国民皆学**・教育の機会均等といった原則がうたわれていることだね。そのためには，全国に学校を設立していかなければならない。そこで，学制では，画一的に全国を 8 大学区に分け，1 大学区に 32 中学区，1 中学区に 210 小学区を設けることが定められたんだ。つまり，全国に大学校 8 校，中学校 256 校，小学校 53760 校を設ける予定が立てられたわけだ(文系には難しいかな？笑)。そして，この学制に基づいて全国に多くの小学校が設けられていったんだけど，その中で，1876 年には住民の寄付などをもとに，現在の長野県松本市に**開智(小)学校**という擬洋風(和洋折衷)の小学校が建設されている。

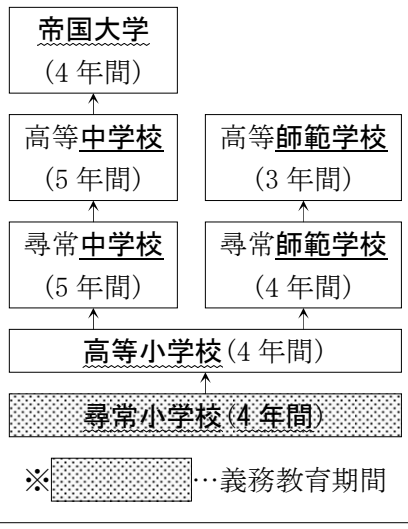

〔開智(小)学校(長野県松本市)〕

…でもさ～，これはちょっと画一的すぎでしょ。人口の多い都市圏では問題ないけど，人口の少ない地方に何校も小学校をつくっても意味がない。しかも，政府の財政的問題から，学校設立の費用や学費がすべて民衆の負担としたため，民衆の負担は大きくなるし，農村では児童という労働力が奪われることになる。そのため，当時の実情に合わず，就学率は **30%**にすぎず，学校焼打ち事件などの**学制反対一揆**も起きてしまったんだ。

＜学制の問題点＞
①中央集権的で画一的すぎた
②学校設立の費用や学費が民衆の負担
③農村では児童という労働力が奪われる
} **学制反対一揆**が起きる

学制は画一的で中央集権的であったため，うまくいかなかった。そこで，文部大輔の**田中不二麿**を中心に **1879 年**に制定されたのが，**アメリカ**流の自由主義的教育制度にならった**教育令**だ。これは，学校の設立や教育方針をそれぞれの地方の実情に合わせて決められるように，地方分権的な教育制度に転換したんだけど，結局は地方への丸投げにすぎなかったんだよね。そのせいで，当時盛り上がっていた自由民権運動につながるという逆効果を招いてしまい，教育令は翌年の 1880 年に改正されている。

［学校制度の変遷(1886)］



では，日本の教育制度に合っている国はどこなのか？それは，憲法・刑法・民法をドイツに倣ったわけだし，ドイツがよさそうだ。ドイツは国家主義的だし，日本も国家主義的な教育を進めようと考えていたからね。そこで，**1886 年**，初代文部大臣の**森有礼**によって，**ドイツ**流の国家主義的な教育制度に倣った**学校令**が公布されたんだ(なお，国粋主義者の反感を買った森有礼は 1889 年の憲法発布式の当日に暗殺された)。

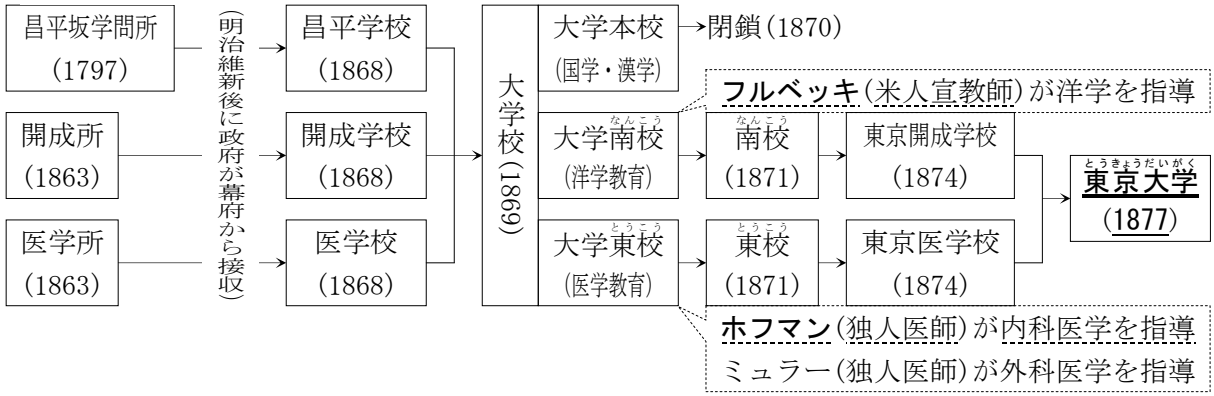
ただし，あくまでも**帝国大学令**・**師範学校令**(先生になるための学校)・**中学校令**・**小学校令**を総称したものを学校令というので，学校令という単体の法律は存在しないので気をつけてほしい(高等学校令は含まれていないので注意)。

なお，この中の小学校令には，小学校について規定されているんだけど，小学校は，それぞれ 4 年間通うことになる**尋常小学校**と**高等小学校**の 2 つに分けられている。そして，このうちの尋常小学校を義務教育としたので，義務教育の期間は **4 年間**となったんだ(高等小学校には，尋常小学校を卒業した者で，さらに学業を習得したい者が進学できる)。

［学校制度の変遷］

学校令で整えられた帝国大学令は，最高学府にあたる大学について規定しているんだけど，この時代における帝国大学は一つしかない。それが，昌平坂学問所(江戸幕府直轄の学校)・開成所(江戸幕府の洋学研究教育機関)・医学所(江戸幕府の西洋医学校)を引き継ぐ形で，**1877 年**に設立された**東京大学**だ(東大初代学長は**加藤弘之**)。

＜東京大学の歴史＞



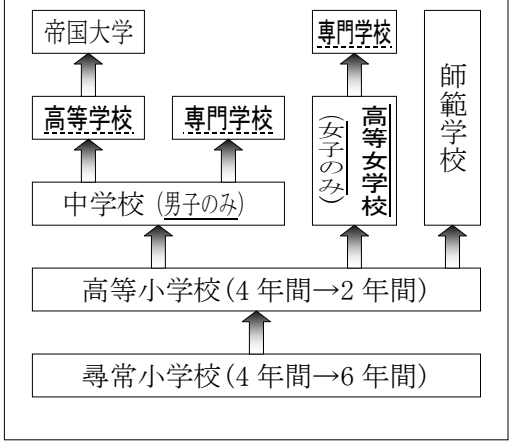
そして，その東京大学が，帝国大学令(1886)に基づいて帝国大学(1886)に改称され，さらに 1897 年に京都帝国大学が設立されたことに伴って，東京帝国大学(1897)に改称している。これ以降，「九帝大」と呼ばれる東北帝国大学(1907)・九州帝国大学(1911)・札幌農学校を前身とする北海道帝国大学(1918)・**京城**帝国大学(1924)・**台北**帝国大学(1928)・大阪帝国大学(1931)・名古屋帝国大学(1939)といった帝国大学が設立されていったんだ。この中で，植民地だった朝鮮に設立された**京城**帝国大学(現在のソウル大学)，台湾に設置された**台北**帝国大学(現在の台湾大学)を除いて，東大・京大・東北大・九大・北大・阪大・名大をまとめて旧七帝大と呼ぶ(現在でも使われる言葉なので，私大受験生でも，これくらいは知っておこうな)。

＜旧九帝大＞

旧七帝大…東京・京都・東北・九州・北海道・大阪・名古屋帝国大学
※京城(現在の韓国首都のソウル)・台北(現在の台湾首都の台北)にも設置

学校制度に関しては，時代が進むにつれて複線化していき，1894 年には**高等学校令**，1899 年には**高等女学校令**，1903 年には**専門学校令**がそれぞれ発布されて，中等・高等教育機関は右のように複線化していったんだ。

［学校制度の変遷(1903)］



1886 年の中学校令では，尋常・高等中学校の 2 つが設けられていたけど，1894 年に**高等学校令**が公布されたことで，高等中学校は**高等学校**(高校)となり，尋常中学校も 1899 年の中学校令改正によって中学校と改称された。

また，1899 年の中学校令改正では「男子ニ須要ナル高等普通教育」を目的としたため，同時に「女子ニ須要なる高等普通教育を為す」ことを目的とした**高等女学校**を設置することを**1899 年**の**高等女学校令**で定めたんだ。つまり，これによって，中学校に通うのは男子のみで，高等女学校に通うのは女子のみとなったわけだ。そして，その高等女学校では，「女性は夫のために良い妻であれ，子供のために賢い母であれ」という「**良妻賢母**」を育成する国家主義的な教育が進められていったんだ。

さらに，1903 年の**専門学校令**で，中学校を卒業した者が入学できる**専門学校**が設けられたんだけど，これは現在の専門学校とは全く別物。むしろ，現在の大学に近いもので，この当時の専門学校は，のちにほとんどが大学へと昇格しているんだ。それが次のような例だね。

専門学校(官立学校)	国立大学	専門学校(私立学校)	私立大学
東京高等商業学校	一橋大学	**慶応義塾**(**福沢諭吉**が創立[蘭学塾])	慶応義塾大学
神戸高等商業学校	神戸大学	**東京専門学校**(**大隈重信**が創立) ［英	早稲田大学
東京外国語学校	東京外国語大学	**英吉利法律学校**(**穂積陳重**らが創立) 法	中央大学
東京高等工業学校	東京工業大学	**専修学校**(相馬永胤らが創立) 系］［仏	専修大学
東京高等農林学校	東京農工大学	**東京法学社**(薩埵正邦らが創立) 法	法政大学
	※東京農業大学は私立	**明治法律学校**(**岸本辰雄**らが創立)	明治大学
東京高等歯科医学校	東京医科歯科大学	**関西法律学校**(**児島惟謙**らが創立)	関西大学
	※日本医科歯科大学は私立	**京都法政学校**(中川小十郎が創立) 系］	立命館大学
東京美術学校	東京芸術大学	**日本法律学校**(**山田顕義**が創立[日本法系])	日本大学
東京音楽学校	東京芸術大学	**哲学館**(**井上円了**が創立[哲学の専修学校])	東洋大学
	※東京音楽大学は私立	学習院（華族学校→官立学校→戦後に私立学校)	学習院大学
千葉医学専門学校	千葉大学	東京物理学校（東大物理学部の卒業生が創立)	東京理科大学
岡山医学専門学校	岡山大学	**皇典講究所**（神道の教育機関→のち国学院を付設)	国学院大学
金沢医学専門学校	金沢大学	**女子英学塾**(**津田梅子**が創立)	津田塾大学
長崎医学専門学校	長崎大学	日本女子大学校(**成瀬仁蔵**が創立)	日本女子大学
新潟医学専門学校	新潟大学	［**ミッションスクール**］（キリスト教団が布教のため設立した学校)	
熊本医学専門学校	熊本大学	**同志社英学校**(**新島襄**が創立)	同志社大学
師範学校(官立学校)	国立大学	上智学院（カトリック教会の**イエズス会**が創立)	上智大学
東京高等師範学校	筑波大学	立教学校（聖公会の宣教師**ウィリアムズ**が創立)	立教大学
広島高等師範学校	広島大学	関西学院（プロテスタントの**メソジスト教会**が創立)	関西学院大学
東京女子高等師範学校	お茶の水女子大学	耕教学舎など（プロテスタントの**メソジスト教会**が創立)	青山学院大学
奈良女子高等師範学校	奈良女子大学	ヘボン塾（プロテスタントの宣教師**ヘボン**が創立)	明治学院大学

旧六医大

上記のように，戦前に創立された官立の専門学校が，現在の国立大学につながっているのがよくわかるよね。一方で，私立学校として**福沢諭吉**が 1858 年に創立した**慶応義塾**(現在の慶応義塾大学)，**新島襄**が 1875 年に創立した**同志社英学校**(現在の同志社大学)，**大隈重信**が 1882 年に創立した**東京専門学校**(現在の早稲田大学)，**津田梅子**が 1900 年に創立した**女子英学塾**(現在の津田塾大学)なども，もともとは大学ではなく私立の専門学校として扱われていて，のちに私立大学として認可されていくんだ。後は，初代司法大臣の**山田顕義**が創立した**日本法律学校**，仏教哲学者の**井上円了**が創立した**哲学館**，女子教育家の**成瀬仁蔵**が創立した日本女子大学校，アメリカ人宣教師の**ヘボン**が創立したヘボン塾(のちの明治学院)が，どこの大学関係なく入試で問われる。また，「紫」の頻度になっているもので，君たち自身の志望校の前身や創立者の名前を押さえておくといいね。なお，**ミッションスクール**とはキリスト教の伝道教会(mission)が布教のために設立した学校のことだ。

さて，国家主義的な教育を進めていく上で，重要になるのは教育におけるバイブル(聖書)的な存在だ。そこで，**第一次山県有朋内閣**時の **1890 年**，第 1 回帝国議会の開会直前に，天皇からの教育に関するお言葉として発布されたのが**教育勅語**(教育に関する勅語)なんだ。これは**井上毅**と**元田永孚**が起草し，儒教的精神に基づく「**忠君愛国**」などの国民道徳を説いた内容。つまり，「君主である天皇に忠義を尽くし，わが国日本を愛しなさい」という国家主義を根付かせることで，マインドコントロールを進めるためのものだったわけだ。

＜学校制度の覚え方＞

「何人泣くんや，むくれる学生の教育は，学校で勅語読ませろ」

→何人 泣くんや，む くれる学生の 教育は 学校 で 勅語読ませろ

72 79 86 90 学制 教育令 学校令 教育勅語

この教育勅語は修身(現在における道徳)の授業などでも朗読することが必須とされ，全文暗記しておかなければならないし，読む前にも一礼してから読まなければならない。教育勅語を読み間違えた校長先生が，責任をとって割腹自殺するなんていう事件も起きているしね。


〔御真影(明治天皇)〕

さらに，教育勅語と共に配られたものが**御真影**という天皇の写真(右の写真は明治天皇の御真影で，イタリアの銅版画家**キヨソネ**に描かせた肖像画)。この教育勅語と御真影は厳重に管理されていて，戦前の学校に必ず置かれていた**奉安殿**という建物の中に安置されていたんだ。なお，これまた，火事で奉安殿にあった御真影が焼けてしまった責任をとって久米由太郎という校長先生が自殺している(久米由太郎の子が，『学生時代』・『受験生の』・『破船』などで知られる新思潮派の久米正雄で，そのことを『父の死』という小説にしている)。

でも，第一高等中学校(多くが東京帝国大学へ進学するエリート校)の教師をしていたキリスト教徒の**内村鑑三**は，1891 年に第一高等中学校で行われた奉読式の際に，キリスト教の信念に従って教育勅語への礼拝を拒否しちゃったんだ(これを**内村鑑三**不敬事件という)。そうしたら，もうバッシングの嵐だわな。結果，内村鑑三は職を追われることになり，さらには，「だ～か～ら，キリスト教などの宗教はタチが悪いんだ」って，「教育と宗教の衝突」を書いた国家主義者の**井上哲次郎**から，キリスト教自体も攻撃されることになったんだ。

☑ **教育勅語**(教育に関する勅語)(1890)－**第一次山県有朋内閣**－『法令全書』

朕惟フニ我カ皇祖皇宗国ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ。我カ**臣民**克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ済セルハ此レ我カ**国体**ノ精華ニシテ，**教育**ノ淵源亦実ニ此ニ存ス。爾**臣民**，父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭倹己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ，学ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓発シ徳器ヲ成就シ進テ公益ヲ広メ世務ヲ開キ，常ニ国憲ヲ重シ国法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壌無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ。是ノ如キハ独リ朕カ忠良ノ**臣民**タルノミナラス，又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顕彰スルニ足ラン。斯ノ道ハ実ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫**臣民**ノ倶ニ遵守スヘキ所，之ヲ古今ニ通シテ謬ラス，之ヲ中外ニ施シテ悖ラス，朕爾**臣民**ト倶ニ拳々服膺シテ咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ。

明治二十三年十月三十日

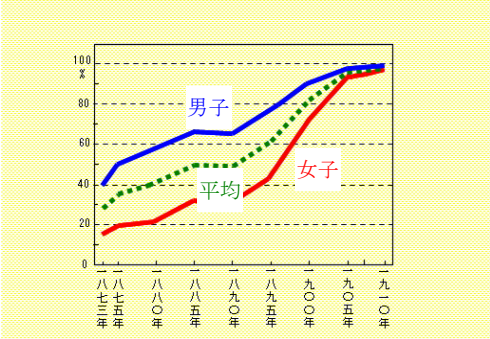
御名　御璽

(私が思うには，我が皇室の先祖が国を始められたのは，はるかに遠い昔のことで，代々築かれてきた徳は厚く深いものでした。我が**臣民**(国民)は忠義と孝行を尽くし，全国民が心を一つにして，世々にわたって立派な行いをしてきたことは，我が**国体**(ここでは国柄の意味)の優れたところであり(国柄の優れて美しいこと)，**教育**の根源もまたこの国体の美に根ざしています。あなたたち**臣民**(国民)は，父母に孝行し，兄弟は仲良くし，夫婦は仲睦まじく，友人とは互いに信じあい，自分自身の言動は慎み深く，全ての人々に博愛の手を差し伸べ，学問に努め，職業に専念し，知識を養い，徳と才能を磨き上げ，進んで社会公共の利益や世の中の努めに貢献し，いつも憲法を重んじ，法律に従いなさい。そして，国家の危急の事態が生じたら，正義心から勇気を持って公のために奉仕し，それによって永遠に続く皇室の運命を助けるようにしなさい。これらのことは，単にあなた方が忠義心を厚く善良な**臣民**(国民)であるということだけでなく，あなた方の祖先が残した伝統的美風を褒め称えることでもあります。このような国民の歩むべき道は，実に我が皇室の祖先が残された教訓であり，その子孫と**臣民**(国民)が共に守っていかなければならぬことであると共に，昔も今も変わらず，国の内外を問わず，間違いのない道理です。私はあなた方**臣民**(国民)と共に，この押し手を胸に抱いて，皆一致して立派な行いをしていくことを切に願っております。)

明治二十三年(1890 年)十月十三日

1894 年の日清戦争で勝利した日本は，列強の仲間入りを果たした。でも，これから更なる発展を遂げていくためには，軍事・産業などの根幹を支える教育の分野において，よりいっそうの整備が必要になる。つまり，知識や仁徳に優れた人材をさらに輩出していかなければならない。

そこで，1900 年に小学校令を改正して，義務教育の授業料を無償制としてあげたんだ。こうした背景と，近代産業の発達に伴う国民生活の向上もあって，1902 年には義務教育の就学率が 90%を超えることになった。ここまで就学率が上昇すれば，義務教育の期間を延長することも問題ないはずだよね。そこで，**1907 年**に小学校令を改正して，義務教育期間を今までの 4 年間から **6 年間**に延長したんだ(これにより，尋常小学校の修業年限は 6 年，高等小学校の修業年限は 2 年となった)。まあ，本音がどこにあるのかは予想つくと思うけどね(義務教育期間が長いほうが天皇制教育を進めやすい)。



〔義務教育の就学率〕

さて，少しだけ時間をプレイバックさせてみよう。義務教育が行われる小学校で，1902 年に起きた贈収賄事件が**教科書疑獄事件**だ。この当時は，民間で作られた教科書を文部省が検定した上で，各府県の審査員が採用か不採用かを決める**検定制**がとられていた(現在でも教科書は検定制で，義務教育では各教科書会社が作成した教科書を，文科省の検定を経た上で都道府県・市区町村の教育委員会で決定している)。でも，採用されれば自社の教科書が使用されるわけだから，教科書会社は売り込みに必死だ。それが，汚職の発覚により 200 名余りが検挙された教科書疑獄事件なんだ。そして，この事件をきっかけに，**1903 年**に**国定教科書制度**が採用されて，政府が教科書の執筆・編纂を行う**国定制**に変更されたんだ。まあ，これも本音がどこにあるのかは予想がつくと思うけどね(民間による検定制より，国家による国定制のほうが天皇制教育を進めやすい)。

この国定教科書制度に基づいて，文部省で国定教科書の編集にあたったのが歴史学者の**喜田貞吉**。ところが 1911 年，『読売新聞』に「南北朝時代において，南朝と北朝を併立させた記述はおかしい。三種の神器をもっていた南朝が正しいハズだ。」って攻撃されて，最終的に辞職に追い込まれちゃったんだ(これを**南北朝正閏問題**という)。僕は，どっちでもいいんじゃないと思うけどさ。

［B］大正・昭和時代の教育

明治時代までの教育は，国家主義に基づいた型にはめた教育スタイルだった。でも，子供にはそれぞれの「個性」とか「創造性」がある。そこで，大正時代には大正デモクラシーの風潮に伴って，**自由教育運動**と呼ばれる「生徒の自主性を尊重して個性と創造性を伸ばそう」という自由主義的な教育をめざした運動も盛んになっていったんだ。

＜自由教育運動＞
- **沢柳政太郎**…1917 年に**成城小学校**を創立(現在の東京都世田谷区にある成城学園)
- **羽仁もと子**…1921 年に**自由学園**を創立(現在の東京都東久留米市にある自由学園)
- 小原国芳……1929 年に玉川学園を創立(現在の東京都町田市にある玉川学園)
- **鈴木三重吉**…1918 年に**『赤い鳥』**(児童雑誌)を創刊

でも，「自主性」・「個性」・「創造性」とかいった大義名分をかかげる人って，僕は大嫌い。絶対性格も捻じ曲がっている。だから，こいつらは性格だけじゃなく名前も捻じ曲がっているんだ。

成城小学校を創立した**沢柳政太郎**は「柳沢」じゃないし，**自由学園**を創立した**羽仁もと子**は「丹羽」じゃない，玉川学園を創立した小原国芳は「小原」じゃない。

あとは夏目漱石の門下生だった**鈴木三重吉**が 1918 年に創刊した児童雑誌『**赤い鳥**』にも影響を与えている。この雑誌には，『蜘蛛の糸』・『ごんぎつね』などの童話・童謡が掲載されていくんだ。

また，大正デモクラシーの風潮と相まって，1918 年には最初の本格的政党内閣として**原敬**内閣が成立した。その原敬内閣は，当時の大戦景気のウハウハに乗じた積極政策を打ち出して，四大政綱と呼ばれる「産業・貿易の振興」・「国防の充実」・「鉄道・道路の拡充」・「高等教育機関の拡充」といった 4 つのスローガンを打ち出したよね。この「高等教育機関の拡充」とは，大学や高等学校といった高等教育を行う学校の数を増やしますよ，ということ。この時期は大戦景気で資本主義が発展し，高等教育を受けられる学校枠を大幅に増やす必要があったからね。そこで，その具体的な政策として，**1918 年**に**大学令**が制定され，**高等学校令**が改正されたんだ。

これまでの大学は，東京・京都・東北・九州帝国大学のように，官立の帝国大学しか認められていなかったよね。そこで，大学令によって，もともと専門学校の扱いだった学校を公立大学(地方自治団体が設立した大学)・私立大学・**単科大学**(1 学部のみの大学)として認めてあげたんだ(大学令によって，公立大学としては大阪市立大学，私立大学としては慶応義塾大学・早稲田大学(共に最初の私立大学)・日本大学・法政大学・明治大学・中央大学・國學院大學・同志社大学などが認可された)。また，高等学校も今までは官立の高等学校しか認められていなかったから，高等学校令を改正して公立・私立の高等学校も認めてあげたわけだ。

しかし，昭和時代になると軍部の台頭などもあって，国家主義的教育はより一層強化されていく。特に，**1935 年**の**天皇機関説問題**をきっかけに軍部・右翼が天皇機関説を一斉に攻撃し(この軍部・右翼による政治運動を**国体明徴運動**という)，最終的に政府は**国体明徴声明**(**1935**)を出すに至った(天皇機関説については[授業解説<大正デモクラシー>を参照])。

こうした国体明徴運動を受けて，日本の「国体」というものがどういうものかを学校教育でも徹底させようと考えた。そこで，1937 年に**文部省**思想局が発行したのが『**国体の本義**』という，国体の尊厳・君臣の大儀・天皇への絶対随順などを説いた教科書だ。これは，日本の「国家体制」である「天皇制」の「本義(本来の意味)」を説いたもの。つまり，『古事記』・『日本書紀』の神話に基づいて，天孫降臨の御神勅によって，神様の子孫である天皇家が永遠に日本を統治しているのだから，「天皇には絶対に従いなさい」ということ。

その天皇制のもとで，国民は「臣民(天皇の臣下である国民)」と位置づけられていたよね。そこで，文部省思想局を格上げして設置した**文部省教学局**が，1941 年に発行したのが『**臣民の道**』。これは，皇国臣民としての心得や日常生活のあり方などを説いた教科書。この『国体の本義』・『臣民の道』は，全国の学校に配布されて，修身・歴史の教科書として使用されたんだ。


〔国民学校〕

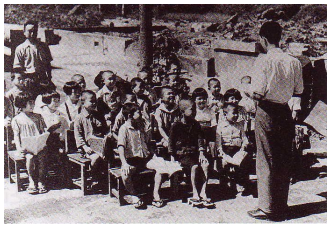
このような教科書を使用することで，国民たちを天皇の国民である「皇国民」としてマインドコントロールしていくんだけど，その一環として出されたのが **1941 年**の**国民学校令**だ。これは，皇国民を練成するために，小学校を**国民学校**と改めさせたもの。だから，君たちが通っていた小学校が「いなかっぺ小学校」だったら，「いなかっぺ国民学校」に代わると考えるといいね。なお，この国民学校令で義務教育を 8 年間に延長することを定めたんだけど，戦争の激化によって実現はされていない。

［C］戦後の教育(教育制度の自由主義化)　※授業解説[占領政策]とほぼ同じ

1945 年に太平洋戦争でアメリカに敗れた日本は，GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)による占領統治を受けることになった。そして，日本は戦前における教育は，「日本国民は天皇の臣下の民である」，「日本という国のために尽くし報いなければならない」，終いには「お国のために死ね」という軍国主義・国家主義的なものだった。そこで，GHQ は 1945 年に教育改革指令を出して，軍国主義・国家主義的な教員を教職から追放する**教職追放**，さらに軍国主義に関係する**修身**・**日本歴史**・**地理**などの授業も停止したんだ。

修身は「身」を「修める」科目で，現在の道徳にあたるものなんだけど，国家主義的な思想が強いからダメ(その修身の教科書の最初に載っているのが，1890 年に明治天皇からの教育に関するお言葉として出された教育勅語)。さらに，戦前の**日本歴史**の教科書は，天照大神などの神話の内容から始まるものだったのでダメ。また，**地理**の教科書は，朝鮮・台湾などが日本の領土になっちゃっているからダメ。ただし，日本歴史と地理は内容を修正すれば問題ないので，のちに社会科として復活することになるんだ。

でも，さすがに戦後すぐに全てを一新することはできない。そもそも，この当時の学校は空襲で校舎が焼失してしまっていたので，**青空教室**という校庭での授業が行われたりしていたからね。さらに，使用する教科書の問題もある。修身・日本歴史・地理の授業停止によって，それらの教科書が回収される前までは，戦前の教科書を使用せざるをえない。そのため，軍国主義的などの不適切な箇所に，生徒本人に墨を塗って消させる**墨塗り教科書**を使って授業が行われたんだ。ただ，右の写真をみてみると，ほとんどが削除されているよね…(苦笑)。


〔青空教室〕

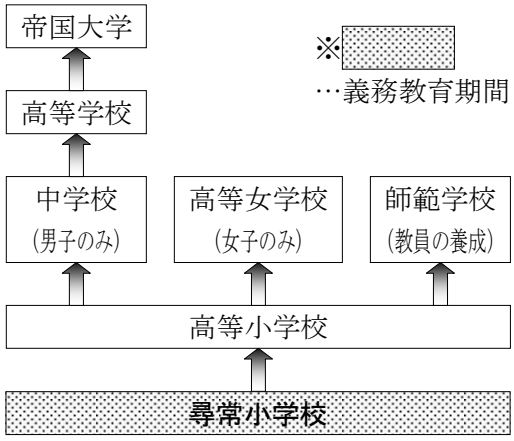


〔墨塗り教科書〕

そして，1946 年に『**くにのあゆみ**』という新しい日本史の教科書が文部省によって発行されたんだ。今までの教科書は，『古事記』・『日本書紀』に基づく建国神話の内容から始まっていたんだけど，それをカットして，『くにのあゆみ』では縄文時代から始まっている。その後，岩宿遺跡の発見(1946)・発掘調査(1949)によって，日本の歴史は旧石器時代から始まることがわかったので，順次教科書が修正されていくことになるんだ。

さて，軍国主義・国家主義的な教育を禁止したら，次の問題は今後どのような教育を行っていくのか，その方針を示さないといけない。そこで，**アメリカ教育使節団**が来日して，今までの日本の教育理念であった**教育勅語**に代わる新しい民主主義的な教育理念を提示したんだ(教育勅語は **1948 年**に国会で失効決議がなされた)。

［戦前の学校系列(簡略版)］



そして，この教育使節団の改革提案に基づいて，**1947 年**に制定されたものが**教育基本法**だ。これは，**義務教育は小学校・中学校の 9 年間**・**男女共学**・**教育の機会均等**などの「教育とはこうあるべきだ」という教育の理念を規定した法律。まあ，現在では当たり前の内容として認識されているけど，最近ではこれの拡大解釈が進んでいるように思う。昔は学校で生徒が悪いことをした場合に，廊下に立たせるということがあったけど，最近では教室の後ろに立たせたりすることが多くなっている。これは，廊下に立たせてしまうと授業を受ける機会を奪うことになるから，教育の機会均等に反するそうだ。小学生・中学生の脳みそなんて原人レベルなんだから，身をもって覚えさせた方が僕は良いと思うんだけどね(昭和ですが，何か？)。

☑ 教育基本法(1947)－第一次吉田茂内閣－『官報』

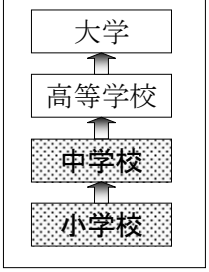
われらは，さきに**日本国憲法**を確定し，民主的で文化的な国家を建設して，世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする決意を示した。この理想の実現は根本において教育の力にまつべきものである。

われらは，個人の尊厳を重んじ，真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに，普遍的にしてしかも個性ゆたかな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならない。

ここに，**日本国憲法**の精神に則り，教育の目的を明示して，新しい日本の教育の基本を確立するため，この法律(**教育基本法**)を制定する。

そして，この教育基本法を具体化するために，同年の**1947 年**に制定されたのが**学校教育法**。戦前の学校システムは，[戦前の学校系列]にあるように，小学校を卒業した後は，中学校(男子のみが通う学校)・高等女学校(女子のみが通う学校)・師範学校(教員になる者が通う学校)などのいくつかのルートに分かれていく複線型の学校系列だった。でも，この学校教育法によって小学校 6 年間，中学校 3 年間，高校 3 年間，大学 4 年間という六・三・三・四制の**単線型**の学校系列が定められたんだ。つまり，教育基本法は「教育の理念」について規定したもので，学校教育法は「学校のシステム」について規定したものということだね。

[学校教育法]



こうして，自由主義的・民主主義的な教育になると，何は履き違えたのか授業中に「ウ○コ」「チ○コ」だとか下ネタなどの問題発言をする教師も出てくるかもしれない(僕は予備校講師であり，教師ではない)。そのために(？)，**1948 年**に制定された**教育委員会法**によって，各都道府県・市町村に設けられたのが**教育委員会**だ。この教育委員会のメンバーは，もともと住民が選挙で投票して決める**公選制**だったんだけど，**鳩山一郎**内閣の **1956 年**に地方自治体の首長(都道府県知事など)による**任命制**に変わっている。でも，これって民主主義に逆行しているんじゃない？もともと選挙で決めるものだったのが，都道府県知事によって決まってしまうんだから，おかしいよね。これは，1947 年からの冷戦の始まりによって，対日占領政策の転換が図られたことが背景だ。

[対日占領政策の転換]

戦後の対日占領政策は，日本の「**非軍事化**」・「**民主化**」という方針のもと行われた。でも，1948 年頃から，今までの対日占領政策の方針が「**再軍備**」・「**経済復興**」という方向に転換されていく。この背景にあったものは，アメリカを中心とする資本主義国家(陣営)と，ソビエト連邦を中心とする社会主義国家(陣営)による対立，いわゆる**冷たい戦争**(**冷戦**)だったんだ。

第二次世界大戦時には 2 大同盟国であったアメリカとソ連だったが，両国はそれぞれ資本主義国家と社会主義国家というようにイデオロギーが異なる。そして，大戦前には，社会主義国家はソ連ただ一国だったのが，大戦後になると，ハンガリーやルーマニアなど東欧 7 カ国が社会主義国家として成立した。また，東アジアにおいても，1948 年に朝鮮半島南部にアメリカと結びついた資本主義国家の**大韓民国**(**韓国**)が成立したのに対抗し，北部にソ連・中国と結びついた社会主義国家の**朝鮮民主主義人民共和国**(**北朝鮮**)が成立した。そして，極めつけとして，大戦後に内戦を再開させた中国では，中国国民党を台湾に追いやった中国共産党が**中華人民共和国**という社会主義国家を樹立した(それに対し，中国国民党は台湾に逃れ，**中華民国**という形で存続した)。

このアメリカにとって一番危険視されたのが極東，つまり東アジアだった。なぜなら，東アジアにおいては，朝鮮民主主義人民共和国と中華人民共和国という社会主義国家が成立したし，ソ連も地理的に東アジアに近い位置にある。だから，極東においては社会主義勢力の方が優勢にあったわけだ(そのため，アメリカにとっては沖縄の米軍基地は軍事的にも非常に重要な問題であった)。

こうした社会主義国家，とりわけ共産主義国家の勢力拡大を食い止めなければならない。でも，アメリカは地理的な問題から極東に携わるにも限界がある。そこで，「日本をこうした共産主義勢力の防壁にしよう」と考えるようになったんだ。この「日本を共産主義の防壁にせよ」という有名な演説を行ったのが，アメリカ陸軍長官であった**ロイヤル**だ。でも，日本を共産主義の防壁にするためには，それだけの勢力に対抗できる軍事力，そして経済力を備えさせる必要がある。だから，この時期から対日占領政策の方針が，従来の「非軍事化」・「民主化」から，「**再軍備**」・「**経済復興**」・「中央集権化」という方針へと転換されるんだ。

上記の［対日占領政策の転換］にみられるように，冷戦の本格化によって，教育の現場でも共産主義勢力が拡大していく可能性が高い。そこで，1954 年に**教育二法**を制定して，公立学校の先生が共産党などの特定政党を支持したり，自民党などを dis ったりすることを禁止して，あくまでも政治的に中立な立場であるようにさせたんだ(そのため，公立学校で思想的な教育を行ってはならない)。

それから，先ほどの教育委員会も**公選制**であると，共産主義者などが影響をもつ可能性がある。そこで，**鳩山一郎**内閣時の**1956 年**に，地方自治体の首長(つまり都道府県知事など)の任命制に改めたんだ。

最後は，**第一次安倍晋三**内閣(通称ゲリＰ内閣)のもとで 2006 年に行われた**教育基本法**の改正。ゲリＰ首相は，エセ右翼というあだ名があるように，右(国家主義)寄りの人物。そのため，最近の子供たちは「愛国心」の精神が薄れているとして，教育基本法の条項に「愛国心」をわざわざ盛り込んでいるんだよね(愛国心なんて日本史を学習していれば，自然に根付くとは思うんだけどね)。

［A］明治時代の新聞・雑誌

明治時代になると，多くの新聞や雑誌が創刊されるようになるんだけど，その普及には「印刷技術」という前提条件が必要になる。江戸時代までは木版印刷といって，木版(木の版画)に文字や絵画を彫って印刷していた。［文化史講義録(前近代編)－桃山文化－］で説明した箇所を少し振り返ってみよう。

［印刷の歴史］

朝鮮侵略によって新しい印刷技術が伝来するまでは，「木版印刷」が主流だった。これは君たちが小学生の頃につくった版画と同じもの。つまり，木の板に文字や絵画を彫って，それに墨を塗って紙に刷るわけだけど，これだと新しいものを印刷したい場合には，いちいち毎回新しく彫らなきゃいけないよね。だから，非常に面倒な作業が必要なんだ。

こうした「木版印刷」に対して，朝鮮侵略によって朝鮮から伝来したのが，「活字印刷術」というものだ。ちなみに，この活字印刷の“活字”とは，本などに印刷された字の“活字”のことではない。辞書で調べてもらっても結構なんだけど，この“活字”とは印刷のために用いる版のことなんだ。これは，この版の面に，合金を使って文字とか記号を凸形にするもの。つまり，「木版印刷」は木版に彫って凹形にしたもの，「活字印刷」は“活字”という版に合金を付けて凸形にしたものということだ。

しかも，この活字印刷の優れているのは，それぞれ一字ずつに分かれているところ。どういうことかというと，「日」っていう漢字のついた“活字”があったり「本」といった漢字のついた“活字”，「根」といった漢字がついた“活字”などがいくつもあるんだ。そして，それを 2 つ組み合わせることで，“日本”という文字をつくったり，“根本”という文字に組み替えたりして，印刷することができる。つまり，漢字，仮名それぞれ一つ一つの版があって，それを組み合わせて文章をつくるわけだね。

こうした版の元となるものには，木や銅，金属があって，それをそれぞれ**木活字**とか**銅活字**，金属活字と言う。んで，特に朝鮮出兵によって伝来した印刷術は主に**木活字**で，ヨーロッパからヴァリニャーニが伝えたものは**銅活字**が主流だったんだ。ただ，後者はヨーロッパから伝わったわけだから，当然日本語の活字ではなく，“U”とか“N”，“K”，“O”といったローマ字の活字であったんだけどね。

でも，こうした新技術だったんだけど，日本では漢字とか仮名とかが多くてややこしい。ローマ字なら 26 個の活字で済むけど，日本語は平仮名だけでなく，漢字も多いから非常に面倒だもんね。あとは，木活字の場合，原料が木のため長く使用していると腐敗してくる問題点もあって，結局江戸時代の寛永期ごろからは，もともとの「木版印刷」に戻っちゃったんだ。

上記のように，江戸時代までは版画による印刷技術の「木版印刷」が主流だったんだけど，木活字を利用した「活字印刷」の新聞も発行されている。例えば，海外情報を公開するため，1862 年に江戸幕府の**蕃書調所**が発行した官版の**バタヴィア新聞**は，木活字の技術を利用しているんだ。


〔鉛製活字〕

でも，画期的な変化となったのが，1869 年にオランダ通詞であった**本木昌造**によって発明された鉛製の活字印刷技術だ。これは，今までの銅・木ではなく，右の写真のように「鉛(元素記号 Pb)」でつくった活字だから，腐敗したりすることもない。この鉛製活字の発明によって，新聞などの印刷技術は急速に進歩していくんだ。

1870 年に日本最初の日刊新聞として創刊された『**横浜毎日新聞**』を皮切りに，以下の新聞が次々に創刊されていく(『横浜毎日新聞』はよく問われるのでしっかり押さえておこう)。一瞬「やたら新聞の数が多いから覚えるの大変すぎだよ」って思うかもしれないけど，ほとんどが明治時代の自由民権運動や日清・日露戦争あたりで学習したことのある新聞だっていうことに気付くんじゃないかな？

＜明治時代の代表的な大新聞＞

1872 年『日新真事誌』……英人ブラックが創刊(1874 年の民撰議院設立建白書を掲載)
1872 年『朝野新聞』……末広鉄腸が主筆(編集長)を務めた民権派の政論新聞
1872 年『郵便報知新聞』…前島密の支援で創刊→のち立憲改進党の機関紙(矢野竜溪が社長)
1872 年『東京日日新聞』…福地源一郎が主筆(編集長)→のち立憲帝政党の機関紙
1882 年『自由新聞』……板垣退助が社長を務めた自由党の機関紙
1883 年『官報』……国の公示事項を収載した政府機関誌

以上のものは，ほとんどが自由民権運動に絡んで学習したことがあるハズだ。例えば，イギリス人のブラックが横浜で刊行した『日新真事誌』は，1874 年の民撰議院設立建白書を掲載した新聞として，史料の出典でも問われる。また，明治 14 年の政変で大隈重信とともに立憲改進党の結成にも加わったり，東京専門学校の校長を勤めた前島密の支援で創刊した『郵便報知新聞』は，立憲改進党の機関紙として学習した。さらに，立憲帝政党を結成した福地源一郎が主筆(編集長)を務めた『東京日日新聞』は立憲帝政党の機関紙として，板垣退助が社長を務めた『自由新聞』は自由党の機関紙として学習したよね。

ここまでで，新たな知識として登場するのは，『郵便報知新聞』の創刊を支援したのが前島密であることぐらいかな。あとは，自由党系の主張をしたり，立憲改進党系の主張をしたり，のちには政府系の国民協会の機関紙となった『朝野新聞』。この新聞で，政治小説の『雪中梅』を著した末広鉄腸が主筆(編集長)を務めたことが知られている。それから，政府機関紙として法律とか政令などの国の公示事項を掲載した『官報』などは滅多に問われない。

こういった自由民権運動などの民権派の政治評論を中心にした新聞を大新聞というんだけど，これらに対して，政府は 1875 年の讒謗律・新聞紙条例で弾圧していった。ちなみに，讒謗律は事実の有無を問わずに人を讒したり誹謗することを禁じた法律，新聞紙条例は政府や法律に対する新聞の非難を禁じた法律。そのため，これ以降は大新聞に代わって，1874 年に創刊された『読売新聞』や 1879 年に創刊された『朝日新聞』など，江戸時代の読売瓦版を継いだ娯楽中心の小新聞が中心になっていくんだ(政論中心で大判の大新聞に対して，娯楽中心で小型版の新聞を小新聞という)。

讒謗

なお，現在の 3 大紙の地位を築いているのが，『読売新聞』・『朝日新聞』・『毎日新聞』だけど，これらの歴史に関しては明治時代ではまったく問われない。一応説明しておくと，小新聞として 1874 年に東京で創刊された『読売新聞』は，のちに大衆新聞として全国紙へと成長していく。同じく小新聞として 1879 年に大阪で創刊された『朝日新聞』も徐々に全国紙の地位を築いていって，1888 年には東京にも進出して，『東京朝日新聞』・『大阪朝日新聞』に分かれたけど，1940 年に再び『朝日新聞』に統一した。一方で，『毎日新聞』は，『日本立憲政党新聞』を前身とする『大阪日報』という大新聞としてスタートしているんだよね。それが，1888 年に『大阪毎日新聞』として改題して創刊されて，東京にも進出して 1911 年には福地源一郎が活躍した『東京日日新聞』を買収するんだ。その後，1943 年に『大阪毎日新聞』と『東京日日新聞』を統一して，『毎日新聞』と改題した。なお，このうちの『東京朝日新聞』・『大阪朝日新聞』・『東京日日新聞』・『大阪毎日新聞』が，大正時代には発行部数 100 万部を超えることになるんだ。

一方で，日清戦争・日露戦争に絡んで，福沢諭吉が主宰(オーナーのこと)していた『時事新報』は，1885 年の支那(中国)・朝鮮などのアジアから脱し，西洋列強と進退を共にするべきと説いた『脱亜論』を掲載した新聞として学習したよね。また，黒岩涙香が創刊した『万朝報』は，幸徳秋水・堺利彦・内村鑑三といった記者が活躍していたけど，日露戦争に際して非戦論から主戦論に転じてしまった。これに社会主義の立場から反発した幸徳秋水・堺利彦らが平民社を設立して，その機関紙『平民新聞』で非戦論を展開していったよね。なお，徳富蘇峰の民友社が発行した『国民新聞』と間違える生徒がいるけど，民友社が発行した雑誌が『国民之友』で，発行した新聞が『国民新聞』と考えれば，間違えることもなくなるハズだ。

［B］文明開化

明治維新後，明治政府が近代国家を建設するために掲げたスローガンが，富国強兵・殖産興業・文明開化の3つだったよね。その**文明開化**によって，西洋式の文明・風俗・慣習などをいろいろと導入していくわけだけど，その一つが地球の公転をもとに1年を365日で計算する**太陽暦**の採用(**1872**)だ。

日本ではもともと月の満ち欠けの周期から1ヶ月と，地球が太陽の周りを一周する1年から，1年を354日で計算していく**太陰太陽暦**が使用されていた。でも，太陽暦だと1年は365日で計算するから，1年で11日のズレが生じてしまう。そこで，3年に1回だけ閏月という余分な1ヶ月を足すことで帳尻を合わせるんだ。日本では，6世紀からずっと太陰太陽暦が使用されていたんだけど，明治時代になって欧米諸国と交渉する時に面倒が生じてしまった。欧米諸国は太陽暦を採用しているけど，日本は太陰太陽暦だから，イチイチ計算し直して日にちを合わせなければいけない。そこで，**1872年12月3日**に**太陰太陽暦**から**太陽暦**を採用することになったんだ。だから，太陰太陽暦の1872年12月3日だった日に，「今日から太陽暦を採用するんで，いきなり1月1日になりますよ〜」って，太陽暦に切り替えたわけだ。でも，そんなことを言われてもわからないので，農村などでは慣れしたんだ太陰太陽暦を依然として使い続けていたんだ。

太陰太陽暦	354日	354日	354日	閏月
太陽暦	365日	365日	365日	

他にも，1日24時間制とか日曜休日制など，現在では当たり前の制度が導入されるんだけど，君たちが大好きな祝祭日が設けられたのも，この頃なんだ。例えば，神話上の初代天皇とされる神武天皇が即位した**2月11日**を**紀元節**(現在の建国記念の日)，明治天皇の誕生日である**11月3日**を**天長節**(現在の文化の日)と定めたんだ(根本の誕生日は**12月3日**)。ただし，古代の頃に宮中祭祀として重んじられた五節会(元日＝1月1日・**白馬**＝1月7日，踏歌＝1月16日・**端午**＝5月5日，豊明＝11月新嘗祭の最終日)や，民間の年中行事として江戸幕府が定めた五節供(人日＝1月7日，上巳＝3月3日，**端午**＝5月5日，七夕＝7月7日，**重陽**＝9月9日)や，年中行事などは祝日に定められなかったんだ。

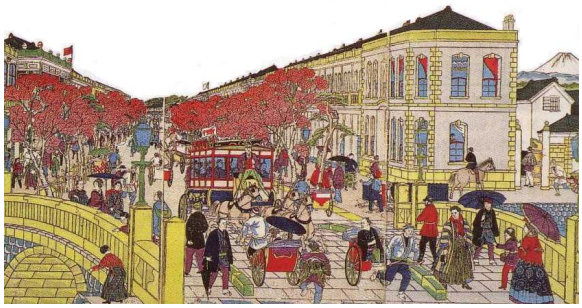
また，衣食住などの生活においても，西洋の影響を受けて変わっていく。衣生活では，1871年に明治政府が出した散髪脱刀令によって(自由に髪を切っていいし，刀を差ささなくてもいいよ，洋服にという法令)，散髪が武士から町人・農民へと普及していく。その結果，ちょんまげを切った後に，右絵のような西洋風のボサボサ頭の**ざんぎり頭**が増えていくんだ。「ざんぎり頭を叩いてみれば，文明開化の音がする。ちょんまげ頭を叩いてみれば因循姑息の音がする」なんて聞いたことがあるかな？まあ，ちょんまげは時代遅れ，ざんぎり頭は最先端ってことね。なお，洋服に関しては，役人とか先生では洋服が広がっていったけど，日常生活で洋服が浸透していくのは，戦後だったんだよね。


〔ざんぎり頭〕

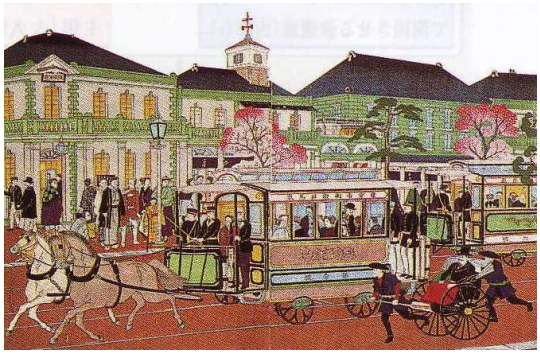
食生活では，肉食・牛乳・コーヒー・パン・バターなどの洋食が都市を中心に食べられるようになっていく。特に，牛肉に関しては，もともと日本では仏教の殺生禁止の観点から，肉食はタブー視されていた。農家にとって，牛や馬は食べるものじゃなくて，重要な働き手だったしね。でも，文明開化による影響で，右の絵のように**牛鍋**(現在のすき焼きのようなもの)が流行するんだ。仮名垣魯文が著した『安愚楽鍋』では，牛肉を食わない奴は文明開花できない奴って書かれるぐらいだから，代わり身の早いこと早いこと。


〔牛鍋(安愚楽鍋より)〕

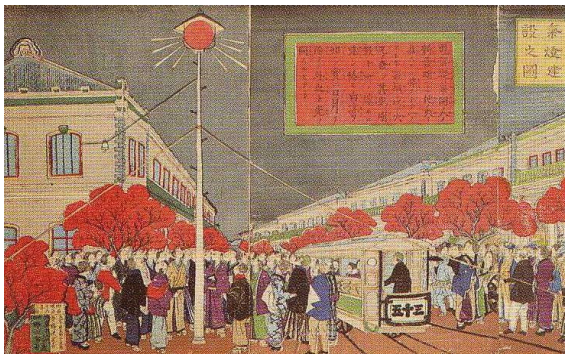
住生活では，民家は和風が主体だったものの，今までの行灯に代わって，**石油ランプ**が使われるようになっていく。以前に，センター試験で「一般家庭ではガス灯が使われるようになった」という正誤問題があったけど，それヤバいよ？一般家庭でガス灯を使ったら，一酸化炭素中毒でみんな死んじゃうからね。


〔銀座通り〕

それから，公共建築においても西洋建築が普及していくんだけど，左の絵はどこの様子だと思う？田舎に住んでいる受験生は聞いたことがない地名かと思うんだけど，東京の**銀座**という場所なんだ。このお洒落の最先端である銀座通りには，**煉瓦造**の洋風建築が建ち並んで，街路には夜でも明るいように**ガス灯**が灯るようになる。ただ，既述したように，ガス灯には一酸化炭素が含まれるので，明治末期あたりから電力による**電灯**に代わっていくんだ。そして，その電力を供給する日本最初の電力会社が，1883 年に設立されたのが**東京電灯会社**という現在の東京電力なんだよね。また，銀座通りの路面には**鉄道馬車**や**人力車**が走るようになる。**鉄道馬車**っていうのは，下の絵を見てもらえばわかるけど，レールの上を馬車が走るもの(明治初期の乗り物は，自転車や乗合馬車と呼ばれる多人数と一緒にのる馬車(路線バスの起源)があり，これがレールの上を走る鉄道馬車，さらに電車へと変わっていく)。それから，**人力車**は，京都や東京浅草などではいつでも走っているから，乗ってみるのもいいけどね。僕も浅草で乗ったことがあるけど，なかなか高くて 4000 円ほどする。なおかつ，最初は結構なスピードで走り始めるんだけど，5 分ぐらいするとバテ始めて，後は歩きながら浅草を案内してくれるだけ(浅草なら何回も行っているので知っている)，という最高のサービスが受けられるんだ。


〔鉄道馬車(左)・人力車(右)〕


〔ガス灯〕

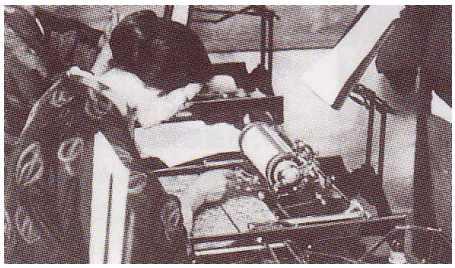

〔電灯〕

明治文化としては他には，1896 年に輸入された活動写真(映画の旧称)や，1910 年に初めて発売された蓄音機などもあるけど，ここでは覚えなくていいよ。

［C］大衆文化

明治時代には，日露戦争後の 1907 年に義務教育の就学率が 97%を超えるなど，教育が発達した(文化史講義録[教育史編]で既述)。さらに，大正時代になると，中学校を卒業した者や，高等学校の卒業者や大学卒業者が大幅に増加することになったんだ。この背景には，**高等学校令**の改正(1918)や**大学令**の発布(**1918**)といった**原敬**内閣時に進められた高等教育機関の拡充があったんだ(大学の卒業者数は 1918 年には 9000 人だったが，1930 年には 7 万人に増加している)。

こうした教育の発達によって，今まではブルーカラー(肉体労働者)がほとんどだったけど，ホワイトカラー(頭脳系労働者)にあたる事務系の職場で働く給与生活者(サラリーマン)が大量に現れることになった。また，大戦景気時に多くの女性が事務員などの職場に進出していって，**タイピスト**(タイプライターを打つ女性)・バスガール(女性車掌)・電話交換手・事務員などの**職業婦人**と呼ばれる働く女性が登場していくんだ(現在のキャリアウーマンになるね)。このような教育と活字文化の普及によって，庶民が文化の中心となっていった大正時代の文化を**大衆文化**という。


〔タイピスト〕

こうした教育を受けた人間は，情報入手のために新聞を読むよね。そのため，この時期には新聞が普及して，『東京朝日新聞』・『大阪朝日新聞』・『東京日日新聞』・『大阪毎日新聞』のように，発行部数が100万部を超える新聞も出てくるんだ。

また，新聞だけじゃなく，雑誌も普及するんだけど，その雑誌のジャンルにも**総合雑誌**・文化雑誌・経済雑誌・大衆雑誌といったように様々なものが登場する。まず，**総合雑誌**というのは，政治・経済・社会・文化全般といったオールマイティな内容を掲載したもので，その代表格が1887年に創刊された『**中央公論**』だ。『中央公論』といえば，**1916年**に**吉野作造**の「**民本主義**」を掲載した雑誌として習ったことがあるよね。また，『中央公論』と並ぶ総合雑誌として，1919年に**山本実彦**が創立した**改造社**が発行した総合雑誌が『**改造**』(山本実彦は戦後に日本協同党の委員長に就任した)。この雑誌に志賀直哉の『暗夜行路』や，火野葦平の『麦と兵隊』が掲載されたり，後述する円本ブームの火付け役になったのも改造社なんだよね。

一方，自由主義からマルクス主義まで思想を中心とした文化雑誌の代表格が，1919年に**長谷川如是閑**・**大山郁夫**・河上肇らが創刊した『**我等**』。ちなみに，メンバーの思想は多種多様だね。ジャーナリストの**長谷川如是閑**が自由主義者(リベラリスト)であるのに対して，大山郁夫・河上肇は共産主義者(マルクス主義者)だからね。なお，**大山郁夫**といえば，1928年の三・一五事件で結社禁止とされた左派(共産主義系)の労働農民党の委員長でもあった人物(通史でも学習している)。河上肇は，1917年に『貧乏物語』を著したマルクス経済学者で，のちに自らも共産主義(マルクス主義)に傾いていって1932年に日本共産党に入党している(河上肇は[大正時代の学問]では超重要人物になる)。

経済を中心とした経済雑誌では，1895年に創刊された『**東洋経済新報**』が特に有名だね(現在もビジネス書などの経済専門雑誌を発行している)。この『東洋経済新報』の記者として活躍して，戦後の1956年に首相になったのが早稲田大学出身の**石橋湛山**。明治～大正時代の日本は，帝国主義(領土を拡大していく膨張主義的な政策)の考えから台湾・朝鮮・満州利権など植民地を拡大していったけど(これを大日本主義という)，それに対して，石橋湛山は「朝鮮・台湾などの植民地を全部捨てちまいな」っていう**小日本主義**を唱えたことで知られている。「何言ってんだ？こいつ」って思ったかもしれないけど，この考えはなかなか面白いんだ。例えば，イギリスが持っている植民地のインドは大きなメリットがあるかもしれないけど，日本が持つ植民地の朝鮮・台湾・樺太・満州利権はコストもかかるし，大したメリットがない(メリットは市場ぐらい)。だから，朝鮮・台湾などの植民地を全部放棄しちまえ，植民地を解放すれば，それらの地域と友好関係も築けるし，貿易を発展させて，経済的に進出していくことができるぞって説いたんだ。ゆえに，日本が第一次世界大戦で青島を占領した際には「いらんわ！」と，ワシントン会議においても「軍縮だけじゃなくて植民地も全部捨てちまえ」と『東洋経済新報』の社説で述べているんだ。

このような専門的な雑誌に対して，大衆用に娯楽を中心にした雑誌が大衆雑誌。その中で，1925年に大日本雄弁会講談社(現在の講談社)が創刊し，毎月の発行部数が100万部を超えたのが『**キング**』だ(初めて100万部を超えた国民的な雑誌)。中身は，「面白くてためになる」というフレーズで，子供から老人まで万人受けするように，大衆小説・ノンフィクション物・実用知識・笑い話，さらに付録までつけちゃう，つまり，とりあえず全部入れとけって感じだね。なお，太平洋戦争中の1943年に『キング』が敵性語という理由から『富士』に改題されたんだけど，戦後には振るわなくなって廃刊になっちゃっている。



〔『**キング**』〕

子供を対象にした雑誌が児童雑誌。この代表格の**鈴木三重吉**によって1918年に創刊された『**赤い鳥**』は，3度目の登場になるからもうそろそろ覚えただろう。『蜘蛛の糸』とか『ごんぎつね』などの子供用の童話を掲載していた雑誌だね。

このような毎月発行された雑誌に対して，毎週発行されたのが週刊誌。現在でも週刊誌の老舗である朝日新聞が発行している『週刊朝日』(1922～)や，毎日新聞が発行している『サンデー毎日』(1922～)も，大正時代から始まったんだ。

さて，読書欲の強い人は，雑誌よりも多くの文学作品を読みたいハズだ。こうした人々の希望に応える形で，大正以降からブームになったのが 1 冊 1 円という比較的安価で販売された**円本**だ。これは『現代日本文学全集』(**改造社**が出版)，『世界文学全集』(新潮社が出版)，『世界大思想全集』(春秋社が出版)などの文学全集を，毎月一冊のペースで発行していったもの。まあ，1 円と言っても，この時代の大卒初任給の平均が 50 円程度だったから，現在に換算すると 4000 円ほどするんだけどね(まあまあ高えじゃねえか!!)。

＜現代日本文学全集＞
第 1 編…明治開花期文学集
第 2 編…坪内逍遥集
第 3 編…森鴎外集
第 4 編…徳富蘇峰集
第 5 編…三宅雪嶺集
第 6 編…尾崎紅葉集
以下 ry(全 63 巻)

そして，この円本に触発されて，『万葉集』などの古今東西の古典も廉価で手軽に買えるように，岩波書店が刊行した文庫本が**岩波文庫**なんだ。つまり，文庫本を初めて発行したのが岩波書店ということだね。

教育・産業の発達によって，職場に進出していった働く女性を職業婦人と言ったよね。そうした職業婦人の中で，西洋文化の影響を受けて，髪型はショートカット，短いスカートをはいた右の絵のような新しい女性などが現れるようになる。こうした，その当時の最先端の格好をして，街中を闊歩した女性を**モダンガール**(略して**モガ**!!)と言うんだ。また，男性の場合は山高帽子・セーラーズボンをはいた**モダンボーイ**(略して**モボ**!!)と言うんだ。


〔モダンガール(モガ)〕

「ダサっ!!」って思ったでしょ？たぶん，今と同じように，こういう人たちって本人自身はオサレ最先端を気取って，モガ・モボと呼ばれるのを心地いいと感じていたんだろうけど，世間的には軽蔑的な意味で用いられる。だから，実際はほとんどの女性が和装で，モガは少数派のレアキャラだったんだよね。

あと，食生活では，日本人の口に合うようにアレンジを加えて，**トンカツ・カレーライス**・コロッケ・オムライスなどの洋食が家庭料理として普及していく。まぁ，もちろんこんなトンカツ・カレーライスなんて全く問われないけどね。

それから，都市や交通機関の発達・都市への人口集中・産業の発達による国民の所得が増加したことなどを背景に，大量販売に対応した**百貨店(デパート)**が次々に設立されていったのも大正時代の特徴だね。日本最初の百貨店として 1904 年に誕生した三越(三井越後屋)を皮切りに，大丸・松坂屋(2008 年に大丸・松坂屋は経営統合)・高島屋・伊勢丹・阪急などの百貨店が誕生したのは，この頃からなんだ。

さらに，住生活に大きな影響を与えたのは，1923 年 9 月 1 日に起きた関東大震災だ。この震災で，煉瓦造などの多くの建物が倒壊する中で，1923 年 2 月に完成した**丸の内ビルディング**(通称**丸ビル**)などの鉄筋コンクリート造の建物はほとんど被害がなかったんだ(関東大震災の死者の多くは，地震よりも地震後の火災によるものだった)。そのため，関東大震災によって鉄筋コンクリート造の耐震性が実証されて，これ以降，都心では鉄筋コンクリート造のビルが相次いで建造されていくんだ。


〔丸の内ビル〕

一方，人口の多い郊外で流行したのが，**文化住宅**と呼ばれる和洋折衷の市民住宅だ。これは，和風の玄関脇に洋風の応接間をおいて，居間・茶の間，電気・ガス・水道などが完備されていたんだけど，この頃から石油ランプに代わって，**電灯**が一般家庭に普及していくんだ。なお，その電灯を点ける時に消費されるのが電力でしょ？大正時代の大戦景気の頃には，工業原動力が今までの**蒸気力**から**電力**に代わっていったよね(ただし，この当時の電力は，現在のような火力発電や原子力発電ではなく，水力発電が中心)。その電力を供給したのが，1915 年に福島県の猪苗代湖から，東京への送電に成功した**猪苗代水力発電所**などだったんだ。



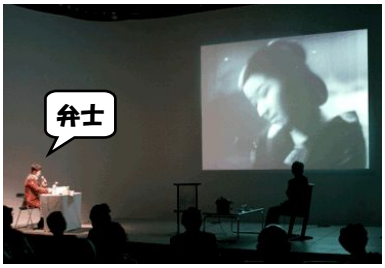
〔文化住宅〕

ラストは，庶民の娯楽となったラジオ・映画だね。1923 年に関東大震災が起きた時に，ラジオがあれば，デマとかも最小限に抑えられたんだろうけど，残念ながらラジオ放送が開始されたのは **1925 年**。1925 年といえば，日ソ基本条約・治安維持法・普通選挙法が成立した大正時代最後の年なんだから，これはしっかりと覚えておこう。

そのラジオを最初に放送したのが，東京放送局っていうんだけど，これは特に聞かれない(現在の TBS＝東京放送とは何の関係もない)。その東京放送局と大阪放送局・名古屋放送局の 3 社が統合して，1926 年に成立したのが今日(こんにち)も続く**日本放送協会**(ＮＨＫ)なんだ。

その後，ラジオ体操とか **1915 年**から始まっていた全国中等学校優勝野球大会(現在の高校野球)や，1925 年から始まった東京六大学野球の中継放送などで聴取者を増やしていって，1931 年にはＮＨＫの契約者数は 100 万人を超えることになった。そして，1945 年 8 月 15 日の**玉音放送**で，天皇による終戦の詔書がラジオを通じて読み上げられて，国民たちは天皇の肉声を初めて聞くことになるんだ。なお，戦後の 1951 年からラジオの民間放送も始まっていくんだけど，テレビ放送が開始された **1953 年**以降は，聴取率が低下していくことになる。それに対して，初の国産テレビアニメとして**手塚治虫**原作の『鉄腕アトム』が 1963 年から放送されて人気を博すなど(年代整序問題でも問われるのでセンターレベルでも気をつけておきたい)，テレビ放送はどんどん視聴率が上昇していくことになるんだ。

続いて，大衆の娯楽として定番化したのが映画だ。映画は，1896 年に日本に初めて輸入された当時は，**活動写真**って呼ばれたんだけど，この頃は『チャップリン』などのように，音声の出ない**サイレント(無声映画)**を弁士というナレーターみたいな人が解説するものだったんだ。これが，昭和時代の 1931 年から音声の出る**トーキー**(発声映画)と呼ばれる有声映画が登場して，戦後の 1951 年から現在と同じカラー映画に変わんだ。



〔活動写真〕

最近では，衰退の傾向にあるのが映画業界だけど，戦後初期は映画の黄金時代で，テレビが普及する 1960 年代以前は，日本映画の三大巨匠に数えられる以下の 3 人がいたよね(文化史講義録[思想史編]戦後の文化で既述)。

＜三大巨匠(映画監督)＞

①**黒澤明**(くろさわあきら)……1950 年に『羅生門(らしょうもん)』でベネチア国際映画祭グランプリを受賞。
『羅生門』・『生きる』・『七人の侍』などが代表作(1998 年に国民栄誉賞を受賞)。

②**溝口健二**(みぞぐちけんじ)……1952 年に『西鶴一代女』でベネチア国際映画祭国際賞を受賞。
『西鶴一代女(さいかくいちだいおんな)』・『雨月物語』・『山椒大夫』などが代表作。

③**小津安二郎**(おづやすじろう)…1953 年に公開された『東京物語(とうきょうものがたり)』で世界的な評価を受ける。

［A］西洋画(明治時代)


『鮭』
by高橋由一

ペリーの来航で日本が開国して以降，多くの欧米人が横浜などの開港場に訪れるようになった。その中で，『ロンドン・ニューズ』の特派員として来日していたイギリス人の**ワーグマン**という人物から西洋油絵を学んだのが**高橋由一**だ。洋画を習い始めた頃は，吉原の花魁を描いて「私の顔はこんなじゃない」と泣かせたといわれるんだけど，その後に洋画を習得した彼が描いた傑作が『鮭』だ。

高橋由一は独自に西洋画を求めていったけれども，他の人が自己流で西洋画を習得していくには，やはり限界がある。そこで，文明開化のスローガンのもと欧化をめざす明治政府は，**工部美術学校**という西洋美術の教育機関を 1876 年に設立したんだ。当然，この機関は学校にあたるわけだから，そこで絵画や彫刻を教えるための先生が必要だよね。そして，その指導にあたるための先生には，やはり芸術の国から先生を呼ぶのが良い。そこで，イタリアから画家の**フォンタネージ**と彫刻家の**ラグーザ**がそれぞれ指導にあたった。ただ，この当時は欧化政策の影響で西洋画賛美の風潮だったから良かったんだけど，のちに欧化政策への反動から，日本の伝統などを尊重する国粋主義などの民族主義が台頭していったよね(文化史講義録[近現代編]思想史で既述)。そのため，工部美術学校は 1883 年に廃校となっている。

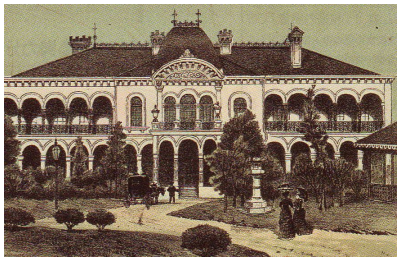
この工部美術学校で指導にあたったフォンタネージは来日後に体調を崩してしまったため，2 年後に日本を去ってしまったけど，その短期間に彼から西洋画を学んだのが**浅井忠**だ。そして，この浅井忠を中心にして結成された最初の美術団体が**明治美術会**なんだけど，たぶん「美術団体」ってイメージがわかりづらいよね？ほら，絵画や彫刻など何でもいいけど展覧会って行ったことあるかな？画家が自分の作品とかを発表する時って，よっぽど有名で個人展覧会(個展)を開くことができるレベルであれば話は別だけど，一人で展覧会を開くのはやっぱり難しいでしょ。そこで，自分の作品を発表するために，それぞれの画家がグループを組むわけだ。それが，浅井忠や小山正太郎・松岡寿など工部美術学校出身の画家を中心にして 1889 年に結成された最初の美術団体が**明治美術会**になるわけだ。


『収穫』by**浅井忠**

この明治美術会の中心人物の浅井忠が描いた代表作が，日本の農民の生活を油絵で描いた『収穫』なんだけど，この作品なんか暗いよね～。もうちょっと明るい色を使ってもいいと思うけど，浅井忠ら明治美術会の画家は**脂派**と呼ばれる，こうした暗い色調の画風が特徴的なんだ。

［建築史(明治時代)］

工部美術学校は，工部省が管轄した工部大学校に付属する形で設けられた。その工部大学校では(現在の東京大学工学部の前身)，土木・建築・機械・造船・化学などを学ぶことができたんだけど，その教授として来日したのがイギリス人の建築家**コンドル**だ。コンドルといえば，有名な東京日比谷の**鹿鳴館**(条約改正交渉のために建築された国際的社交場)や，東京神田の駿河台にある**ニコライ堂**(日本正教会の大聖堂)を設計したことで知られている。そのコンドルから洋風建築を学んだのが**日本銀行本店**・**東京駅**(2012 年に 100 年前の姿に復元された)を設計した**辰野金吾**と，赤坂離宮(現在の迎賓館)を設計した**片山東熊**なんだ。


〔鹿鳴館〕

＜覚え方＞
辰野きんご＝日本ぎんこう

暗い色調の画風である脂派に対し，外光派と呼ばれる明るい色調の画風を特徴としたグループが，黒田清輝や久米桂一郎などが結成した白馬会だ。例えば，右の黒田清輝の代表作である『湖畔』・『読書』・『舞妓』を見てみると，浅井忠の『収穫』に対して，明るい絵だなってわかるでしょ？


『湖畔』
by黒田清輝


『読書』
by黒田清輝

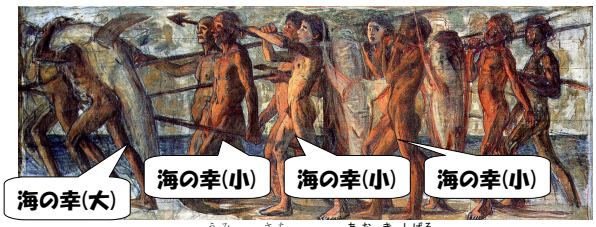

『舞妓』
by黒田清輝

この黒田清輝は養父が明治維新の功績者であったため爵位を授かったという特権貴族の出身。…何か，この時点でボンボンということでムカつく(貧乏人の僻み)。そして，フランスへと留学して，フランス印象派の画風をラファエル・コランという先生から学んで帰国したんだ(ラファエル・コランは日本で有名なだけで，西洋では有名ではない)。…留学という時点で更にムカつくよね(貧乏人の妬み)。そして，このフランスから帰ってきた後に，同門の久米桂一郎とともに 1896 年に結成したのが白馬会になるわけど，これは「フランス」→「お洒落(オサレ)」→「オサレな白馬」→「白馬会」という，ボンボン特有の~~ひけらかし~~が出ているよね(貧乏人の嫉み)。まぁ，つまり没落貴族出身の僕からすると，ボンボンの黒田清輝は大嫌いなわけでしてね。そんな黒田清輝などのボンボンには僻み・妬み・嫉みしかないのである。

まぁ，でも世間はこのフランス帰りのオサレ黒田清輝に期待満々ですわ。
「フランスから黒田清輝が帰ってきたらしいぞ。」
「マジか。フランスったらオサレの本場でねえか。」
「しかも，白馬会なんちゅう格好良い名前の団体作ったらしいぞ。」
「マジか。そんじゃあ，オラもその白馬会に入って西洋画を学んでみっか。」
という感じで，白馬会は大ブレイクして，一躍日本の西洋画の中心団体となっていったんだ(明治美術会はこれに対抗して 1901 年に解散して，同年に太平洋画会を結成しているが覚えなくてよい)。


『天平の面影』
by藤島武二

その黒田清輝に学んで白馬会に参加したのが，『海の幸』を描いた青木繁や，『天平の面影』を描いた藤島武二(正確には藤島武二は弟子ではなく黒田清輝の友人で白馬会の創立に参加)，『渡頭の夕暮』を描いた和田英作，『南風』を描いた和田三造などだ。なお，その中で最も有名な青木繁の傑作『海の幸』は，漁師たちが持ち帰ってきたサメという「海の幸(大)」と比較する形で，自分たちのウツボ(チ〇コ)とかワカメ(チ〇毛)といった「海の幸(小)」をお股にぶら下げている様子を描いたものなんだ。



『海の幸』by青木繁


『渡頭の夕暮』by和田英作


『南風』by和田三造

［B］日本画(明治時代)

文明開化による「西洋文明サイコー！」の風潮によって，明治時代には日本画は大きく衰退してしまった。その一方で，幕末の開港後にヨーロッパへ流出した葛飾北斎や喜多川歌麿などの浮世絵が，ゴッホ・モネ・ゴーギャン・ルノワールなどに絶大な影響を与え，フランスを中心としたヨーロッパで**ジャポニスム**(**ジャポニズム**)の流行が起きたのは何とも皮肉なことだよね(1867 年にフランス**パリ**で開催された万国博覧会に日本が初めて参加し，これをきっかけにヨーロッパでは浮世絵・有田焼などの日本ブームが巻き起こった)。

日本人が西洋画を賛美し，欧米人が日本画を賛美するという矛盾した状況の中で，東京大学に哲学を教えるために来日したお雇い外国人がアメリカ人の**フェノロサ**だった。

［フェノロサの活動］

日本美術に関心をもったフェノロサは，各地の美術作品を見て回っている。その功績の一つが，飛鳥文化の頃に制作された聖徳太子の等身像といわれる『法隆寺夢殿救世観音像』を初めて調査したこと。…といっても，当時は布でグルグル巻きにされていて，秘仏とされていたからその姿を見ることはできなかった。でも，フェノロサは「ワオ，もったいないデース！素晴らしい仏像ならぜひ見てみたいデース！」と布を取り始めた。「やめてください！秘仏なんです！やめてください！」と坊主が止めようとしても関係ない。「よいではないか…よいではないか」って感じでお披露目されたのが，『法隆寺夢殿救世観音像』だったね(文化史講義録[前近代編]参照)。それから，白鳳文化の頃に建立された薬師寺東塔を見て，「ワオ，この建物にはオタマジャクシ(音符)が見えるデース！これはまさに凍れる音楽デース！」って言ったこと…(文化史講義録[前近代編]参照)。ちなみに，薬師寺東塔の各層には裳階があるから三重塔であり，屋根の上には水煙が配されていたよね。

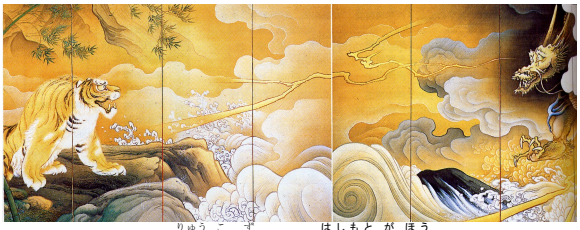

〔法隆寺夢殿救世観音像〕


〔薬師寺東塔〕


『悲母観音』by狩野芳崖

哲学者として来日したフェノロサは，上記のように日本美術に高い関心を持っていた。そして，ジャポニスムの影響を受けたヨーロッパの人々と同じように，伝統的な日本美術のことを非常に高く評価していたんだ(この頃には三宅雪嶺の唱えた国粋(保存)主義のように国粋復興の気運が高まっていた)。そこで，教え子の岡倉天心と共に，1887 年に官立の東京美術学校を設立して，日本画を中心とした教育に取り組んだんだ(戦後に東京美術学校は東京音楽学校と合併して東京芸術大学となる)。なお，1890 年に帰国したフェノロサは，ボストン美術館の東洋美術部長となって，せっせと日本美術の収拾に努めよった。そのため，**ボストン**美術館には葛飾北斎の浮世絵や陶磁器など多くの日本美術が展示されているんだ。

そのフェノロサに認められて，東京美術学校の創立に尽力したのが，狩野芳崖と橋本雅邦だ(どちらも狩野派の末裔にあたる)。それぞれ，狩野芳崖は『悲母観音』(1888)，橋本雅邦は『竜虎図』(1895)を描いているけど，『竜虎図』はマジでかっこいいよね！


『竜虎図』by橋本雅邦

そして，この橋本雅邦から日本画を学んのが(狩野芳崖は東京美術学校の開校目前に亡くなったため)，**横山大観**・**下村観山**・**菱田春草**といった東京美術学校の卒業生たちだったんだ(横山大観・下村観山・菱田春草はいずれも同期で，卒業後に東京美術学校の教師となった)。

ところが，日本美術を中心とした東京美術学校は官立の美術学校として設けられため，1896 年に西洋画科が設けられることになった(当時の文相西園寺公望と親しい黒田~~性器~~清輝が政治的権力を利用した)。そして，その教授として黒田~~性器~~清輝がやってきて，日本美術派と西洋美術派の対立する中で，校長の岡倉天心は辞職に追い込まれてしまったんだ。それに怒ったのが橋本雅邦・横山大観・下村観山・菱田春草ら教師陣。そして，彼らも一緒に辞職して，1898 年に**岡倉天心**と共に在野の美術団体として**日本美術院**を創立したんだ。まあ，簡単に言えば，黒田~~性器~~清輝ら西洋画グループによって辞職に追い込まれた岡倉天心と共に，日本画の先生たちも一緒に辞めて，民間の美術団体である日本美術院をつくったっていうことだね。

そして，その日本美術院に移った**横山大観**が描いたのが『無我』(1897)・『生々流転』(1923)，**下村観山**が描いたのが『大原御幸』(1908)，**菱田春草**が描いたのが『落葉』(1909)・『黒き猫』だったんだ。



『**無我**』by**横山大観**



『生々流転』by横山大観



『大原御幸』by下村観山



『**黒き猫**』by**菱田春草**

西洋画では，「旧派」の明治美術会(のち太平洋画会)と「新派」の黒田清輝による白馬会が対立し，日本画では「旧派」の日本美術協会(1879 年に設立された美術団体)と「新派」の岡倉天心による日本美術院が対立するなど，明治時代中期には民間の美術団体の対立がひどくなっていた。そして，それぞれの民間の美術団体が活動をすると，国家としてはコントロールしづらい。それだったら，西洋画だろうが日本画だろうが彫刻だろうが，国家による展覧会を開いてコントロールしちまえばいい。そこで，各団体の対立を調整する目的もあって，第一次西園寺公望内閣の文相**牧野伸顕**(大久保利通の次男)によって，文部省美術展覧会(略して**文展**)という文部省が主催する展覧会が開かれたんだ。これは，日露戦争後に強化された国家主義思想に基づいて，美術関係も国家が統制して，国家による展覧会を開いてしまおうってこと。だから，これによって，明治美術会(太平洋画会)・白馬会・日本美術院・日本美術協会などの画家たちも，この文展に参加することになるわけだね(その後，文展は 1919 年に帝国美術院展覧会(略して**帝展**)に代わり，戦後の 1946 年に日本美術展覧会(**日展**)へ引き継がれている)。


『黒船屋』
by竹久夢二

なお，その文展・帝展で活躍した画家としては，西洋画では岸田劉生(のちにフューザン会を結成)，日本画では『アレタ立に』を描いた**竹内栖鳳**や，鏑木清方(代表作は『築地明石町』など)・川合玉堂(代表作は『彩雨』など)がいるけど，ここでは竹内栖鳳を知っておくだけで十分だね。また，文展には西洋画・日本画だけじゃなく，彫刻も出品されるので，新海竹太郎や朝倉文夫のように文展で受賞した彫刻家もいる。

また，大正時代に抒情的な作品で一世を風靡したのが抒情画家の**竹久夢二**だ。抒情画家ってのは，一般的な画家とは違って，雑誌の挿絵などを描いた画家たちのこと(イラストレーターみたいなもの)。特に竹久夢二の作品には『黒船屋』のような美人画が多いので，大正時代の浮世絵師って考えてくれるとわかりやすいかな。

［彫刻史(明治・大正時代)］


『女』by荻原守衛

1876 年に工部省によって設立された工部美術学校教師として招かれたイタリア人が，画家のフォンタネージと彫刻家の**ラグーザ**だったよね。でも，フォンタネージに学んで有名になった洋画家といえば浅井忠がいたけど，ラグーザに学んで有名になった彫刻家は特にいない(dis っているつもりはない)。

例えば，『女』・『抗夫』といったブロンズ像で有名な**荻原守衛**は，留学先のフランスでみたロダンの『考える人』に感化されたのがきっかけだし，『ゆあみ』を制作した**新海竹太郎**も，留学先のドイツで学んだだけだしね。さらに，大正時代に『墓守』や早稲田大学にある『大隈重信像』などを制作した**朝倉文夫**は，新海竹太郎に学んでいる。だから，ラグーザは名前だけは有名だけど，彼が残した功績というのは，石膏という彫刻の造り方を日本人に教えたぐらいで，大した影響を与えたわけでもないんだ(そんなに dis っているつもりはない)。

一方，ブロンズ像のような西洋美術に対して，日本美術の伝統には木彫像がある。そうした伝統的な彫刻を重視したのが岡倉天心なんだ。…またお前かい！ってツッコミたくなるけど，彼が居なかったら伝統的な日本画や木彫像といった日本美術は衰退してしまった可能性もあるんだよね。


『老猿』by高村光雲

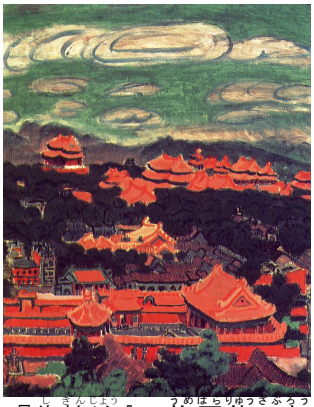
そして，その岡倉天心が設立した東京美術学校の彫刻科に講師として招かれたのが近代木彫の祖**高村光雲**だ(大正時代に『道程』を著した詩人高村光太郎の父)。その傑作が写真の『老猿』や東京上野公園に建っている『西郷隆盛像』なんだ(原型となる木型を制作したのが高村光雲)。なお，大正時代には高村光雲に木彫を学んだ**平櫛田中**が，『転生』・『五浦釣人』などを制作しているけど，苗字が「平櫛」なのか「田中」なのかわからないから放っておこう(つまり，ほとんど出題されない)。

［D］大正時代の美術(西洋画・日本画)

さて，国家による美術博覧会として文展(文部省美術展覧会)が開かれたわけだけど，これは西洋画や日本画の各団体を統合させた形になるわけだよね。つまり，各団体を合体させるわけだから，これをドラゴンボールで例えると，何にあたるかはすぐにわかるよね。「フュージョン！(生徒の声)」…そう，フュージョンだ！フュージョンといえば，同じぐらいの戦闘力の者が合体すると戦闘力が何倍にもなる必殺技で，孫悟天とトランクスが合体してゴテンクスとなったのが有名だ(これ常識)。他にも孫悟空とベジータが合体したベジットもあるけど，あれはポタラを使ったやつだからね(これも常識)。そして，魔人ブウを一時コテンパンにしたけど，フュージョンには問題点があった。さて，フュージョンが続けられる時間は，何分が限界だったでしょうか？「確か…，30 分！(生徒の声)」…正解！そう，フュージョンは 30 分しか持たないんだ(これは少し難しい)。だから，文展(文部省美術展覧会)も各団体を合体させたフュージョンと同じようなものだから，だいたい 30 分ぐらい経つとフュージョンが解けてしまう。そして，その文展という合体がとけて，1912 年に**岸田劉生**・高村光太郎(高村光雲の子)らによって結成されたのがフュージョン会，もとい**フューザン会**だ(ダジャレはダメなんですか？)。

…ちゃんと説明しろ，という声もありそうなので，面倒くさいけどちゃんとした説明もしておこう。結局ね，離婚の原因としてもよくある価値観の相違なんだよね。例えば，日本画では，保守的な「日本美術協会」と岡倉天心らの革新的な「日本美術院」の対立があり，洋画では，「太平洋画会(明治美術会の後身)」と黒田清輝らの「白馬会」の対立があった。それらを統合する形で文展(文部省美術展覧会)が開かれたわけだけど，審査員メンバーの人事の問題(審査員に旧派が多い or 新派が多いなど)や，作風などの価値観の対立，派閥争いなどでまとまりづらかったんだよね。

例えば，日本で有名なだけで，そんなに絵の上手くないラファエル・コランに印象派を学んだのが，白馬会を結成した黒田清輝だった(黒田清輝を dis っているつもりはない)。でも，ゴッホ・ゴーギャン・セザンヌなどの後期印象派(ポスト印象派)の影響を受けて，ヨーロッパから帰国した若手画家にとっては「そんなん印象派ちゃうわ！」って感じだ。そして，フランス留学から帰国した若手画家によって 1912 年に結成されたのが，フューザン会(フランス語で木炭の意味)なんだ。まあ，翌年すぐに解散しちゃっているけどね。


『紫禁城』by梅原龍三郎

つまり，ヨーロッパに留学して「本物」に触れてしまった「新派」の若手画家たちは，今までの黒田清輝ら「旧派」の日本洋画なんてハナクソだったわけだね(ちょっとだけ黒田清輝を dis っている)。でも，文展に出品しようとしても，今までのハナクソ「旧派」のせいで審査に通らない。そこで，日本画部門が日本美術協会による保守的な「旧派」と日本美術院による革新的な「新派」という二科に分けられていたので，洋画部門も同じように，黒田清輝らのハナクソ「旧派」と，「本物」を見てきたヨーロッパ帰りの「新派」の二科に分けてくれよ，とお願いをしたんだ。ところが，ハナクソ「旧派」の親玉黒田~~性器~~清輝に一蹴されてしまった。



『金蓉』by安井曽太郎

これに怒った**梅原龍三郎**ら若手画家たちが文展から離脱して，1914 年に結成した在野の美術団体が**二科会**なんだ(旧派・新派による二科の設置を要求していた若手が結成したから二科会というわけだ)。そして，その二科会に参加した**梅原龍三郎**が『紫禁城』，**安井曽太郎**が『金蓉』を発表している。ちなみに，『紫禁城』は明王朝・清王朝の王宮で，『金蓉』とは，モデルとなった小田切峰子から「金」＝美しい，「蓉」＝山(峰子)という意味らしい(ただのババアじゃねえの？)。なお，二科展(二科会による展覧会)は，現在も続いていて，最近では工藤静香(ババア)とか押切もえ(整形疑惑)，乃木坂 46 の若月佑美(キスプリ流出)が二科展に入選したりしている(二科展も堕ちたもんだな…，そろそろ俺も出品しようかな)。

文展に対して西洋画部門で反発が起きたように，日本画部門でも反発が起きる。日本画の中心といえば岡倉天心がつくった日本美術院だったけど，その中心人物だった横山大観・下村観山も文展にずっと不満を持っていた。そして，岡倉天心(1862～1913)が亡くなってから一周忌を契機に，岡倉天心の意志を引き継ぐ形で文展から離脱する(横山大観は終生，岡倉天心を敬愛していた)。こうして，1914 年に**横山大観・下村観山**によって**日本美術院**が再興されることになったんだ。めでたしめでたし(日本画贔屓の僕としてはホント良かった)。なお，再興された日本美術院には『日食』を描いた**安田靫彦**や，『髪』を描いた**小林古径**も参加しているんだけど，全然問われないから覚えなくていい。

そして，その日本美術院による展覧会として，日本美術院展覧会(略して**院展**)が 1914 年から始まるんだけど，これは国家による文展に対抗したものだ。だから，当初は日本画部門だけじゃくて洋画部門や彫刻部門も設けられていたんだよね。でも，もともと日本美術院は日本画専門だから，洋画のことはわかってない…。そのため，院展に出品していた洋画家たちは日本画部と対立して，そこから脱退して 1922 年に**春陽会**という洋画団体を設立しちゃったんだ。



『麗子像』
by**岸田劉生**

その中心人物が**岸田劉生**なんだけど，代表作『**麗子像**』は一度見たら忘れられない。写真の『麗子像』は「麗子微笑」という画題が付けられているんだけど，「これ本当に微笑んでいるの？」って思うでしょ。この麗子という女の子は，岸田劉生の愛娘で(愛子さまじゃないよ!!)，劉生は 38 歳で亡くなるまで『麗子像』を描き続けたんだ。だから，現存するものだけでも『麗子像』は 5 歳の麗子から 16 歳の麗子まで 50 点ほどある(この写真の「麗子微笑」(1921)は麗子 8 歳の時のもの)。そして，その数多ある『麗子像』は全国各地に散らばっているんだけど，2011 年に大阪市立美術館で全国各地の『麗子像』が集まった「麗子，いっぱい。」というキャッチコピーの「岸田劉生展」が開かれたんだ(展示終了後，全国各地へ帰郷したそうな)。

劉



『麗子五歳之像』
(1918)



『麗子坐像』
(1919)



『麗子裸像』
(1920)



『麗子微笑』
(1921)



『麗子洋装之図』
(1921)



『野童女像(麗子喜笑像)』
(1922)



『童女図(麗子立像)』
(1923)



『麗子十六歳之像』
(1929)

麗子，いっぱい。君はどの麗子が好き？僕は『麗子裸像』と『野童女像(麗子喜笑像)』が好き。…まあ，12 年間も描かれていたら，麗子もこんな顔になるわな。でもね，その岸田麗子はその後に画家となっていて，その娘の岸田夏子も画家になっている。

［E］音楽史

1887 年に官立の美術学校として東京美術学校が設けられたように，同年に官立の音楽学校として設けられたのが文部省の音楽取調掛を前身とする**東京音楽学校**だ(1949 年に東京美術学校と東京音楽学校が合併し，現在の東京芸術大学となった)。その東京音楽学校の初代校長となり，西洋音楽を日本に導入したのが**伊沢修二**。例えば，小学校の音楽の授業では，「兎追いし彼の山，小鮒釣りし彼の川」ではじまる『ふるさと』などを歌ったでしょ？そういった西洋風のメロディに忠君愛国や花鳥風月を織り込んだ歌詞を合わせた**唱歌**を小学校の授業に採用したのが伊沢修二なんだ。

＜小学校教育の代表的な唱歌＞

『蝶々』(蝶々蝶々菜の葉に止まれ)……欧米の童謡を伊沢修二が紹介
『荒城の月』(春高楼の花の宴)……作曲：滝廉太郎
『花』(春のうららの隅田川)……作曲：滝廉太郎
『箱根八里』(箱根の山は天下の険)……作曲：滝廉太郎
『赤とんぼ』(夕焼けこやけの赤とんぼ)……作曲：山田耕作
『この道』(この道はいつか来た道)……作曲：山田耕作　※現在は教科書から消えている
『からたちの花』(からたちの花が咲いたよ)…作曲：山田耕作　※現在は教科書から消えている
『シャボン玉』(シャボン玉飛んだ)……作曲：中山晋平

そして，明治～昭和(戦前)までの作曲家・作詞家・歌手は，みんなこの東京音楽学校の卒業生なんだ。例えば，明治時代に『荒城の月』・『花』・『箱根八里』などを作曲した有名な**滝廉太郎**も，大正時代に，『赤とんぼ』・『この道』・『からたちの花』を作曲した**山田耕筰**，『シャボン玉』などを作曲した中山晋平も東京音楽学校の卒業生。でも，こういった名曲が現在の小中学校の教科書から消えつつある現状は，日本文化の喪失とも言えるんじゃないかな。

なお，『シャボン玉』を作曲した**中山晋平**は，大正時代の流行歌『カチューシャの唄』を作曲したことの方が有名だね。これは，島村抱月と松井須磨子が結成した芸術座(1913)で，1914 年に演じられた『復活』という演劇の劇中歌として『カチューシャの唄』を松井須磨子が歌ったことで大ヒットしたんだ(文化史講義録[近現代編]演劇史でも後述する)。あとは，他にも昭和時代に作詞家の**西条八十**とのコンビで，流行歌『東京音頭』・『東京行進曲』を作曲したことでも知られているね。


〔三浦環〕

こうした作曲家に対して，オペラ歌手としてロンドンで『蝶々夫人』の主役で成功して，以後 20 年間欧米で 2000 回も公演したのが**三浦環**(彼女も東京音楽学校の卒業生)。なお，写真は小梅太夫ではない。

あとは，昭和時代に『東京音頭』(ヤクルトスワローズ・ＦＣ東京の応援歌)・『東京行進曲』などを作詞した**西条八十**や，『酒は涙か溜息か』・『影を慕いて』などを作曲した**古賀政男**がいるけど，まったく問われない。

ラストは戦後だけど，敗戦直後で国民たちは暗い世相の中で沈んでいた。そんな中，1945 年に松竹映画の「そよ風」に主演した台湾生まれの歌手**並木路子**が歌った『リンゴの唄』や，1947 年に**笠置シヅ子**が歌った『東京ブギウギ』などが大ヒットして，明るい歌声が人々を勇気づけることになったんだ。そして，その笠置シヅ子に代わる形で，国民的スーパースターとして女性初の国民栄誉賞を受賞することになったのが**美空ひばり**。まあ，『柔』・『川の流れのように』(作詞は秋元康)などで「歌謡界の女王」となった人なので，言わずもがなってところだろう。

［A］明治時代の学問(覚え歌編)

「ふざけんなよ，このやろう」という怒声が聞こえる。「こんなの覚えられっか，バーロー」って罵声も聞こえてくる。…この頁を見た瞬間の感想ね。うん，でも俺のせいじゃねーし。ただ，どうせ一問一答で問われるだけなんだし，こんな内容は覚え歌で覚えてしまえばいいと思う。

＜明治時代の学問の覚え歌「ワイワイワールド(Dr.スランプアラレちゃん)」＞

きーたざとー　きたざと～しばさぶろう　キィーンキンキン　キンキンキーン　ペスト菌
(きったぞきたぞ　アラレちゃん　キィーンキンキン　キンキンキーン　テケテケテッテンテーン)
しっがきよしは　せきり菌
(ピッピピピ　プッペッポー　ガッちゃんも)
たかみねじょうきち　アドレナリン　すずきうめたろう　ビタミンＢ１オリザニン…
(夢のバクダン　うち上げろ　お日さま　ニッカニカ　ブタさんホーホケキョ)
おーもりふさきち　地震計　きむらひさし　Ｚ項
(みんな集まれ　ペンギン村に　どんなことが　起こるかな)
ながおかはんたろう　げんしこうぞう
(それゆけ　イッシシシ　おたのしみ)

ただ，覚え歌でしかお前は説明できないんだろ？って思われるのも癪なので，一応ちゃんとした説明もしておこう。「覚え歌を覚えておけばいいから，別にそんな説明いらねえよ」って人は，読まなくてもいいけど，必死に以下のものを書いた僕の労力はどこにいくのだろう(笑)。

僕は未だに 1000 円札に採用された偉人が，北里柴三郎ではなく，野口英世になったことに納得ができない(理由は後述する)。第 1 回ノーベル賞の受賞候補にもなった「日本の細菌学の父」，**北里柴三郎**こそが 1000 円札に相応しいと僕は思うんだけどね。

東大を卒業し，留学先のドイツで医学界の権威コッホに学び，世界で初めて破傷風菌の純粋培養に成功した北里柴三郎は，欧米の研究所から誘われ，引く手数多だった中で，それらをすべて断り日本に帰国してくる(まるでブラジルから帰国してきたキングカズみたいだ！)。その理由は，日本の医学界に貢献したかったから(ワールドカップに連れていくために帰国してきたキングカズみたいだ！)。

そんな北里柴三郎の最大の功績としては，中世ヨーロッパで黒死病と恐れられた**ペスト菌**を発見したこと。ネズミから人間に伝染することでも有名だけど，彼の発見によってペストの流行は，日本では水際作戦で防がれることになるんだ。世界史ではヨーロッパの人口の半数近くが亡くなったペストについて必ず学習するけど，日本史ではペストと聞いてもピンと来ないでしょ？それは，北里柴三郎によってペスト菌がネズミから伝染することがわかり，ペストにかかったネズミの駆除が行われたおかげなんだ。

でも，そんな北里柴三郎を待ち受けていたのは，日本の古臭い医学界だった。以前に東大時代の先生の論文を批判したという理由で(北里の意見が正しかった)，彼は冷遇され続けた。そんな北里を憂えたのが福沢諭吉(ゆきっつぁん)で，そのゆきっつぁんの援助で設立されたのが伝染病研究所。そして，後にその伝染病研究所に入所してきた**志賀潔**は**赤痢菌**を発見し，**秦佐八郎**は**サルバルサン**を発見することになるんだ(まるでキングカズに憧れた香川真司みたいだ！)。

医学と同じような分野なんだけど，前者の 3 人は予防医学といって，病気が広がらないように原因菌の究明を行った人物。一方で，病気で何かしらの症状が発症してしまった人には，薬を処方することで治療を行っていかなければならない。現在でも使われていたりする効果的な薬を創った人が，強心薬の**アドレナリン**と消化薬の**タカジアスターゼ**を創った**高峰譲吉**と，**オリザニン**(**ビタミンＢ¹**)を創った**鈴木梅太郎**だ。

「おお，高峰譲吉はアドレナリンが出まくってた人なのかな？」って思った奴。文系乙。よくスポーツなどで興奮状態になった時に「アドレナリンが出たわ〜」って言う奴がけど，文系はアドレナリンが何なのかわからずに使っているよね(僕はすべてを知っている…)。確かに体内で生成されるアドレナリンと同じ成分なんだけど，この高峰譲吉が創ったアドレナリンとは「薬」のこと。例えば，蜂に刺されたり，食物アレルギーを発症したりした時には，血圧が低下してショック状態に陥ってしまうことがある(アナフィラキシーショックという言葉を聞いたことがあるんじゃないかな？)。そうしたショック状態の時に，その症状を緩和するために投与されるのが**アドレナリン**という薬なんだ(僕は何でも知っている)。

また，食べ過ぎた時に胃もたれや胸やけなどを起こすことがあるけど，そうした消化不良の時に胃腸の消化を促進するための薬として，高峰譲吉が創った薬が**タカジアスターゼ**。「おお，高峰譲吉の「たか」とタカジアスターゼ「タカ」でつながるじゃん！」って思った奴。文系の発想そのものだけど，まあ正解。そもそも，タカジアスターゼという名称自体が，麹菌(こうじきん)から抽出したジアスターゼ(現在ではアミラーゼと言われる)に，自分の名前の「タカ」を付けたものだからね。

もう一人の**鈴木梅太郎**(すずきうめたろう)は，脚気(かっけ)に有効な**オリザニン**(**ビタミンB$_1$**)を創製した人。そもそも，脚気(かっけ)という病気は知っているかな？ビタミンB$_1$不足から，イライラ・倦怠感・食欲不振・しびれなどの症状が現れ，しまいには死に至る病気だ。ほら，子供の頃に，膝の下のくぼみを叩いて，足がピョンと跳ね上がるか試したりしたでしょ？それで跳ね上がらなかったら，脚気にかかっているとわかるわけだ。

昔は，ビタミンB$_1$がたくさん含まれる玄米や胚芽米(はいがまい)を食べていたけど，江戸時代には精米した白米が主食になっていった。白米にすると，ビタミンB$_1$の大部分を落としてしまうことになるんだけど，当時はそんなこと知らないから，人々は「白米うめえうめえ」と食べまくっていた。そのため，ビタミンB$_1$が欠乏して，脚気になってしまうわけだ。

2009 年には，あの豊臣秀吉も脚気が原因で亡くなったという学説が発表されたぐらいだからね。そして，その脚気が原因で日清戦争では 4000 人，日露戦争では 3 万人が亡くなったと言われている(戦場で病死してしまう原因としては下痢もあったが，日露戦争では「征露丸」のおかげで解決している。ロシアを征伐する薬ということで，「征露丸」と名付けられたんだけど，日露戦争後に「征」から「正」に改められ，現在の「正露丸」となった)。

そのくらいに脚気は日本で恐れられ，伝染病だとも言われていたんだけど，パンなどを主食とする欧米では脚気で死亡することはほとんどなかった(実は，この脚気が伝染病だと信じられていたなかで，北里柴三郎は「伝染病なわけないっしょ」という論文を書いて，自分の元教授を批判したため冷遇されることになる。既述したけどね)。これに注目した鈴木梅太郎は，脚気の原因がビタミンB$_1$不足だと気付いて，米糠(こめぬか)から**オリザニン**(**ビタミンB$_1$**)を抽出することに成功したんだ。ちなみに，オリザニンというのはビタミンB$_1$の商標名のことね。

…ふう。そろそろ，はっきり言っていい？正直，真面目に説明するのに疲れてきた。どうせ，マジメに説明したって文系にはわかんねえんだもん(笑)。そもそも，僕にもわからん(どーん)。高校時代には，「水兵リーベ僕の船」を「すいそ・へいそ？…後はわからん。」とほざいて，理系科目オール赤点だった類い稀なる人材ですよ？この項目を説明するにあたって，物理・化学・生物の先生に尋ねまくっていたぐらいだからね。どうせ，入試問題もくだらない一問一答で問われるだけだし，それなら，やっぱりくだらない覚え方の方がいいと思う。…ということで，以下から基本テキトー時々マジメに説明していこうと思う。

地震学者の**大森房吉**(おおもりふさきち)は，地震の揺れを観測する地震計を発明したり，地震の第 1 波（P 波＝Primary 波）と第 2 波（S 波＝Secondary 波）＝第 2 波）の到達する時間差から震源地までの距離を計算する大森式公式を考案したりしたことで知られているけど，文系にはわからないからオギノ式(排卵日と安全日の計算法)と同じようなものだと思っておけばいい(テキトー)。

それから，天文学者の**木村栄**が発見したＺ項は，地球の自転軸が少し傾いていることに関する公式なんだけど，文系にはよくわからないだろうから，ももいろクローバーＺの「Ｚ」と同じようなものと思っておけばいい(テキトー)。

さらに，原子構造を研究した物理学者の**長岡半太郎**は，「この世のすべての物質の元となる原子は，土星のような宇宙空間のような構造をしている」という理論を発表した人。戦後にノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹や朝永振一郎を育てたことでも有名なすごい人なんだけどね。まあ，文系には「原子」と「元素」の違いすらわからないだろうから，「何でこの人の親は『半太郎』なんて変な名前をつけたんだろう？(ﾟ∀ﾟ)ｱﾊﾊ八八ﾉﾊﾉﾊﾉ ＼ / ＼/ ＼」って思っておけばいい(テキトー)。

変な名前といえばもう一人，**田中館愛橘**っていう物理学者もいる。北極がＳ極・南極がＮ極になっているように，地球そのものが磁石になっていて(地磁気と呼ばれる)，全国各地で地磁気の測定をした人なんだけど，文系には地磁気を説明してわからないので，「田中」じゃなくて「田中館」が名字で，しかも「愛橘」なんて変な名前～(ﾉ´∀｀*)って文系は思っておくといい(テキトー)。

［Ｂ］明治時代の学問(解説編)

ここまでは，文系にはワケワカメ状態(死語)な内容だっただろうけど，残りは歴史学に関することなので安心してくれればいい。

日本の文明に関する書物といえば，福沢諭吉の『文明論之概略』が有名だけど，**田口卯吉**が著した『**日本開化小史**』は押さえておきたい(「卯」を「卵」にしないように気をつけてね)。その名の通り，古代から日本の文明が開化する明治維新までを説明したものだ。なお，田口卯吉は経済学者でもあるので，その後に『**東京経済雑誌**』を創刊しているけど，これはあまり問われない(石橋湛山が記者を務めた『東洋経済新報』とは違うから気をつけてね)。それから，ドイツに留学して，ドイツ文献学にならって日本文献学を確立した**芳賀矢一**は全く問われないから放っておいていい。

一方で，**久米邦武**といえば，岩倉遣外使節団に随行して『**米欧回覧実記**』を編纂した人だったよね(明治時代「初期外交」で学習済み)。でも，その後に「神道は祭天の古俗」という論文で「神道なんて自然を祭っている古い習わしにすぎねえじゃねえか」と批判したことで，東京帝国大学の教授を辞職する羽目になっちゃったというのも，神道史で学習したハズだ。戦前は，天皇制とか神道を批判することはタブーだったしね。

それから、国定教科書制度に基づいて，文部省で国定教科書の編集にあたったのが歴史学者の**喜田貞吉**。でも，新聞に「南北朝時代において，南朝と北朝を併立させた記述はおかしい。三種の神器をもっていた南朝が正しいハズだ。」って攻撃され，**南北朝正閏問題**で最終的に辞職に追い込まれちゃったよね(文化史講義録(近現代編)－教育史－で既述)。

［Ｃ］大正時代の学問(覚え歌編)

大正時代の学問に関しても，重要なものに関しては覚え歌で覚えてしまえばいい。

＜大正時代の学問の覚え歌「さんぽ(となりのトトロ)」＞

のぐちひでよ　おうねつびょう　ほんだこうたろう　ＫＳじしゃく
(歩こう　歩こう　私は元気　歩くの大好き　どんどん行こう)
にしだきたろうは　ぜんのけんきゅう　かわかみはじめ　マルクスびんぼう
(坂道　トンネル　くさっぱら　一本橋に　でこぼこじゃりみち)
つだそうきちは　しんだいし　やなぎだくにお　みんぞくがく
(くもの巣くぐって　下り道　※繰り返し)

ただ，やっぱり「根本は覚え歌でしか説明できないんだろうな」って思われたくないから，ちゃんとした説明も加えておこう。

幼い頃に左手を大火傷し，周囲の人々の募金によって手術を受けた後，その感動から医師を目指すことにした**野口英世**。偉人伝でもよく知られているけど，僕にはこの人が 1000 円札にもなった理由が未だにわからない(ヒゲがあるから，紙幣だと偽造しにくいという理由だろう)。1911 年には，梅毒(性病の一つ)の病原体であるスピロヘータの純粋培養に成功したと発表しているけど，現在でも梅毒スピロヘータの純粋培養の追試に成功した者は誰もいない。

さらに，アフリカで流行していた黄熱病の研究が最も有名で，1918 年には黄熱病の病原体を発見したと発表した。だが，実際はワイル病という病気の病原体であり，ワイル病の病原体はすでに 1915 年に別の日本人によって発見されている。また，黄熱病は細菌ではなくウイルスなので，当時の顕微鏡では発見することは不可能で，電子顕微鏡でなければ見えない(この時代はまだ電子顕微鏡は発明されていない)。そして，研究していた黄熱病で亡くなったと言われているけど，本当の死の原因は梅毒(性病の一つ)であったという説もある。なお，彼は借金の天才でもあった。故郷を出る時に恩師が用意してくれた学費を酒・女で使い果たし，知人から借りた留学費用も芸者遊びで使い果たし，金持ちの娘と結婚を約束してお金をもらうけど，「ブス」だからと結婚しようとせず，「研究でしばらく帰国できんわ〜。でも，研究のためにお金もっとちょうだい」と要求する，なかなかの偉人なんだ。


〔野口英世〕

さて，八木アンテナと呼ばれる今現在のテレビ受信用アンテナを発明したのが**八木秀次**。一般の無線通信や，テレビ受信に世界中で最も多く使用されている八木アンテナは，日本で発明されたもの。でも，でも，欧米諸国においては注目を集め，レーダーとして使用されるようになったのに，日本ではあまり注目されず，日本軍でも全く重視されなかった。

1942 年に日本軍がシンガポールを占領した際に，イギリスのニューマン文書に「YAGI」の文字があったのを，日本の将校が何のことかわからず，イギリスの捕虜から「八木アンテナ」の日本人のアンテナの発明者のことだと知らされて驚愕したという話は結構有名だね。そして，ミッドウェー海戦で，アメリカ軍は八木アンテナを用いた作戦を展開し，日本軍は大損害を被っている。
…せっかく日本人が発明したものなのにね。

なお，この八木アンテナと呼ばれているアンテナは，本当は宇田新太郎という八木秀次の部下が中心となって発明したもの。でも，八木秀次が特許を出願する時に自分だけの名前で出願したせいで，八木アンテナと呼ばれるようになったんだ(つまり，教授による特許ドロボーといっていい)だから，現在では八木・宇田アンテナと呼ばれるようになっている。


〔八木アンテナ〕

1914 年に第一次世界大戦がヨーロッパで勃発したことによって，ヨーロッパからの鉄鋼・磁石鋼(強力な磁石)などの輸入は完全に途絶えてしまったため，自国で磁石鋼を開発しなければいけなくなる。そこで，開発に乗り出したのが「鉄の神様」とか「磁石の神様」と呼ばれる物理学者の**本多光太郎**で，東北帝国大学(現在の東北大学)に設けられた研究所で，当時世界最強のＫＳ磁石鋼(鉄にコバルト・タングステンなどの元素を組み合わせた永久的に磁力を保つ磁石)を発明することに成功したんだ。ちなみに「ＫＳ」は「クソ」ではなく，研究費を出してくれた住友吉左衛門の頭文字からとったもの。そして，そのＫＳ磁石鋼の特許料を元として，その研究所が東北帝国大学に 1919 年に設けられた**鉄鋼研究所**となるんだ。

なお，磁石の何が重要なの？って思う奴がいるけど，やっぱり文系乙。1984 年に日本の住友金属で発明された世界最強のネオジム磁石のように，日本は磁石大国として有名。あらゆる工業製品に組み込まれているモーターに，磁石は必要不可欠なものだからね。そして，その磁石の開発の延長線上に，超電導磁石によるリニアモーターカーがあるわけでしょ？…磁石ってすげー…(文系の気持ち)。

先ほどの鉄鋼研究所と同じような研究機関としては，第一次世界大戦で航空機が活躍したことを契機に，1918 年には**航空研究所**が，1923 年の関東大震災を契機に，1925 年には**地震研究所**がそれぞれ東京帝国大学の付属機関として設けられている。さらに，1917 年には半官半民の研究機関として，物理・化学の応用研究を目的とする**理化学研究所**が設立されて，初代所長に**大河内正敏**が就任しているんだけど，これってどこかで習った覚えがないかな？そう，満州事変後の重化学工業の発達を背景に急速に勢力を伸ばした新興財閥の一つ，理化学研究所を母体にした**理研コンツェルン**だ。戦後に，持株会社は解体されたけど，今でも「理研」の流れを引いている会社はたくさんあるでしょ？理研ビタミンのドレッシングとかさ，あと，「あります！」でおなじみの小保方晴子も理化学研究所で働いていたもんね。

これで理系の内容は終了したので，文系の内容に入っていこう。哲学者として代表的なのが，『善の研究』を著した**西田幾多郎**と，『風土』を著した**和辻哲郎**。今までの哲学は，西洋哲学の模倣にすぎなかったけど，西洋の近代哲学に東洋的な思想を取り入れて，それぞれ「西田哲学」，「和辻哲学」と呼ばれている。でも，君たちに「生きるための支えとは何か」とか哲学を語っても無駄なことはわかっている。だから，「もともと妖怪だったゲゲゲの鬼太郎(幾多郎)が『善の研究』を読んで，妖怪退治をする善い鬼太郎になったんだな」と思っておいて，「哲学者の和辻哲郎は，フード(food＝風土)ファイター哲郎になりたかったんだな」って思っておけばいい(テキトー)。

歴史学者としては，内藤湖南の邪馬台国畿内大和説に対して，邪馬台国北九州説を主張した**白鳥庫吉**がいるけど，この人が主に研究していた分野は，満州・蒙古・朝鮮などの中国周辺の民族に関する歴史。

その白鳥庫吉に学んだ人物が特に有名なんだ。それが，通史でも学習した**津田左右吉**。彼は『古事記』・『日本書紀』に記されている天照大神などの日本神話を科学的に研究して，「古事記とか日本書紀に書いてある内容っておかしいやん。神代(神話)の内容って明らかに作り話やん。ウソばっかやん。」って『神代史の研究』(1924)で発表しちゃった。…これはヤヴァイよ？今現在では，神話の内容は作り話だって皆わかっているけど，天皇を神と崇めている時代に，そんなこと言ったらフラグが立ちまくりだ。そして，案の定，1940 年には国粋主義者から天皇の権威をおかす不敬罪にあたるって非難されて，『神代史の研究』・『古事記及び日本書紀の研究』・『日本上代史研究』・『上代日本の社会及思想』といった 4 つの著書が発禁処分にされ，さらに早稲田大学教授も辞職させられちゃったんだ。

白鳥倉吉が研究した満州・蒙古・朝鮮などの民族を研究する学問は「民族学」と呼ばれるんだけど，「みんぞくがく」には漢字の違う「**民俗学**」というものがある。民俗学とは，**柳田国男**が創始した民間伝承・風習・祭礼などの研究から民衆の生活文化を研究する学問のこと(ノンフィクション作家の柳田邦男とは別人なので，漢字を間違えないようにね)。

例えば，岩手県遠野地方では，河童淵という場所で河童が出たという伝承がある。こうした河童や，天狗・座敷童子など，岩手県遠野地方に伝わる伝承をまとめたのが『遠野物語』なんだ(柳田国男は知識人に対する階層として，民間伝承を保持している階層を**常民**と表現した)。なお，岩手県遠野市では，現在それに便乗して，「カッパ捕獲許可証」というものを 1 枚 200 円で発行している。



〔カッパ捕獲許可証(ゴールド会員証)〕

民俗学は，地方の伝承・風習などをまとめたものだったけど，似たようなジャンルもある。それが思想家の**柳宗悦**が始めた，地方の民芸品をもっとフューチャーしようよっていう民芸運動。ほら，地方に行くと，お土産として熊の木彫りなどが売っているでしょ？こうした民芸品は，地方の無名職人がつくった美術作品だけど，もともとは「下手物」と呼ばれていたんだ。でも，それだと誤解を生む可能性もあるし，素晴らしい作品だっていっぱいある。そこで，柳宗悦は民衆がつくった工芸品ということで「民芸」という名称をつけて，もっとフューチャーしようって運動を展開していったんだ。

さて，細かい部分まで説明しなければいけない箇所がある。それがマルクス主義経済学に関する内容だ。1917 年に起きたロシア革命で，ロシア帝国が滅亡しソヴィエト連邦が成立したよね。その指導者はレーニンだったけど，その理論的なものを与えた人物が**カール・マルクス**だ。そのマルクスの著した『**資本論**』は世界で『聖書』の次に読まれた本として，あまりにも有名だね。『資本論』には，資本主義経済がどのように成り立っているか，が述べられている。簡単に言えば，「資本家は，労働者を低賃金で長時間働かせることによって，本来の利益から搾取をしている。そこで，その資本家を倒して，貧しい人にも富を分配すれば，格差のない皆平等の社会が訪れるじゃないか。」ということ。

そのマルクスの『資本論』を日本に紹介したのが**福田徳三**で，そして，1924 年に『資本論』を初めて日本語に全訳したのが**高畠素之**という人なんだ。これらは，まったく出題されないけど，近年は格差社会の影響から，『資本論』が再び注目されてきているので，余裕があったら押さえておくのもいいかな。

このマルクスによって体系づけられた経済学をマルクス主義経済学というんだけど，その第一人者として有名なのが，1916 年に著した『**貧乏物語**』がベストセラーになった**河上肇**だ。第一次世界大戦時には，船成金などの金持ちが登場した一方で，物価高のせいで労働者の実質的賃金はむしろ低下していったよね。そうした格差社会が広がる中で，今でいうワーキングプアの貧乏人に焦点を当てたのが『貧乏物語』なんだ。ただ，「金持ちが贅沢をしなくなれば，金持ちと貧乏人の格差はなくなるんじゃない？」という内容で，問題提起に終始しているだけ感じだった。さらに，1919 年には『**社会問題研究**』という個人雑誌を発行しているんだけど，のちに河上自らどちらも絶版にしているので，本人も結論がお粗末だったという自覚があったんだろうね。そんな彼が 1920 年頃から傾倒していったのがマルクス主義経済学で，のちには日本共産党に入党して，検挙もされてしまっている。

こうしたマルクス主義経済学が日本でも研究が進められていった理由には，1917 年のロシア革命でソヴィエト連邦が成立したことが大きい。だって，日本でも革命が成功するかもしれないじゃん。では，ここでロシア革命がどういう経緯を経たのか，簡単に説明しよう。

［ロシア革命］

ロシア帝国の最後の皇帝として有名なのが，専制的な政治を進めた**ニコライ 2 世**だ。でも，1914 年に勃発した第一次世界大戦にロシアも参戦したことによって，ロシアでは国の財政が破綻してしまい，食糧も物資も足りなくなってしまった。物が足りなければ当然，皆がその品物を求めるようになり，需要が増して品物の値段が高くなる。その結果，極度のインフレ(物価高)となり，人々は「パンをよこせ！」とデモを起こし，ロシア国内では皇帝に対する反対運動が高まっていった。そして，こうした運動の高まりに軍隊も同調して，ついにニコライ 2 世は皇帝の座を追われることになり，ソヴィエト連邦という国家が成立することになった。これが 2 月に起きたので，**2 月革命**と言う(旧暦のユリウス暦だと 2 月にあたるが，新暦のグレゴリオ暦だと 3 月にあたるので**3 月革命**ともいう)。

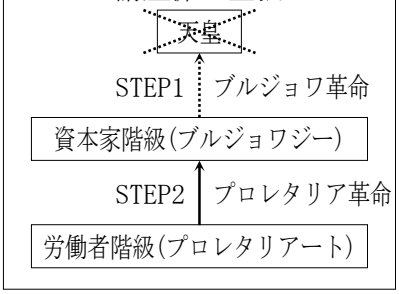
これによって，今までのニコライ 2 世に代わって，「ブルジョワジー」と呼ばれるブルジョワ階級の資本家中心の臨時政府が出来上がった。このような絶対的な権力を有してしていた絶対王政から，ブルジョワジーと呼ばれる資本家階級の市民(ヨーロッパでは市民とは貴族・領主・大商人・大地主を指す)が起こした革命を，市民革命や「ブルジョワ革命」という。つまり，この時点では皇帝によるロマノフ王朝は滅んだものの，その後に出来上がった臨時政府はブルジョワジーと呼ばれる資本家階級中心の政府だったわけだ。それゆえ，このブルジョワジー中心の臨時政府は，ブルジョワ階級本位の政策を進めたため，**レーニン**を中心とする「プロレタリアート」と呼ばれる労働者中心の勢力は不満たらたら(この労働者階級のプロレタリアートによる文学を**プロレタリア文学**という)。そして，ついに 1917 年 11 月に武装蜂起する。この結果，武装蜂起は成功し，ブルジョワジー中心であった臨時政府に代わり，レーニンを議長とする新政府が発足した。これを **10 月革命**といい(旧暦のユリウス暦だと 10 月にあたるが，新暦のグレゴリオ暦だと 11 月にあたるので**11 月革命**ともいう)，2 月革命からの一連の流れを**ロシア革命**という(こうした社会主義を実現するために，プロレタリアートが起こした革命を「社会主義革命」や「プロレタリア革命」という)。

つまり，ロシアでは「ロシア皇帝」から「ブルジョワジー(資本家階級)」に権力が移るブルジョワ革命と，「ブルジョワジー(資本家階級)」から「プロレタリアート(労働者階級)」に権力が移るプロレタリア革命の 2 段階を経ているわけだ。

では，日本ではどのように革命を起こせばいいのか？それをめぐって，1920 年代末から 1930 年代にマルクス主義者の間で，**講座派**と**労農派**という 2 つのグループによる，**日本資本主義論争**というどうでもいい論争が巻き起こっている。

まず，**講座派**は『**日本資本主義発達史講座**』という雑誌を創刊した**野呂栄太郎**を中心に，**羽仁五郎**(1933 年に治安維持法で検挙)・服部之総・山田盛太郎らを代表的な論客としたグループ。彼らは，大日本帝国は天皇制であり，絶対王政のようなものであるとみなした。だから，まずはブルジョワジー(資本家階級)が実権を握るためのブルジョワ革命が必要で，その上でプロレタリアート(労働者階級)が権力を握るためのプロレタリア革命が必要だと主張したんだ。つまり，ロシア革命と同じように，日本でも 2 段階の革命が必要だ，って主張したわけだ。

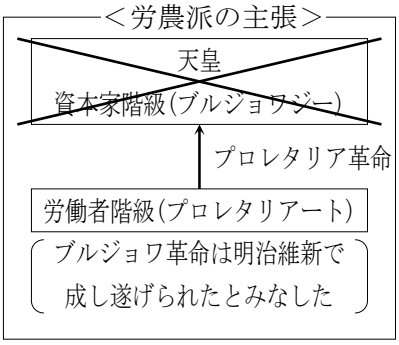
＜講座派の主張＞



一方で，**労農派**は『**労農**』という雑誌を創刊した**山川均**(1922 年に日本共産党を結成)を中心に，**猪俣津南雄**(1937 年の第 1 次人民戦線事件で検挙)・**荒畑寒村**(1908 年の赤旗事件で入獄)・櫛田民蔵(1920 年の森戸事件で東大を辞職)らを代表的な論客としたグループ。彼らは，明治維新によって日本ではすでに資本主義が発達しており，明治維新は一種のブルジョワ革命であったとみなした。だから，ブルジョワ革命はもう済んでいるので，後はプロレタリア革命だけでよいと主張したんだ。

正直，どっちでもいいよ…て言うのが僕の本音だけどね。

＜労農派の主張＞



［D］昭和・戦後の学問

昭和時代の 1920 年代末～1930 年代にはマルクス主義の研究が盛んだったけど，その後には軍国主義(ファシズム)が進んでいった。1935 年には，そのファシズムに同調していった**保田与重郎**と**亀井勝一郎**が『日本浪曼派』という雑誌を刊行しているけど，まったく出題されないので消しておいていい。

戦後では，『超国家主義の論理と心理』を著して，日本ファシズムの精神構造を明らかにした政治学者の**丸山真男**や，『近代資本主義の系譜』を著して，近代社会成立史観(大塚史学)を確立した経済史学者の**大塚久雄**，『日本社会の家族的構成』を著して，法社会学者として民法改正にも影響を与えた法社会学者の**川島武宜**が有名どころだけど，ほとんど問われないね。

戦後の学問は，ノーベル賞受賞者を問う問題がほとんど。日本で初めてノーベル賞を受賞したのが，**1949 年**にノーベル物理学賞を受賞した**湯川秀樹**。2 番目に受賞したのが，1965 年に同じく物理学賞を受賞した**朝永振一郎**で，のちには**江崎玲於奈**も 1973 年に物理学賞を受賞している。

一方で，1968 年に初めてノーベル文学賞を受賞したのが，昭和時代に『伊豆の踊子』・『雪国』を著した**川端康成**で，1994 年には『飼育』・『個人的な体験』を著した**大江健三郎**も文学賞を受賞している。

さらに，「核兵器を持たず，作らず，持ち込ませず」の**非核三原則**を提唱し，平和交渉によって沖縄返還を実現したということで，**佐藤栄作**元首相が 1974 年にノーベル平和賞を受賞している。ただ，沖縄返還に際して「核抜き・本土並み」と謳っていたけど，実際には有事における核兵器の持ち込み容認という密約が取り決められていたんだけどね(つまりは茶番)。

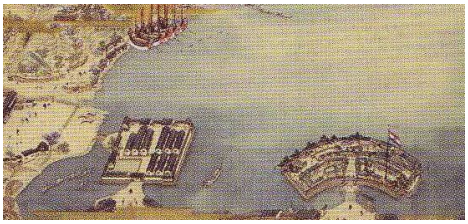
それ以外には，1981 年には**福井謙一**が初めてノーベル化学賞を，1987 年には**利根川進**が生理学・医学賞を受賞していて，2000 年以降はノーベル賞の受賞ラッシュが続いている。まあ，入試で問われることはないけど，2000 年に白河英樹(化学賞)，2001 年に野依良治(化学賞)，2002 年に小柴昌俊(物理学賞)・田中耕一(化学賞)，2008 年に下村脩(化学賞)・小林誠(物理学)・益川敏英(物理学賞)・南部陽一郎(物理学賞※アメリカ国籍)，2010 年に鈴木章(化学賞)・根岸英一(化学賞)，2012 年に山中伸弥(生理学・医学賞)，2014 年に赤崎勇(物理学賞)・天野浩(物理学賞)・中村修二(物理学賞※アメリカ国籍)，2015 年に梶田隆章(物理学賞)・大村智(生理学・医学賞)・2016 年に大隅良典(生理学・医学賞)，2017 年に石黒一雄(文学賞※イギリス国籍)，2018 年に本庶佑(生理学・医学賞)が受賞している。

［A］鎖国時の来日外国人

この[お雇い外国人]の頁を見た瞬間に，「何じゃ，このカタカナのオンパレードは！」と嫌気がさすだろう。でも，よくよく見ると，実はそのほとんどが通史・文化史で一度は登場したことがあることに気付くハズだ。なので，既に通史・文化史で既習した人物については，下線部を引いておいた。こうしてみると，思った以上に覚えなければいけない人物が少ないので，気持ちはかなり楽になると思うんだ。

さて，江戸時代における鎖国政策は，全てを鎖していたわけではない。オランダ・中国と交易をしていた長崎口，朝鮮と交易をしていた対馬口，琉球と交易をしていた薩摩口，アイヌ人と交易をしていた松前口といった，「四つの口」と呼ばれる窓口があったよね？その中の長崎口では，幕府がオランダとの貿易を行っているから，合法的に長崎にやってくることが出来る。

長崎には，右図のように，中国人が住むための唐人屋敷，オランダ人が住むための出島が設けられていて，そのオランダ商館に 10 人ほどのオランダ人が生活していたんだ。普段は，出島から出ることは出来ないので，牢獄に近いものなんだけど，1 年に 1 回だけ出島を出ることができる機会がある。ほら，海外事情報告書の**オランダ風説書**を将軍に届けるために，オランダ商館長（**カピタン**）は江戸に赴かなければならないでしょ。その時に，日本の様子を見ることができるわけだ。


〔唐人屋敷(左)・出島(右)〕

その中で，1691・1692 年のオランダ商館長の江戸参府に随行した時の体験をもとに，帰国後に『**日本誌**』として紹介したのが，オランダ商館医として働いていた**ドイツ**人医師の**ケンペル**だ(1690～1692 年に日本に滞在)。そして，この『日本誌』が後に日本に逆輸入されることになって，それを長崎通詞(通訳官のこと)だった**志筑忠雄**が翻訳して題したのが「**鎖国論**」だったよね。だから，「鎖国論」が発表されたのは 1801 年なので，「鎖国」という言葉が日本で生まれたのは 19 世紀になってからなんだ[授業解説(鎖国政策)]で既述)。なお，オランダ人じゃないのに，長崎に来てもいいの？って気になった人もいると思うけど無問題。だって，日本人からしたらオランダ人とドイツ人とかの区別は出来ないからね。

同じくオランダ商館医として1775年に来日した**スウェーデン**人医師の**ツンベルグ**も(1775～1776年に日本に滞在)，1776 年のオランダ商館長の江戸参府に随行して，道中で多くの植物を収集して『日本植物誌』を著している。まあ，ツンベルグは植物学者でもあったから，ヨーロッパでは見られない日本の植物は珍しかっただろうしね。

このケンペル・ツンベルグと並んで，出島の三学者と呼ばれるのが，オランダ商館医として 1823 年に来日した**ドイツ**人医師の**シーボルト**だ。そのシーボルトも，1828 年に日本から追放された後に，『日本』・『日本動物誌』・『日本植物誌』などを著しているんだけど，彼については細かく問われる(以下は文化史講義録[蘭学史編]と同じなので，学習が済んでいる生徒は飛ばしてよい)。

シーボルトの肩書きは，オランダ商館で働くドイツ人医師だけど，実の顔はオランダから命を受けた内情捜査官。つまりは，日本は探るためのスパイだった。当時の日本は絶賛鎖国中なので，海外の人々は日本列島がどういう形をしているのかも把握できていない。当時の世界地図には，四国すら描かれていないからね(まあ，四国なんてあっても無くても同じなので，そろそろ戦力外通告が出されるだろう)。そうした神秘で満ちた謎の国，日本を調査するためのスパイとして送り込まれたのがシーボルトなんだ。


〔シーボルト〕

でも，オランダ商館医の立場では，長崎の出島から出ることはできないし，日本の情報をゲットするのは難しい。そこで，西洋医学などの知識を教えるために，**長崎**郊外に**鳴滝塾**という塾を開く許可を幕府からもらったんだ。こうして初めてシーボルトは出島から出ることができたわけだね。

＜シーボルトの門下生＞

鳴滝塾でシーボルトから学んだ門下生に**高野長英**・**小関三英**・**伊東玄朴**などがいる。**高野長英**・**小関三英**は，『**鷹見泉石像**』などの**文人画**を描いた三河田原藩家老の**渡辺崋山**と共に(渡辺崋山は鳴滝塾の門下生ではないことと，崋山の「崋」は「華」ではないので注意)，**尚歯会**という知識人たちによる会合に参加していた(尚歯会は，洋学研究団体・結社のようなものではなく，会合のようなただの集まりにすぎない)。そして，1838 年にその会合が催された際に，前年に起きたモリソン号事件に対する幕府の対応を知ることになる。なお，モリソン号事件とは，**1837 年**に日本人漂流民の送還と通商を求めて来航した**アメリカ**の**モリソン号**に対して，幕府が異国船打払令(無二念打払令)(外国船を見つけたらとりあえず大砲ぶっ放せという法令)によって，理由なども一切聞くことなく一方的に相模の**浦賀**・**薩摩**の山川沖で砲撃した事件のこと。これはちょっと可哀想すぎる。そこで，**高野長英**は『**戊戌夢物語**』，**渡辺崋山**は『**慎機論**』を著して，幕府の対応はヒドいよって批判した。ところが，幕府は「イチイチうっせえな」って，2 人を処罰してしまったんだ(この事件を**蛮社の獄**(**1839**)という)。そして，「やべえ，2 人が処罰されたから俺も処罰されるかも！」ってビビッて自殺してしまったのが，この 2 人と親しかった**小関三英**だ(小関三英は処罰の対象ではなかったので無駄死に)。

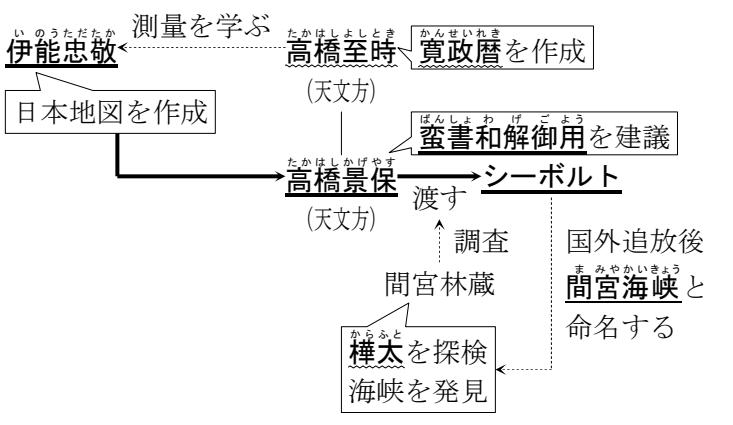
もう一人の**伊東玄朴**は，鳴滝塾でシーボルトから医学を学んだ後に，当時流行していた天然痘の研究に没頭する。天然痘といえば，奈良時代の藤原四子が死んだことでも知られ，死亡率 30～40%の死病と言われる恐ろしい伝染病だ。この天然痘に対する予防法として，牛痘といって天然痘にかかった牛からウイルスを取り出して，それを人間に打つことで抗体をつくる方法がある。まあ，インフルエンザのワクチン予防接種と同じだね。そして，その予防法を研究して，天然痘の予防接種所として江戸に**種痘所**を開いたんだ(のち，1863 年に幕府直轄の**医学所**となり，現在の東京大学医学部へと引き継がれる)。

さて，シーボルトのスパイとして重要な仕事は，日本の情報を手に入れること。そこで，鳴滝塾にやってきた生徒たちに，「日本の文化」についてのレポートを提出するようにという課題を出して，徐々に日本の情報を聞き出していくんだ。

そんなシーボルトに長崎以外の地を踏める最大のチャンスがやってくる。1826 年のオランダ商館長(カピタン)の江戸参府にシーボルトも付き従うことになったんだ。そして，江戸に到着した彼のもとに，ある人が訪れてくる。それは幕府天文方の**高橋景保**だ(寛政暦を作成した天文方の高橋至時の子)。高橋景保といえば，外国船の頻繁な来航に伴って，1811 年にオランダ語の翻訳機関として**蛮(蕃)書和解御用**の設置を建議した人物でもあり，当時ロシアの情報を集めていた。そのため，ロシアなどが載っている世界地図を譲ってくれないか，とシーボルトに依頼してきたんだ。そこで，シーボルトは世界地図を渡すことと引き換えに，伊能忠敬の作成した日本地図がほしいという条件を出す。鎖国中の日本で，外国人に日本地図を渡すなんてもってのほかであるから，高橋景保も相当悩んだんだけど，最終的には幕府に内緒でシーボルトに日本地図を渡したんだ。

ただ，その地図の中で，蝦夷地の北に位置する樺太に関することがイマイチわからなかった。そこで，樺太を探検した間宮林蔵に蝦夷地についてちょっと教えてくれないかってお願いしたんだけど，これが間宮林蔵に怪しまれた。そして，幕府の内部調査によって高橋景保は捕まり(のち獄死)，シーボルトは日本地図を没収されたうえ，日本から追放されることになったんだ(この **1828 年**に起きた事件を**シーボルト事件**という)。

＜シーボルト事件(1828)相関図＞



なお，シーボルトは日本地図が没収されることになることを事前に知っていたので，『DEATH NOTE』のジェバンニばりの神業で，わずか一日で日本地図を複写している。そして，そのシーボルトが持ち帰った日本地図が世界に出回ることになるんだ。そして，その地図には樺太についても描かれていて，その樺太とユーラシア大陸東部の黒竜江の間にある海峡は，「mamiya 海峡」と記されていたんだ。つまり，間宮林蔵が発見した**間宮海峡**と命名したのは**シーボルト**ということになるわけだ。シーボルトにとっては，お互い仕事をした結果そうなってしまっただけだから，間宮林蔵を恨む気持ちはまったく無かったみたいだね。そして，日本のことを非常に愛していて，帰国後には『日本』という本を著して，1853 年に浦賀に来航するペリーも，シーボルトに日本についていろいろ意見を尋ねているんだ。

［B］開国後の来日宣教師

1854 年に日米和親条約，1858 年に日米修好通商条約が結ばれ，江戸幕府が開国すると欧米からキリスト教の伝道のために宣教師がやってくる。それが 1859 年に来日したアメリカ人宣教師の**ヘボン**。彼が 1863 年に英語などを教える私塾として横浜に開いたヘボン塾が，現在の明治学院へとつながっていくというのは，『文化史講義録(近現代編)－教育史－』でも既述してあったよね。そして，1867 年には日本最初の和英辞典である『**和英語林集成**』を完成させて，それに用いたローマ字の綴りが，現在でも小学生の教科書で使われているローマ字表記のヘボン式ローマ字になっているんだ。

そのヘボンと同じように，1859 年に来日したのがアメリカ人宣教師のブラウン。こいつは，特に出題されないけど，彼が横浜に開いたブラウン塾(後身の学校が現在の明治学院に発展する)で，キリスト教にどっぷりハマったのが，横浜バンドを結成した**植村正久**・島田三郎らなんだ。

なお，バンドというのは，キリスト教徒の集団のことで，日本では横浜バンド・熊本バンド・札幌バンドの日本三大バンドが結成されているので，その他は後述しよう。

＜三大バンド(キリスト教徒の集団)＞
横浜バンド(1872 年に結成)…**植村正久**・島田三郎
熊本バンド(1876 年に結成)…**海老名弾正**・**徳富蘇峰**
札幌バンド(1876 年に結成)…**内村鑑三**・**新渡戸稲造**

さらに，ブラウンと共に 1859 年に来日したアメリカ人宣教師にフルボッキ…，間違えた(うっかり)。**フルベッキ**がいる。彼は横浜に来日した後，長崎に移って私塾を開き，そこで肥前藩(佐賀藩)の**大隈重信**・**副島種臣**に英語を教えたりしているんだ(早稲田受験生は~~フルボッキ~~フルベッキを覚えておこう)。

そのフルベッキは，明治時代になると政府顧問として招かれて，開成学校(のちの東京大学)の教師などを歴任するんだけど，そのフルベッキの仲介で，肥後藩が設立した熊本洋学校(旧熊本藩立学校)の教師として 1871 年に来日したのが**ジェーンズ**。彼はその熊本洋学校で全教科を担当して，さらには聖書の講義も行ったものだから，彼に学んだ**海老名弾正**(日本的キリスト教を唱える)・**徳富蘇峰**(貴族的欧化主義を批判し，平民的欧化主義による平民主義を唱える)などはキリスト教にどっぷりハマることになる。そして，彼ら学生たちによって，熊本で結成されたキリスト教徒の集団を熊本バンドというんだ。

［C］お雇い外国人(アメリカ人)

明治政府は，富国強兵・殖産興業を進めるために，**お雇い外国人**と呼ばれる外国人を高いお金で雇って，外国の技術や学問などを学ぼうとした。ただ，外国といっても，それぞれお国柄があるからね。例えば，アメリカは教育大国，イギリスは技術大国，ドイツは医療大国，イタリアは芸術大国，フランスは……お洒落大国(？)といったようにね。そこで，それぞれの国の良いところを導入するために，各国からそれぞれの専門家を招くんだ。

明治政府は，戊辰戦争が終了した後に，蝦夷地を北海道と改称して，1869 年に北海道開発のために開拓使を設置したよね。その北海道を開拓していくにあたって，開拓のプロフェッショナルの国といえばアメリカだ。そこで，開拓使顧問として招かれたのがアメリカ人農政家の**ケプロン**だったよね(明治時代[殖産興業]－北海道－で学習済み)。その北海道は，~~でっかいどう~~と言われるぐらいに大きい(スベったわけじゃない)。そこで，アメリカ式大農場経営を採用して，さらにそれを根付かせるために**札幌農学校**(現在の北海道大学)の設立を建議したんだ。

その札幌農学校の初代教頭として来日したのが，アメリカ人教育家の**クラーク**。この人が帰国時に残した「Boys, be ambitious!(少年よ，大志を抱け)」は有名すぎるよね。でも，日本で有名なクラーク先生だけど，母国アメリカでは全く知られていない。そして，帰国した後にもいろいろな面で大活躍している。まず，詐欺罪で訴えられる。さらに，婦女暴行罪でも訴えられる。素晴らしい大先生なんだ。


〔クラーク〕

そんな素晴らしい大先生の精神を受け継いで，キリスト教にどっぷりハマったのが無教会主義(教会に頼らず，聖書を中心に信仰する)を唱えた**内村鑑三**と，『武士道』を著し，国際連盟事務局次長にもなった**新渡戸稲造**だ。そして，彼らが札幌で結成したキリスト教徒の集団を札幌バンドというんだ。

その他の教育家には，文部省顧問として招かれ，東京大学や教育制度の整備，東京女子師範学校の設立など女子教育に貢献した**マレー**もいるけど，これは余裕があったら覚えておく程度でいいね。

残りの人物は通史・文化史でも登場した人物だから，簡単に説明するに留めておこう。思想家として東大で哲学を教える一方で，日本美術に興味を持ち，**岡倉天心**と**東京美術学校**を設立した**フェノロサ**は『文化史講義録(近現代編)－美術史－』でも説明した。**薬師寺東塔**を「凍れる音楽」と評したり，**法隆寺夢殿救世観音像を初めて調査**したりと，面倒くさい奴だったよね。

それから，動物学者の**モース**は，縄文時代の**大森貝塚**(**東京都**)を発見したことで学習したけど，実はこの人の専門は考古学ではない。彼は，**ダーウィン**の生物進化論など東大で生物学を教えるために来日してきた動物学者なんだ。そして，横浜に来航した後，開通したばかりの横浜－新橋間の鉄道に乗って東京に向かう途中で大森貝塚を発見することになったんだよね(明治時代－殖産興業－で解説済み)。その時の様子などは，彼の日記『日本その日その日』に記されているんだ。実は，このモースの紹介で日本に興味をもったのが，先ほど登場したフェノロサなんだけどね。

［D］お雇い外国人(イギリス人)

イギリスといえば，産業革命が最初に起こった技術大国。そのため，イギリスから来日したお雇い外国人には技術者が多いんだ。例えば，鉄道技師の**モレル**は，1872 年に日本で初めて開通し，モースが乗ったりもした新橋～横浜間の鉄道敷設に尽力している(開通する前に死んじゃったけど)。

また，1871 年には新貨条例が制定されたことで，1 円金貨や 1 円銀貨などの貨幣を鋳造しなくちゃいけなくなるんだけど，その貨幣鋳造の指導にあたったのが，日本の近代的貨幣制度を確立させた造幣寮首長の**キンダー**だ。この人は，最も高給だったお雇い外国人としても知られているね(日本人最高給の

三条実美が月給 800 円[現在の 500 万円ほど]だったのに対し，キンダーは月給 1045 円[現在の 600 万円ほど]ももらっていたからね)なお，貨幣(硬貨)を鋳造するのは，現在でも**造幣局**という機関で行われるんだけど，余裕があったら知っておくといいね(1869 年に設置された**造幣局**は，1871 年に造幣寮と改称され，1877 年に再び造幣局に改称された)。

一方で，もともと鉱山技師として来日した**ミルン**は，1880 年に横浜で起きた地震を契機に地震学者となった人。日本地震学会を設立して，地震計の製作・地震観測網・地震予知・震災対策などの研究を行った地震学の父といわれた人物だ。まあ，彼の住んでいたイギリスでは地震がほとんど起きないから，それだけ衝撃が大きかったんだろうね。

あとは，日本名の**小泉八雲**でも有名なラフカディオ・**ハーン**。もともとは雑誌記者として来日したんだけど，島根県の松江で出会った小泉セツという女性と結婚して，そのまま帰化しちゃって小泉八雲と名乗る。そして，その妻のセツさんから聞いた耳無し芳一や雪女，ろくろ首などの怪談話をまとめたものが『怪談』なんだ(英語で出版されたことから，日本の怪談話が海外でも知られることになった)。なお，その後は東京帝国大学(現在の東京大学)や早稲田大学で講師を務めたりしたので，早稲田受験生は気をつけておくといいね。

あとは，『文化史講義録(近現代編)－美術史－』でも説明した人物なので，語句の確認程度にしておこう。**鹿鳴館**・**ニコライ堂**などを設計した建築家の**コンドル**は，日本銀行本店・東京駅を設計した**辰野金吾**や，赤坂離宮を設計した**片山東熊**を育てたことでも出てきたし，もともと『絵入りロンドンニューズ』の特派員として来日した**ワーグマン**は，『**鮭**』を描いた**高橋由一**に洋画の技法を教えたことでも出てきたよね。

［E］お雇い外国人(ドイツ人)

ドイツといえば医療大国。あと，日本は大日本帝国憲法・刑法・民法・地方制度などのほとんどがドイツを参考にしていたから，ドイツ人のお雇い外国人には，制度や医学に関連した人多いんだ。

例えば，山県有朋を中心に 1888 年に制定された市制・町村制もドイツ人顧問の**モッセ**から助言を受けていたし，大日本帝国憲法はプロイセン流憲法だったから，ドイツ人顧問の**ロエスレル**から助言を受けていたよね(ロエスレルは商法の起草も行ったが，日本の商業習慣に合わないため施行は延期された)。なお，その憲法発布時の日本人は，「憲法の発布」を政府から「絹布のハッピ(絹織物のハッピ)」が配られるものと勘違いしたり，憲法の内容はもちろん，憲法自体が何なのかすらわかっていなかった。それを日記に「バ〇じゃねえの？」って書いて皮肉ったのが『ベルツの日記』で知られるドイツ人医師の**ベルツ**だ。

そのベルツと同じように，医師として大学東校(現在の東京大学)で内科を教えたのが**ホフマン**，外科を教えていたのがミュラーだけど，後者は問われないから放っておいていい。

さらに，分野は違うけど，東大で哲学を教えたのが**ケーベル**，さらに地質学を教えたのが**ナウマン**。後者のナウマンは，ナウマン象の名称がその研究をした彼の名前にちなんでいることで有名だけど，そんなのを根拠に問題作ったら誰でも解けちゃうよね。だから，ナウマンを問う場合には，フォッサマグナを指摘したというキーワードを用いてくる。フォッサマグナといえば，本州を東日本と西日本に分ける大きな裂け目のことを言ったよね(小学校で学習する内容)。

最後は，日本陸軍にドイツ式の軍制を導入し，日清戦争や日露戦争の勝利にも大きな影響を与えた**メッケル**(授業解説「明治時代(明治維新)－軍制史－」でも解説)。逸話としてこんな話がある。彼は常日頃から戦争においては布陣が重要だと説いていた。そこで，学生が関ヶ原の戦いの布陣図を見せて，「どっちが勝ったと思います？」と聞いたところ，メッケルは「どう考えても西軍(石田三成側)だろ！」と答えた。布陣的にはメッケルの言う通り西軍の勝ちが妥当なんだけど，答えは小早川秀秋などの裏切りがあったことで東軍の勝ち。その結果を教えてもらったメッケルは，これ以降調略とか情報収集も重視するようになったらしいね(ある有名な歴史小説の話なんだけど，本当かは疑わしい)。

［F］お雇い外国人(イタリア・フランス)

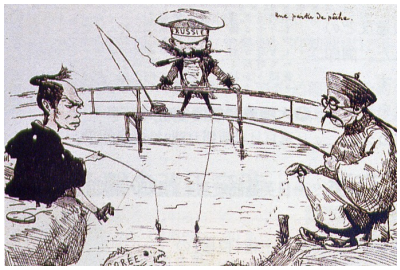
最後は，芸術大国のイタリアとお洒落大国フランス。イタリアといえば芸術の国だけど，1876 年に設立された**工部美術学校**に招かれた洋画家の**フォンタネージ**や，彫刻家の**ラグーザ**もイタリア人だった。そして，フォンタネージに学んで，『収穫』などを描いた**浅井忠**は，**明治美術会**を結成したりもしていたよね(『文化史講義録(近現代編)－美術史－』で解説済み)。

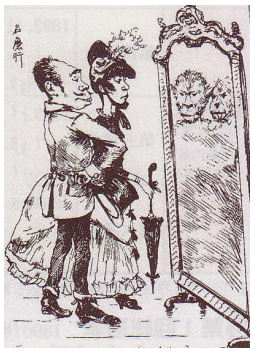
同じように画家なんだけど，銅による版画の銅版画家として招かれたのが**キヨソネ**。銅の版画なんか何の需要があるの？って思うかもしれないけど，紙幣とか切手の印刷において重要なんだよね。ほら，紙幣や切手を印刷するには，原版が必要になるでしょ。その原版を制作していたのがキヨソネなんだ。

芸術大国のイタリアに対して，フランスは……何がすごいのかわからない。とりあえず，いろんな分野の人がいる(テキトー)。例えば，富岡製糸場でフランス製機械の指導にあたっていたのが**ブリューナ**(**ブリュナ**)ってフランス人がいた(明治時代(殖産興業)で学習済み)。

それから，1880 年に公布された旧刑法や 1890 年に公布された旧民法の起草にあたった**ボアソナード**もいた。ただ，ボアソナードの起草した民法は，男女同権などを認める自由主義的なものであったため，「戸主権などの日本古来の家族制度(家制度)を破壊するものだ」っていう批判など民法典論争を引き起こしてしまったよね。

最後の風刺画家の**ビゴー**は，彼の描いた絵を一度は目にしているハズ。そう，ノルマントン号事件や，「生意気」という副題で有名な条約改正の舞踏会，「漁夫の利」という副題で有名な日清戦争などの風刺画はどれもビゴーが描いたものなんだ。こうしたビゴーの風刺画は，漫画雑誌の『**トバエ**』として創刊されるんだけど，『トバエ』とは漢字で書くと「鳥羽絵」になる。これでピンと来た人もいるんじゃないかな？これは，院政期の頃に『鳥獣戯画』で世間を風刺して描いた鳥羽僧正覚猷に由来しているんだ。つまり，「鳥羽」僧正覚猷の鳥羽絵のように，世間を風刺して描いたものだから，『トバエ』という題名になったわけだ。


〔日清戦争(漁夫の利)〕
by ビゴー


〔条約改正(生意気)〕
by ビゴー

明治時代以降の演劇は，大まかにいうと，3 種類に分けることができる。1 つは，江戸時代から続く**歌舞伎**(以前からの伝統的な演劇ということで旧派劇と呼ばれる)。この歌舞伎(旧派劇)に対して，明治時代以降に展開された新しい演劇が**新派劇**というもので，これが 2 つ目になる。そして，最後の 3 つ目がヨーロッパの演劇のように，劇団などが演じる現代演劇の**新劇**。こうした 3 つを基準に考えていくと，近現代の演劇はわかりやすくなると思う。

［A］歌舞伎(旧派劇)

化政文化の頃には，歌舞伎の脚本作者である 4 代目の**鶴屋南北**が，**生世話物**(町人社会を題材とする世話物の中で，最下層社会の風俗を生々しく描くジャンル)の『東海道四谷怪談』などで活躍していたよね([文化史講義録(前近代編)]参照)。その後，4 代目の鶴屋南北が亡くなると，5 代目の鶴屋南北に学んだ脚本作者の**河竹黙阿弥**が登場し，幕末には**白浪物**(盗賊を主人公とするジャンル)の『白浪五人男』で人気を博していたんだ。

その**河竹黙阿弥**は，明治時代になっても活躍し続ける。明治時代になると，文明開化の象徴として**ざんぎり頭**が普及していったよね。そのざんぎり頭の俳優が演じる，文明開化の新風俗を題材にした演劇を**散切物**と言うんだ。また，黙阿弥は**活歴物**という歴史的事実を重んじた歴史劇の脚本もするんだけど，これは仮名垣魯文が「活きた歴史だね」とからかって評したことから，そう呼ばれたんだ。


〔団・菊・左時代〕

そして，明治中期になると，歌舞伎の黄金時代が始まる。これは，9 代目**市川団十郎**・5 代目**尾上菊五郎**・初代**市川左団次**といった名優の登場によって，全盛期を迎えた時代で，その 3 人から**団・菊・左時代**と呼ばれたんだ。

このように，この頃も歌舞伎が隆盛を誇っていたわけだけど，ここに面倒くせえヤロウが乱入してくる。それが**坪内逍遙**だ。坪内逍遙といえば，［明治文化(文学)］で，写実主義を主張した人物として出てきたアイツだ。でも，二葉亭四迷から
「あなたのは写実主義じゃない！」って言われて，
「うえ～ん，ボク小説家辞めるもん。ボク，これから演劇の世界に入るもん！」
って言ってたアイツだよ。そして，コイツは，
「歌舞伎ってちょっと古すぎると思うです。もう文明開化したわけだし，歌舞伎もそろそろ近代的なものにした方がいいと思うです。だから，歌舞伎にも，西洋劇の要素入れちゃいましょ！革命起きるかもしれないです(＾ｖ＾)。名づけて**新史劇**！そして，脚本もボクが書くです。」
…と，歌舞伎に西洋劇の要素を取り入れた**新史劇**を始めて，豊臣家の最後を扱った『桐一葉』という作品を発表したんだ(…ちょっと，コイツまた何してくれてるんだよ)。



〔坪内逍遙〕

［演劇改良運動］

江戸時代から演劇の中心はずっと歌舞伎だった。でも，明治時代になって文明開化が進むと，ヨーロッパの演劇に関する情報なども入ってくる。「西洋の演劇は，ちゃんとした歴史的な史実に基づいて作られているそうだ。でも，日本の歌舞伎は，史実に基づいていない作り話などもあるし，低俗な内容も多い。だから，歌舞伎のストーリーもヨーロッパにならって，ちゃんとした史実に基づいた高尚なものにするべきだ。」と，歌舞伎を近代的なものに改良しようという運動が出てくるんだ(これを演劇改良運動という)。

その演劇改良運動の一つが，**坪内逍遙**による**新史劇**になるわけだね。坪内逍遙の主張は，歌舞伎も西洋演劇にならって，ちゃんとした史実に基づいたストーリーにしようというものだからね。

［B］新派劇

江戸時代からの伝統的な歌舞伎(旧派劇)に対して，明治時代中期に盛んになった演劇のことを**新派劇**という。「ということは，西洋風のミュージカルなどの演劇のことか！」…残念，新派劇はそんな高度なものじゃない。これは，伝統的な歌舞伎(旧派劇)・西洋風のミュージカル劇(新劇)の中間に位置するもので，現代では完全に廃れてしまった中途半端な演劇にすぎない。言うならば，中学校・高等学校の演劇部レベルの芝居と考えてくれるといい。

例えば，新派劇の代表格である**壮士芝居**は，明治中期に盛り上がっていた自由民権運動を宣伝するために，自由党の壮士(自由民権運動の活動をした者)が演じた宣伝劇に過ぎないしね。それでも，自由民権運動が盛り上がっているから，人々の心を掴むことになる。そして，その壮士芝居の中で．自由と民権を説いた**オッペケペー節**で人気を博したのが**川上音二郎**だ。なお，オッペケペー節のリズムはラップに近いものなので一度 youtube とかで聞いてみるといいね。なお，オッペケペーに特別な意味はなく，ただリズムがいいからだそうだ。



〔川上音二郎(ｵｯﾍﾟｹﾍﾟｰ節)〕

それから，もともと歌舞伎(旧派劇)では，女性が演じることは禁じられていたので，女形と呼ばれる男性が女性役を演じていた。これに対して，**伊井蓉峰**が始めた現代劇は，男性役は男性が，女性役は女性が演じる男女混合の演劇なんだ。そして，明治時代の風俗・世相などを題材にした尾崎紅葉の『金色夜叉』とか，徳冨蘆花の『不如帰』などを，男性・女性がそれぞれ演じて人気を博したもの。つまり，その当時の文学作品を題材にした演劇であるから，現代劇と呼ぶわけだ。

＜オッペケペー節＞

権利幸福きらいな人に　自由湯をば飲ましたい
オッペケペー　オッペケペ
オッペケペッポーペッポッポー
かたい袴角とれて　マンテルズボンに人力車
いきな束髪ボンネット　貴女に紳士のいでたちで
うわべの飾りはよけれども　政治の思想が欠乏だ
天地の心理がわからない　心に自由の種をまけ
オッペケペー　オッペケペッポーペッポッポー

［C］新劇

歌舞伎(旧派劇)や演劇部レベルの新派劇に対して，明治時代後期に始まったヨーロッパの近代劇のことを**新劇**という。まあ，現代でいうところの「劇団四季」のような演劇と考えてくれるといいかな(レベルはまったく違うけど)。そのヨーロッパ風の新劇を演じるために，**坪内逍遙**・**島村抱月**が 1906 年に結成したのが**文芸協会**という劇団だ。この劇団の第 1 回公演ではシェイクスピア作の『ハムレット』，第 2 回公演では**イプセン**作の『人形の家』などが上演されたんだけど，その『人形の家』の主人公ノラを演じて人気を博したのが**松井須磨子**なんだ(シェイクスピアは『ロミオとジュリエット』・『ハムレット』・『ヴェニスの商人』などで有名なイングランドの劇作家，イプセンは『人形の家』・『ペール・ギュント』などで有名なノルウェーの劇作家)。


〔人形の家〕

ところが，このメンツの中で恋愛関係になっちゃったのが島村抱月と松井須磨子。「別に恋愛関係だったら，いいじゃ～ん。」と言いたいんだけど，島村抱月には妻子がいるんだよね(つまり不倫関係)。しかも，それが雑誌に掲載されてスキャンダルになっちゃったもんだから，坪内逍遙もブチギレして，関係はめちゃくちゃになってしまった。結果，島村抱月と松井須磨子は退会させられて，文芸協会も 1913 年に解散する羽目になっちゃったんだ。

一方で，文芸協会を除名された**島村抱月**と**松井須磨子**は，スキャンダルなんてなんのそのって感じで，1913 年に**芸術座**を結成。最初は興行も不振だったんだけど，第 3 回公演で上演したトルストイ作の『復活』が大当たり(~~落ちぶれれば良かったのに~~)。しかも，その劇中歌として松井須磨子が歌った「カチューシャの唄(作詞：**中山晋平**)」がレコードとして初めて発売されて，大ヒットしちゃったんだよね(~~死ねばいいのに~~)。そして，その後の公演も順調だったんだけど，1918 年に島村抱月が病気で亡くなると，翌年に松井須磨子も後追い自殺して，芸術座も解散することになったんだ。

そして，今度はその文芸協会・芸術座に参加していた**沢田正二郎**が 1917 年に設立したのが**新国劇**という劇団だ。ここでは，「赤城の山も今宵限り，生まれ故郷の国定村や，縄張りを捨て，可愛い乾分のてめえ達とも，別れ別れになる首途だ」のセリフで有名な『国定忠治』や，『月形半平太』・『沓掛時次郎』などの剣劇が演じられて，人気を博したんだ。まあ，悪人をバッタバッタと斬り倒していくチャンバラ劇のことだね。

こうした文芸協会・芸術座・新国劇などの劇団グループに対して，演出家の**小山内薫**・役者の 2 代目**市川左団次**によって結成された劇団が**自由劇場**だ。ちなみに，東京港区にある劇団四季の専用劇場の自由劇場とは全く関係ない(以前には僕も劇団四季に入ろうとしたことがあるような，ないような)。ここでは，第 1 回公演でイプセン作の『ボルクマン』などが上演されて，ヨーロッパの近代劇の移植や創作劇の上演に努めたんだけど，結局 1919 年に解散。それでも諦められなかった**小山内薫**が，ドイツから帰国した弟子の**土方与志**と，大正時代の 1924 年に結成したのが**築地小劇場**だ。これは，劇団の名称であると共に，東京築地に建設された劇場の名称でもあるんだ。今までの劇団は，帝国劇場とかを借りて公演を行っていたんだけど，築地小劇場は 500 人ほど収容できる日本で最初の常設劇場を持っていて，東洋の演劇と西洋の演劇を掛け合わせた新しい演劇が行われたことから，「演劇の実験室」と呼ばれたんだ。

一方で，現在も人気を継続している劇団といえば，女性のみでミュージカルを上演する兵庫県の**宝塚歌劇団**だよね(僕は一度も見に行ったことはないけど)。もともとは，1913 年に阪急電鉄(阪神急行電鉄)の**小林一三**が，少女の唱歌隊として結成したのが始まり。なお，阪急電鉄の社長にもなった小林一三は宝塚歌劇団の他にも東宝映画を創立したことでも知られているよ。

＜新劇の覚え歌「グリーングリーン」＞

ある日　逍遥　抱月　文芸協会
(あるひ　パパと　二人で　語りあったさ)
須磨子と辞めて　芸術　そして沢田は新国
(この世に　生きる　喜び　そして悲しみのことを)
じ～ゆ～　劇場は小山内左団次
(グリーングリーン　青空には小鳥が歌い
つき～じ～小劇は薫と土方
(グリーングリーン　丘の上にはララ緑がもえる)

© ㈱shidenkai
〔本テキストの無断転載・複製などは著作権法上での例外を除き禁じられています〕